Canon

EOS R

● この使用説明書は、EOS Rのファームウェアが Ver.1.3.0以上であることを前提に説明しています。

J
詳細ガイド

はじめに

はじめに必ずお読みください

撮影の失敗や事故を未然に防ぐため、はじめに『安全上のご注意』（25～27ページ）、および『取り扱い上のご注意』（28～30ページ）をお読みください。また、本書をよく読んで正しくお使いください。

操作しながら本書を参照すると理解が深まります

本書を読みながら実際に撮影し、その結果を確認しながら理解を深め、操作に慣れてください。また、必要なときに確認できるように本書を大切に保管してください。

試し撮りと撮影内容の補償について

撮影後は画像を再生して、画像が正常に記録されていることを確認してください。万一、カメラ（本機）やメモリーカードなどの不具合により、画像の記録やパソコンへの画像の取り込みができなかった場合の、記録内容の補償についてはご容赦ください。

著作権について

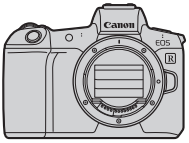
あなたがカメラ（本機）で記録した権利者のいる被写体の画像は、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興行、展示会などの中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。

周辺機器との接続について

カメラをパソコンなどと接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。なお、インターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください（p.37）。

カメラと主な付属品

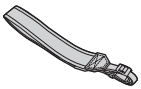
ご使用前に、以下のものがすべてそろっているかご確認ください。万一、足りないものがあるときは、お買い求めの販売店にご連絡ください。



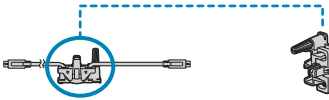
カメラ
（アイカップ、
ボディキャップ付き）

バッテリーパック
LP-E6N
（保護カバー付き）

充電器
バッテリー
チャージャー
LC-E6



ストラップ



インターフェースケーブル

ケーブル
プロテクター

- メモリーカード（p.10）、HDMIケーブルは付属していません。
- 詳細ガイド／使用説明書については、次ページを参照してください。
- レンズキットをお買い上げのときは、レンズが付属しているか確認してください。
- 付属品は、なくさないように注意してください。

レンズの使用説明書が必要なときは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください（p.4）。
なお、レンズの使用説明書（PDFファイル）は、レンズ単体販売用ですので、レンズキットをご購入いただいた場合、レンズに付属するアクセサリーが、レンズ使用説明書の記載と一部異なることがあります。ご了承ください。

使用説明書について

製品に付属している冊子は、カメラとWi-Fi機能の基本的な使い方をまとめた「使用説明書」です。

すべての使い方をまとめた「詳細ガイド」（本書／PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

詳細ガイド／各使用説明書のダウンロードについて

詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

- **ダウンロードサイト**
  - **詳細ガイド**
    ➡canon.jp/eos-manual
  - **レンズ使用説明書**
    ➡canon.jp/lens-acc-manual
  - **ソフトウェア使用説明書**
    ➡canon.jp/eos-sw-manual

- **PDFファイルを見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。**
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードすることができます。
- ダウンロードしたPDFファイルをダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- PDF閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

QRコードから詳細ガイド／各使用説明書をダウンロード

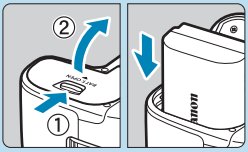
スマートフォン、タブレット使用時は、QRコードから詳細ガイドや、レンズ／ソフトウェアの使用説明書（PDFファイル）をダウンロードすることができます。

➡www.canon.com/icpd

- QRコード読み取りには、アプリケーションが必要です。
- お住まいの国または地域を選択し、詳細ガイド／各使用説明書をダウンロードします。
- **[6]** タブの **[使用説明書・ソフトウェア URL]** を選ぶと、カメラのモニターにQRコードを表示することができます。

すぐ撮影するには

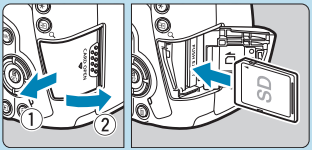
1



バッテリーを入れる（p.43）

- 購入時はバッテリーを充電してからお使いください（p.40）。

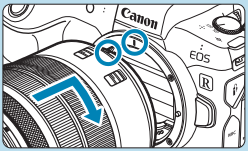
2



カードを入れる（p.44）

- カードの表を、カメラの背面側にして差し込みます。

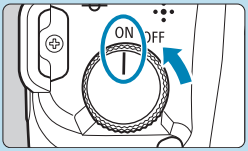
3



レンズを取り付ける（p.50）

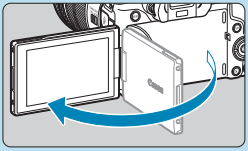
- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせて取り付けます。
- レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉に設定されていることを確認します（p.50）。

4



電源スイッチを〈ON〉にする（p.48）

5



モニターを開いてセットする（p.47）

- モニターに日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、380ページを参照してください。

6

撮影モードを[A+]にする（p.123）

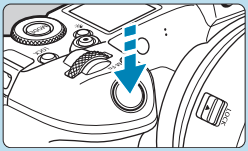
- 〈MODE〉ボタンを押し、〈 〉を回して【A+】を選び、〈SET〉を押します。
- 撮影に必要な設定がすべて自動設定されます。

7

ピントを合わせる（p.56）

- 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈 〉が顔の部分に表示されます。
- シャッターボタンを軽く押すと、ピントが合います。

8



撮影する（p.56）

- さらにシャッターボタンを押して撮影します。

9

画像を確認する

- 撮影した画像がモニターに約2秒間表示されます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、もう一度画像が表示されます（p.304）。

- 今までに撮影した画像を確認したいときは、『画像を再生する』（p.304）を参照してください。
- 撮影した画像を消去したいときは、『消去する』（p.335）を参照してください。

本書について

章構成について

本書の2章から7章までの章構成は、カメラのメニュー機能に準じています。

本文中の絵文字について

〈MODE〉　：モードボタンを示しています。
〈 〉　：メイン電子ダイヤルを示しています。
〈〉　：サブ電子ダイヤルを示しています。
〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉：〈 〉十字キーの上下左右ボタンを示しています。
〈〉：〈M-Fn〉マルチファンクションバーを示しています。
〈〉　：レンズのコントロールリングを示しています。
〈SET〉　：設定ボタンを示しています。
*　：操作ボタンから指を離したあと、タイマー機能により、ボタンを押した状態が*秒間保持されることを示しています。

• その他、本文中の操作ボタンや設定位置の説明には、ボタンやモニターの表示など、カメラで使われている絵文字を使用しています。

応用　：ページタイトル右の応用は、[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モード限定の機能であることを示しています。
(p.***)　：参照ページを示しています。
　：撮影に不都合が生じる恐れのある注意事項を記載しています。
　：補足説明や補足事項を記載しています。
　：上手に使うためのヒントや撮影のポイントを記載しています。
？　：困ったときの手助けになる内容を記載しています。

操作説明の前提と作例写真について

- 電源スイッチが〈ON〉、マルチ電子ロックが行われていないことを前提に説明しています（p.48、60）。
- メニュー機能やカスタム機能などが初期状態になっていることを前提に説明しています。
- 本文中のイラストは、RF24-105mm F4 L IS USMレンズを取り付けた状態で説明しています。
- 本書で使用している作例写真は、効果を分かりやすく伝えるためのイメージです。
- 「EFレンズ／EF-Sレンズ使用時」の記載は、マウントアダプターを併用して、EFレンズまたはEF-Sレンズを使用する（装着する）という意味です。

使用できるカードについて

カードの容量に関わらず下記のカードが使用できます。**なお、新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください**（p.373）。

● SD/SDHC/SDXCメモリーカード
* UHS-II、UHS-I対応

動画が記録できるカードについて

動画を撮影するときは、動画記録画質に適応する性能（書き込み/読み取り速度）を備えた、大容量のカードを使用してください。詳しくは611ページを参照してください。

本書では、SDメモリーカード、SDHCメモリーカード、SDXCメモリーカードのことを「カード」と表記しています。
※画像を記録する**カードは付属していません**。別途ご購入ください。

章目次

	はじめに	2
1	準備と基本操作	39
2	撮影	69
3	AF	255
4	再生	301
5	機能設定	361
6	Wi-Fi（無線通信）機能	423
7	カスタム機能／マイメニュー	539
8	資料	571

目　次

はじめに 2

カメラと主な付属品 3
使用説明書について 4
すぐ撮影するには 6
本書について 8
使用できるカードについて 10
章目次 11
機能目次 21
安全上のご注意 25
取り扱い上のご注意 28
各部の名称 31

1 準備と基本操作 39

バッテリーを充電する 40
バッテリーを入れる／取り出す 43
カードを入れる／取り出す 44
モニターを使う 47
電源を入れる 48
レンズを取り付ける／取り外す 50
EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す 52
ファインダーを使う 54
基本操作 55
メニュー機能の操作と設定 63

画面にタッチして操作する 67
Qクイック設定 68

2 撮影 69

2-1 静止画撮影 70

メニュー目次：静止画撮影 71
機能目次：静止画撮影 74
記録画質を設定する 75
DPRAW機能の設定 78
クロップ／アスペクトを設定する 80
ISO：静止画のISO感度を設定する 83
ピクチャースタイルを選択する 88
ピクチャースタイルを調整する 92
ピクチャースタイルを登録する 95
WB：ホワイトバランスの設定 97
WBホワイトバランスを補正する 102
明るさ・コントラストを自動補正する 104
ノイズ低減機能の設定 105
高輝度側・階調優先の設定 109
レンズの光学特性による影響を補正する 110
フリッカーの影響を低減する 115
色空間を設定する 117
カードの入れ忘れを防止する 118

撮影直後の画像表示時間を設定する 118
測光タイマーの作動時間を設定する 119
露出Simulation 120
ゴミ消し情報を画像に付加する 121
全自動で撮る（シーンインテリジェントオート） 123
全自動を使いこなす（シーンインテリジェントオート） 126
タッチシャッターで撮影する 130
P：プログラムAE撮影 132
Tv：シャッタースピードを決めて撮る 134
Av：絞り数値を決めて撮る 136
M：露出を自分で決めて撮る 138
Fv：フレキシブルAE撮影 140
ドライブモードの選択 144
セルフタイマー撮影 147
高速連続撮影時の表示速度を選ぶ 149
LVソフト撮影 150
サイレント撮影 151
測光モードの選択 152
自分の好みに露出を補正する 154
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 155
露出を固定して撮る／AEロック撮影 157
BULB：長時間露光（バルブ）撮影 158
HDR：HDR（ハイダイナミックレンジ）撮影 161
多重露出撮影 166

リモコン撮影 174
リモートスイッチ撮影 176
ストロボを使った撮影 177
ストロボの機能を設定する 179

2-2 動画撮影 188

メニュー目次：動画撮影 189
機能目次：動画撮影 191
動画記録画質の設定 192
録音の設定 202
タイムコードの設定 205
動画を撮影する 209
動画クロップ撮影 219
動画電子IS 220
HDR動画を撮影する 222
タイムラプス動画を撮影する 224
Canon Logを設定した動画撮影 236
メニュー機能の設定 244

3 AF 255

メニュー目次：AFタブ（静止画撮影） 256
メニュー目次：AFタブ（動画撮影） 259
AF動作の選択 262
AF方式の選択 265

AFフレームのサイズを設定する 276
人物の目にピントを合わせる 277
コンティニュアスAFの設定 278
タッチ&ドラッグAFの設定 279
MF：手動でピントを合わせる 281
動画サーボAFの設定 286
AF機能のカスタマイズ 288

4 再生 301

メニュー目次：再生タブ 302
機能目次：再生関連 303
画像を再生する 304
再生する情報を設定する 307
インデックス表示（複数画像表示） 310
ジャンプ表示（画像飛ばし表示） 311
再生する画像を絞り込む 313
拡大する 315
回転させる 317
保護する（プロテクト） 318
レーティングを設定する 321
撮った動画の楽しみ方 324
動画を再生する 325
動画の前後部分をカットする 327
4K動画／4Kタイムラプス動画からフレームを切り出す ... 329

自動再生する（スライドショー）..... 331
テレビで見る..... 333
消去する..... 335
RAW画像をカメラで現像する..... 339
JPEG画像をリサイズする..... 345
JPEG画像をトリミングする..... 346
パソコン／FTPサーバーに画像を送る..... 348
画像を印刷指定する／DPOF..... 353
フォトブックにする画像を指定する..... 357

5 機能設定 361

メニュー目次：機能設定タブ..... 362
フォルダの作成と選択..... 365
画像番号の付け方を設定する..... 367
ファイル名を変更する..... 370
縦位置撮影画像の自動回転表示の設定..... 372
カードを初期化する..... 373
エコモードを設定する..... 376
節電機能を設定する..... 377
画面の明るさを調整する..... 378
画面の色調を調整する..... 379
日付／時刻／エリアを設定する..... 380
表示言語を設定する..... 383
ビデオ方式を設定する..... 384

タッチしたときの反応を設定する 385
操作時の電子音を消す 386
バッテリー情報を確認する 387
撮像素子の清掃 391
HDMI出力時の解像度を設定する 395
HDR対応テレビでRAW画像を見る 396
撮影時に表示される情報を設定する 397
撮影画面表示の優先項目を設定する 402
ファインダーの表示形式を設定する 402
画面の表示先を設定する 403
シャッターボタンの機能を設定する 404
ヘルプ機能について 405
無線通信の機能を設定する 407
位置情報を画像に付加する 411
LOCKマルチ電子ロック機能を設定する 416
C1：カスタム撮影モードの登録 417
カメラの設定を初期状態に戻す 419
著作権情報を設定する 420
その他の情報を確認する 422

6 Wi-Fi（無線通信）機能 423

Wi-Fi（無線通信）機能でできること 424
スマートフォンとWi-Fi接続する 427
パソコンとWi-Fi接続する 461

プリンターとWi-Fi接続する 469
Webサービスへ画像を送信する 481
アクセスポイントを使用したWi-Fi接続 496
2回目以降のWi-Fi接続 509
接続設定を変更／削除する 513
無線通信の設定を初期化する 515
情報表示画面について 516
エラー表示の対応 517
無線通信機能での注意事項 528
セキュリティーについて 530
ネットワークの設定を確認する 531
【無線通信の設定】の画面について 532
【Wi-Fi設定】の画面について 533
仮想キーボードの操作方法について 534
IPアドレスを手動で設定する場合 535
Wi-Fi／Bluetoothの状態表示について 537

7 カスタム機能／マイメニュー 539

メニュー目次：カスタム機能タブ 540
カスタム機能で変更できる内容 542
操作カスタマイズ 555
メニュー目次：マイメニュータブ 565
マイメニューを登録する 566

8 資料 571

ソフトウェアについて 572
パソコンに画像を取り込む 574
カメラ内で充電する 576
バッテリーグリップを使う 578
故障かな？と思ったら 588
エラー表示 607
データシート 608
情報表示 617
索　引 633

機能目次

電源

- バッテリー充電 ➡ p.40
- バッテリー残量 ➡ p.49
- バッテリー情報確認 ➡ p.387
- 家庭用電源 ➡ p.582
- エコモード ➡ p.376
- 節電機能 ➡ p.377

カード

- カード初期化 ➡ p.373
- カードなしレリーズ ➡ p.118
- 動画記録可能カード ➡ p.611

レンズ

- 取り付け ➡ p.50、52
- 取り外し ➡ p.51、53
- レンズなしレリーズ ➡ p.551

基本設定

- 言語 ➡ p.383
- 日付／時刻／エリア ➡ p.380
- 電子音 ➡ p.386
- 著作権情報 ➡ p.420
- カメラ設定初期化 ➡ p.419

ファインダー

- 視度調整 ➡ p.54
- ファインダー内表示設定 ➡ p.397
- ファインダー縦表示 ➡ p.399
- ファインダー表示形式 ➡ p.402

モニター

- バリアングル ➡ p.47
- タッチ操作 ➡ p.67
- 色調 ➡ p.379
- 明るさ ➡ p.378
- 表示先設定 ➡ p.403
- 水準器 ➡ p.397
- ヘルプ機能 ➡ p.405

AF

- AF動作 ➡ p.262
- AF方式 ➡ p.265
- AFフレーム選択 ➡ p.271
- AFフレームサイズ ➡ p.276
- 瞳AF ➡ p.277
- コンティニュアスAF ➡ p.278
- タッチ＆ドラッグAF ➡ p.279
- MFピーキング設定 ➡ p.283
- フォーカスガイド ➡ p.284
- AF機能カスタマイズ ➡ p.288
- 手動ピント合わせ ➡ p.281
- 電子式手動フォーカス ➡ p.293

測光

- 測光モード ➡ p.152

ドライブ

- ドライブモード ➡ p.144
- セルフタイマー ➡ p.147
- LVソフト撮影 ➡ p.150
- サイレント撮影 ➡ p.151
- 連続撮影可能枚数 ➡ p.77

画像記録

- フォルダ作成／選択 ➡ p.365
- 画像番号 ➡ p.367

画質

- 記録画質 ➡ p.75
- DPRAW機能 ➡ p.78
- 静止画クロップ/アスペクト ➡ p.80
- ISO感度（静止画） ➡ p.83
- ピクチャースタイル ➡ p.88
- ホワイトバランス ➡ p.97
- オートライティングオプティマイザ ➡ p.104
- 高感度時ノイズ低減 ➡ p.105
- 長秒時露光ノイズ低減 ➡ p.107
- 高輝度側・階調優先 ➡ p.109
- レンズ光学補正 ➡ p.110
- フリッカー低減 ➡ p.115
- 色空間 ➡ p.117

撮影

- 撮影モード ➡ p.70
- HDRモード ➡ p.161
- 多重露出 ➡ p.166
- バルブタイマー ➡ p.159
- 被写界深度確認 ➡ p.137
- リモートスイッチ ➡ p.176
- リモコン ➡ p.174
  - ペアリング ➡ p.408
- クイック設定 ➡ p.68
- タッチシャッター ➡ p.130
- 拡大表示 ➡ p.273
- グリッド ➡ p.399
- 撮影情報表示設定 ➡ p.397
- 表示先設定 ➡ p.403
- マルチ電子ロック ➡ p.60
- エラー表示 ➡ p.607

露出

- 露出補正 ➡ p.154
- 露出補正（M+ISOオート） ➡ p.139
- AEB ➡ p.155
- AEロック ➡ p.157
- セイフティシフト ➡ p.545
- 露出Simulation ➡ p.120

ストロボ

- 外部ストロボ ➡ p.177
- ストロボ調光補正 ➡ p.177
- FEロック ➡ p.177
- ストロボ機能設定 ➡ p.182
- ストロボカスタム機能 ➡ p.187

動画撮影

- 自動露出撮影 ➡ p.209
- シャッター優先AE撮影 ➡ p.210
- 絞り優先AE撮影 ➡ p.211
- マニュアル露出撮影 ➡ p.213
- ISO感度（動画） ➡ p.246
- 動画サーボAF ➡ p.286
- 動画サーボAFの被写体追従特性 ➡ p.291
- 動画サーボAF時のAF速度 ➡ p.292
- 動画記録画質 ➡ p.192
- 24.00 p ➡ p.198
- ハイフレームレート ➡ p.199
- 動画クロップ撮影 ➡ p.219
- HDR動画 ➡ p.222
- タイムラプス動画 ➡ p.224
- Canon Log ➡ p.236
- 録音 ➡ p.202
- マイク ➡ p.203
- ウィンドカット ➡ p.202
- アッテネーター ➡ p.203
- タイムコード ➡ p.205
- オートスローシャッター ➡ p.248
- Av値1/8段設定 ➡ p.249
- HDMI出力 ➡ p.251
- リモコン撮影 ➡ p.245

再生

- 撮影直後の表示時間 ➡ p.118
- 1枚表示 ➡ p.304
- 撮影情報表示 ➡ p.305
- グリッド表示 ➡ p.305
- タッチ再生 ➡ p.306
- 再生画像情報設定 ➡ p.307
- インデックス表示 ➡ p.310
- 画像送り（ジャンプ表示） ➡ p.311
- 画像検索の条件設定 ➡ p.313
- 拡大 ➡ p.315
- 回転 ➡ p.317
- プロテクト（保護） ➡ p.318
- レーティング ➡ p.321
- 動画再生 ➡ p.325
- 動画前後カット ➡ p.327
- フレーム切り出し（4K） ➡ p.329
- スライドショー ➡ p.331
- テレビで見る ➡ p.333
- 消去 ➡ p.335

画像加工

- RAW現像 ➡ p.339
- JPEGリサイズ ➡ p.345
- JPEGトリミング ➡ p.346

画像転送／印刷指定

- パソコン/FTPサーバー転送 ➡ p.348
- 印刷指定（DPOF） ➡ p.353
- フォトブック指定 ➡ p.357

カスタマイズ

- カスタム機能（C.Fn） ➡ p.542
- 操作カスタマイズ ➡ p.555
- マイメニュー ➡ p.566
- カスタム撮影モード ➡ p.417

センサークリーニング／ダスト除去

- センサークリーニング ➡ p.391
- ゴミ消し情報付加 ➡ p.121
- 手作業 ➡ p.393

ソフトウェア

- ダウンロード／インストール ➡ p.572
- ソフトウェア使用説明書 ➡ p.573

無線通信機能

- スマートフォンと通信 ➡ p.427
- スマートフォンに画像を自動送信 ➡ p.446
- EOS Utilityでカメラを操作 ➡ p.461
- パソコンに画像を自動送信 ➡ p.466
- Wi-Fi対応プリンターで印刷 ➡ p.469
- Webサービスへ画像を送信 ➡ p.481
- 無線通信設定初期化 ➡ p.515

安全上のご注意

安全に使っていただくための注意事項です。必ずお読みください。
お使いになる方だけでなく、他人への危害や損害を防ぐためにお守りください。

⚠警告　死亡や重傷を負う恐れがある内容です。

● 乳幼児の手の届くところに置かない。
ストラップを首に巻き付けると、窒息することがあります。
カメラ、アクセサリーの部品や付属品を飲み込むと危険です。飲み込んだ場合は、すぐ医師に相談してください。
電池を飲み込むと危険です。飲み込んだときは、すぐ医師に相談してください。

● 指定外の電源は使わない。
● 分解や改造をしない。
● 強い衝撃や振動を与えない。
● 破損したときは、内部に触れない。
● 煙が出ている、異臭がするなどの異常が発生したときは使わない。
● アルコール、ベンジン、シンナーなどの有機溶剤で手入れしない。
● 液体でぬらしたり、内部に液体や異物を入れない。
● 可燃性ガスを含んだ空気中では使用しない。
感電、破裂、火災の原因となります。

● レンズやレンズを付けたカメラは、レンズキャップを外した状態で放置しない。
光がレンズを通して焦点を結び、火災の原因となります。

● 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれた製品に触れない。
感電の原因となります。

● バッテリーや電池を使うときは、次のことに注意する。
- 指定外の製品で使わない。
- 熱したり、火中投入しない。
- 指定外の製品で充電しない。
- 端子に他の金属や金属製のピンやゴミを触れさせない。
- 液漏れしたものは使わない。
- 廃却するときは、接点にテープを貼るなどして絶縁する。

感電、破裂、火災の原因となります。
液漏れして身体や衣服についたときは、水でよく洗い流す。目に入ったときは、きれいな水で十分洗った後、すぐ医師に相談してください。

● バッテリーチャージャーやACアダプターを使うときは、次のことに注意する。
- 電源プラグやコンセントのほこりを、定期的に乾いた布で拭き取る。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししない。
- 電源プラグの差し込みが不十分なまま使わない。
- 電源プラグや端子に金属製のピンやゴミを触れさせない。

● 雷が鳴り出したら、コンセントにつながれたバッテリーチャージャーやACアダプターに触れない。
● 電源コードに重いものをのせたり、傷つけたり、破損させたり、加工したりしない。
● 使用中および使用後すぐに、製品に布などをかけない。
● コードを引っ張って電源プラグを抜かない。
● 電源に長時間つないだままにしない。
● 5℃～ 40℃の範囲外で充電しない。
感電、破裂、火災の原因となります。

● 長時間、身体の同じ部位に触れさせたまま使わない。
熱いと感じなくても、皮膚が赤くなったり、水ぶくれができたりするなど、低温やけどの原因となることがあります。気温の高い場所で使うときや、血行の悪い方や皮膚感覚の弱い方などが使うときは、三脚などを使ってください。

● 使用が禁止されている場所では、電源を切るなどの指示に従う。
電波の影響で機器類が誤動作し、事故の原因となる恐れがあります。

● 発火、発熱、液漏れ、破裂、感電の原因となりますので次のことはしない。
- 電池の＋ーを逆に入れること。

● 電源コードを熱器具に近づけない。
外装が変形したり、コードの被覆が溶けて、火災、感電の原因となります。

● 車の運転者等にむけてストロボを発光しない。
事故の原因となります。

● 湿気、油煙やほこりの多い場所で使用、保管しない。また、電池は、ショートを防ぐため、金属類と一緒の保管を避け、付属の保護カバーを取り付けて保管する。
火災、発熱、感電、火傷の原因となります。

● 火災や感電の原因となることがありますので次のことに注意する。
- 二股ソケット等を使ったタコ足配線をしない。
- 断線や被覆のはがれたコードは使用しない。

● 電池をコンセントや車のシガーライターソケットなどに直接接続しない。
電池の液漏れ、発熱、破裂により火災、火傷、けがの原因となります。

● お子様が使用の時は、保護者が正しい使用方法を十分に教える。また、使用中にも注意する。
感電、けがの原因となります。

⚠注意　傷害を負う可能性がある内容です。

● ストロボを目に近付けて発光しない。
目をいためる恐れがあります。

● ストラップ使用時は、他のものに引っ掛けたり、強い衝撃や振動を与えない。
● レンズを強く押したり、ぶつけたりしない。
けがやカメラの故障の原因となります。

● ストロボを指や布などで覆ったまま、発光させない。
やけどや故障の原因となります。

● 製品を高温や低温となる場所に放置しない。
製品自体が高温や低温になり、触れるとやけどやけがの原因となります。

● 三脚を使うときは、十分に強度があるものを使う。
● カメラを三脚につけたまま移動しない。
けがや事故の原因となります。

● 長い時間、ファインダーや画面を見続けない。
乗り物酔いのような症状をおこすことがあります。すぐに製品の使用を中止して休息をとってください。

● 製品の内部には手を入れない。
けがの原因となります。

取り扱い上のご注意

カメラについて

- カメラは精密機器です。落としたり衝撃を与えたりしないでください。
- このカメラは防水構造になっていませんので、水中では使用できません。
- 防塵・防滴性能を発揮させるため、カメラの端子カバー、バッテリー収納部ふた、カードスロットカバーなどの開閉部をしっかり閉じてください。
- このカメラは、不用意に降りかかる砂塵や、水滴などのカメラ内部への侵入を抑えることで、防塵性、防滴性に配慮した設計を行っていますが、ゴミやほこり、水、塩分などのカメラ内部への侵入を、完全に防ぐことはできません。ゴミやほこり、水、塩分などが、できるだけカメラに付着しないようにしてください。
- カメラに水が付着したときは、乾いたきれいな布で、ゴミやほこり、塩分などが付着したときは、固くしぼったきれいな布でよくふき取ってください。
- ゴミやほこりが多い場所で使用すると、故障の原因になります。
- 使用後はカメラの清掃をおすすめします。ゴミやほこり、水、塩分などをカメラに付着したままにすると、故障の原因になります。
- 万一、カメラが水に濡れて、内部に浸水（水没）したり、ゴミやほこり、塩分などが内部に侵入した恐れがあるときは、早めに修理受付窓口にご相談ください。
- カメラを磁石やモーターなどの強力な磁気が発生する装置の近くに、絶対に置かないでください。また、電波塔などの強い電波が発生しているところで使用したり、放置したりしないでください。電磁波により、カメラが誤動作したり、記録した画像データが破壊されることがあります。
- 直射日光下の車の中などは予想以上に高温になります。カメラの故障の原因になることがありますので、このような場所にカメラを放置しないでください。
- カメラには精密な回路が内蔵されていますので、絶対に自分で分解しないでください。

- 指などでシャッター幕の動作を阻害しないでください。故障の原因になります。
- レンズ、ファインダーなどにゴミが付いているときは、市販のブロアーで吹き飛ばすだけにしてください。カメラボディおよびレンズは、有機溶剤を含むクリーナーなどでふかないでください。特に汚れがひどいときは、修理受付窓口にご相談ください。
- カメラの電気接点は手で触らないでください。腐食の原因になることがあります。腐食が生じるとカメラが作動不良を起こすことがあります。
- カメラを寒いところから、急に暑いところに移すと、カメラの外部や内部に結露（水滴）が発生することがあります。カメラを寒いところから、急に暑いところに移すときは、結露の発生を防ぐために、カメラをビニール袋に入れて袋の口を閉じ、周囲の温度になじませてから、袋から取り出してください。
- 結露が発生したときは、故障の原因になりますので、カメラを使用しないでください。レンズ、カード、バッテリーをカメラから取り外し、水滴が消えるまで待ってから、カメラを使用してください。
- カメラを長期間使用しないときは、カメラからバッテリーを取り出し、風通しが良く、涼しい乾燥した場所に保管してください。保管期間中でも、ときどきシャッターを切るようにして作動することを確認してください。
- カメラの保管場所として、実験室などのような薬品を扱う場所は、さび・腐食などの原因になるため避けてください。
- 長期間使用しなかったカメラは、各部を点検してから使用してください。長期間使用しなかったあとや、海外旅行など大切な撮影の前には、各部の作動を修理受付窓口、またはご自身でチェックしてからご使用ください。
- 連続撮影を長時間繰り返したり、静止画撮影や動画撮影を長時間行うと、カメラの温度が高くなることがあります。これは故障ではありません。
- 明るい光源が撮影画面の内側や外側近くにあると、ゴーストが写り込むことがあります。

モニター、ファインダー、および表示パネルについて

- モニターおよびファインダーは、非常に精密度の高い技術で作られており99.99%以上の有効画素がありますが、0.01%以下の画素欠けや、黒や赤などの点が現れたままになることがあります。これは故障ではありません。また、記録されている画像には影響ありません。
- モニターを長時間点灯したままにすると、表示していた内容の像が残ることがあります。この残像は一時的なもので、カメラを数日間使用しないでおくと自然に消えます。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

シャッターについて

- シャッターの作動により、シャッター羽根の表面に擦れた痕がつくことがありますが、これは故障ではありません。

カードについて

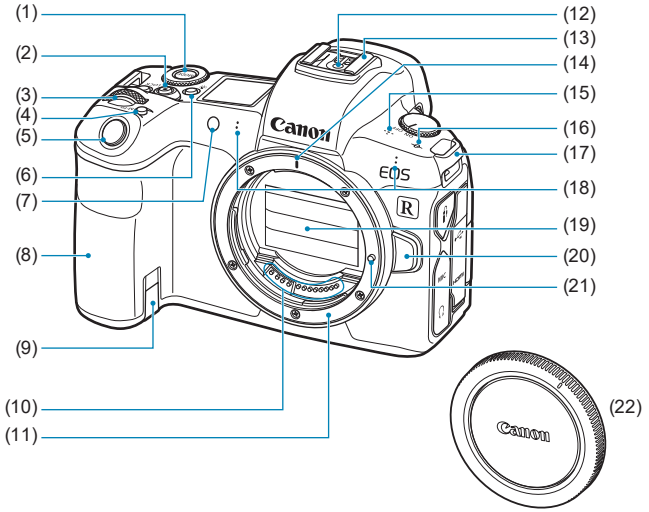
カードとその中に記録されているデータを保護するために、次の点に注意してください。

- 「落とさない」、「曲げない」、「強い力や衝撃、振動を加えない」、「濡らさない」。
- カードの接点に指や金属が触れないようにする。
- カード表面にシールなどを貼らない。
- テレビやスピーカー、磁石などの磁気を帯びたものや、静電気の発生しやすいところで保管、使用しない。
- 直射日光のあたる場所や、暖房器具の近くに放置しない。
- ケースなどに入れて保管する。
- 温度の高いところ、ほこりや湿気の多いところに保管しない。

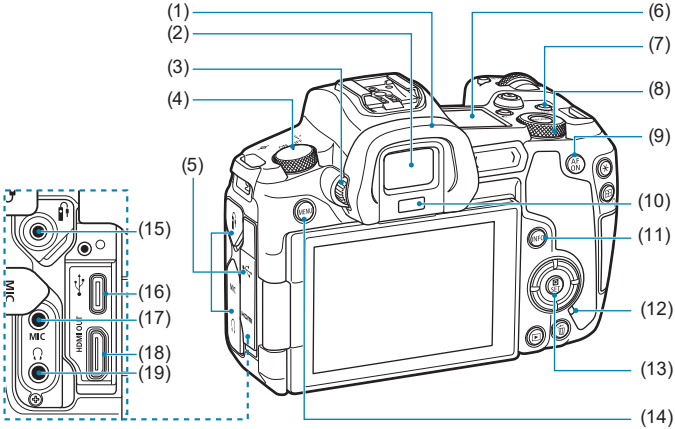
レンズについて

- レンズを取り外したときは、接点(1)やレンズ面を傷つけないように、取り付け面を上にして置き、ダストキャップを取り付けてください。

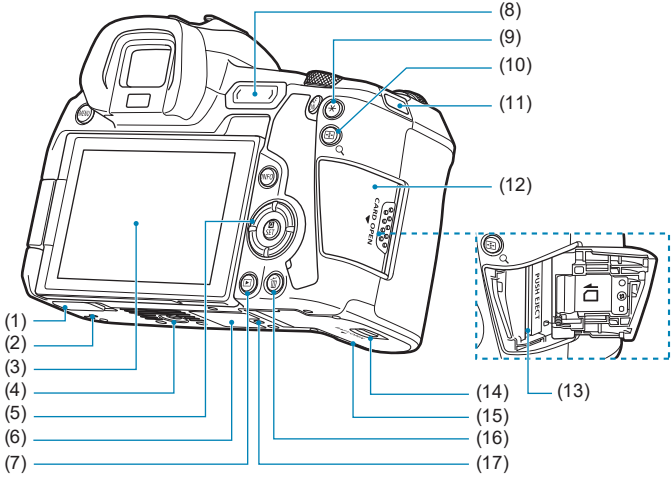
各部の名称



(1) 〈MODE〉 ボタン
(2) 動画撮影ボタン
(3) 〈 〉 メイン電子ダイヤル
(4) 〈M-Fn〉 マルチファンクションボタン
(5) シャッターボタン
(6) 〈 〉 表示パネル情報切り換え／照明ボタン
(7) AF補助光／セルフタイマー／リモコンランプ
(8) グリップ（バッテリー室）
(9) DCカプラーコード通し部
(10) 接点
(11) レンズマウント
(12) シンクロ接点
(13) アクセサリーシュー
(14) RFレンズ取り付け指標
(15) スピーカー
(16) 〈 〉 撮像面マーク
(17) ストラップ取り付け部
(18) マイク
(19) シャッター幕／撮像素子
(20) レンズロック解除ボタン
(21) レンズロックピン
(22) ボディキャップ



(1) アイカップ
(2) ファインダー接眼部
(3) 視度調整つまみ
(4) 電源スイッチ
(5) 端子カバー
(6) 表示パネル
(7) 〈**LOCK**〉マルチ電子ロックボタン
(8) 〈サブ電子ダイヤル〉サブ電子ダイヤル
(9) 〈AF ON〉AFスタートボタン
(10) ファインダーオンセンサー
(11) 〈**INFO**〉インフォボタン
(12) アクセスランプ
(13) 〈**Q**／**SET**〉クイック設定／設定ボタン
(14) 〈**MENU**〉メニューボタン
(15) 〈リモコン〉リモコン端子
(16) 〈USB〉デジタル端子
(17) 〈**MIC**〉外部マイク入力端子
(18) 〈**HDMI OUT**〉HDMIミニ出力端子
(19) 〈ヘッドフォン〉ヘッドフォン端子



(1) 接点カバー
(2) アクセサリー位置決め穴
(3) モニター
(4) 三脚ねじ穴
(5) 〈▲〉〈▼〉〈◀〉〈▶〉:〈✣〉十字キー
(6) シリアル番号（機番）
(7) 〈▶〉再生ボタン
(8) 〈M-Fn〉マルチファンクションバー
(9) 〈✳〉AEロック／FEロックボタン
(10) 〈⊞／🔍〉AFフレーム／インデックス／拡大／縮小ボタン
(11) ストラップ取り付け部
(12) カードスロットカバー
(13) カードスロット
(14) バッテリー収納部ふたロック
(15) バッテリー収納部ふた
(16) 〈🗑〉消去ボタン
(17) アクセサリー位置決め穴

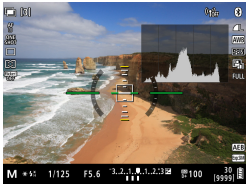
表示パネル

表示例

カメラの状態により表示される内容が異なります。表示されるマークについては、617ページを参照してください。

ファインダー内表示

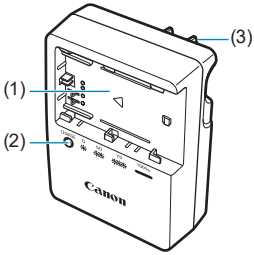
表示例



カメラの状態により表示される内容が異なります。

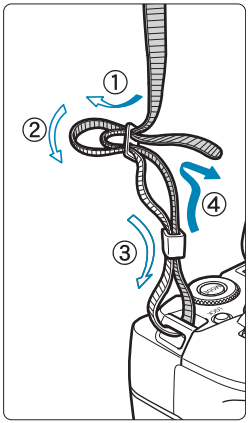
バッテリーチャージャー LC-E6

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6の充電器です（p.40）。



(1) バッテリー取り付け部
(2) 充電ランプ
(3) 電源プラグ

ストラップ（吊りひも）の取り付け方



ストラップの先端をストラップ取り付け部の下から通し、さらにストラップに付いている留め具の内側を通します。留め具の部分のたるみを取り、引っぱっても留め具の部分がゆるまないことを確認してください。

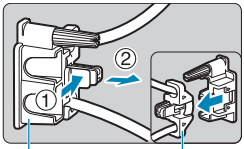
ケーブルプロテクターの使い方

カメラとパソコンを接続するときは、付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。

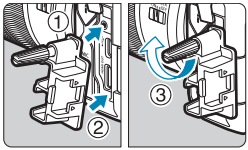
また、**カメラにインターフェースケーブルを接続するときは、付属のケーブルプロテクターを使用してください。**ケーブルプロテクターを使用すると、ケーブルが不用意に抜けることを防止したり、端子の破損を防止することができます。

付属インターフェースケーブル／純正HDMIケーブル（別売）使用時

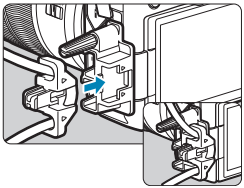
1



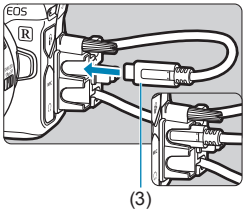
2



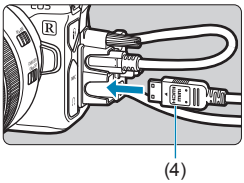
3



4

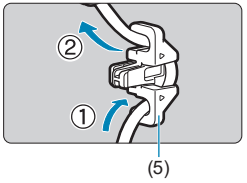


5



(1) プロテクター本体
(2) クランパー部
(3) 付属インターフェースケーブル
(4) HDMIケーブル（別売）

別売の純正インターフェースケーブル使用時



別売のキヤノン純正インターフェースケーブルを使用するときは、図のようにケーブルをクランパー部（5）に通してからプロテクター本体に取り付けてください。

- ケーブルプロテクターを使用せずにインターフェースケーブルを接続すると、デジタル端子が破損する恐れがあります。
- インターフェースケーブルがデジタル端子にしっかりと取り付けられていることを確認してください。

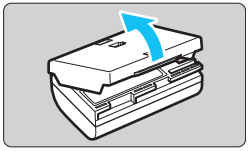
カメラとテレビを接続するときは、HDMIケーブル HTC-100（別売）の使用をおすすめします。HDMIケーブル接続時もケーブルプロテクターの使用をおすすめします。

1

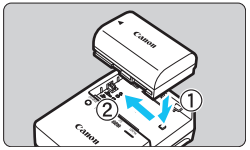
準備と基本操作

この章では、撮影に入る前にあらかじめ準備しておくことと、基本の操作について説明しています。

バッテリーを充電する

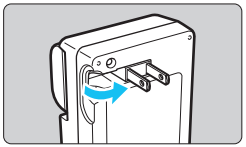


1 付属の保護カバーを外す

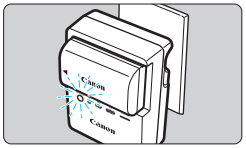


2 バッテリーを充電器にしっかりと取り付ける

- 取り外しは逆の手順で行います。



3 電源プラグを起こす



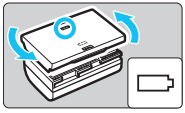
4 電源プラグをコンセントに差し込む

➡ 自動的に充電が始まり、充電ランプがオレンジ色に点滅します。

充電状態	充電ランプ	
	色	表示
0～49%	オレンジ	1秒ごとに点滅
50～74%		1秒ごとに2回点滅
75%以上		1秒ごとに3回点滅
充電完了	緑	点灯

- **使い切ったバッテリーの充電に要する時間は、常温（+23℃）で約2時間30分です。**なお、充電時間は周囲の温度や残量によって大きく異なります。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～+10℃）では充電時間が長くなります（最長約4時間）。

- **購入時、バッテリーはフル充電されていません**
  充電してからお使いください。
- **充電は使用する当日か前日にする**
  充電して保管していても、自然放電により少しずつバッテリーの容量が少なくなっていきます。
- **充電が終わったら、バッテリーを取り外し、プラグをコンセントから抜く**
- **保護カバーを取り付ける向きで、充電済みか、使用済みかがわかるようにする**
  充電済みのバッテリーに付属の保護カバーを取り付けるときは、バッテリーの青いシールに保護カバーの窓〈▭〉が重なるようにします。使用済みのバッテリーのときは、180度回して取り付けます。



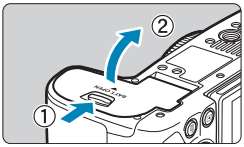
- **カメラを使わないときはバッテリーを取り出しておく**
  バッテリーを長期間カメラに入れたままにしておくと、微少の電流が流れて過放電状態になり、バッテリー寿命短縮の原因となります。バッテリーの保護カバーを取り付けて保管してください。なお、フル充電して保管すると、性能低下の原因になることがあります。
- **充電器は海外でも使うことができる**
  充電器は、家庭用電源のAC100～240V 50/60Hzに対応しています。お使いになる国や地域に対応した、市販の電源プラグ変換アダプターを使用してください。なお、充電器が故障する恐れがありますので、海外旅行用の電子変圧器などに接続しないでください。
- **フル充電したのにすぐ使えなくなるときは、バッテリーの寿命です**
  バッテリーの劣化度（p.387）を確認した上で、新しいバッテリーをお買い求めください。

- 充電器をコンセントから取り外したときは、10秒程度、充電器のプラグに触れないようにしてください。
- バッテリー残量（p.387）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 付属の充電器は、バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は充電できません。

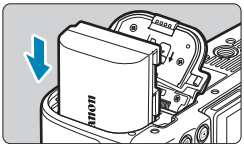
バッテリーを入れる／取り出す

充電したバッテリーパック LP-E6N（またはLP-E6）をカメラに入れます。

入れ方

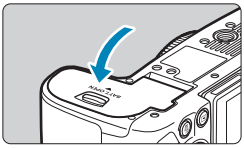


1 バッテリー収納部ふたロックをスライドして、ふたを開ける



2 バッテリーを入れる

- バッテリー接点の方から入れます。
- ロック位置までしっかりと入れてください。

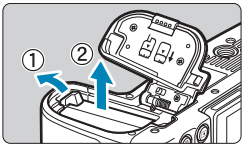


3 ふたを閉める

- 「カチッ」と音がするまで、ふたを押して閉じます。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6以外は使用できません。

取り出し方



ふたを開けて、バッテリーを取り出す

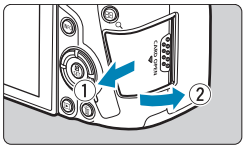
- バッテリーロックレバーを矢印の方向に押してロックを外し、バッテリーを取り出します。
- ショート防止のため、必ずバッテリーに付属の保護カバー（p.40）を取り付けてください。

カードを入れる／取り出す

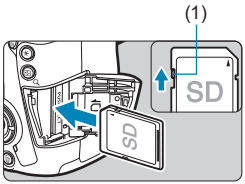
撮影した画像は、カードに記録されます。

カードの書き込み禁止スイッチ（1）が上側（書き込み／消去可能位置）にセットされていることを確認してください。

入れ方

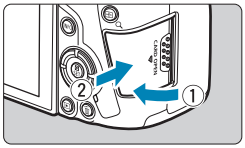


1 カバーをスライドして、開ける



2 カードを入れる

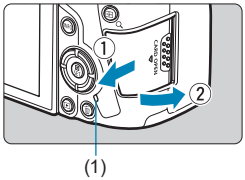
- **図のようにカードの表を手前にして、「カチッ」と音がするまで差し込みます。**



3 カバーを閉める

- カバーを閉じてから、矢印の方向に「カチッ」と音がするまでしっかりとスライドさせます。

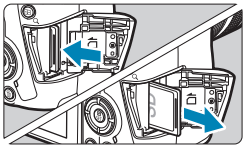
取り出し方



(1)

1 カバーを開ける

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- **アクセスランプ（1）が消えていることを確認して、カバーを開きます。**
- モニターに**［書き込み中...］**と表示されたときは、カバーを閉じてください。



2 カードを取り出す

- カードを軽く押し込んで離すと出てきます。
- カードをまっすぐ取り出して、カバーを閉じます。

カードを初期化する

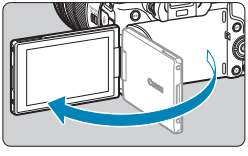
新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください（p.373）。

- 撮影可能枚数は、使用するカードの空き容量や、記録画質、ISO感度などの設定により変わります。
- **［1：カードなしレリーズ］**を**［しない］**に設定すると、カードの入れ忘れを防止することができます（p.118）。

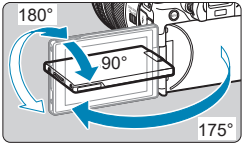
- **アクセスランプが点灯／点滅しているときは、カードへの記録／読み出し中や、消去中、データ転送中です。カードスロットカバーを開けないでください。また、アクセスランプが点灯／点滅しているときに次のことを行うと、画像データが壊れたり、カードやカメラ本体が損傷する原因になるため、絶対に行わないでください。**
  - **カードを取り出す**
  - **バッテリーを取り出す**
  - **カメラ本体に振動や衝撃を与える**
  - **電源コードの抜き差しを行う**
    （家庭用電源アクセサリー（別売）使用時）
- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.367）。
- モニターにカードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、カードの抜き差しを行ってください。それでも改善しないときは、別のカードに交換してください。
  なお、パソコンでカードの内容が読み取れるときは、カード内のデータをすべてパソコンに保存したあと、カメラでカードを初期化してください（p.373）。正常な状態に戻ることがあります。
- カードの端子部分に指や金属が触れないようにしてください。また、ゴミや水などを付着させないでください。端子部分に汚れが付着すると、接触不良の原因になります。
- マルチメディアカード（MMC）は使用できません（カードエラー表示）。
- UHS-II対応のmicroSDHC/SDXCカードと、（microSDカードからSDカードへの）変換アダプターの組み合わせによる使用はおすすめできません。UHS-II対応カードを使用するときは、UHS-IIに対応したSDHC/SDXCカードの使用をおすすめします。

モニターを使う

モニターは、向きと角度を変えて使用することができます。

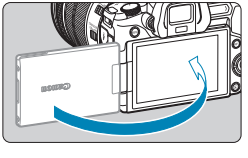


1 モニターを開く



2 モニターを回転させる

- モニターは、開いた状態や上向き、下向き、対面（裏返し）でも使用することができます。
- 角度は「約」です。



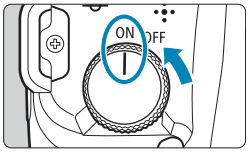
3 画面を表向きにする

- 通常は画面を表向きにして使用します。

- モニターを無理に回転させて、軸の部分（ヒンジ部）に強い力がかからないようにしてください。
- カメラの端子にケーブルを接続しているときは、モニターを開いた状態での回転範囲が制限されます。

- カメラを使わないときは、モニターを内側にして閉じてください。画面を保護することができます。
- モニターを被写体に向けた対面撮影を行うと、映像が鏡像（左右反転）で表示されます。

電源を入れる



- 〈ON〉
  シャッター幕が開く音がし、カメラが作動します。RFレンズを取り付けているときは、絞りが開く音もします。
- 〈OFF〉
  シャッター幕が閉じる音がし、カメラは作動しなくなります。カメラを使用しないときはこの位置にします。RFレンズを取り付けているときは、絞りが閉じる音もします。

日付／時刻／エリアを設定する

電源スイッチを入れたときに、日付/時刻/エリアの設定画面が表示されたときは、380ページを参照して日付/時刻/エリアを設定してください。

表示言語を変更する

表示言語を変更するときは、383ページを参照してください。

撮像素子の自動清掃について

- 電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、撮像素子の自動清掃が行われます（小さな音が鳴ることがあります）。清掃中は、モニターに〈 〉が表示されます。電源スイッチを〈ON〉にしたときにも、撮像素子の自動清掃が行われるようにしたい場合は、**[3：センサークリーニング]**で設定することができます（p.392）。
- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがありますが、故障ではありません。

カードへの画像記録中に電源スイッチを〈OFF〉にすると、**[書き込み中...]**が表示され、画像記録が終了してから電源が切れます。

バッテリー残量表示について

バッテリーの残量は、電源スイッチを〈ON〉にしたときに、6段階で表示されます。バッテリーマークが点滅〈 〉したときは、もうすぐバッテリー切れになります。

表示			
残量（%）	100～70	69～50	49～20

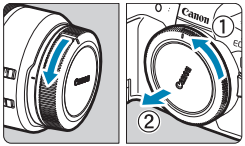
表示			
残量（%）	19～10	9～1	0

- 下記の操作を行うとバッテリーが早く消耗します。
  - シャッターボタン半押し状態を長く続ける
  - AF動作だけを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使用する
  - Wi-Fi機能、Bluetooth機能を使用する
- 実際の撮影条件により、撮影可能枚数が少なくなることがあります。
- レンズの動作にはカメラ本体の電源を使用します。使用するレンズにより、バッテリーが早く消耗することがあります。
- 低温下ではバッテリーの残量があっても撮影できないことがあります。

［3：バッテリー情報］でバッテリーの状態を確認することができます（p.387）。

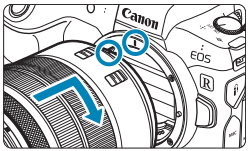
レンズを取り付ける／取り外す

取り付け方



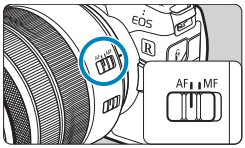
1 キャップを外す

- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 レンズを取り付ける

- レンズとカメラの赤いレンズ取り付け指標を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

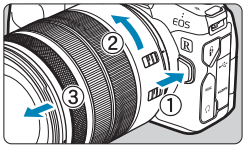


3 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。
- RFレンズにフォーカスモードスイッチがないときは、カメラのメニュー［**AF**1：**フォーカスモード**］で［AF］［MF］を設定します。

4 レンズキャップを外す

取り外し方



レンズロック解除ボタンを押しながら、レンズを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

- レンズで太陽を直接見ないでください。失明の原因になります。
- レンズの取り付け／取り外しを行うときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてください。
- 自動ピント合わせのときに、レンズの先端（フォーカスリング）が動くレンズは、動いている部分に触れないでください。

レンズの使用方法については、レンズの使用説明書を参照してください（p.4）。

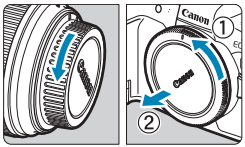
ゴミやほこりについて、普段から以下のことに注意してください

- レンズの交換は、ほこりの少ない場所で素早く行う
- レンズを取り外してカメラを保管するときは、ボディキャップを必ずカメラに取り付ける
- ボディキャップは、ゴミやほこりを落としてからカメラに取り付ける

EFレンズ、EF-Sレンズを取り付ける／取り外す

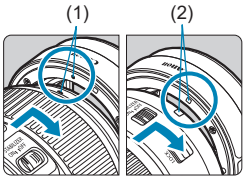
別売のマウントアダプター EF-EOS Rを使用すると、すべてのEFレンズ、EF-Sレンズを使用することができます。**なお、EF-Mレンズは使用できません。**

取り付け方



1 キャップを外す

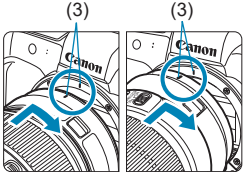
- レンズのダストキャップとボディキャップを矢印の方向に回して外します。



2 アダプターにレンズを取り付ける

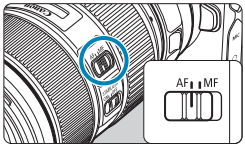
- アダプターの取り付け指標（赤または白）とレンズ側の取り付け指標の色を合わせ、レンズを矢印の方向に「カチッ」と音がするまで回します。

(1) 赤い指標
(2) 白い指標



3 カメラにアダプターを取り付ける

- アダプターとカメラの赤いレンズ取り付け指標（3）を合わせ、レンズを矢印方向に「カチッ」と音がするまで回します。

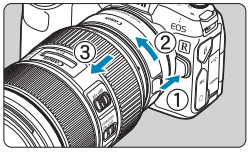


4 レンズのフォーカスモードスイッチを〈AF〉にする

- 〈**AF**〉はAuto Focus：自動ピント合わせのことです。
- 〈**MF**〉はManual Focus：手動ピント合わせのことです。自動ピント合わせはできません。

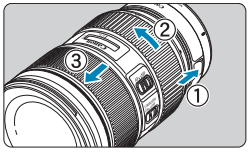
5 レンズキャップを外す

取り外し方



1 レンズロック解除ボタンを押しながら、アダプターを矢印の方向に回す

- 回転が止まるまで回してから、取り外します。



2 レンズをアダプターから取り外す

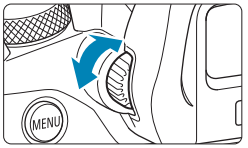
- アダプターのレンズ取り外しレバーをスライドしながら、レンズを反時計方向に回します。
- 回転が止まるまで回してから、レンズを取り外します。
- 取り外したレンズにダストキャップを取り付けます。

レンズに関する注意事項は、51ページをご確認ください。

ファインダーを使う

ファインダーをのぞくと、ファインダーに画面が表示されます。画面の表示先を固定することもできます（p.403）。

ファインダーが鮮明に見えるように調整する



視度調整つまみを回す

- ファインダー内の表示が鮮明に見えるように、つまみを右または左に回します。

- ファインダーとカメラの画面を同時に表示することはできません。
- アスペクト比の設定によっては、左右または上下に黒帯が表示されます。この部分は撮影されません。

基本操作

カメラの構え方

● モニターを見ながら撮影

モニターの向きを変えて撮影することができます。詳しくは47ページを参照してください。

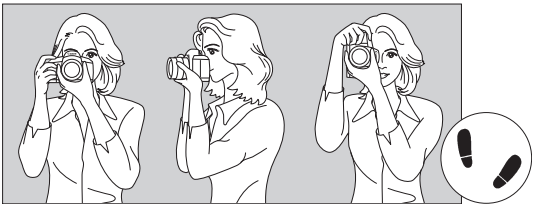
通常のアングル

ローアングル

ハイアングル

● ファインダーを見ながら撮影

手ブレのない鮮明な画像を撮るため、カメラが動かないようにしっかり構えて撮影します。

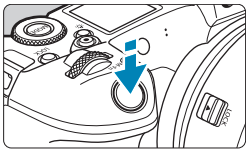


横位置　　縦位置

①右手でグリップを包むようにしっかりと握ります。
②左手でレンズを下から支えるように持ちます。
③右手人差し指の腹をシャッターボタンに軽くのせます。
④脇をしっかり締め、両ひじを軽く体の前に付けます。
⑤片足を軽く踏み出して、体を安定させます。
⑥カメラを額に付けるようにして、ファインダーをのぞきます。

シャッターボタン

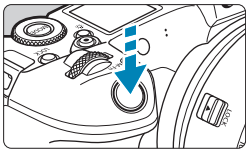
シャッターボタンは二段階になっています。シャッターボタンを一段目まで浅く押すことを「半押し」といいます。半押しからさらに二段目まで深く押すことを「全押し」といいます。



半押し

自動ピント合わせと、自動露出機構によるシャッタースピードと絞り数値の設定が行われます。
露出値（シャッタースピードと絞り数値）が、モニター、ファインダー内、または表示パネルに8秒間（測光タイマー）*表示されます。

* 測光タイマーの初期値は8秒です。



全押し

撮影されます。

● 手ブレしにくい撮影のしかた

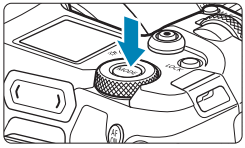
手にしたカメラが撮影の瞬間に動くことを「手ブレ」といい、全体がぼやけたような写真になります。鮮明な写真を撮るため、次の点に注意してください。

- カメラが動かないようしっかり構える。
- シャッターボタンを半押ししてピントを合わせたあと、ゆっくりシャッターボタンを全押しする。

- シャッターボタンを一気に全押ししたり、半押し後すぐに全押しすると、一瞬の間を置いてから撮影されます。
- メニュー画面表示中、画像再生中でも、シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

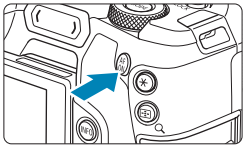
〈MODE〉モードボタン

撮影モードを設定することができます。



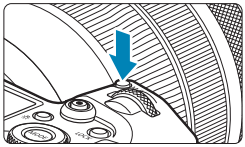
〈MODE〉ボタンを押したあと〈 〉を回して、撮影モードを選択します。
〈MODE〉ボタンを押したあと〈INFO〉ボタンを押すと、静止画撮影と動画撮影を切り換えることができます。

〈AF ON〉AFスタートボタン



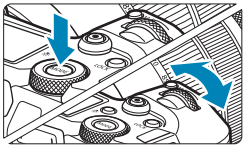
撮影モードが［**Fv**］［**P**］［**Tv**］［**Av**］［**M**］［**BULB**］のときは、シャッターボタンの半押しと同じ操作を行うことができます。

〈M-Fn〉マルチファンクションボタン



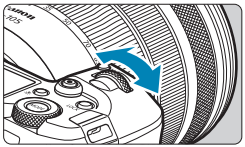
〈M-Fn〉ボタンを押したあと〈 〉を回すと、ISO感度、ドライブモード、AF動作、ホワイトバランス、ストロボ調光補正を設定することができます。

〈 〉メイン電子ダイヤル



(1) ボタンを押したあと〈 〉を回す

〈MODE〉〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈 〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

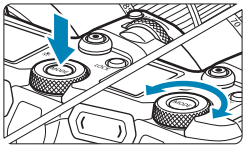


(2)〈 〉のみを回す

モニター、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈 〉を回します。
シャッタースピードや絞り数値の設定などに使用します。

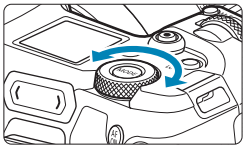
（1）の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態（p.60）でも行うことができます。

〈 〉サブ電子ダイヤル



(1) ボタンを押したあと〈 〉を回す

〈MODE〉〈M-Fn〉ボタンなどを押したあと、〈 〉を回します。
シャッターボタンを半押しすると、撮影準備状態に戻ります。

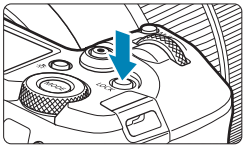


(2)〈 〉のみを回す

モニター、ファインダー内、または表示パネルを見ながら〈 〉を回します。
露出補正やマニュアル露出時の絞り数値の設定などに使用します。

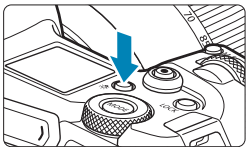
（1）の操作は、マルチ電子ロック機能でロックした状態（p.60）でも行うことができます。

〈LOCK〉マルチ電子ロックボタン



[6：マルチ電子ロック]を設定し、〈LOCK〉ボタンを押すと、メイン電子ダイヤル、サブ電子ダイヤル、M-Fnバー、コントロールリングが不用意に動いたり、タッチパネルに意図せずに触れたりして、設定が変わることを防止することができます。再度、〈LOCK〉ボタンを押すと、設定が解除されます。[6：マルチ電子ロック]については、416ページを参照してください。

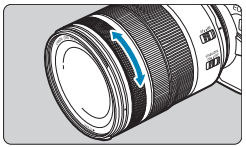
〈☼〉表示パネル情報切り換え/照明ボタン



- 〈☼〉ボタンを押すたびに表示パネルの情報表示内容が切り換わります。
- 〈☼〉ボタンを長押しすると、表示パネルが点灯します（⏱6）。

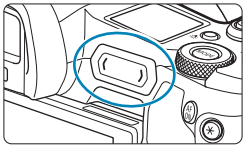
バルブ撮影時は、シャッターボタンを全押しすると照明が消えます。

〈◎〉コントロールリング

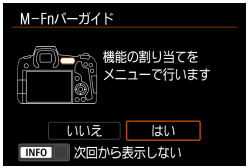


初期状態では、[Fv][Av][M][BULB]モードのときに、シャッターボタンを半押しした状態で、RFレンズ、またはマウントアダプターのコントロールリングを回すと、絞り数値を設定することができます。また、操作カスタマイズ機能の[4：ダイヤルカスタマイズ]で（p.555）、コントロールリングに他の機能を割り当てることもできます。

〈▬〉M-Fn（マルチファンクション）バー 応用



〈▬〉のスライド操作と両端のタップ操作に、よく使う機能を割り当てることができます。なお、初期状態では何も割り当てられていません。



購入時または機能が割り当てられていないときは、〈▬〉の左端をタップすると、**[.4：M-Fnバーカスタマイズ]**の設定メニューのショートカット画面が表示されます。**[はい]**を選ぶと、設定画面が表示されます（p.561）。

基本操作

スライド

〈▬〉に指を触れたまま、すぐに指を左右に動かします。

タップ（左端）

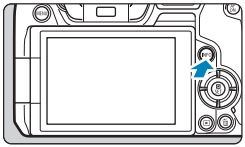
〈▬〉の左端に指を触れて、すぐに指を離します。

タップ（右端）

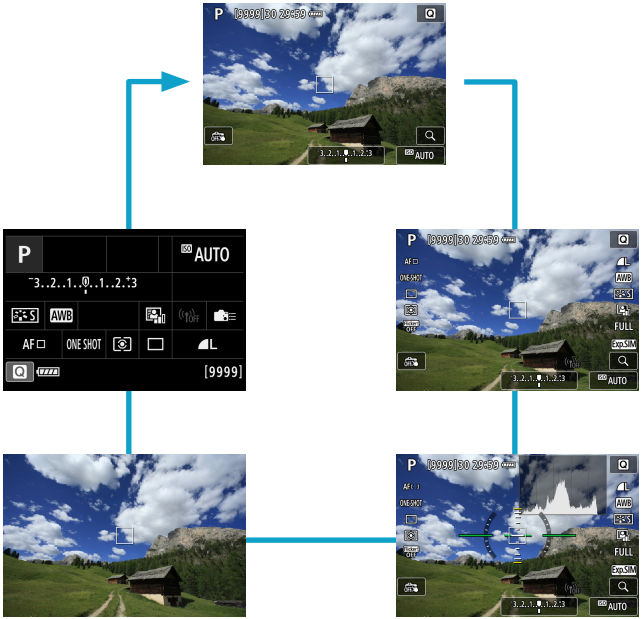
〈▬〉の右端に指を触れて、すぐに指を離します。

〈▬〉に触れたあと、すぐに指を動かさないと、操作はキャンセルされます。

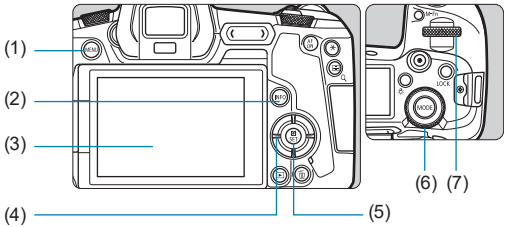
INFOボタン



〈INFO〉ボタンを押すたびに情報表示内容が切り換わります。
下記は、静止画撮影時の画面例です。

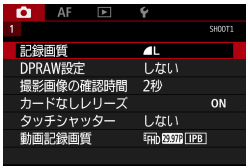


メニュー機能の操作と設定



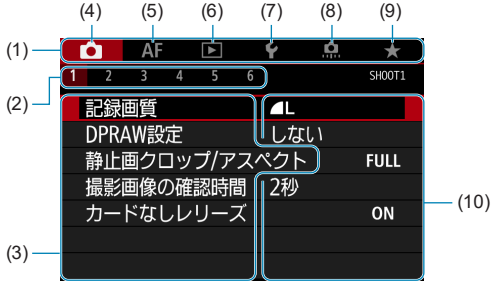
(1) 〈MENU〉ボタン
(2) 〈INFO〉ボタン
(3) モニター
(4) 〈✣〉十字キー
(5) 〈SET〉ボタン
(6) サブ電子ダイヤル
(7) メイン電子ダイヤル

[A+]モードのメニュー画面



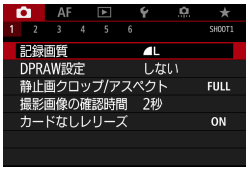
* [A+] モードのときは表示されないタブやメニュー項目があります。

[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モードのメニュー画面



(1) メインタブ
(2) サブタブ
(3) メニュー項目
(4) 📷 : 撮影
(5) **AF** : AF
(6) ▶ : 再生
(7) 🔧 : 機能設定
(8) ⚙ : カスタム機能
(9) ★ : マイメニュー
(10) 設定内容

メニュー機能の設定操作

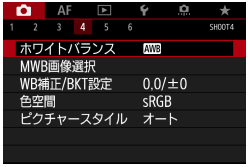


1 メニューを表示する

- 〈MENU〉ボタンを押します。

2 タブを選ぶ

- 〈INFO〉ボタンを押すと、メインタブ（系統）が切り換わります。
- 〈〉を回してサブタブを選びます。
- 例えば、本文中の［📷4］タブは、📷（撮影）タブの左から4番目の［4］を選んでいる画面のことです。

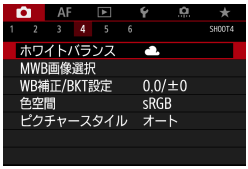


3 項目を選ぶ

● 〈 〉を回して項目を選び、〈SET〉を押します。

4 内容を選ぶ

● 〈 〉を回して内容を選びます。
● 現在設定されている内容は青色で表示されます。



5 内容を設定する

● 〈SET〉を押すと設定されます。

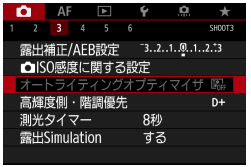
6 設定を終了する

● 〈MENU〉ボタンを押すと、撮影準備状態に戻ります。

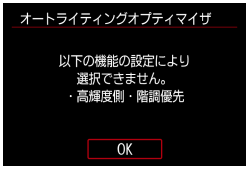
● これ以降のメニュー機能の説明は、〈MENU〉ボタンを押して、メニュー画面が表示されていることを前提に説明しています。
● メニュー画面にタッチしたり、〈✥〉十字キーでメニュー機能の操作を行うこともできます。
● 操作の途中でキャンセルするときは、〈MENU〉ボタンを押します。

メニュー項目の灰色表示について

例：高輝度側・階調優先設定時



灰色で表示されている項目は設定できません。すでに設定されている他の機能が優先されるためです。



灰色で表示されている項目を選び〈**SET**〉を押すと、優先されている機能を確認することができます。
優先されている機能の設定を解除すると、灰色で表示されていた項目が設定できるようになります。

項目によっては、優先されている機能を確認できないことがあります。

【**6：カメラ設定初期化**】でメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます(p.419)。

画面にタッチして操作する

カメラのモニター（タッチパネル）は、指で触れて操作することができます。

タッチ

画面例（クイック設定）

- モニターに指を触れて、指を離します。
- 例えば［Q］をタッチすると、クイック設定の状態になります。［↩］をタッチすると、元の画面に戻ります。

ドラッグ

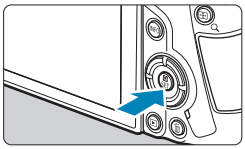
画面例（メニュー画面）

- モニターに指を触れたまま動かします。

- ［**3：電子音**］を［**タッチ音切**］に設定すると、タッチ操作時に電子音が鳴らないようになります（p.386）。
- タッチしたときの反応を設定することができます（p.385）。

Q クイック設定

モニターに表示されている項目を直接選択して、直感的な操作で設定することができます。この操作を「クイック設定」といいます。

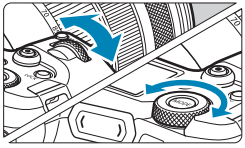


1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

2 項目を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して選びます。

- 左の画面が表示されているときは、〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉を押して選びます。



3 内容を選ぶ

- 〈 〉または〈 〉を回すか、〈◄〉〈►〉を押して設定を変更します。さらにボタンを押して設定する項目もあります。
- 〈SET〉を押すと設定され、元の画面に戻ります。

画面にタッチしてクイック設定を行うこともできます（p.67）。

2

撮影

この章では、撮影に関する内容や、メニュー機能の「📷：撮影タブ」に含まれる項目などについて説明しています。

● ページタイトル右の応用は、[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モード限定の機能であることを示しています。

2 -1 静止画撮影

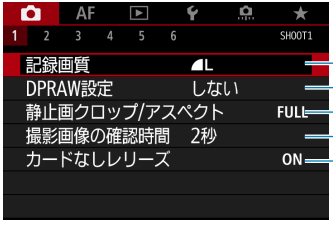
静止画撮影時の［撮影モード］の設定について

静止画撮影を行うときは、〈MODE〉ボタンを押したあと、〈INFO〉ボタンを押して、［撮影モード］の画面を左図の状態にしてください。

［A+］：シーンインテリジェントオート（p.123）
［Fv］：フレキシブルAE（p.140）
［P］：プログラムAE（p.132）
［Tv］：シャッター優先AE（p.134）
［Av］：絞り優先AE（p.136）
［M］：マニュアル露出（p.138）
［BULB］：バルブ（p.158）
［C1/C2/C3］：カスタム撮影モード（p.417）

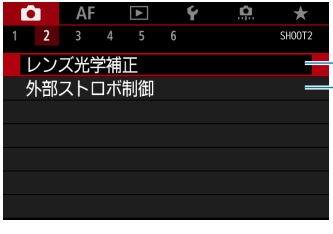
メニュー目次:静止画撮影

● 撮影1



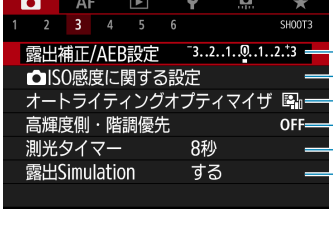
p.75
p.78
p.80
p.118
p.118

● 撮影2



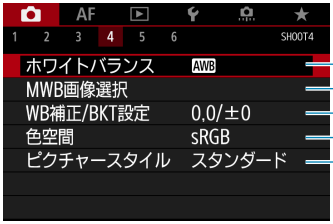
p.110
p.179

● 撮影3



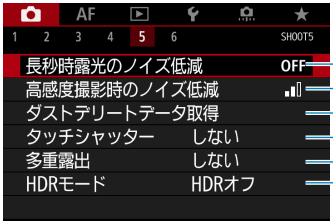
p.155
p.85
p.104
p.109
p.119
p.120

● 撮影4



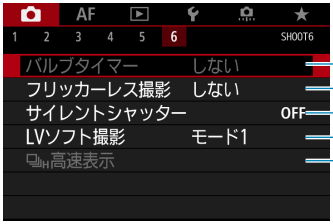
p.97
p.100
p.102
p.117
p.88, 92, 95

● 撮影5



p.107
p.105
p.121
p.130
p.166
p.161

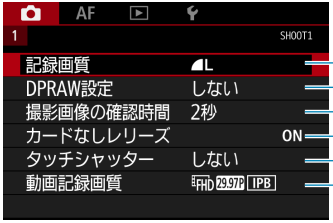
● 撮影6



p.159
p.115
p.151
p.150
p.149

［A+］モードのときは、以下の画面が表示されます。

● 撮影1



p.75
p.78
p.118
p.118
p.130
p.192

機能目次：静止画撮影

撮影モード

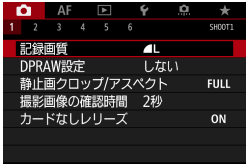
- [A] モード ➡ p.123
- [Fv] モード ➡ p.140
- [P] モード ➡ p.132
- [Tv] モード ➡ p.134
- [Av] モード ➡ p.136
- [M] モード ➡ p.138
- [BULB] モード ➡ p.158

メニュー機能／撮影機能

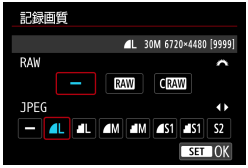
- 記録画質 ➡ p.75
- DPRAW ➡ p.78
- クロップ/アスペクト ➡ p.80
- ISO感度（静止画） ➡ p.83
- ピクチャースタイル ➡ p.88
- ホワイトバランス ➡ p.97
- MWB画像選択 ➡ p.100
- WB補正/BKT ➡ p.102
- オートライティング オプティマイザ ➡ p.104
- 高感度時ノイズ低減 ➡ p.105
- 長秒時露光ノイズ低減 ➡ p.107
- 高輝度側・階調優先 ➡ p.109
- レンズ光学補正 ➡ p.110
- フリッカー低減 ➡ p.115
- 色空間 ➡ p.117
- カードなしレリーズ ➡ p.118
- 撮影直後の画像表示時間 ➡ p.118
- 測光タイマー ➡ p.119
- 露出Simulation ➡ p.120
- ダストデリートデータ ➡ p.121
- タッチシャッター ➡ p.130
- ドライブモード ➡ p.144
- セルフタイマー ➡ p.147
- LVソフト撮影 ➡ p.150
- サイレントシャッター ➡ p.151
- 測光モード ➡ p.152
- 露出補正 ➡ p.154
- AEB ➡ p.155
- AEロック ➡ p.157
- バルブタイマー ➡ p.159
- HDRモード ➡ p.161
- 多重露出 ➡ p.166
- リモコン ➡ p.174
- リモートスイッチ ➡ p.176
- 外部ストロボ ➡ p.177
- ストロボ機能設定 ➡ p.179
- ストロボカスタム機能設定 ➡ p.187

記録画質を設定する

記録する画素数と画質を選ぶことができます。JPEG画像の記録画質は、◢L、◢L、◢M、◢M、◢S1、◢S1、S2です。RAW画像の記録画質は、RAW、CRAWです。



1 [📷1：記録画質] を選ぶ



2 記録画質を設定する

- RAW画質は〈◌〉を回して、JPEG画質は〈◀〉〈▶〉を押して選びます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

記録画質の設定画面に表示される撮影可能枚数 **[****]** は、アスペクトの設定（p.80）に関わらず、常に **[フルサイズ]** 設定時の値が表示されます。

- RAW画像とJPEG画像の設定を両方［–］にしたときは、◢Lに設定されます。
- RAWとJPEGの両方を選んだときは、1回の撮影で設定した記録画質の画像がカードに記録されます。2つの画像は同じ画像番号（拡張子はJPEG：.JPG、RAW：.CR3）で記録されます。
- S2は◢（ファイン）の画質です。
- 記録画質の読み方は、RAW（ロウ）、CRAW（コンパクトロウ）、JPEG（ジェイペグ）、◢（ファイン）、◢（ノーマル）、L（ラージ）、M（ミドル）、S（スモール）です。

RAW画像について

カードに記録されるRAW画像は、撮像素子から出力されたデータをデジタル変換して記録した「生（ロウ）データ」で、RAW、CRAWから選ぶことができます。なお、CRAWはRAWに比べてファイルサイズが小さいRAW画像です。

RAW画像は、**[▶1：RAW現像]**で現像処理を行い（p.339）、JPEG画像として保存することができます（CRAWはRAWと同じように、すべてのJPEG画像サイズを生成することができます）。なお、RAW画像そのものは何も変化しませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

また、RAW画像は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うことができます。使用目的に応じてさまざまな画像調整を行い、その調整結果を反映したJPEG画像などを生成することができます。

RAW画像処理用のソフトウェアについて

- パソコンでRAW画像を表示するときは、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional（以下DPP）の使用をおすすめします。
- 古いバージョンのDPP Ver.4.xでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。パソコンに古いバージョンのDPP Ver.4.xがインストールされているときは、キヤノンのホームページから最新のDPPを入手して、アップデート（上書きインストール）してください（p.572）。なお、Ver.3.x以前のDPPでは、このカメラで撮影したRAW画像の処理はできません。
- 市販のソフトウェアでは、このカメラで撮影したRAW画像を表示できないことがあります。対応状況については、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

記録画質を選ぶときの目安について

ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数などについては、609ページを参照してください。

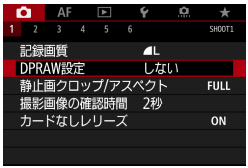
連続撮影可能枚数（バースト枚数）

撮影画面の左上、またはファインダー内の右下の数値で、連続撮影できる枚数の目安を確認することができます。
「99」と表示されているときは、連続して99 枚以上撮影できることを示しています。

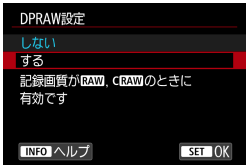
連続撮影可能枚数が、「**99**」と表示されているときは、99枚以上の連続撮影ができます。98枚以下になると、数値が減っていきます。内部メモリーがいっぱいになると、モニターと表示パネルに **[BUSY]** が表示され、一時的に撮影ができなくなります。撮影を中断すると数値が増えていきます。撮影した画像がすべてカードに書き込まれると、609ページの表に示した枚数の連続撮影ができるようになります。

DPRAW機能の設定

DPRAW機能を設定してRAW、CRAW画像を撮影すると、撮像素子からのデュアルピクセル情報が付加された「特別なRAW画像（DPRAW画像）」として記録されます。これをDPRAW撮影といいます。
EOS用ソフトウェアのDigital Photo ProfessionalでDPRAW画像の現像処理を行う際に、DPRAW画像に記録されたデュアルピクセル情報を活用して、「被写体の奥行き情報に基づく解像感の微調整」「カメラの撮影視点の微調整」「ゴーストの低減」を行うことができます。
なお、**撮影条件により効果が異なりますので、DPRAW撮影を行う前に、Digital Photo Professional使用説明書を参照して、DPRAW機能の特徴と現像処理についてご確認ください。**



1 [1：DPRAW設定]を選ぶ



2 [する]を選ぶ

- 〈INFO〉ボタンを押して、あらかじめヘルプ画面（p.405）の内容を確認することをおすすめします。

3 記録画質をRAWまたはCRAWに設定する

- 記録画質をRAW、RAW＋JPEG、CRAW、CRAW＋JPEGのいずれかに設定します。

4 撮影する

➡ デュアルピクセル情報が付加されたRAW画像（DPRAW画像）が記録されます。

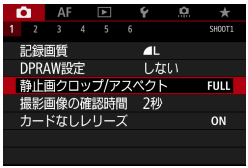
- 電源スイッチを〈ON〉にしたときや、オートパワーオフ状態から復帰したときの起動時間が長くなります。
- DPRAW撮影時は、連続撮影速度が遅くなります（p.144）。また、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- ドライブモードの〈□H〉は選択できません。〈□H〉に設定されているときは、〈□〉の設定で撮影されます。
- RAW画像、またはRAW＋JPEG画像を撮影したときは、通常撮影時に比べてややノイズが増えることがあります。
- ワンタッチ記録画質切り換えはできません。

DPRAW機能の調整量・補正効果について

- レンズの絞り数値が開放側のときに、調整量・補正効果が上がります。
- 使用するレンズや撮影シーンによっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。
- カメラの姿勢（縦/横）によって調整量・補正効果が変わります。
- 撮影条件によっては、十分な調整量・補正効果が得られないことがあります。

クロップ／アスペクトを設定する 応用

RFレンズ、EFレンズ使用時は、通常、撮像素子の約36.0×24.0mmの範囲が画像として記録されますが（フルサイズ撮影）、撮影画面中央の約1.6倍（APS-Cサイズ相当）の範囲のみを記録して、望遠レンズで撮影したような写真を撮影したり（クロップ撮影）、撮影画像の使用用途に応じて、あらかじめ画面のアスペクト（縦横）比を設定して撮影することができます。EF-Sレンズ使用時は、撮影画面中央の約1.6倍（APS-Cサイズ相当）の範囲のみが、アスペクト（縦横）比3：2で記録されます。



1 [📷 1：静止画クロップ/アスペクト]を選ぶ

2 項目を選ぶ

- **[フルサイズ]** **[1.6倍（クロップ）]** **[1：1（アスペクト）]** **[4：3（アスペクト）]** **[16：9（アスペクト）]** から選びます。
- EF-Sレンズ使用時は、**[1.6倍（クロップ）]** に自動設定されます（選択できません）。
- 撮影範囲の表示方法を変更しないときは、〈SET〉を押して手順4に進みます。

3 撮影範囲の表示方法を選ぶ

- 手順2の画面が表示された状態で〈INFO〉ボタンを押します。
- 表示方法を選び〈SET〉を押します。

- **[1.6倍（クロップ）]** 設定時、およびEF-Sレンズ使用時は、記録画質**M**/**M**/**S1**/**S1**は選択できません。
- 記録画質を**M**/**M**/**S1**/**S1**に設定した状態で、クロップ撮影を行ったときは、順に**L**/**L**/**S2**/**S2**で記録されます。
- アスペクト比が **[1：1（アスペクト）]** **[4：3（アスペクト）]** **[16：9（アスペクト）]** に設定された状態で、EF-Sレンズを装着したときは、設定が自動的に解除され、**[1.6倍（クロップ）]**、アスペクト比3：2の撮影になります。

設定例

FULL設定時

1.6設定時／EF-Sレンズ使用時

1:1・設定時

4:3・設定時

4 撮影する

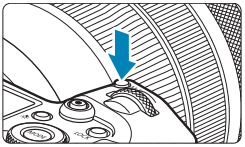
- **[1.6倍（クロップ）]** 設定時、およびEF-Sレンズ使用時は、約1.6倍に拡大された映像が表示されます。
- **[1:1（アスペクト）] [4:3（アスペクト）] [16:9（アスペクト）]** 設定時は、黒くマスクされた部分の内側、または線の内側の範囲が画像として記録されます。

- **[1.6倍 (クロップ)] 設定時、およびEF-Sレンズ使用時に、RAW画像を撮影したときは、撮影範囲のみ記録されます（クロップ領域外は記録されません）。**
- **[1.6倍 (クロップ)]** 設定時、およびEF-Sレンズ使用時は、**[撮影範囲表示]** の設定を行っても、表示は変化しません。
- **[フルサイズ]** 以外に設定されているときは、**[5：トリミング情報の付加]** は設定できません。
- 外部ストロボ使用時に **[1：静止画クロップ/アスペクト]** の設定に応じたストロボの自動ズーム（照射角の自動調整）は行われません。

- クロップ/アスペクト撮影時の記録画素数については、610ページを参照してください。
- クロップ撮影時、アスペクト撮影時の視野率は、上下/左右とも約100%です。
- アスペクト設定時に、RAW画像を撮影したときは、フルサイズで記録され、アスペクト情報が画像に付加されます。RAW画像を再生したときは、撮影範囲が線で表示されます。ただし、スライドショー（p.331）で再生を行ったときは、撮影範囲だけが表示されます。

ISO：静止画のISO感度を設定する 応用

ISO感度（撮像素子の感度）は、撮影場所の明るさに応じて設定します。【A+】モードのときは、ISO感度が自動設定されます（p.608）。
なお、動画撮影時のISO感度については、614ページを参照してください。



1 〈M-Fn〉ボタンを押す（☆6）

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2 ISO感度の項目を選ぶ

- 〈⊡〉を回して、ISO感度の項目を選びます。

3 ISO感度を設定する

- 〈⊡〉を回して設定します。
- ISO100～40000の範囲で、1/3段ステップで設定することができます。
- 【AUTO】を選んだときは、ISO感度が自動設定されます。
- ISOオートの範囲については、608ページを参照してください。

【📷3：📷ISO感度に関する設定】の【ISO感度の範囲】で、ISO感度の手動設定範囲をL（ISO50相当）からH1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）まで拡張することができます（p.85）。

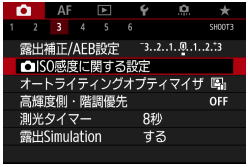
ISO感度を選ぶ時の目安

- ISO感度の数値が小さい（感度が低い）ほど、ノイズが少ない画像が撮影できますが、撮影シーンによっては、手ブレや被写体ブレが起きやすくなったり、ピントの合う範囲が狭く（被写界深度が浅く）なることがあります。
- ISO感度の数値が大きい（感度が高い）ほど、暗い場所で撮影できるようになったり、ピントの合う範囲を広く（被写界深度を深く）したり、ストロボ撮影時に遠くの被写体が撮影できるようになりますが、ノイズが多くなります。

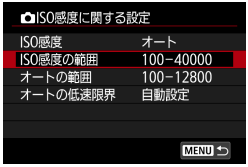
- H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもノイズ（輝点、縞）や色ムラが多くなり、解像感も低下します。
- L（ISO50相当）は拡張ISO感度のため、通常よりもダイナミックレンジがやや狭くなります。
- **[📷3：高輝度側・階調優先]** を **[する]** **[強]** に設定すると（p.109）、L（ISO50相当）、ISO100/125/160、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は選択できなくなります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光、多重露出撮影などの条件で撮影すると、画像のノイズ（ザラツキ感、輝点、縞など）や色ムラ、色味の変化が目立つことがあります。
- 高ISO感度、高温、長秒時露光の組み合わせなど、ノイズが非常に多くなる条件で撮影したときは、正常な画像が記録できないことがあります。
- 高ISO感度で近距離の被写体をストロボ撮影すると、露出オーバーになることがあります。

ISO感度の手動設定範囲を設定する

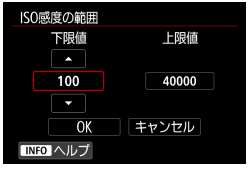
手動で設定できるISO感度の範囲（下限値／上限値）を設定することができます。下限値はL（ISO50相当）～H1（ISO51200相当）、上限値はISO100～H2（ISO102400相当）の範囲で設定することができます。



1 ［3：ISO感度に関する設定］を選ぶ



2 ［ISO感度の範囲］を選ぶ



3 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

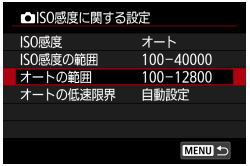
4 上限値を設定する

- 上限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

5 ［OK］を選ぶ

ISOオート時の自動設定範囲を設定する

ISOオート設定時に自動設定される感度を、ISO100～40000の範囲で設定することができます。下限値はISO100～25600の範囲、上限値はISO200～40000の範囲で設定することができます。



1 [オートの範囲] を選ぶ

2 下限値を設定する

- 下限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

3 上限値を設定する

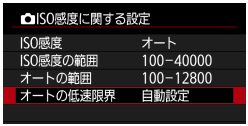
- 上限値の枠を選び〈SET〉を押します。
- ISO感度を選び〈SET〉を押します。

4 [OK] を選ぶ

[下限値] [上限値] は、ISO感度でセイフティシフト（p.545）が行われたときの下限感度、上限感度も兼ねています。

ISOオート時のシャッタースピードの低速限界を設定する

ISOオート設定時に、シャッタースピードが自動的に遅くならないように、低速限界（下限速度）を設定することができます。
この機能は［**P**］［**Av**］モードなどで、広角レンズを使用して、動いている被写体を撮影するときや、望遠レンズを使用するときに効果的です。手ブレや被写体ブレを軽減することができます。



1 ［オートの低速限界］を選ぶ

自動設定

手動設定

2 低速限界を設定する

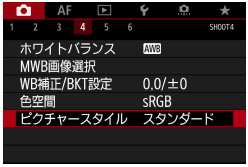
- **［自動設定］**または**［手動設定］**を選びます。
- **［自動設定］**を選んだときは、〈 〉を回して標準設定からの度合い（遅め／速め）を設定し、〈**SET**〉を押します。
- **［手動設定］**を選んだときは、〈〉を回してシャッタースピードを選び、〈**SET**〉を押します。

- **［オートの範囲］**で設定した上限感度で適切な露出が得られないときは、標準露出で撮影できるように、**［オートの低速限界］**で設定した速度よりも遅いシャッタースピードが設定されます。
- ストロボ撮影時、動画撮影時は機能しません。

［自動設定（標準）］設定時は、下限速度がおよそレンズ焦点距離分の1秒となります。なお、**［遅め］**から**［速め］**の1ステップは、シャッタースピード1段分です。

ピクチャースタイルを選択する 応用

ピクチャースタイルは、写真表現や被写体にあわせて、用意された項目を選ぶだけで効果的な画像特性が得られる機能です。
[A+] モードのときは、[SCN A]（オート）に自動設定されます。



1 [4：ピクチャースタイル] を選ぶ

2 スタイルを選ぶ

- スタイルを選び〈SET〉を押します。

各スタイルの画像特性について

● **[オート] オート**
撮影シーンに応じて、色あいが自動調整されます。特に自然や屋外シーン、夕景シーンでは、青空、緑、夕景が色鮮やかな写真になります。

[オート] で好みの色あいにならなかったときは、他のスタイルに変更して撮影してください。

● **[スタンダード] スタンダード**
鮮やかで、くっきりした写真になります。通常はこの設定でほとんどのシーンに対応できます。

● **[ポートレート] ポートレート**
肌色がきれいで、ややくっきりした写真になります。人物をアップで写すときに効果的です。
93ページの**[色あい]** を変えると、肌色を調整することができます。

● **[風景] 風景**
青空や緑の色が鮮やかで、とてもくっきりした写真になります。印象的な風景を写すときに効果的です。

● **[ディテール重視] ディテール重視**
被写体の細部の輪郭や繊細な質感の描写に適しています。やや鮮やかな写真になります。

● **[ニュートラル] ニュートラル**
パソコンでの画像処理に適した設定です。自然な色あいで、メリハリの少ない控えめな写真になります。

● **[忠実設定]**
パソコンでの画像処理に適した設定です。5200K（色温度）程度の太陽光下で撮影した写真が、測色的に被写体の色とほぼ同じになるように色調整されます。メリハリの少ない控えめな写真になります。

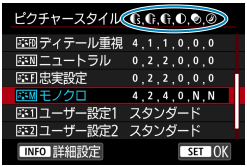
● **[モノクロ]**
白黒写真になります。

[モノクロ] の設定で撮影したJPEG画像を、カラー写真に戻すことはできません。

● **[ユーザー設定1～3]**
[ポートレート] や **[風景]**、ピクチャースタイルファイルなどの基本スタイルを登録し、好みにあわせて調整することができます（p.95）。登録されていないときは、**[スタンダード]** の初期設定と同じ特性で撮影されます。

記号について

スタイル選択画面の記号は、**[シャープネス]** の **[強さ] [細かさ] [しきい値]** や、**[コントラスト]** などを表しています。数値は、各スタイルに設定されている各項目の設定値を示しています。



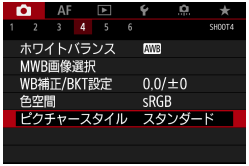
記号の意味

	シャープネス	
		強さ
		細かさ
		しきい値
	コントラスト	
	色の濃さ	
	色あい	
	フィルター効果（モノクロ）	
	調色（モノクロ）	

動画撮影時、**[シャープネス]** の **[細かさ] [しきい値]** は、ともに「＊」と表示されます。また、**[細かさ] [しきい値]** は動画には反映されません。

ピクチャースタイルを調整する 応用

それぞれのピクチャースタイルは、好みにあわせて設定内容（**[シャープネス]**の**[強さ]**・**[細かさ]**・**[しきい値]**、**[コントラスト]**など）を初期設定から変更（調整）することができます。効果については、試し撮りを重ねて確認してください。**[モノクロ]**の調整については、94ページを参照してください。



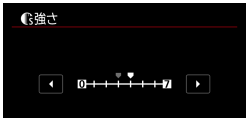
1 [4：ピクチャースタイル]を選ぶ

2 スタイルを選ぶ

- 調整するスタイルを選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3 項目を選ぶ

- **[シャープネス]**の**[強さ]**などの項目を選び、〈SET〉を押します。
- 設定内容と効果については、次ページを参照してください。



4 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈SET〉を押します。

- 〈MENU〉ボタンを押すと、調整した内容が保存され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ 初期設定から変更した数値が青色で表示されます。

設定内容と効果について

シャープネス			
	強さ	0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
	細かさ*1	1：細かい	5：粗い
	しきい値*2	1：小さい	5：大きい
コントラスト		-4：明暗差・弱	+4：明暗差・強
色の濃さ		-4：薄い	+4：濃い
色あい		-4：肌色が赤め	+4：肌色が黄色め

*1: 強調する輪郭線の細かさを示しています。値が小さいほど、より細部が強調されやすくなります。

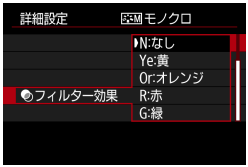
*2:「周囲に比べ、どの程度のコントラスト差があれば輪郭線を強調するか」の設定です。値が小さいほど、コントラスト差が少ない輪郭線が強調されやすくなります。なお、値を小さくするとノイズも強調されやすくなります。

- 動画撮影時は**[シャープネス]**の**[細かさ][しきい値]**の設定はできません（項目が表示されません）。
- 手順3で**[初期設定]**を選ぶと、スタイルごとに設定した内容を初期状態に戻すことができます。
- 調整したスタイルで撮影するときは、調整したスタイルを選択してから撮影します。

[モノクロの調整

前ページで説明した **[シャープネス]** の **[強さ]** **[細かさ]** **[しきい値]** と **[コントラスト]** の他に、**[フィルター効果]** **[調色]** を設定することができます。

[ ] フィルター効果

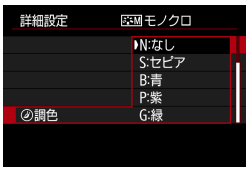


フィルター効果を使うと、同じモノクロ画像でも、白い雲や木々の緑を強調した画像にすることができます。

フィルター	効果例
N：なし	フィルター効果なしの通常の白黒画像になります。
Ye：黄	青空がより自然に再現され、白い雲がはっきりと浮かび上がります。
Or：オレンジ	青空が少し暗くなります。夕日の輝きがいっそう増します。
R：赤	青空がかなり暗くなります。紅葉の葉がはっきりと明るくなります。
G：緑	人物の肌色や唇が落ち着いた感じになります。木々の緑の葉がはっきりと明るくなります。

[コントラスト] をプラス側に設定して撮影すると、フィルター効果がより強調されます。

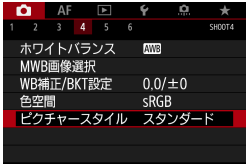
[ ] 調色



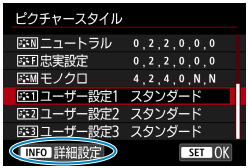
調色を設定して撮影すると、色のついたモノクロ画像にすることができます。より印象的な画像を撮影したいときに有効です。

ピクチャースタイルを登録する 応用

[ポートレート] や [風景] などの基本スタイルを選択し、好みにあわせて調整して、[ユーザー設定1] から [ユーザー設定3] に登録することができます。設定が異なる複数のスタイルを用意しておきたいときに使用します。
また、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityからカメラに登録したスタイルをここで調整することもできます。



1 [4：ピクチャースタイル] を選ぶ

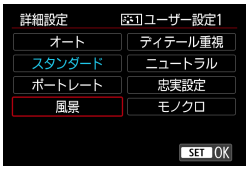


2 [ユーザー設定] を選ぶ

- [ユーザー設定＊] を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

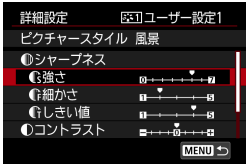
3 〈SET〉を押す

- [ピクチャースタイル] が選ばれた状態で〈SET〉を押します。



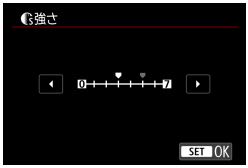
4 基本にするスタイルを選ぶ

- 基本にするスタイルを選び、〈SET〉を押します。
- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityから登録したスタイルを調整するときは、この操作で選択します。



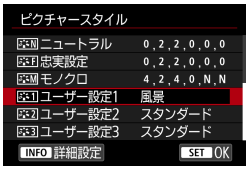
5 項目を選ぶ

- **[シャープネス]** の **[強さ]** などの項目を選び、〈**SET**〉を押します。



6 内容を設定する

- 効果の度合いを設定し、〈**SET**〉を押します。
- 詳しくは、『ピクチャースタイルを調整する』（p.92）を参照してください。



- 〈**MENU**〉ボタンを押すと内容が登録され、スタイル選択画面に戻ります。
- ➡ **[ユーザー設定＊]** の右に、基本にしたスタイルが表示されます。
- ➡ 登録したスタイルの設定内容が、初期設定から変更されているときは、スタイル名が青色で表示されます。

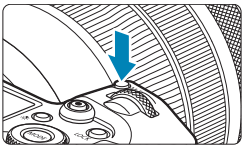
- **[ユーザー設定＊]** にスタイルがすでに登録されているときは、基本にするスタイルを変更すると、登録されているスタイルの設定内容が無効になります。
- **[6：カメラ設定初期化]**（p.419）を行うと、**[ユーザー設定＊]** に設定した内容が初期化されます。

- 登録したスタイルで撮影するときは、登録した **[ユーザー設定＊]** を選択してから撮影します。
- ピクチャースタイルファイルのカメラへの登録方法については、EOS Utility 使用説明書を参照してください。

WB：ホワイトバランスの設定 応用

ホワイトバランス（WB）は、白いものを白く写すための機能です。通常はオート［AWB］（雰囲気優先）、または［AWB w］（ホワイト優先）で適切なホワイトバランスが得られます。オートで自然な色あいにならないときは、光源別にホワイトバランスを選択したり、白い被写体を撮影して手動で設定します。

［A+］モードのときは、［AWB］（雰囲気優先）に自動設定されます。



1 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）

- 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2 ホワイトバランスの項目を選ぶ

- 〈⚙〉を回して、ホワイトバランスの項目を選びます。

3 ホワイトバランスを選ぶ

- 〈⚙〉を回して選びます。

- ［AWB］［AWB w］の設定方法については、99ページを参照してください。
- 色温度を任意設定するときは、［📷4:ホワイトバランス］で［K］を選び、〈⚙〉を回して設定します。

（約）

表示	モード	色温度（K：ケルビン）
AWB	オート（雰囲気優先／p.99）	3000～7000
AWB W	オート（ホワイト優先／p.99）	
☀	太陽光	5200
🏠	日陰	7000
☁	くもり、薄暮、夕やけ空	6000
💡	白熱電球	3200
▦	白色蛍光灯	4000
ϟ	ストロボ	自動設定*
✎	マニュアル（p.100）	2000～10000
K	色温度（p.101）	2500～10000

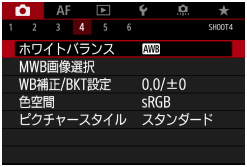
* 色温度情報通信機能を備えたストロボ使用時。それ以外は約6000K固定

ホワイトバランスについて

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。デジタルカメラでは、照明光の色温度に応じて色の基準となる白を決め、ソフトウェア的に色あいを調整することで、自然な色あいで撮影することができます。

[AWB] オートホワイトバランスの設定

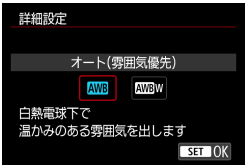
[AWB]（雰囲気優先）では、白熱電球（タングステン光）下などで撮影したときに、その場の雰囲気を重視してやや赤みがかった写真になります。[AWB W]（ホワイト優先）を選ぶと、赤みの少ない写真にすることができます。なお、従来機種のEOSデジタルカメラのオートホワイトバランスに合わせたいときは、[AWB]（雰囲気優先）を選びます。



1 [4：ホワイトバランス] を選ぶ

2 [AWB] を選ぶ

- [AWB] を選んだ状態で〈INFO〉ボタンを押します。



3 項目を選ぶ

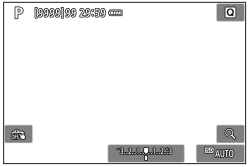
- 項目を選び〈SET〉を押します。

[AWB W]（ホワイト優先）設定時の注意事項

- 赤みのある被写体の色が薄くなることがあります。
- 画面内に複数の光源が含まれるときは、赤みの少ない写真にならないことがあります。
- ストロボ使用時は [AWB]（雰囲気優先）と同じ色あいになります。

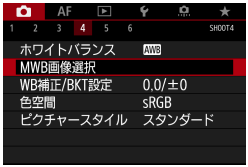
[🖋] マニュアルホワイトバランス

マニュアルホワイトバランス（MWB）は、撮影場所の光源にあわせてホワイトバランスを設定するときに使用します。必ず撮影する場所の光源下で一連の操作を行ってください。



1 白い被写体を撮影する

- 画面全体に白い無地の被写体がくるようにします。
- 手動でピントを合わせ、白い被写体が標準露出になるように撮影します。
- ホワイトバランスはどの設定でも構いません。



2 [📷4：MWB画像選択] を選ぶ

3 ホワイトバランスデータを取り込む

- 〈◄〉〈►〉を押して手順1で撮影した画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ [OK] を選ぶとデータが取り込まれます。

4 [📷4：ホワイトバランス] を選ぶ

5 マニュアルWBを選ぶ

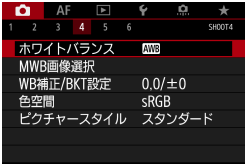
- [🖋] を選び〈SET〉を押します。

- 手順1で撮影した画像の露出が、標準露出から大きく外れていると、正確なホワイトバランスが設定されないことがあります。
- ピクチャースタイルを【モノクロ】に設定して撮影した画像、多重露出画像、トリミングした画像、他のカメラで撮影した画像は、選択できません。

白い被写体の代わりに、市販のグレーチャートや18%標準反射板を撮影する方法もあります。

[K] 色温度を直接設定する

色温度指定は、ホワイトバランスの色温度を数値で設定する、上級者向けの機能です。



1 [4：ホワイトバランス] を選ぶ

2 色温度を設定する

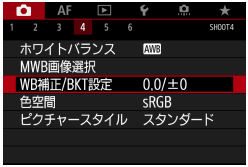
- [K] を選びます。
- 〈 〉を回して色温度を設定し、〈SET〉を押します。
- 設定できる色温度範囲は、約2500～10000K（100Kステップ）です。

- 人工光源の色温度を設定するときは、必要に応じてWB補正（マゼンタ／グリーン寄りの補正）を行ってください。
- 市販のカラーメーターで測定した色温度を【K】に設定するときは、事前にテスト撮影を行い、カメラとカラーメーター間の誤差を補正した数値を設定してください。

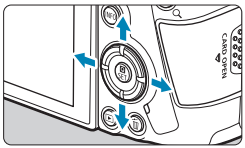
WB ホワイトバランスを補正する 応用

設定しているホワイトバランスを補正することができます。この機能を使うと、市販の色温度変換フィルターや、色補正用フィルターと同じような効果を得ることができます。補正幅は各色9段です。
色温度変換フィルターや、色補正用フィルターの役割と効果を理解された、上級者向けの機能です。

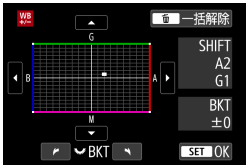
ホワイトバランス補正



1 [4：WB補正/BKT設定] を選ぶ



設定例：A2, G1



2 ホワイトバランスを補正する

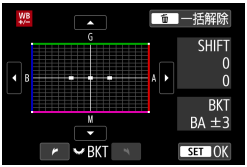
- 〈✥〉十字キーを操作して、画面上の「■」を希望する位置に移動します。
- Bはブルー、Aはアンバー、Mはマゼンタ、Gはグリーンの意味です。移動方向寄りの色に補正されます。
- ➡ 画面右の「**SHIFT**」に補正方向と、補正量が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、**[WB補正/BKT設定]**の設定を一括解除することができます。
- 〈**SET**〉を押すと設定が終了します。

ブルー／アンバー方向の1段は、色温度変換フィルターの約5ミレッドに相当します（ミレッド：色温度変換フィルターの濃度を表すときなどに使用される色温度の単位）。

ホワイトバランスを自動的に変えて撮る

1回の撮影で色あいの異なる3枚の画像を記録することができます。設定されているホワイトバランスの色温度を基準に、ブルーとアンバー寄りの色あい、またはマゼンタとグリーン寄りの色あいに補正した画像が記録されます。この機能を「ホワイトバランスブラケティング（WB-BKT）」といいます。設定できる補正幅は、1段ステップ±3段です。

B/A方向±3段のとき



補正幅を設定する

- 『ホワイトバランス補正』の手順2で〈〉を回すと、画面上の「■」が「■■■」（3点）に変わります。
- 右に回すとB/A方向、左に回すとM/G方向のブラケティングになります。
- ➡ 画面右の「**BKT**」にブラケティング方向と、補正幅が表示されます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと**【WB補正/BKT設定】**の設定を一括解除することができます。
- 〈SET〉を押すと設定が終了します。

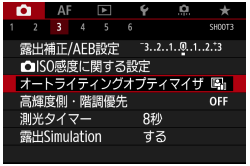
- WBブラケティング撮影時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。
- 1回の撮影で3枚の画像を記録するため、通常の撮影よりもカードに画像を記録する時間が長くなります。

- ①基準ホワイトバランス ②ブルー（B）寄り ③アンバー（A）寄り、または①基準ホワイトバランス ②マゼンタ（M）寄り ③グリーン（G）寄りの順に画像が記録されます。
- WB補正やAEB撮影と組み合わせることができます。AEB撮影と組み合わせたときは、合計9枚の画像が記録されます。
- WBブラケティングを設定したときは、ホワイトバランスのマークが点滅します。
- 「**BKT**」はBracketing：ブラケティングの略です。

明るさ・コントラストを自動補正する 応用

撮影結果が暗いときや、コントラストが低いときまたは高いときに、明るさ・コントラストを自動的に補正することができます。この機能を「オートライティングオプティマイザ」といいます。初期状態では【標準】に設定されています。

【A+】モードのときは、【標準】に自動設定されます。



1 【3：オートライティングオプティマイザ】を選ぶ

2 補正内容を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

3 撮影する

➡ 必要に応じて、明るさ・コントラストが補正された画像が記録されます。

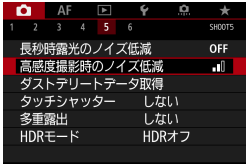
- 撮影条件により、ノイズが増えたり、解像感が変化することがあります。
- オートライティングオプティマイザの効果が強すぎて、好みの明るさにならないときは、【弱め】または【しない】に設定して撮影してください。
- 【しない】以外に設定したときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに設定しても、明るく撮影されることがあります。設定したとおりの明るさで撮影したいときは、【しない】に設定してください。
- 【強め】設定時は、連続撮影可能枚数が少なくなります。また、カードに画像を記録する時間が長くなります。

手順2で〈INFO〉ボタンを押して【M, Bulb時はOFF】の【✓】を外すと、【M】【BULB】モードでも【3：オートライティングオプティマイザ】が設定できるようになります。

ノイズ低減機能の設定 応用

高感度撮影時のノイズ低減

画像に発生するノイズを低減することができます。特に高ISO感度撮影時に有効です。低ISO感度撮影時は、低輝度部（暗部）のノイズをさらに低減することができます。



1 [5：高感度撮影時のノイズ低減] を選ぶ

2 レベルを設定する

- 低減レベルを選び〈SET〉を押します。

- **[NR] マルチショットノイズ低減機能**

[強め] よりも高画質なノイズ低減処理が行われます。1回の撮影で4枚連続撮影し、自動的に画像の位置を合わせながら合成を行い、1枚のJPEG画像が記録されます。

なお、記録画質がRAW、RAW＋JPEGに設定されているときは、**[マルチショットノイズ低減機能]** は設定できません。

3 撮影する

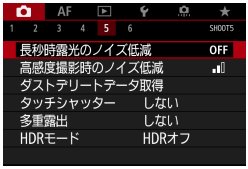
➡ ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

マルチショットノイズ低減機能設定時の注意事項

- 手ブレなどにより画像のズレ量が大きいときは、ノイズ低減効果が小さくなることがあります。
- 手持ち撮影のときは手ブレに注意してください。三脚の使用をおすすめします。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 4枚連続撮影中に被写体の明るさが変化したときは、画像に露出ムラが発生することがあります。
- 撮影後にノイズ低減処理と画像合成を行ってからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中は **[BUSY]** が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。
- AEB撮影はできません。
- バルブ撮影、サーボAF、サイレントシャッター、AEB撮影、WBブラケティング撮影、RAW、RAW+JPEG、長秒時露光のノイズ低減、多重露出、HDRモードなどが設定されているときは、**[マルチショットノイズ低減機能]** は設定できません。
- ストロボ撮影はできません。ただし、EOS用外部ストロボのAF補助光は、**[AF4：AF補助光の投光]** の設定に応じて投光されます。
- 動画撮影時は、**[マルチショットノイズ低減機能]** は設定できません（表示されません）。
- 電源スイッチ〈OFF〉、カード交換、**[Fv]** **[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]** 以外の撮影モード選択などを行うと、自動的に **[標準]** に切り換わります。

長秒時露光のノイズ低減

露光時間1秒以上で撮影した画像に対して、長秒時露光特有のノイズ（輝点、縞）を低減することができます。



1 [5：長秒時露光のノイズ低減] を選ぶ

2 低減内容を設定する

● 内容を選び〈SET〉を押します。

● **[AUTO] 自動**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、長秒時露光特有のノイズが検出された場合に自動低減処理が行われます。通常はこの設定で十分な効果が得られます。

● **[ON] する**

露光時間1秒以上で撮影した画像に対し、常に低減処理が行われます。**[自動]** で検出できないノイズがあったときに **[する]** で撮影すると、ノイズを低減できることがあります。

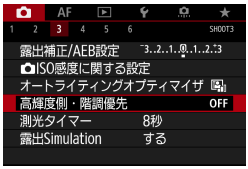
3 撮影する

➡ ノイズ低減処理が行われた画像が記録されます。

- **[自動]** **[する]** 設定時は、撮影後、ノイズ低減処理のために露光時間と同じ時間が必要となることがあります。
- **[しない]** **[自動]** 設定時よりも **[する]** 設定時の方が、画像のザラつきが多くなることがあります。
- ノイズ低減処理中は、**[BUSY]** が表示され、処理が終了するまで撮影画面は表示されません（次の撮影はできません）。

高輝度側・階調優先の設定 応用

画像のハイライト部分の白とびを緩和することができます。



1 [3：高輝度側・階調優先]を選ぶ

2 内容を設定する

- **[する]**を選んだときは、高輝度（ハイライト）側の階調表現性が向上します。適正露出（18%グレー）から高輝度限界までの範囲が拡張され、グレーからハイライトまでの階調がより滑らかになります。
- **[強]**設定時は、**[する]**設定時よりも（撮影シーンによっては）さらに白とびを緩和することができます。

3 撮影する

➡ 高輝度側・階調優先による処理が行われた画像が記録されます。

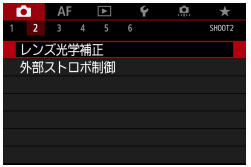
- ノイズが若干増えることがあります。
- ISO感度の設定範囲がISO200～になります。また、拡張ISO感度は設定できません。
- 動画撮影時は、**[強]**は選択できません（表示されません）。
- **[強]**に設定しても、撮影シーンによっては、思い通りの効果が得られないことがあります。

レンズの光学特性による影響を補正する 応用

レンズの光学特性によって画像の四隅が暗くなる現象を「周辺光量の低下」、レンズの光学特性によって起こる画像のゆがみを「歪曲収差」、被写体の輪郭部分に現れる色のにじみを「色収差」、絞りの影響により画像の鮮鋭さが低下することを「回折現象」といいますが、これらの現象を補正することができます。なお、「デジタルレンズオプティマイザ」機能により、レンズの光学特性により生じる諸収差や、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を補正することもできます。

初期状態では、**[周辺光量補正]**・**[デジタルレンズオプティマイザ]**（**[色収差補正]**・**[回折補正]**）は**[する]**、**[歪曲収差補正]**は**[しない]**に設定されています。

レンズ光学補正を行うためのデータがカメラに登録（保存）されているときは、**[A+]**モードでも周辺光量補正、デジタルレンズオプティマイザが行われます。



1 **[2：レンズ光学補正]を選ぶ**

2 **項目を選ぶ**

3 [する] を選ぶ

- 装着しているレンズの名称と、**[補正データあり]** が表示されていることを確認します（ただし、**[回折補正]** 設定時は、**[補正データあり]** は表示されません）。
- **[する]** を選び〈SET〉を押します。

4 撮影する

- レンズ光学補正が行われた画像が記録されます。

周辺光量補正

- 撮影条件により、画像の周辺部分にノイズが発生することがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。

EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。

歪曲収差補正

- ゆがみの補正が行われるため、撮影時に見えていた範囲よりも狭い範囲が記録されます（画像の周辺部分が少しトリミングされ、解像感が若干低下します）。
- 歪曲収差補正の設定により、画角がわずかに変化することがあります。
- 画像の周辺部分がトリミングされる量は、静止画と動画で異なることがあります。
- 拡大表示を行ったときは、ゆがみが補正されていない映像が表示されます。
- 歪曲収差補正が行われた画像には、ダストデリートデータ（p.121）は付加されません。

RFレンズ使用時は、動画撮影時に歪曲収差補正を行うことができます。

デジタルレンズオプティマイザ

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[しない]** に設定して撮影してください。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、**[デジタルレンズオプティマイザ]** は表示されません（補正できません）。

[デジタルレンズオプティマイザ] を **[する]** に設定したときは、**[色収差補正]** **[回折補正]** は表示されませんが、ともに **[する]** の設定で撮影されます。

色収差補正

［デジタルレンズオプティマイザ］を［する］に設定したときは、［色収差補正］は表示されません。

回折補正

- 撮影条件により、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。
- ISO感度が高くなるほど、補正量が少なくなります。
- 動画撮影時は、［回折補正］は表示されません（補正できません）。

- 「回折補正」では回折現象だけでなく、ローパスフィルターなどの影響による解像劣化も補正されます。そのため、開放絞り付近でも補正効果があります。
- ［デジタルレンズオプティマイザ］を［する］に設定したときは、［回折補正］は表示されません。

レンズの補正データについて

レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。補正**【する】**を選んでおくと、自動的に周辺光量補正、歪曲収差補正、デジタルレンズオプティマイザ、色収差補正、回折補正が行われます。

なお、補正データが内蔵されているレンズを使用したときは、カメラに補正データを登録する必要はありません。

各補正共通注意事項

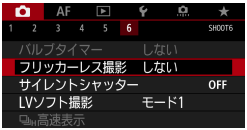
- 撮影したJPEG画像の周辺光量低下、色収差、歪曲収差、回折現象を、後から補正することはできません。
- 他社製レンズ使用時は、**【補正データあり】**と表示されていても、**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 画面の端のほうを拡大表示したときは、記録されない範囲が表示されることがあります。
- 距離情報を持たないレンズを使用したときは、補正量が少なくなります（回折補正を除く）。

各補正共通事項

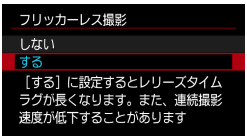
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- 補正の効果が分かりにくいときは、撮影後に画像を拡大して確認することをおすすめします。
- エクステンダーやライフサイズコンバーター装着時にも補正が行われます。
- 補正データがカメラに登録されていないレンズで撮影したときは、補正**【しない】**と同じ撮影結果になります（回折補正を除く）。
- 必要に応じて、EOS Utility使用説明書をあわせて参照してください。

フリッカーの影響を低減する 応用

蛍光灯などの光源下で、速いシャッタースピードで撮影を行うと、光源の点滅（明滅）によるちらつき（フリッカー）により、画面の上下で露出差が生じたり、連続撮影を行ったときに写真に露出差や色あいの差が生じることがあります。この機能を利用すると、カメラが光源の点滅周期を検知し、フリッカーによる露出や色あいへの影響が少ないタイミングで撮影することができます。



1 [📷6：フリッカーレス撮影] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

3 撮影する

- **[する]** に設定したあとや、光源が変化したときは、撮影する前に〈Q〉ボタンを押して **[フリッカーレス撮影]** の項目を選び、〈INFO〉ボタンを押してフリッカーの検知動作を行ってください。
- 撮影すると、フリッカーによる露出や色あいへの影響が低減された状態で撮影されます。

- **[する]** 設定時にフリッカー光源下で撮影を行うと、レリーズタイムラグが長くなります。また、連続撮影速度が遅くなったり、連続撮影間隔にばらつきが生じることがあります。
- 100Hz、120Hz の点滅周期以外は検出できません。また、連続撮影中に光源の点滅周期が変化したときは、フリッカーの影響は低減できません。

- **[Fv]**・**[P]**・**[Av]**モードで連続撮影中にシャッタースピードが変化したときや、同一シーンでシャッタースピードを変えて複数枚の撮影を行ったときは、撮影画像の色あいが異なる（ばらつく）ことがあります。色あいの変化が気になるときは、**[Fv]**・**[Tv]**・**[M]**モードでシャッタースピードを一定にして撮影してください。
- **[する]**に設定したときと、**[しない]**に設定したときで、撮影画像の色あいが異なることがあります。
- 撮影開始したときに（AEロック撮影時を含む）、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が変化することがあります。
- 被写体の背景が暗いときや、画面内に輝度が高い光源などが含まれているときは、フリッカーを適切に検知できないことがあります。
- イルミネーションなどの特殊な光源下では、フリッカーの影響が低減できないことがあります。
- 光源によってはフリッカーを適切に検知できないことがあります。
- 光源や撮影条件などにより、この機能を使用しても効果が得られないことがあります。

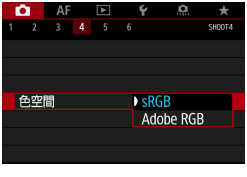
- 事前にテスト撮影することをおすすめします。
- 光源の変化などにより、画面にちらつきが発生したときは、〈Q〉ボタンを押して、**[フリッカーレス撮影]**を選び、〈INFO〉ボタンを押して、フリッカー検知動作を行ってください。
- **[A⁺]**モードのときは、フリッカーの低減処理は行われません。
- ストロボ撮影時も機能します。ただし、ワイヤレスストロボ撮影時は効果が得られないことがあります。

色空間を設定する 応用

再現できる色の範囲（色域特性）のことを「色空間」といいます。このカメラでは、撮影する画像の色空間をsRGB（エスアールジービー）、Adobe RGB（アドビアールジービー）から選ぶことができます。なお、一般的な撮影のときはsRGBをおすすめします。

[A+] モードのときは、**[sRGB]** に自動設定されます。

1 [4：色空間] を選ぶ



2 色空間を設定する

- 内容を選び〈SET〉を押します。

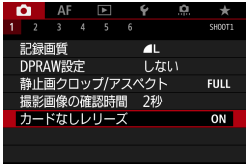
Adobe RGBについて

主に商用印刷などの業務用途で使用します。画像処理とAdobe RGB、DCF 2.0（Exif 2.21以上）についての知識がない方にはおすすめできません。sRGBのパソコン環境や、DCF 2.0（Exif 2.21以上）に対応していないプリンターでは、とても控えめな感じに仕上がるため、撮影後、パソコンのソフトウェアなどで画像処理を行う必要があります。

- 色空間をAdobe RGBに設定して撮影した静止画は、ファイル名の先頭文字が「_」（アンダーバー）になります。
- ICCプロファイルは付加されません。ICCプロファイルについては、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用説明書を参照してください。

カードの入れ忘れを防止する

カードを入れ忘れた状態で、撮影できないようにすることができます。初期状態では【する】に設定されています。



1 **［📷1：カードなしレリーズ］を選ぶ**

2 **［しない］を選ぶ**

- ［しない］を選び〈SET〉を押します。

撮影直後の画像表示時間を設定する

撮影直後に画面に表示される画像の表示時間を設定することができます。撮影画像を表示したままにするときは【ホールド】、撮影画像を表示しないようにするときは【切】に設定します。

1 **［📷1：撮影画像の確認時間］を選ぶ**

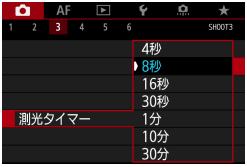
2 **時間を設定する**

- 内容を選び〈SET〉を押します。

【ホールド】に設定すると、【⚡2：節電】で設定した時間まで画像が表示されます。

測光タイマーの作動時間を設定する 応用

シャッターボタンを半押ししたときなどに自動的に作動する「測光タイマー」の作動時間（露出値の表示時間／AEロック時の保持時間）を設定することができます。



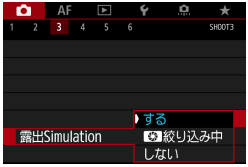
1 **［3：測光タイマー］を選ぶ**

2 **時間を設定する**

● 内容を選び〈SET〉を押します。

露出Simulation 応用

露出Simulation（シミュレーション）は、実際の撮影結果（露出）に近い明るさをシミュレートして映像を表示する機能です。



1 **［3：露出Simulation］を選ぶ**

2 **内容を設定する**

- 内容を選び〈SET〉を押します。

- **する（Exp.SIM）**

  実際の撮影結果(露出)に近い明るさで表示されます。露出補正を行うと、補正量に応じて映像の明るさが変わります。

- **絞り込み中**

  通常は映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます（DISP）。**［4：ボタンカスタマイズ］**（p.555）で**［絞り込み］**機能を割り当てたボタンを押している間だけ、実際の撮影結果（露出）に近い明るさで表示されます（Exp.SIM）。

- **しない（DISP）**

  映像が見やすいように、標準的な明るさで表示されます。露出補正を行っても、標準的な明るさで表示されます。

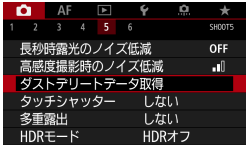
ゴミ消し情報を画像に付加する 応用

通常はセルフクリーニングセンサーユニットで、画像に写り込む可能性があるほとんどのゴミを除去することができますが、除去できなかったゴミがある場合に備えて、ゴミを消すための情報（ダストデリートデータ）を画像に付加することができます。付加された情報は、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで、自動ゴミ消し処理を行うときに使われます。

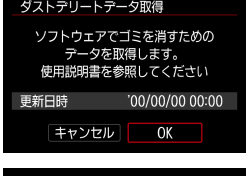
事前準備

- RFレンズ／EFレンズを使用する。
- 白い無地の被写体（白紙など）を用意する。
- レンズの焦点距離を50mm以上にする。
- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にして、無限遠（∞）に設定する。距離目盛のないレンズは、正面から見てフォーカスリングを時計方向に突き当たるまで回す。

ダストデリートデータを取得する

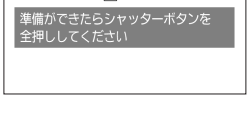


1 **［5：ダストデリートデータ取得］を選ぶ**



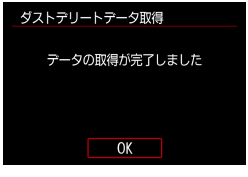
2 **［OK］を選ぶ**

➡ 撮像素子の自動清掃が行われたあと、説明画面が表示されます。清掃中にシャッターの作動音がしますが、撮影は行われません。



3 真っ白な無地の被写体を撮影する

- 20～30cmの距離で、（模様などがない）真っ白な無地の被写体を画面いっぱいに入れて撮影します。
- 画像は保存されませんので、カードが入っていなくてもデータを取得することができます。



➡ 撮影を行うと、データの取得が始まります。取得が終わると、完了画面が表示されます。

- データが取得できなかったときは、その内容の画面が表示されます。前ページの『事前準備』の内容を確認し、[OK]を選んだあと、もう一度撮影します。

ダストデリートデータについて

ダストデリートデータを取得すると、そのあとで撮影したすべてのJPEG画像、RAW画像にデータが付加されます。大切な撮影をするときは、撮影の直前にデータの再取得（更新）を行ってください。

なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalによる自動ゴミ消し処理については、Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

画像に付加されるダストデリートデータの容量は、ごく小さいため、画像のファイルサイズにはほとんど影響しません。

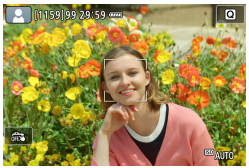
- EF-Sレンズ使用時、および［📷1:静止画クロップ/アスペクト］が［1.6倍（クロップ）］に設定されているときは、ダストデリートデータの取得はできません。
- 未使用のコピー用紙など、必ず真っ白な無地の被写体を撮影してください。被写体に模様などがあると、その模様がゴミ情報として記録され、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professional使用時に、正常なゴミ消し処理が行われないことがあります。

全自動で撮る(シーンインテリジェントオート)

[A+]はカメラまかせの全自動撮影ができるモードです。カメラが撮影シーンを解析し、シーンに適した設定を自動的に行います。また、被写体の動きを検知して、止まっている被写体や動いている被写体に、自動でピントを合わせることができます（p.126）。

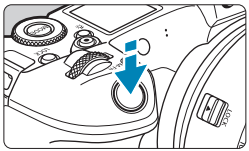
1 撮影モードを［A+］にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈◯〉を回して［A+］を選び、〈SET〉を押します。



2 カメラを被写体（写したいもの）に向ける

- 撮影条件により、被写体に枠が表示されることがあります。
- 画面にAFフレームが表示されているときは、AFフレームを被写体に合わせます。

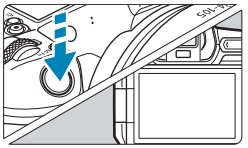


3 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。
- 画面に表示された人物の顔や被写体にタッチして、ピントを合わせることもできます（タッチAF）。
- 暗い場所では、必要に応じてAF補助光（p.264）が自動投光されます。

➡ 止まっている被写体のときは、ピントが合うと、AFフレームが緑色で表示され、同時に「ピピッ」と電子音が鳴ります。（＝ワンショットAF）

➡ 動いている被写体のときは、AFフレームが青色で表示され、AFフレームが被写体の動きに追従して動きます。電子音は鳴りません。（＝サーボAF）



4 撮影する

● シャッターボタンを全押しすると撮影されます。

➡ 画面に撮影した画像が約2秒間表示されます。

撮影する被写体や撮影状況などにより、被写体の動き（止まっている／動いている）を適切に検知できないことがあります。

● 常にワンショットAFで撮影したいときは、**[AF1：自動サーボ]** を **[しない]** に設定します。
● AF動作（ワンショットAF／サーボAF）は、シャッターボタンを半押しした際に自動設定されます。なお、撮影中にAF動作の切り換えは行われません。
● **[A+]** モードで、自然や屋外シーン、またはタ景シーンを撮影すると、より印象的な色あいの写真になります。なお、好みの色あいにならなかったときは、撮影モードを **[Fv]** **[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]** にして、〈A〉以外のピクチャースタイルを選んで撮影してください（p.88）。

ブレの少ない画像を撮影するには

● （撮影機材の重さに耐えられる）しっかりした三脚を使用してください。また、カメラを三脚にしっかり固定してください。
● リモートスイッチ（別売／p.176）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／p.174）などの使用をおすすめします。

こんなときは

● ピントが合わない（AFフレームがオレンジ色に点灯する）

明暗差（コントラスト）のある部分にAFフレームを合わせてシャッターボタンを半押ししてください（p.56）。また、被写体に近づきすぎているときは、離れて撮影してください。

● 複数のAFフレームが同時に表示される

複数のAFフレームが同時に表示されたときは、表示されているすべての位置にピントが合っています。被写体にAFフレームが表示されているときは、そのまま撮影してください。

● シャッターボタンを半押ししてもピント合わせが行われない

レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉（手動ピント合わせ）になっているときは、〈**AF**〉（自動ピント合わせ）にしてください。

● シャッタースピード（数字）が点滅している

光が不足している（暗い）ため、そのまま撮影すると手ブレによって被写体が鮮明に写らないことがあります。三脚を使用するか、EL／EXスピードライト（別売／p.177）を使用して撮影することをおすすめします。

● 外部ストロボを使用したのに、画面の下側が不自然に暗くなった

レンズにフードが付いていると、ストロボの光がフードで遮られることがあります。写したいものが近くにあるときは、フードを取り外してストロボ撮影を行ってください。

全自動を使いこなす(シーンインテリジェントオート)

構図を変えて撮影する

シーンによっては、被写体を左右どちらかに配置して、背景もバランス良く入れた方が、奥行きのある写真に仕上がります。
[ ] モードのときは、止まっている被写体にピントを合わせると、シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定されます。そのまま構図を変え、シャッターボタンを全押しして撮影します。これを「フォーカスロック撮影」といいます。

動いているものを撮影する

[AF1:自動サーボ] が **[する]** に設定されているときに、動いている被写体を画面で捉え、シャッターボタンを半押ししたときは、サーボAFでピント合わせが行われます。被写体がAFフレームから外れないようにして、シャッターボタンを半押しし続けると、被写体の動きに青いAFフレームが追従して動き、ピントを合わせ続けます。シャッターチャンスがきたらシャッターボタンを全押しします。

シーン判別アイコンについて

撮影モードが［A+］のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、623ページを参照してください。

静止画撮影時の情報表示について

静止画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、619ページを参照してください。

- 〈Exp.SIM〉が白く表示されているときは、実際の撮影結果に近い明るさで映像が表示されています。
- 〈Exp.SIM〉が点滅しているときは、低輝度、または高輝度条件下で映像が撮影結果と異なる明るさで表示されていることを示しています。ただし、撮影を行うと露出設定どおりに記録されます。また、実際に撮影される画像よりもノイズが多く見えることがあります。
- 撮影機能の設定条件によっては、露出シミュレーションが行われないことがあります。そのときは〈Exp.SIM〉とヒストグラムが灰色で表示されます。このとき画面に表示される映像は、標準的な明るさで表示されます。また、低輝度、高輝度条件下ではヒストグラムが適切に表示されないことがあります。
- ヒストグラムは、**[📷3：露出Simulation]**が**[する]**に設定されているときに（p.120）表示することができます。

静止画撮影時共通注意事項

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- **『静止画撮影全般の注意事項』は、142〜143ページにまとめて記載しています。**

静止画撮影時共通事項

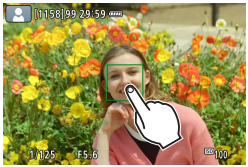
- 映像の視野率は約100%（記録画質 JPEG ◢L設定時）です。
- カメラを操作しない状態が続くと、**【2:節電】**の**【ディスプレイオフ】**または**【ファインダーオフ】**の設定時間で自動的に画面が消えます。その後、**【オートパワーオフ】**の設定時間で自動的に電源が切れます（p.377）。
- HDMIケーブル HTC-100（別売）を使用すると、映像をテレビに表示することができます（p.333）。ただし、音声は出力されません。
- リモートスイッチ（別売／p.176）、ワイヤレスリモートコントローラー（別売／p.174）を使って撮影を行うこともできます。

タッチシャッターで撮影する

画面にタッチするだけで、ピント合わせから撮影まで自動で行うことができます。

1 タッチシャッター機能を設定する

- 画面左下の【OFF】にタッチします。タッチするたびに、【OFF】と【ON】が切り換わります。
- 【ON】（タッチシャッター：する）
  タッチした位置にピントを合わせてから撮影が行われます。
- 【OFF】（タッチシャッター：しない）
  タッチした位置にピントを合わせることができます。シャッターボタンを全押しして撮影します。



2 画面にタッチして撮影する

- 画面上の顔や被写体にタッチします。
- ➡ 設定されているAF方式（p.265）で、タッチした位置でピント合わせが行われます（タッチAF）。
- ➡ 【ON】に設定したときは、ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、自動的に撮影されます。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わり、撮影できません。もう一度、画面上の顔や被写体にタッチします。

- ドライブモードを〈H〉〈L〉に設定していても、1枚撮影になります。
- **[AF動作]** が **[サーボAF]** に設定されていても、画面にタッチしたときは **[ワンショットAF]** でピント合わせが行われます。
- 拡大表示中に画面にタッチしても、ピント合わせや撮影は行われません。
- **[1:撮影画像の確認時間]** を **[ホールド]** に設定して、タッチで撮影を行ったときは、シャッターボタンを半押しすると、次の撮影を行うことができます。

バルブ撮影時は2回タッチします。1回目のタッチで露光を開始し、2回目のタッチでバルブ撮影が終了します。タッチするときにカメラが動かないように注意してください。

P:プログラムAE撮影

被写体の明るさに応じて、カメラがシャッタースピードと絞り数値を自動的に設定します。これを「プログラムAE」といいます。

* **[P]** はProgram（プログラム）の略です。
* 「AE」はAuto Exposure（オートエクスポージャー）の略で自動露出のことです。

1 撮影モードを［P］にする

2 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色で表示されます（ワンショットAF時）。
- ➡ シャッタースピードと絞り数値が自動的に決まります。

3 表示を確認する

- 露出値の表示が点滅していなければ、標準露出です。

4 撮影する

- 構図を決め、シャッターボタンを全押しします。

● シャッタースピードの「**30"**」と小さな絞り数値が点滅するときは、被写体が暗すぎます。
ISO感度を上げるか、ストロボを使用してください。

● シャッタースピードの「**1/8000**」と大きな絞り数値が点滅するときは、被写体が明るすぎます。
ISO感度を下げるか、減光用のNDフィルター（別売）を使用してください。

［P］と［A+］モードの違いについて

● ［A+］モードのときは失敗を防ぐために、AF動作や測光モードなど、多くの機能が自動的に設定され、変更できる機能が限定されています。それに対して［**P**］モードのときは、自動的に設定されるのはシャッタースピードと絞り数値だけで、AF動作や測光モードなどの機能を自由に設定することができます。

プログラムシフトについて

● ［**P**］モードのときは、自動的に設定されたシャッタースピードと絞り数値の組み合わせ（プログラム）を、同じ露出のままで自由に変えることができます。これを「プログラムシフト」といいます。
● プログラムシフトは、シャッターボタンを半押ししてから、希望するシャッタースピード、または絞り数値が表示されるまで〈☆〉を回します。
● プログラムシフトは、測光タイマーが終了したとき（露出表示が消えたとき）に自動的に解除されます。
● ストロボを使用したときは、プログラムシフトはできません。

Tv：シャッタースピードを決めて撮る

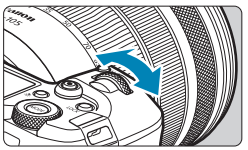
シャッタースピードを設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要な絞り数値を自動的に設定します。これを「シャッター優先AE」といいます。シャッタースピードを速くすると、動きの速い被写体の瞬間をとらえることができます。逆にシャッタースピードを遅くすると、流動感を表現することができます。

*［**Tv**］はTime value（タイムバリュー）の略で時間量のことです。

流動感のある写真
（遅いスピード：1/30秒）

動きを止めた写真
（速いスピード：1/2000秒）

1 撮影モードを［Tv］にする



2 シャッタースピードを設定する

● 〈 〉を回して設定します。

3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ 絞り数値が自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● 絞り数値が点滅していなければ標準露出です。

● 小さな絞り数値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッタースピードを遅くするか、ISO感度を上げます。

● 大きな絞り数値が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
絞り数値の点滅が止まるまで〈 〉を回してシャッタースピードを速くするか、ISO感度を下げます。

シャッタースピードの表示について

● 例えば「**1/125**」または「**125**」は1/125秒を表しています。また、「**0"5**」は0.5秒を、「**15"**」は15秒を表しています。
● 表示パネルに表示される「**8000**」から「**4**」までのシャッタースピードは、分数の分母を表しています。

Av：絞り数値を決めて撮る

絞り数値を設定すると、被写体の明るさに応じてカメラが標準露出に必要なシャッタースピードを自動的に設定します。これを「絞り優先AE」といいます。絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）と、ピントの合う範囲が前後に広くなります。逆に絞り数値を小さくする（絞りを開く）と、ピントの合う範囲が狭くなります。

*［**Av**］はAperture value（アパーチャーバリュー）の略で開口量のことです。

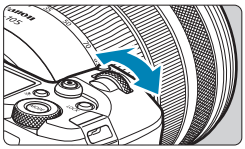
背景をぼかした写真
（小さい絞り数値：F5.6）

背景にもピントが合った写真
（大きい絞り数値：F32）

1 撮影モードを［Av］にする

2 絞り数値を設定する

● 〈 〉を回して設定します。



3 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しします。
➡ シャッタースピードが自動的に決まります。

4 表示を確認して撮影する

● シャッタースピードが点滅していなければ標準露出です。

● シャッタースピードの「**30"**」が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）です。
シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を小さくする（絞りを開く）か、ISO感度を上げます。

● シャッタースピードの「**1/8000**」が点滅するときは、露出オーバー（露出過度）です。
シャッタースピードの点滅が止まるまで〈 〉を回して絞り数値を大きくする（絞りを閉じる）か、ISO感度を下げます。

絞り数値の表示について

数値が大きくなるほど、レンズの絞り径は小さくなります。表示される絞り数値はレンズによって異なります。カメラにレンズが付いていないときは、表示が「**F00**」になります。

ピントの合う範囲を確認する 応用

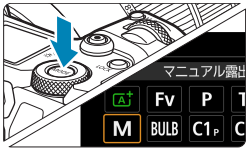
[4：ボタン カスタマイズ]（p.555）で、ボタンに**[絞り込み]**機能を割り当てたときは、そのボタンを押すと、そのとき設定されている絞り数値でレンズの絞り込みが行われ、実際にピントの合う範囲（被写界深度）を確認することができます。

● 絞り数値が大きいほど、ピントの合う範囲が前後に広くなります。
● 映像を見ながら、絞り数値を変えて絞り込みボタンを押すと、被写界深度の効果がよく分かります。
● 絞り込み機能を割り当てたボタンを押している間は、露出が固定された（AEロック）状態になります。

M：露出を自分で決めて撮る

自分でシャッタースピードや絞り数値を決めて撮影するときに設定します。露出は露出レベル表示を参考にしたり、市販の露出計を利用して自分で任意に決めます。これを「マニュアル露出」といいます。

* [**M**] はManual（マニュアル）の略です。



1 撮影モードを［M］にする

2 ISO感度を設定する（p.83）

- ISOオート設定時は、露出補正を行うことができます（p.139）。

3 シャッタースピードと絞り数値を設定する

- シャッタースピードは〈 〉、絞り数値は〈 〉を回して設定します。

4 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。

➡ 露出値が表示されます。

- 露出レベルマーク〈▮〉で、標準露出からどのくらいずれているか、確認することができます。

(1) 標準露出指標
(2) 露出レベルマーク

5 露出を決めて撮影する

- 露出レベル表示を確認し、任意のシャッタースピード、絞り数値を設定します。

ISOオート設定時の露出補正について

マニュアル露出撮影時にISO感度を【AUTO】に設定したときは、以下の方法で露出補正（p.154）を行うことができます。

- 露出レベル表示にタッチする
- 【📷3：露出補正／AEB設定】
- クイック設定画面

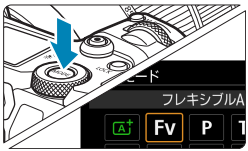
ISOオート設定時は、設定したシャッタースピードと絞り数値に対して標準露出になるようにISO感度が変動するため、意図した露出で撮影できないことがあります。そのときは露出補正を行ってください。

- カメラの設定が【M】モード+ISOオート+〈[⊡]〉（評価測光）で、【📷2：**合焦後AEロックする測光モード**】の設定が初期状態のときは（p.548）、シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合うと、半押ししている間、ISO感度が固定（ロック）されます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。
- ISO感度手動設定時に〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- ISOオート設定時に【📷1：**露出設定ステップ**】を【**1/2段**】に設定して1/2段の露出補正を行ったときは、ISO感度（1/3段分）とシャッタースピードで露出補正が行われます。ただし、表示上のシャッタースピードは変化しません。

Fv：フレキシブルAE撮影

「①シャッタースピード」「②絞り数値」「③ISO感度」、①②③それぞれの「オート（自動設定）」と「任意設定」、および「④露出補正」を自由に組み合わせて撮影することができます。①②③④を任意にコントロールすることで、**[Fv]** モード1つで **[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]** の4つのモードに相当する撮影を行うことができます。

* **[Fv]** はFlexible value（フレキシブルバリュー）の略です。



1 撮影モードを［Fv］にする

2 シャッタースピード／絞り数値／ISO感度を設定する

- 〈 〉を回して、設定する項目を選びます。選択している項目の左側に［ ］のマークが表示されます。
- 〈 〉を回して、内容を設定します。
- 〈▲〉または〈◀〉を押すと、**[AUTO]** に設定（リセット）されます。

3 露出補正量を設定する

- 〈 〉を回して、露出レベル表示を選びます。露出レベル表示の左側に［ ］のマークが表示されます。
- 〈 〉を回して、内容を設定します。
- 〈▲〉または〈◀〉を押すと、**[±0]** に設定（リセット）されます。

[Fv] モードの機能組み合わせ一覧

シャッタースピード	絞り数値	ISO感度	露出補正	撮影モード
[AUTO]	[AUTO]	[AUTO]	可能	[P] 相当
		任意設定		
任意設定	[AUTO]	[AUTO]	可能	[Tv] 相当
		任意設定		
[AUTO]	任意設定	[AUTO]	可能	[Av] 相当
		任意設定		
任意設定	任意設定	[AUTO]	可能	[M] 相当
		任意設定	—	

- 設定した値が点滅するときは、露出アンダー（露出不足）、または露出オーバー（露出過度）です。点滅が止まるまで、露出調整を行ってください。
- [Fv] モード時に [Av] [P] モード相当の状態で、[📷2：外部ストロボ制御] の [スローシンクロ] を [1/200-30秒自動] に設定しても、（暗い場所で）スローシンクロ撮影は行われません。

- シャッタースピード、絞り数値、ISO感度が [AUTO] に設定されているときは、各項目の数字の下にアンダーラインが表示されます。
- 手順2または3で〈▼〉または〈▶〉を押すと、シャッタースピード、絞り数値、ISO感度をすべて [AUTO]、露出補正量を [±0] に設定することができます。

静止画撮影全般の注意事項

画質について

- 高ISO感度で撮影すると、ノイズ（輝点、縞など）が目立つことがあります。
- 高温下で撮影すると、ノイズや色ムラが発生することがあります。
- 撮影を長時間継続すると、カメラ内部の温度が上昇して、画質が低下することがあります。撮影しないときは、こまめに撮影を終了してください。
- カメラ内部の温度が上昇した状態で長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。撮影を一旦終了し、数分間経ってから撮影してください。

カメラ内部の温度上昇に伴う、白い〈🌡〉と赤い〈🌡〉表示について

- 撮影を長時間行ったり、高温下で撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されます。
- 白い〈🌡〉は、静止画の画質が低下することを示しています。このため、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影を一時休止することをおすすめします。
- 赤い〈🌡〉は、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで撮影ができなくなるため、撮影を一時休止するか、一旦電源を切ってしばらくカメラを休止してください。
- 高温下で撮影を長時間行うと、白い〈🌡〉または赤い〈🌡〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。
- 白い〈🌡〉が表示されていなくても、カメラ内部の温度が上昇している状態で、高ISO感度撮影、長秒時露光を行うと、画質が低下することがあります。

撮影結果について

- 拡大表示の状態で撮影すると、意図した露出で撮影されないことがあります。通常表示に戻して撮影してください。
- 拡大表示の状態で撮影しても、通常表示の範囲が撮影されます。

静止画撮影全般の注意事項

映像について

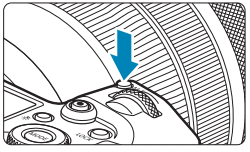
- 低輝度、高輝度条件下では、映像が撮影結果に近い明るさで表示されないことがあります。
- ISO感度を低く設定しても、暗い場所では映像にノイズが多く表示されることがありますが、撮影を行うとノイズの少ない画質で撮影されます（映像と撮影した画像の画質は異なります）。
- 表示中に光源（照明光）が変化すると、画面や露出値の表示がちらつくことがあります。そのときは、撮影を一旦終了し、撮影する光源下で撮影を再開してください。
- カメラの向きを変えると、映像が一瞬適切な明るさで表示されないことがあります。適切な明るさに安定するのを待ってから撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。ただし、撮影すると、その部分は明るい状態で正しく記録されます。
- 暗い場所で【**2：画面の明るさ**】を明るい設定にすると、映像にノイズや色ムラが発生することがあります。ただし、このノイズや色ムラは撮影画像には記録されません。
- 映像を拡大表示すると、シャープネスが実際の設定よりも強くかかって見えることがあります。

レンズについて

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗して撮影条件により撮影可能枚数が少なくなることがあります。三脚使用時など補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時のみ、撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。

ドライブモードの選択

ドライブモードには1枚撮影と連続撮影があります。撮影シーンや被写体に応じてドライブモードを選びます。



1 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）

● 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2 ドライブモードの項目を選ぶ

● 〈☆〉を回して、ドライブモードの項目を選びます。

3 ドライブモードを選ぶ

● 〈☆〉を回して選びます。

● **［□］1枚撮影**

シャッターボタンを全押しすると、1枚だけ撮影します。

● **［□H］高速連続撮影**

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約8.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

ただし、以下の撮影条件では最高連続撮影速度が遅くなります。

- **フリッカー低減機能設定時**

  最高約5.4コマ/秒になります。

- **DPRAW機能設定時**

  自動的に低速連続撮影に切り換わります。

- **サーボAF撮影時**

  [AF動作] が **[サーボAF]** に設定されているときは、**最高約5.0コマ/秒**で連続撮影速度を優先した撮影になります。

- **サイレント撮影時**

  [📷6：サイレントシャッター] が **[する]** に設定されているときは、**最高約5.0コマ/秒**になります。

- **ストロボ撮影時**

  外部ストロボ（EL／EXスピードライト）を使用したときは、**最高約3.0コマ/秒**になります。

● **[⧉] 低速連続撮影**

シャッターボタンを全押しすると、押している間、**最高約3.0コマ/秒**の連続撮影を行うことができます。

[AF動作] が **[サーボAF]** に設定されているときは、**最高約3.0コマ/秒**で被写体へのピント追従を優先した（被写体追従優先）撮影になります。

なお、DPRAW機能設定時は、**最高約2.2コマ/秒**になります。

● **[⏲10] セルフタイマー：10秒／リモコン撮影**

● **[⏲2] セルフタイマー：2秒／リモコン撮影**

セルフタイマー撮影については147ページ、リモコン撮影については174ページを参照してください。

〈⧉H〉高速連続撮影時の最高連続撮影速度は、撮影条件により変動します。詳しくは次ページを参照してください。

- 〈H〉高速連続撮影時の最高連続撮影速度：約8.0コマ/秒は（p.144）、ワンショットAF、バッテリーパック：フル充電、シャッタースピード：1/1000秒以上、絞り開放（レンズの種類により異なる）*、常温（+23 ℃）、フリッカー低減処理：なし、DPRAW撮影：しない、サイレントシャッター：しないの条件で連続撮影を行ったときの最高速度です。
  * EF300mm F4L IS USM、EF28-135mm F3.5-5.6 IS USM、EF75-300mm F4-5.6 IS USM、EF100-400mm F4.5-5.6L IS USMを装着したときは、ワンショットAF、手ブレ補正機能OFFで使用時
- 〈H〉高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フリッカー低減処理、DPRAW撮影、LVソフト撮影、サイレント撮影、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります。
- サーボAF時は、被写体条件や使用レンズにより、最高連続撮影速度が低下することがあります。また、サーボAF設定時に**【6：LVソフト撮影】**を**【しない】**に設定すると、最高連続撮影速度が低下します。
- **【6：フリッカーレス撮影】**を**【する】**に設定して（p.115）、フリッカー光源下で撮影を行うと、最高連続撮影速度が遅くなります。また、連続撮影間隔にばらつきが生じたり、シャッターが切れるまでのタイムラグが長くなることがあります。
- 低温下でバッテリー自体の温度が低いときや、バッテリー残量が少ないときは、最高連続撮影速度が約6.0コマ/秒まで低下することがあります。
- 低速連続撮影時も、撮影条件により、連続撮影速度が低下することがあります。
- 連続撮影中に内部メモリーがいっぱいになると、一時的に撮影ができなくなるため（p.77）、連続撮影速度が途中から遅くなることがあります。

セルフタイマー撮影

セルフタイマーは記念撮影などに使用します。

1 〈M-Fn〉ボタンを押す（6）

● 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2 ドライブモードの項目を選ぶ

● 〈 〉を回して、ドライブモードの項目を選びます。

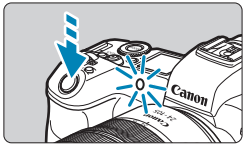
3 セルフタイマーを選ぶ

● 〈 〉を回して、セルフタイマーを選びます。

10：10秒後に撮影

2：2秒後に撮影

● カメラとワイヤレスリモートコントローラー（別売／p.174）がペアリングされているときは、〈 〉〈 〉と表示されます。



4 撮影する

● ピントを合わせ、シャッターボタンを全押しします。

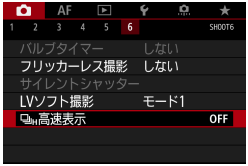
➡ セルフタイマーランプと電子音、表示パネルに表示される秒数の減算表示で作動を確認することができます。

➡ 撮影の約2秒前にセルフタイマーランプの点滅が速くなり、電子音が速く鳴ります。

- 〈⏲2〉は、三脚を使用した静物撮影や長秒時露光などで、撮影を開始する際、カメラから手を離しておきたいとき（カメラブレ防止）などに使用します。
- セルフタイマー撮影した画像は、その場で再生して（p.304）、ピントや露出を確認することをおすすめします。
- 自分一人だけをセルフタイマーで写すときは、自分が入る位置とほぼ同じ距離にあるものにフォーカスロックして撮影します（p.126）。
- セルフタイマー撮影を開始したあと、途中で中止するときは、〈SET〉を押します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。

高速連続撮影時の表示速度を選ぶ 応用

RFレンズを使用し、[AF1:AF動作]を[サーボAF]、ドライブモードを〈H〉[高速連続撮影]で撮影するときに、撮影結果と映像を交互に表示する『高速表示』を選ぶことができます。高速表示を行うことで、動きの速い被写体を追いやすくなります。



1 [6：H高速表示]を選ぶ

2 項目を選ぶ

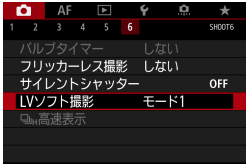
- [する]を選ぶと、撮影中に撮影結果と映像を交互に表示します。

- 高速表示中は、像のゆれやちらつきが発生します。特に速いシャッタースピードでの撮影で発生しやすくなります。ただし、撮影結果への影響はありません。
- 以下の条件のときは、高速表示は行われません。また、撮影中に高速表示が行われなくなることがあります。
  - シャッタースピードが1/30秒より遅いとき、絞り数値がF11よりも大きいとき、AF でピントが合いにくいとき、ストロボ撮影時、ISO感度拡張時

[する]は、以下の条件が揃ったときに選べます。
- RFレンズを使用、[AF動作]を[サーボAF]に設定（p.262）、ドライブモードを[高速連続撮影]に設定（p.144）、[フリッカーレス撮影]を[しない]に設定（p.115）、[露出Simulation]を[する]に設定（p.120）、[サイレントシャッター]を[しない]に設定（p.151）

LVソフト撮影 応用

撮影シーンや使用するレンズに応じて、カメラのドライブとシャッターの動作特性を変更することができます。



1 **［6：LVソフト撮影］を選ぶ**

2 **内容を設定する**

- 内容を選び〈SET〉を押します

- **モード1**(初期設定)
- **モード2**

  シャッターボタンを全押しすると1枚だけ撮影し、全押しを続けている間、カメラの作動を停止します。半押し状態に戻したときにカメラが作動するため、撮影する瞬間の音を抑えることができます。なお、連続撮影に設定していても1枚撮影になります。
- **しない**

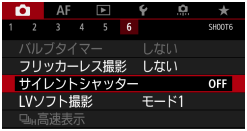
  TS-Eレンズを使用して**シフトやティルト**を行うときや、エクステンションチューブを使用するときは、必ず**[しない]**に設定してください。**[モード1]** **[モード2]** に設定すると、標準露出にならなかったり、露出ムラが発生することがあります。

- 高速シャッタースピード、絞り開放付近で撮影したときは、ボケ像が欠けて写ることがあります。なお、ボケ像の写り方が気になるときは、以下のいずれかの方法で撮影すると改善することがあります。
  - **［6：LVソフト撮影］**を **［しない］**に設定して撮影する
  - サイレントシャッター機能を使って撮影する
  - シャッタースピードを遅くする
  - 絞り数値を大きくする
- ワイヤレスリモートコントローラー（別売／p.174）を使用して、**［モード2］**の設定で撮影したときは、**［モード1］**と同じ動作になります。

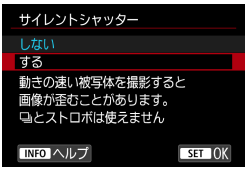
サイレント撮影 応用

静止画撮影のときは、通常、メカ（機械式）シャッターを用いた撮影が行われますが、撮像素子の電子シャッター機能を利用した、サイレント撮影を行うことができます。連続撮影を行うこともできます。静粛性が求められる撮影シーンで効果的です。

ドライブモードが〈□〉〈□H〉〈□10〉〈□2〉のときに設定できます。



1 [6：サイレントシャッター] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

3 ドライブモードを選ぶ（p.144）

● 〈□〉〈□H〉〈□10〉〈□2〉から選びます。

4 撮影する

➡ 撮影を行うと、画面の外側に白い枠が表示されます。

- サイレントシャッター機能は、被写体の肖像権やプライバシーなどに十分配慮した上で、お客様の責任において使用してください。
- 動きの速い被写体を撮影すると、被写体が歪んで写ったり、サーボAF（p.263）で連続撮影を行ったときに、ピントが合わないことがあります。
- 使用するレンズや撮影条件により、レンズのフォーカス駆動音や、絞りの駆動音がすることがあります。
- サイレント撮影中に他のカメラのストロボが発光したときや、蛍光灯などのフリッカー光源下でサイレント撮影を行ったときは、画面に光の帯や、明暗差による縞が記録されることがあります。
- AEB撮影、ストロボ撮影はできません。
- サイレント撮影時に〈□H〉の設定で連続撮影を行っても、高速表示（p.149）は行われません。

[6：サイレントシャッター] を [しない] に設定すると、[6：LVソフト撮影] が元の設定に戻ります。

測光モードの選択 応用

被写体の明るさを測る機能の特性を、4種類の中から選ぶことができます。
[A+] モードのときは、評価測光に自動設定されます。

1 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

- 映像が表示された状態で〈Q〉ボタンを押します。

2 測光モードを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して、図の項目を選びます。
- 〈◄〉〈►〉を押して、測光モードを選びます。

[⊙]：評価測光
[⊡]：部分測光
[•]：スポット測光
[⬚]：中央部重点平均測光

[⊙] 評価測光

逆光撮影を含む一般的な撮影に適しています。撮影シーンに応じてカメラが露出を自動補正します。

[⊡] 部分測光

逆光などで被写体の周辺に強い光があるときに有効です。画面中央部の約6.1%の範囲を測光します。画面に部分測光範囲が表示されます。

[•] スポット測光

被写体の特定の部分を測光するときに有効です。画面中央部の約2.7%の範囲を測光します。画面にスポット測光範囲が表示されます。

[⬚] 中央部重点平均測光

画面の中央部に重点を置いて、画面全体を平均的に測光します。

- カメラが初期状態のときは、以下のタイミングで露出が決まります。
【[評価測光]】（評価測光）は、シャッターボタン半押しでピントが合うと、半押ししている間、露出値が固定（AEロック）されます（ワンショットAF時）。【[部分測光]】（部分測光）／【[スポット測光]】（スポット測光）／【[中央部重点平均測光]】（中央部重点平均測光）は、撮影する瞬間に露出が決まります（半押しによる露出値の固定なし）。
- **[2：合焦後AEロックする測光モード]**で、ワンショットAFでピントが合ったときに露出を固定（AEロック）するかどうかを、設定することができます（p.548）。

自分の好みに露出を補正する 応用

カメラが決めた標準的な露出に対して、明るめ（プラス補正）にしたり、暗め（マイナス補正）にして撮影することを「露出補正」といいます。
[Fv] **[P]** **[Tv]** **[Av]** **[M]** モードのときに露出補正を行うことができます。
補正できる範囲は、1/3段ステップ±3段です。
なお、**[M]** モード+ISOオート設定時の露出補正については139ページ、**[Fv]** モード時の露出補正については140ページを参照してください。

1 露出を確認する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を確認します。

明るく（プラス）補正

暗く（マイナス）補正

2 補正量を設定する

- 画面を見ながら〈 〉を回して設定します。
- ➡ 露出補正を行うと、〈 〉が表示されます。

3 撮影する

- 露出補正を解除するときは、露出レベル〈▮〉を標準露出指標（〈▮〉）の位置に戻します。

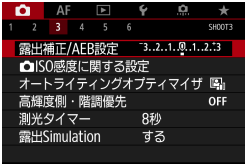
[3：オートライティングオプティマイザ]（p.104）が、**[しない]** 以外に設定されているときは、暗めにする露出補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

設定した補正量は、電源スイッチを〈OFF〉にしても記憶されています。

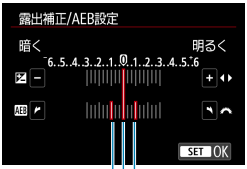
露出を自動的に変えて撮る／AEB撮影 応用

1/3段ステップ±3段の範囲で、自動的にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を変えながら3枚の画像を撮影することができます。これを「AEB撮影」といいます。

*「AEB」はAuto Exposure Bracketing（オートエクスポージャーブラケティング）の略です。



1 ［3：露出補正／AEB設定］を選ぶ



(1)

2 AEBレベルを設定する

- 〈 〉を回してAEBレベル（1）を設定します。〈◀〉〈▶〉を押すと、露出補正量を設定することができます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

➡ メニューを終了すると、画面にAEBレベルが表示されます。

標準露出

マイナス補正

プラス補正

3 撮影する

- 設定しているドライブモードに従って、標準露出→マイナス補正→プラス補正の順に撮影されます。
- AEB撮影は自動解除されません。解除するときは、手順2の操作でAEBレベルの表示を消します。

[📷3：オートライティングオプティマイザ]（p.104）が **[しない]** 以外に設定されていると、AEB撮影による露出補正の効果が小さくなることがあります。

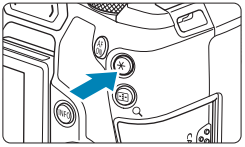
- AEB撮影中は、画面左下の〈✱〉が点滅します。
- ドライブモードが〈□〉のときは、3回撮影してください。〈⧉H〉〈⧉〉のときは、シャッターボタンを全押ししたままにすると、3枚連続撮影して自動的に停止します。〈⏲10〉〈⏲2〉のときは、10秒後または2秒後に3枚連続撮影されます。
- 露出補正と組み合わせて、AEB撮影を行うこともできます。
- AEB撮影中は、撮影モードの変更はできません。
- ストロボ使用時、マルチショットノイズ低減機能、HDRモード設定時は、AEB撮影できません。
- 電源スイッチ〈OFF〉、ストロボ充電完了で、AEB設定が自動解除されます。

✳露出を固定して撮る／AEロック撮影 応用

ピントと露出を別々に決めたいときや、同じ露出で何枚も撮影するときに使用します。〈✳〉ボタンを押して露出を固定したあと、構図を変えて撮影します。これを「AEロック撮影」といいます。逆光下の撮影などで有効です。

1 ピントを合わせる

- シャッターボタンを半押しします。
- ➡ 露出値が表示されます。



2 〈✳〉ボタンを押す（⏱8）

- ➡ 画面左下に〈✳〉が表示され、露出が固定（AEロック）されます。
- 〈✳〉ボタンを押すたびに、そのときの露出がAEロックされます。

3 構図を決めて撮影する

- 続けてAEロック撮影を行うときは、〈✳〉ボタンを押しながら、シャッターボタンを押します。

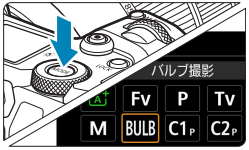
AEロックの効果

測光モード	AFフレーム選択	
	自動選択	任意選択
[⊙]	ピントを合わせたAFフレームを中心にした露出値でAEロック	選択されているAFフレームを中心にした露出値でAEロック
[⊙][•][·]	画面中央を中心にした露出値でAEロック	

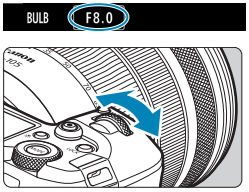
*【[⊙]】モード設定時に、レンズのフォーカスモードスイッチが〈**MF**〉のときは、画面中央を中心にした露出値でAEロックされます。

BULB：長時間露光（バルブ）撮影

シャッターボタンを押している間、シャッターが開いたままになり、シャッターボタンから指を離すと閉じます。この撮影方法を「バルブ撮影」といいます。夜景や打上げ花火、天体撮影など長時間の露光が必要なときに設定します。



1 撮影モードを［BULB］にする



2 絞り数値を設定する

- 〈 〉を回して設定します。

3 撮影する

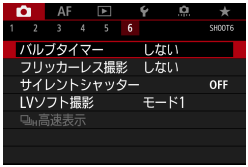
- シャッターボタンを全押ししている間、露光が行われます。
- ➡ 表示パネルに露光経過時間が表示されます。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 長時間のバルブ撮影を行うと、画像に含まれるノイズが多くなります。
- ISOオート設定時はISO400に設定されます（p.608）。
- セルフタイマーを併用して、バルブタイマーを使用せずにバルブ撮影を行うときは、シャッターボタンを全押しし続けてください（セルフタイマー作動秒時＋バルブ撮影時間）。

- ［5：長秒時露光のノイズ低減］で長秒露光時に発生するノイズを低減することができます（p.107）。
- バルブ撮影を行うときは、三脚、およびバルブタイマーの使用をおすすめします。
- リモートスイッチ RS-60E3（別売）を使ってバルブ撮影を行うこともできます（p.176）。
- ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売／p.174）を使ってバルブ撮影を行うこともできます。リモートコントローラーのレリーズ（送信）ボタンを押すと、（2秒後またはすぐに）バルブ撮影が始まり、再度押すと終了します。

バルブタイマー機能 応用

バルブ撮影時の露光時間をあらかじめ設定することができます。この機能を使うと、バルブ撮影中にシャッターボタンを指で押している必要がなくなるため、カメラブレを低減することができます。
なお、バルブタイマーは、**［BULB］**（バルブ撮影）以外の撮影モードでは設定できません（機能しません）。



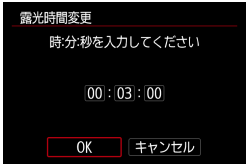
1 ［6：バルブタイマー］を選ぶ

2 ［する］を選ぶ

- ［する］を選び、〈INFO〉ボタンを押します。

3 露光時間を設定する

- 項目（時：分：秒）を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⇳〉の状態にします。
- 数値を設定し、〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。



4 [OK] を選ぶ

5 撮影する

➡ シャッターボタンを全押しすると、設定した時間、バルブ撮影が行われます。

- バルブタイマー撮影中は、表示パネルに【TIMER】と露光時間が表示されます。
- 設定を解除するときは、手順2で **【しない】** を選びます。

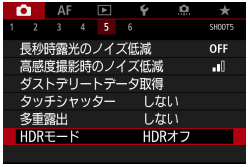
- バルブタイマー作動中にシャッターボタンを全押しして指を離すと、バルブタイマー撮影が終了します。
- 露光開始からシャッターボタンを全押しし続けたときは、設定した露光時間が経過してもバルブ撮影が継続します（設定した露光時間で自動的にバルブ撮影は終了しません）。
- 撮影モードを変更したときは、バルブタイマーが解除されます（設定が **【しない】** になります）。

HDR：HDR(ハイダイナミックレンジ)撮影 応用

明暗差の大きいシーンで、白とびや黒つぶれが緩和された、階調の広い（ハイダイナミックレンジな）写真を撮影することができます。風景などの静物の撮影に適しています。

HDR撮影では、1回の撮影で露出の異なる3枚の画像（標準露出／露出アンダー／露出オーバー）を連続撮影して、自動的に画像合成を行います。撮影したHDR画像はJPEG画質で記録されます。

*「HDR」はHigh Dynamic Range（ハイダイナミックレンジ）の略です。



1 [5：HDRモード] を選ぶ

2 [Dレンジ調整] を設定する

- 調整幅を選び、〈SET〉を押します。
- **[自動]** を選ぶと、撮影画面全体の明暗差に応じて調整幅が自動設定されます。
- 数値が大きいほどダイナミックレンジが広い写真を撮影することができます。
- HDR撮影をやめるときは、**[HDRオフ]** を選びます。

3 [仕上がり効果] を設定する

- 効果を選び〈SET〉を押します。

仕上がり効果について

● **[HDR ナチュラル]**
明暗差の大きいシーンで、通常は白とびしてしまう部分や、黒くつぶれてしまう部分の描写が補正され、白とびや黒つぶれが緩和された写真になります。

● **[HDR 絵画調標準]**
[ナチュラル] よりも白とびや黒つぶれが緩和された写真になりますが、コントラストを抑えたフラットな階調のため、絵画のような仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが付きます。

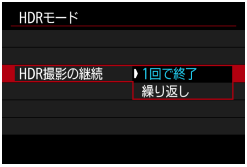
● **[HDR グラフィック調]**
[絵画調標準] よりも鮮やかでありながら、コントラストを抑えたフラットな階調で、グラフィックアートのような仕上がりになります。

● **[HDR 油彩調]**
最も鮮やかで被写体の立体感を強調した、油絵のような仕上がりになります。

● **[HDR ビンテージ調]**
鮮やかさと明るさを抑えながら、コントラストをさらに抑えたフラットな階調で、色あせた古めかしい感じの仕上がりになります。被写体の輪郭部分に明るい（または暗い）縁取りが強めに付きます。

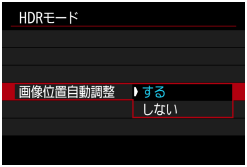
	絵画調標準	グラフィック調	油彩調	ビンテージ調
彩度	標準	高い	より高い	低い
輪郭強調	標準	弱い	強い	より強い
明るさ	標準	標準	標準	暗い
階調	フラット	フラット	フラット	よりフラット

各仕上がり効果とも、設定されているピクチャースタイル（p.88）を基本にした画像特性で撮影されます。



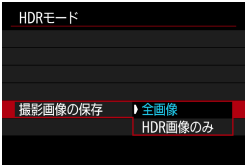
4 [HDR撮影の継続] を設定する

- 内容を選び、〈SET〉を押します。
- **[1回で終了]** を選んだときは、撮影が終了すると、HDR撮影が自動的に解除されます。
- **[繰り返し]** を選んだときは、手順2で **[HDRオフ]** を選ぶまでHDR撮影が続きます。



5 [画像位置自動調整] を設定する

- 手持ち撮影を行うときは **[する]**、三脚などを使用するときは **[しない]** を選び、〈SET〉を押します。



6 保存する画像を指定する

- 撮影した3枚の画像と、合成したHDR画像を保存するときは、**[全画像]** を選び〈SET〉を押します。
- HDR画像だけを保存するときは、**[HDR画像のみ]** を選び〈SET〉を押します。

7 撮影する

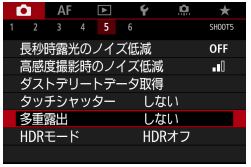
- シャッターボタンを全押しすると、3枚連続撮影され、HDR画像がカードに記録されます。

- RAW画質で撮影したときは、HDR画像はJPEG◢**L**の画質で記録されます。RAW+JPEG画質で撮影したときは、HDR画像は設定したJPEG画質で記録されます。なお、HDR画像を生成するために撮影した3枚の画像は、設定した記録画質で記録されます。
- 拡張ISO感度（L、H1、H2）でHDR撮影を行うことはできません。ISO100～40000の範囲（**[ISO感度の範囲]**の**[下限値]**/**[上限値]**の設定による）でHDR撮影を行うことができます。
- HDR撮影時はストロボは発光しません。
- AEB撮影はできません。
- 動いている被写体を撮影すると、被写体の動きが残像のように写ることがあります。
- HDR撮影はシャッタースピードを自動的に変えて3枚の画像を撮影します。そのため、**[Fv]**/**[Tv]**/**[M]**モードでも、設定したシャッタースピードを基準に、シャッタースピードが変化します。
- 手ブレを抑えるため、ISO感度が高く設定されることがあります。

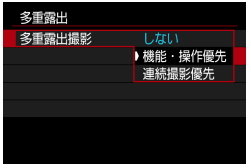
- **［画像位置自動調整］**を**［する］**に設定して撮影したときは、AFフレーム表示用の情報（p.309）、およびダストデリートデータ（p.121）は画像に付加されません。
- **［画像位置自動調整］**を**［する］**に設定して手持ち撮影を行うと、画像の周辺部分がわずかにトリミングされ、解像感が若干低下します。また、手ブレなどにより画像のズレ量が大きいと、自動位置合わせが行われないことがあります。なお、極端に明るい（または暗い）露出設定で撮影すると、自動位置合わせが適切に行われないことがあります。
- **［画像位置自動調整］**を**［しない］**に設定して手持ち撮影を行うと、3枚の画像がズレてHDRの効果が十分に得られないことがあります。そのときは、三脚の使用をおすすめします。
- 格子模様、ストライプ模様のような繰り返しパターンや、画面全体が平坦で単調なときは、自動位置合わせが正常に行われないことがあります。
- 空や白壁のようなシーンのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でHDR撮影を行うと、照明されている部分が適切な色で再現されないことがあります。
- HDR撮影は撮影後に画像を合成してからカードに記録するため、時間がかかります。画像処理中はモニターと表示パネルに**［BUSY］**が表示され、処理が終わるまで次の撮影はできません。

多重露出撮影 応用

複数の画像（2～9枚）を重ね合わせた写真を、画像の重なり具合を確認しながら撮影することができます。



1 [5：多重露出] を選ぶ



2 [多重露出撮影] を設定する

- 内容を選び、〈SET〉を押します。
- 多重露出撮影をやめるときは、[しない] を選びます。

● 機能・操作優先

画像の確認を行いながら、じっくり多重露出撮影を行いたいときに適しています。連続撮影時は連続撮影速度が大幅に遅くなります。

● 連続撮影優先

動いている被写体を連続して重ね合わせるときに設定します。連続撮影を行うことができますが、撮影途中に「メニュー画面の表示」「撮影直後の画像確認」「画像再生」「撮影のやり直し（p.172）」はできません。また、撮影した画像は重なって表示されません。

なお、撮影画像は多重露出画像のみ保存されます（多重露出画像を生成するために撮影した画像の保存はできません）。

使用するレンズによっては、多重露出撮影ができないことがあります。

3 [多重露出制御] を設定する

- 露出の重ね合わせ方を選び、〈SET〉を押します。

● 加算

撮影した画像の露出を加算して重ね合わせます。**[重ねる枚数]** に応じて、マイナス補正を行ってください。露出補正量の目安は以下のとおりです。

重ねる枚数と露出補正量の目安

「2枚：－1段」「3枚：－1.5段」「4枚：－2段」

● 加算平均

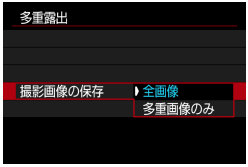
[重ねる枚数] に応じて自動的にマイナス補正を行いながら、画像を重ね合わせます。なお、同じ構図で撮影したときは、被写体の背景が標準露出になるように自動露出制御が行われます。

● 比較（明）／比較（暗）

ベースになる画像と重ね合わせる画像を同じ位置で明るさ（暗さ）比較して、明るい（暗い）部分を残します。重なる色によっては、明るさ（暗さ）の割合に応じて、色が混ざり合うことがあります。

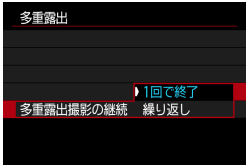
4 [重ねる枚数] を設定する

- 枚数を選び〈SET〉を押します。
- 2～9枚の範囲で設定することができます。



5 保存する画像を設定する

- 重ね合わせる画像と、多重露出画像の両方を保存するときは、**[全画像]**を選び〈SET〉を押します。
- 多重露出画像だけを保存するときは、**[多重画像のみ]**を選び、〈SET〉を押します。



6 [多重露出撮影の継続]を設定する

- 内容を選び、〈SET〉を押します。
- **[1回で終了]**を選んだときは、撮影が終了すると、多重露出撮影が自動的に解除されます。
- **[繰り返し]**を選んだときは、手順2で**[しない]**を選ぶまで多重露出撮影が続きます。

7 1枚目を撮影する

- ➡ **[機能・操作優先]**設定時は、撮影した画像が表示されます。
- 多重露出撮影の残り枚数は、画面に表示される数値（1）で確認することができます。
- 〈▶〉ボタンを押すと、撮影した画像を確認することができます（p.172）。

8 2枚目以降を撮影する

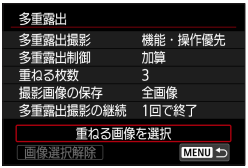
- **[機能・操作優先]** 設定時は、そのときまでに撮影した画像が重なって表示されます。〈INFO〉ボタンを（何回か）押すと、映像だけを表示することができます。
- 設定した枚数を撮影すると、多重露出撮影が終了します。

- **[機能・操作優先]** のときは、撮影途中で〈▶〉ボタンを押すと、そのときまでに撮影した多重露出画像を確認したり、直前に撮影した画像を消去することができます（p.172）。
- 最後に撮影したときの撮影情報が多重露出画像に記録されます。

- 記録画質、ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目と同じ設定で2枚目以降も撮影されます。
- **[**4：**ピクチャースタイル]** が **[オート]** に設定されているときは、**[スタンダード]** で撮影されます。
- **[機能・操作優先]** + **[加算]** 設定時に、撮影途中に表示される画像のノイズ、色ムラ、縞などは、最終的に記録される多重露出画像と異なることがあります。
- 多重露出撮影は、重ねる枚数が多いほど、ノイズ、色ムラ、縞が目立つようになります。
- **[加算]** 設定時は、多重露出撮影を終了したときに画像処理に時間がかかります（アクセスランプが長く点灯します）。
- 手順8で撮影時に重なって表示される画像の明るさやノイズなどは、最終的に記録される多重露出画像とは異なります。
- 電源スイッチ〈OFF〉、バッテリー交換、カード交換などを行うと、多重露出撮影が解除されます。
- 撮影モードを **[**A+**]** にすると、多重露出撮影が終了します。

カードに記録されている画像に重ね合わせる

カードに記録されているRAW画像を1枚目に指定して、多重露出撮影を行うことができます。選択したRAW画像の画像データはそのまま残ります。**指定できるのはRAW、CRAW画像です。**JPEG画像は選択できません。また、指定できる画像は、装着しているレンズにより異なります。詳しくは下表を参照してください。



1 [重ねる画像を選択]を選ぶ

2 1枚目の画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して1枚目に設定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- [OK]を選びます。
- ➡ 選択中の画像番号が、画面の下側に表示されます。

3 撮影する

- 画像を選択すると、残り撮影枚数は**[重ねる枚数]**で設定した枚数よりも1枚少なくなります。

● 選択できる画像

装着レンズ	クロップ撮影	選択可能な画像
RFレンズ／EFレンズ	なし	フルサイズで撮影したRAW画像
	あり	クロップ撮影／EF-Sレンズ撮影したRAW画像
EF-Sレンズ	—	

- **[📷3：高輝度側・階調優先]**を**[する][強]**に設定して撮影した画像、**[📷1：静止画クロップ/アスペクト]**を**[フルサイズ][1.6倍クロップ]**以外に設定して撮影した画像は、1枚目に指定できません。
- **[📷2：レンズ光学補正][📷3：オートライティングオプティマイザ]**は、1枚目に指定した画像の設定に関わらず、**[しない]**で撮影されます。

- ISO感度、ピクチャースタイル、高感度撮影時のノイズ低減、色空間などは、1枚目に指定した画像と同じ設定で撮影されます。
- 1枚目に指定した画像のピクチャースタイルが **[オート]** のときは、**[スタンダード]** で撮影されます。
- 他のカメラで撮影した画像は選択できません。
- 多重露出撮影ができないレンズで撮影した画像は、（重ねる画像の1枚目として）選択できません。
- レンズを装着していないときは、**[重ねる画像を選択]** の設定はできません。

- 多重露出撮影を行ったRAW画像を選ぶこともできます。
- **[画像選択解除]** を選ぶと、指定が解除されます。

撮影途中の画像確認と画像消去について

[機能・操作優先] 設定時に、設定した枚数の撮影が完了する前に〈▶〉ボタンを押すと、撮影途中の（多重）画像が表示され、重なり具合や、露出などを確認することができます（**[連続撮影優先]** 時不可）。
この状態で〈🗑〉ボタンを押すと、撮影途中に操作できる項目が表示されます。

項目	内容
⮌ **前の画面に戻る**	〈🗑〉ボタンを押す前の画面に戻ります。
1枚戻る	直前に撮影した画像を消去します（撮影のやり直し）。残り撮影枚数が1枚増えます。
保存して終了	**[撮影画像の保存：全画像]** 設定時は、途中まで撮影した全画像と、多重露出画像を保存して終了します。 **[撮影画像の保存：多重画像のみ]** 設定時は、途中まで撮影した多重露出画像だけを保存して終了します。
保存しないで終了	撮影した画像を保存しないで終了します。

多重露出撮影中は、多重露出画像以外の再生はできません。

こんなときは

● 記録画質に制限はありますか？

各撮影画像、多重露出画像とも、記録画質の設定通りに記録されます。なお、JPEGはすべての記録画質を選択できます。

● カードに記録されている画像に重ね合わせたい

[重ねる画像を選択] で、多重露出1枚目の画像を選択することができます（p.171）。カードに記録されている画像どうしを重ね合わせることはできません。

● 多重露出画像の画像番号はどうなりますか？

全画像を保存する設定のときは、多重露出画像を生成するために撮影した最終画像の続き番号で、多重露出画像が保存されます。

● 多重露出撮影中にオートパワーオフ機能は作動しますか？

[2:節電]の**[オートパワーオフ]**が**[しない]**以外に設定されているときは、オートパワーオフで電源が自動的に切れるまでの時間が約30分になります。オートパワーオフが働くと多重露出撮影が終了し、多重露出の設定も解除されます。

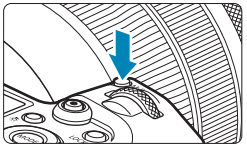
リモコン撮影

Bluetooth® low energy technology対応の「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売）を使用すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影を行うことができます。

ペアリング

BR-E1を使うためには、まずカメラとリモコンのペアリング（機器同士の接続・登録）が必要です。ペアリング方法については、408ページを参照してください。

ペアリングを行ってから以下の操作を行ってください。



1 〈M-Fn〉ボタンを押す（⏱6）

● 画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押します。

2 ドライブモードの項目を選ぶ

● 〈☜〉を回して、ドライブモードの項目を選びます。

3 セルフタイマー／リモコンを選ぶ

● 〈☜〉を回して、〈⏱〉または〈⏱2〉を選びます。

4 撮影する

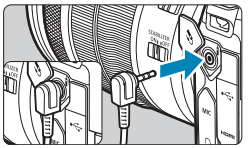
- リモコンの〈**AF**〉ボタンを押すと、AFでピントを合わせることができます。
- リモコンの撮影ボタンを押すと、撮影が行われます。
- **詳しい撮影方法については、BR-E1使用説明書を参照してください。**

リモートコントローラーRC-6などの、赤外線方式のリモコンは使用できません。

- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってから撮影してください（p.281）。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が長くなることがあります。
- 動画撮影時にリモコンを使用することもできます（p.245）。

リモートスイッチ撮影

リモートスイッチRS-60E3（別売）をカメラに取り付けて撮影することができます。
操作方法については、リモートスイッチの使用説明書を参照してください。



1 端子カバーを開ける

2 リモコン端子にプラグを取り付ける

ストロボを使った撮影

EOS用EL／EXスピードライト

EL／EXスピードライト（別売）を使用すると、簡単にストロボ撮影を行うことができます。

操作方法については、EL／EXスピードライトの使用説明書を参照してください。なお、このカメラは、EL／EXスピードライトの全機能が使用できる、Aタイプカメラに属しています。

カメラのメニュー画面から、ストロボの機能やストロボのカスタム機能を設定する方法については、179ページを参照してください。

● ストロボ調光補正

ストロボの発光量を調整する（調光補正を行う）ことができます。画面に映像が表示された状態で、〈M-Fn〉ボタンを押して、〈〉を回してストロボ調光補正の項目を選ぶと、〈 〉を回して調光補正量を設定することができます。補正できる範囲は1/3段ステップ±3段です。

● FEロック

被写体の任意の部分に適正調光させるストロボ撮影方法です。被写体をファインダーの中央に置いて、カメラの〈✱〉ボタンを押してから、構図を決めて撮影します。

［📷3：オートライティングオプティマイザ］（p.104）が、**［しない］**以外に設定されているときは、暗めにする調光補正（マイナス補正）を行っても、明るく撮影されることがあります。

- 暗い場所でAFでピントが合わせにくいときは、必要に応じてEOS用外部ストロボからAF補助光が自動投光されます。
- クイック設定（p.68）、または**［📷2：外部ストロボ制御］**の**［ストロボ機能設定］**（p.182）で調光補正を行うこともできます。
- このカメラは、カメラの電源スイッチと、ストロボの電源を連動させる機能に対応しています。詳しくは、この機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

EL／EX以外のキヤノン製スピードライト

- **EZ/E/EG/ML/TLスピードライトをA-TTLまたはTTL自動調光モードに設定して撮影すると、常時フル発光します。**
  カメラの撮影モードを【**M**】マニュアル露出、または【**Av**】絞り優先AE に設定して、絞り数値を変えて撮影してください。
- マニュアル発光機能を搭載したスピードライト使用時は、マニュアル発光モードで撮影してください。

汎用ストロボ

- **同調シャッタースピード**
  小型の汎用ストロボは1/200秒以下で同調します。スタジオ用の大型ストロボは、小型の汎用ストロボに比べ閃光時間が長く、機種により閃光時間が異なります。1/60～1/30秒程度を目安に、あらかじめストロボが正しく同調するかどうか、確認してから撮影してください。

- 他社製の特定カメラ専用のストロボ、およびストロボ用付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しないばかりでなく、故障の原因になります。
- 高圧ストロボをアクセサリーシューに取り付けて使用しないでください。発光しないことがあります。

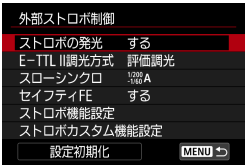
バッテリーグリップ BG-E22（別売）を使用すると、シンクロ端子を使ったストロボ撮影を行うことができます。

ストロボの機能を設定する 応用

ストロボ機能設定に対応したEL／EXスピードライトを使用すると、カメラのメニュー画面からストロボの機能を設定したり、ストロボのカスタム機能を設定することができます。**設定を行う前にストロボをカメラに取り付け、ストロボの電源を入れておきます。**

なお、ストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

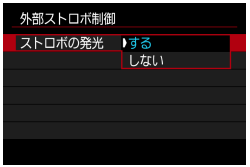
1 ［📷2：外部ストロボ制御］を選ぶ



2 項目を選ぶ

● 項目を選び、〈SET〉を押します。

ストロボの発光



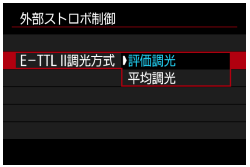
ストロボ撮影を行うときは、**【する】**に設定します。ストロボの発光を禁止したり、ストロボのAF補助光だけを利用したいときは、**【しない】**に設定します。

なお、ストロボの自動発光機能に対応したストロボを、カメラに装着したときは、次の設定を行うと、撮影状況に応じて「自動発光」が行われます。

- **【ストロボの発光】**を**【する】**に設定する
- ストロボの発光モードをオートに設定する
- カメラの撮影モードを**【A+】**または**【P】**に設定する

詳しい撮影方法については、自動発光機能に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

E-TTL II 調光方式



通常は、標準的なストロボ露出が得られる**【評価調光】**に設定します。**【平均調光】**に設定すると、測光領域全体を平均的に測光します。状況に応じてストロボ調光補正が必要です。上級者向けの設定です。

スローシンクロ

［**Av**］絞り優先AEモード、または［**P**］プログラムAEモードでストロボ撮影を行うときのストロボ同調速度を設定することができます。

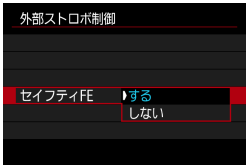
● **［1/200 -30 A］ 1/200-30秒自動**
明るさに応じてシャッタースピードが1/200～30秒の範囲で自動設定されます。暗い場所では（撮影状況に応じて）自動的にシャッタースピードが遅くなり、スローシンクロ撮影になります。

● **［1/200 -1/60 A］ 1/200-1/60秒自動**
暗い場所でシャッタースピードが自動的に遅くならないようになります。被写体ブレや手ブレを防止したいときに有効です。ただし、被写体はストロボ光により標準露出になりますが、被写体の背景が暗くなることがあります。

● **［1/200］ 1/200秒固定**
シャッタースピードが1/200秒に固定されるため、**［1/200-1/60秒自動］**よりも被写体ブレや手ブレを抑えることができます。ただし、暗い場所では**［1/200-1/60秒自動］**よりも被写体の背景が暗くなります。

● 初期状態では**［1/200-1/60秒自動］**に設定されています。**［Av］［P］**モードでスローシンクロ撮影を行いたいときは、**［1/200-30秒自動］**に設定してください。
● **［1/200秒固定］**設定時は、**［Av］［P］**モードでハイスピードシンクロを行うことはできません。

セイフティFE



ISOオートの設定で、日中のストロボ撮影や、近距離ストロボ撮影を行ったときに、調光（露出）オーバーになるときは、カメラが自動的にISO感度を下げて、被写体を標準露出で撮影することができます。

ストロボ機能設定

画面に表示される内容や設定できる項目、項目の表示位置は、ストロボの機種や設定されている発光モード、ストロボカスタム機能の設定状態などにより異なります。使用するストロボの機能については、スピードライトの使用説明書を参照してください。

表示例

(1) 発光モード
(2) ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能
(3) ズーム（照射角）
(4) シンクロ設定
(5) 調光補正
(6) FEB

ストロボ機能設定に対応していないEXスピードライト使用時は、設定できる機能が制限されます。

● 発光モード

撮影目的に応じて発光モードを選択します。

[E-TTL II] は、ストロボの自動露出撮影ができる、EL／EXスピードライトの標準的なモードです。
[マニュアル発光] は、ストロボの **[発光量]** を自分で決めて撮影するモードです。

[CSP]（連写優先モード）は、通常のストロボ撮影時と比べ、ストロボの発光量を自動的に1段下げ、代わりにISO感度を自動的に1段上げるモードです。連続撮影を行うときや、ストロボの電池の消耗を抑えたいときなどに効果的です。
その他の発光モードについては、その発光モードに対応したストロボの使用説明書を参照してください。

[Fv] **[Tv]** **[M]** モードで、**[CSP]** の設定でストロボ撮影を行ったときに、撮影結果が露出オーバーになるときは、必要に応じて露出補正（p.154）を行ってください。

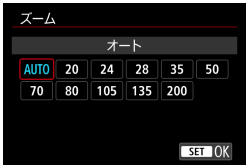
[CSP] 設定時は、ISO感度が自動的に **[オート]** に設定されます。また、**[セイフティFE]** は自動的に **[する]** に設定されます。なお、**[CSP]** の設定を解除したときは、ISO感度と **[セイフティFE]** の設定を確認してください。

● ワイヤレス機能／光量比制御（RATIO）機能

電波通信、または光通信によるワイヤレス（多灯）ストロボ撮影を行うことができます。
詳しくは、ワイヤレスストロボ撮影に対応したストロボの使用説明書を参照してください。

ストロボ機能設定に対応したマクロストロボ（例：MR-14EX II）使用時に、発光部A,Bの発光量の比率（光量比）を設定したり、レシーバーストロボを増灯したワイヤレスストロボ撮影を行うことができます。
詳しくは、光量比制御に対応したマクロストロボの使用説明書を参照してください。

● ズーム（照射角）



ズーム機能を内蔵したストロボ使用時に、発光照射角を設定することができます。通常は、撮影レンズの焦点距離に応じて照射角をカメラが自動設定する【AUTO】に設定します。

● シンクロ設定

通常は、撮影開始直後にストロボが発光する**[先幕シンクロ]**に設定します。

[後幕シンクロ]に設定すると、シャッターが閉じる直前にストロボが発光します。遅いシャッタースピードと組み合わせると、走行中の車のライトなどの軌跡を自然な感じで写すことができます。なお、後幕シンクロと**[E-TTL II]**の組み合わせのときは、シャッターボタンを全押ししたときと撮影終了直前の計2回発光します。

[ハイスピード]に設定すると、すべてのシャッタースピードでストロボ撮影を行うことができます。日中の屋外などで、被写体の背景をぼかして（絞りを開いて）撮影したいときに有効です。

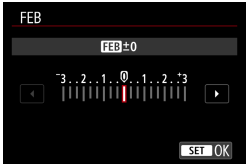
後幕シンクロで撮影するときは、シャッタースピードを1/80秒以下の遅い速度に設定してください。1/90秒以上の速い速度のときは、**[後幕シンクロ]**に設定していても、自動的に先幕シンクロ撮影になります。

● 調光補正

ストロボの発光量を1/3段ステップ±3段の範囲で調整することができます。
詳しくは、ストロボの使用説明書を参照してください。

ストロボ側で調光補正を設定したときは、カメラ側から調光補正を行うことはできません。なお、同時に設定されているときは、ストロボ側の設定が優先されます。

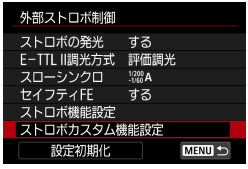
● FEB



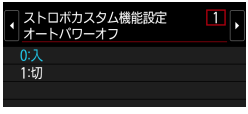
ストロボの発光量を自動的に変えながら3枚の撮影を行うことができます。
詳しくは、FEB（Flash Exposure Bracketing）機能を搭載したストロボの使用説明書を参照してください。

ストロボカスタム機能設定

ストロボのカスタム機能については、ストロボ（別売）の使用説明書を参照してください。



1 [ストロボカスタム機能設定]を選ぶ

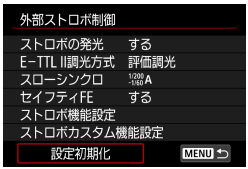


2 機能を設定する

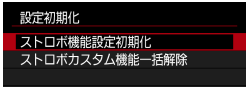
- 番号を選び〈SET〉を押します。
- 項目を選び〈SET〉を押します。

- EL／EXスピードライト使用時に、ストロボカスタム機能の**[調光方式]**を**[TTL]**（自動調光）に設定したときは、常時フル発光します。
- **[📷2：外部ストロボ制御]**の画面から、ストロボのパーソナル機能（P.Fn）の設定・解除はできません。ストロボを直接操作して設定してください。

ストロボ機能設定初期化／ストロボカスタム機能一括解除



1 [設定初期化]を選ぶ



2 初期化する内容を選ぶ

- **[ストロボ機能設定初期化]**[ストロボカスタム機能一括解除]のいずれかを選び、〈SET〉を押します。
- 確認画面で**[OK]**を選ぶと、ストロボの設定が初期化、またはカスタム機能がすべて解除されます。

2-2 動画撮影

動画撮影時の［撮影モード］の設定について

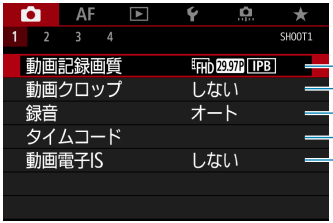
動画撮影を行うときは、〈MODE〉ボタンを押したあと、〈INFO〉ボタンを押して、**［撮影モード］**の画面を左図の状態にしてください。

- **［］：シーンインテリジェントオート**（p.209）
- **［］：プログラムAE**（p.209）
- **［］：シャッター優先AE**（p.210）
- **［］：絞り優先AE**（p.211）
- **［］：マニュアル露出**（p.213）
- **［］：カスタム撮影モード**（p.417）

静止画撮影時に動画撮影ボタンを押したときも、動画を撮影することができます。そのとき設定されている撮影モードが**［］**モードのときは、**［］**モードの**［1：動画記録画質］**の設定内容で記録されます。撮影モードが**［］**モード以外のときは、**［］**（動画C3）モードに登録されている内容で記録されます。

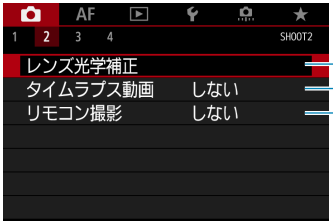
メニュー目次:動画撮影

● 撮影1



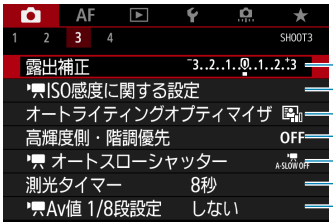
p.192
p.219
p.202
p.205
p.220

● 撮影2



p.245
p.224
p.245

● 撮影3



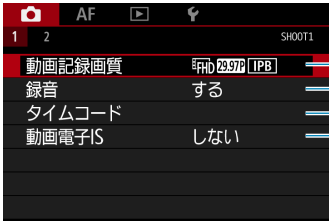
p.246
p.246
p.247
p.247
p.248
p.249
p.249

● 撮影4

p.250
p.250
p.250
p.250
p.236
p.250
p.251

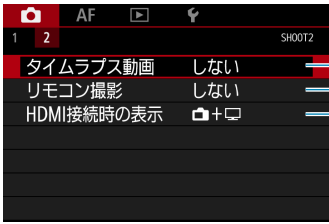
［A+］モードのときは、以下の画面が表示されます。

● 撮影1



p.192
p.202
p.205
p.220

● 撮影2



p.224
p.245
p.251

機能目次:動画撮影

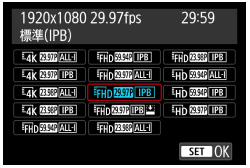
撮影モード

- [ ] [ ] モード ➡ p.209
- [ ] モード ➡ p.210
- [ ] モード ➡ p.211
- [ ] モード ➡ p.213

撮影機能／メニュー機能

- 動画記録画質 ➡ p.192
- 24.00p ➡ p.198
- ハイフレームレート ➡ p.199
- 録音 ➡ p.202
- タイムコード ➡ p.205
- 動画クロップ ➡ p.219
- 動画電子IS ➡ p.220
- HDR動画 ➡ p.222
- タイムラプス動画 ➡ p.224
- Canon Log ➡ p.236
- レンズ光学補正 ➡ p.245
- リモコン撮影 ➡ p.245
- 露出補正 ➡ p.246
- ISO感度（動画） ➡ p.246
- オートライティング オプティマイザ ➡ p.247
- 高輝度側・階調優先 ➡ p.247
- オートスロー シャッター ➡ p.248
- 測光タイマー ➡ p.249
- Av値1/8段設定 ➡ p.249
- ホワイトバランス ➡ p.250
- MWB画像選択 ➡ p.250
- WB補正 ➡ p.250
- ピクチャースタイル ➡ p.250
- 高感度時ノイズ低減 ➡ p.250
- HDMI接続時の表示 ➡ p.251

動画記録画質の設定



［📷1：動画記録画質］の［動画記録サイズ］で、画像サイズ、フレームレート、圧縮方式を設定することができます。撮影した動画は、MP4形式で記録されます。
なお、［動画記録サイズ］の画面に表示されるフレームレートは、［🔧3：ビデオ方式］の設定（p.384）により、自動的に切り換わります。

動画をカードに記録するときに必要なカードの書き込み／読み取り速度（要求カード性能）は、動画記録画質により異なります。動画撮影を行う前に611ページを参照して、要求カード性能を確認してください。

動画記録サイズ

● 画像サイズ

- **［4K］3840×2160**
  4K画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、**4K ALL-I動画を撮影するときは、UHS-IIに対応したSDカードを使用してください**（p.611）。
- **［FHD］1920×1080**
  フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。
- **［HD］1280×720**
  ハイビジョン（HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。

- 【3:ビデオ方式】の設定を変更したときは、【1:動画記録画質】の再設定を行ってください。
- 4K動画、FHD 59.94P/50.00Pで撮影した動画、ハイフレームレート動画などは、再生時のデータ処理の負荷が高いため、他の機器で正常に再生できないことがあります。
- 動画記録画質の設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、解像感やノイズ感は多少異なります。

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（p.373）。
- 動画記録サイズの画面に表示される項目（フレームレート）は、【3:ビデオ方式】の【NTSC】【PAL】の設定に応じて変わります。
- VGA画質の動画を撮影することはできません。

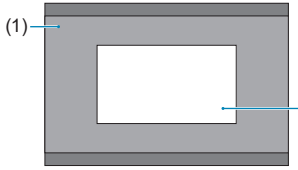
4K動画撮影について

- 4K動画を撮影するには高性能なカードが必要です。詳しくは、611ページの『動画が記録できるカード』を参照してください。
- 4K動画撮影時やハイフレームレート動画撮影時は、処理負荷が高いため、通常の動画撮影時に比べカメラ内部の温度が早く上昇したり、より温度が高くなることがあります。動画撮影時に赤い[REC]が表示されたときは、カードが熱くなっていることがあるため、動画撮影を休止して、しばらく経ってからカードを取り出してください（すぐにカードを取り出さないでください）。
- 4K画質で撮影した動画から任意のフレームを選んで、約830万画素（3840×2160）のJPEG画像（静止画）としてカードに保存することができます（p.329）。

撮影範囲について

動画記録画質の設定や、使用するレンズ、クロップ撮影の設定により、動画撮影範囲が変わります。
なお、EF-Sレンズ使用時は、撮影画面の中央部をクロップした撮影になります。

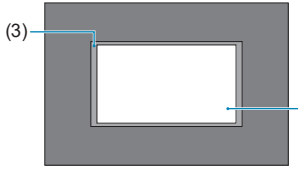
● RFレンズ／EFレンズ使用時：[📷1：動画クロップ]［しない］設定時



(1) フルHD
HD
4Kタイムラプス
フルHDタイムラプス

(2) 4K

● RFレンズ／EFレンズ使用時：[📷1：動画クロップ]［する］設定時
● EF-Sレンズ使用時



(3) 4Kタイムラプス
フルHDタイムラプス

(4) 4K
フルHD
HD

- EF-Sレンズ使用時、および［📷1：動画クロップ］［する］設定時は、FHD 59.94P ALL-I、FHD 59.94P IPB、FHD 50.00P ALL-I、FHD 50.00P IPB、およびハイフレームレート動画は、撮影できません。
- 動画電子IS機能設定時は（p.220）、画面の中央部分がさらにクロップされます。

● **フレームレート**（fps：frame per second）

- **［119.9P］119.9fps／［59.94P］59.94fps／［29.97P］29.97fps**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。119.9Pについては、199ページを参照してください。
- **［100.0P］100.0fps／［50.00P］50.00fps／［25.00P］25.00fps**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。100.0Pについては、199ページを参照してください。
- **［23.98P］23.98fps／［24.00P］24.00fps**
  主に映画関連で使用します。23.98P（23.98fps）は、**［3：ビデオ方式］**を **［NTSC］**に設定したときに選択できます。24.00Pについては、198ページを参照してください。

● **圧縮方式**

- **［ALL-I］ALL-I**（編集用／I-only）
  1フレーム単位で圧縮して記録します。IPB（標準）よりもファイルサイズが大きくなりますが、撮影後の編集作業に適しています。
- **［IPB］IPB**（標準）
  複数のフレーム単位で効率的に圧縮して記録します。ALL-I（編集用）よりもファイルサイズが小さくなるため、（同じ容量のカードであれば）撮影できる時間が長くなります。
- **［IPB］IPB**（軽量）
  IPB（標準）よりもビットレートを低く抑えて記録するため、IPB（標準）よりもファイルサイズが小さく、再生互換性が高くなります。（同じ容量のカードであれば）IPB（標準）よりも撮影できる時間が長くなります。

● 動画記録形式

● [MP4] MP4

このカメラで撮影した動画は、すべてMP4形式の動画ファイルとして記録されます（拡張子：「.MP4」）。MOV形式の動画よりも、再生互換性が高いファイル形式です。

動画が記録できるカードについて

各動画記録画質で記録できるカードについては、611ページを参照してください。

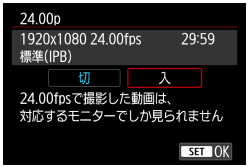
なお、動画を撮影するときは、書き込み／読み取り速度（要求カード性能）が611ページの表に示す速度、または規格以上で、大容量のカードを使用してください。なお、事前にテスト撮影を行い、設定した動画記録画質（p.192）で正しく記録できるかどうか確認してください。

- 4K動画撮影を行うときは、撮影前にカードを初期化してください（p.373）。
- 動画撮影時に書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に記録できないことがあります。また、動画再生時に読み取り速度が遅いカードを使用すると、動画が正常に再生できないことがあります。
- 動画撮影を行うときは、実際の書き込み速度がビットレートを十分に上回る、高性能なカードを使用してください。
- 正常に動画が記録できないときは、カードを初期化してから使用してください。なお、カードを初期化しても問題が改善しないときは、カードメーカーのホームページなどもあわせて確認してください。

- カードの性能を発揮させるため、動画撮影を行う前にカメラでカードを初期化することをおすすめします（p.373）。
- カードの書き込み／読み取り速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。

24.00p

フレームレートが24.00fpsの動画を撮影するときに設定します。



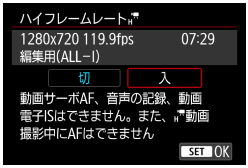
[入] に設定したときは、**4K 24.00P ALL-I**、**4K 24.00P IPB**、**FHD 24.00P ALL-I**、**FHD 24.00P IPB** から動画記録画質を選ぶことができます。**[動画記録サイズ]** の設定を行ったあとで、**[24.00p]** を **[入]** にしたときは、もう一度 **[動画記録サイズ]** の設定を行ってください。

[24.00p：入] 設定時の注意事項

- HDMI出力時は、動画記録画質の設定に応じて、2160/24.00p、または1080/24.00pで映像が出力されます。なお、1080/24.00pの信号に対応していないテレビなどにHDMI接続したときは、映像が表示されないことがあります。
- 設定を **[切]** に戻したときは、**[動画記録サイズ]** の設定を確認してください。

ハイフレームレート

ハイビジョン（HD）画質で119.9fps/100.0fpsの高フレームレートの動画を撮影することができます。スローモーション再生用の映像素材の撮影に適しています。なお、1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。



HD 119.9P ALL-I、またはHD 100.0P ALL-Iで記録されます。
ハイフレームレート動画撮影時に動画サーボAF、動画電子ISは機能しません。また、ハイフレームレート動画撮影中は、AFによるピント合わせはできません。
ハイフレームレート動画に音声は記録されません。

なお、動画撮影時にタイムコードを表示しているときは、実時間1秒で4秒分カウントアップします。
なお、ハイフレームレート動画は、29.97fps/25.00fpsの動画ファイルとして記録されるため、再生時は1/4倍速のスローモーションで再生されます。

［ハイフレームレート：入］設定時の注意事項

- **［1：タイムコード］**の**［カウントアップ］**を**［フリーラン］**に設定したときは（p.205）、タイムコードは記録されません。
- 設定を**［切］**に戻したときは、**［動画記録サイズ］**の設定を確認してください。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下でハイフレームレート動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- ハイフレーム動画撮影を開始したときや終了したときは、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。
- ハイフレームレート動画撮影時に画面に表示される映像のフレームレートは、撮影した動画のフレームレートと異なります。
- ヘッドフォンは使用できません（音声は聞こえません）。

ファイルサイズが4GBを超える動画撮影について

1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、一時中断することなく、動画撮影を続けることができます。

● **このカメラで初期化した「SD/SDHCカード」使用時**

SD/SDHCカードをこのカメラで初期化すると、FAT32形式でフォーマットされます。

FAT32形式でフォーマットされたカードを使用したときは、動画撮影を開始してファイルサイズが4GBを超えると、新しい動画ファイルが自動的に作成されます。

なお、再生時は動画ファイルごとの再生になります。動画ファイルを自動で連続再生することはできません。再生が終わったら、続きのファイルを選んで再生してください。

● **このカメラで初期化した「SDXCカード」使用時**

SDXCカードをこのカメラで初期化すると、exFAT形式でフォーマットされます。

exFAT形式でフォーマットされたカードを使用したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

4GBを超える動画ファイルをパソコンに取り込むときは、EOS Utilityを使用するか、カードリーダーを使用してください（p.575）。パソコン（OS）の機能を使って画像の取り込みを行うと、4GBを超える動画ファイルが取り込めないことがあります。

動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安

各動画記録画質で動画記録できる時間、およびファイルサイズについては、612ページを参照してください。

撮影時間の制限について

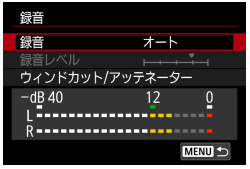
● **ハイフレームレート以外の動画撮影時**

1回に撮影できる時間は最長29分59秒です。29分59秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

● **ハイフレームレート動画撮影時**

1回に撮影できる時間は最長7分29秒です。7分29秒に達した時点で動画撮影が自動的に終了します。動画撮影ボタンを押すと、ハイフレームレート動画撮影を再開することができます（新規ファイルとして記録されます）。

録音の設定



内蔵のステレオマイク、または外部ステレオマイクを使用して、動画撮影を行うことができます。また、録音レベルを任意に調整することもできます。
[📷1：録音] で録音に関する設定を行うことができます。

なお、動画の圧縮方式がALL-Iのときはリニア PCM、IPBのときはAACで音声が記録されます。

録音／録音レベル

● **オート**
録音レベルが自動調整されます。音の大きさに応じて、オートレベルコントロール機能が自動的に働きます。

● **マニュアル**
上級者向けの機能です。録音レベルを任意に調整することができます。**[録音レベル]** を選び、レベルメーターを見ながら〈◄〉〈►〉を押すと、録音レベルを調整することができます。音量が大きいときに、レベルメーターの「12」（−12dB）の右側が、時々点灯するように、ピークホールド機能を参考にして調整します。「0」を超えると音が割れます。

● **しない**
録音は行われません。

ウィンドカット

[オート] に設定すると、屋外で撮影する際、風の影響により発生する「ボコボコ」という音を自動的に低減することができます。カメラに内蔵されたマイクを使用したときのみ機能します。なお、ウィンドカット機能が働くと、低い音の一部も低減されます。

アッテネーター

音割れを抑制する機能です。**[録音]** を **[オート]** または **[マニュアル]** に設定して撮影しても、大音響の環境では音割れすることがあります。そのときは**[入]** に設定することをおすすめします。

● **マイクについて**

通常はカメラに内蔵されたマイクでステレオ録音されます。
外部マイク入力端子に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた外部ステレオマイクを接続すると、外部マイクが優先されます。指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）の使用をおすすめします。

● **ヘッドフォンについて**

ヘッドフォン端子に、ミニプラグ（φ3.5mm）を備えた市販のヘッドフォンを接続すると、動画撮影時の音声を聴くことができます。内蔵マイク、または外部ステレオマイクを使用したときは、ステレオで聴くことができます。ヘッドフォンの音量を調整するときは、〈Q〉ボタンを押して**[🎧]** を選び、〈 〉を回して調整します。
なお、動画再生時もヘッドフォンを使用することができます。

- 内蔵マイク／外部マイク使用時にWi-Fi（無線通信）機能を使用すると、ノイズが録音されることがあります。録音中は無線通信機能を使用しないことをおすすめします。
- カメラに外部マイクやヘッドフォンを接続するときは、プラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- 外部マイク入力端子に、外部マイク以外は接続しないでください。
- ヘッドフォン使用時の音声は、ノイズ低減処理が行われていません。そのため、実際に動画に記録される音声とは異なります。
- ヘッドフォンで音声を聴きながら、**【録音】**の設定を切り換えないでください。突然大きな音が流れて耳を痛める恐れがあります。

- **【**[A+]**】**モードのときは**【録音】**：**【する】【しない】**になります。なお、**【する】**に設定したときは、録音レベルが自動調整されます。
- HDMIケーブルでカメラとテレビを接続したときは、音声も出力されます（**【録音：しない】**設定時を除く）。
- L/R（左/右）の音量バランスを調整することはできません。
- サンプリング周波数48kHz／16bitで記録されます。

タイムコードの設定

タイムコードとは、動画撮影時に映像に同期して自動的に記録される時間軸のことです。「時／分／秒／フレーム」の単位で常時記録されます。主に撮影した動画を編集するときに利用します。

[📷1：タイムコード] でタイムコードの設定することができます。

カウントアップ

● **レックラン**

動画撮影しているときだけ、タイムコードのカウントが進みます。撮影した動画ファイルの順でタイムコードが連続します。

● **フリーラン**

動画撮影をしていないときも、タイムコードのカウントが進みます。

スタート時間設定

タイムコードの起点（スタート時間）を設定することができます。

● **手動入力設定**

「時：分：秒：フレーム」を任意に設定することができます。

● **リセット**

[手動入力設定] **[カメラ時間に設定]** で設定した時間がリセットされ、「00:00:00.」または「00:00:00:」になります（p.208）。

● **カメラ時間に設定**

カメラに設定されている「時:分:秒」に設定されます。「フレーム」は「00」に設定されます。

- **[フリーラン]** の設定でハイフレームレート動画撮影を行ったときは、タイムコードは付加されません。
- **[フリーラン]** 設定時に時刻/エリア/サマータイムの設定を変更すると（p.380）、タイムコードに影響が生じます。
- 撮影した動画をこのカメラ以外で再生したときは、タイムコードが適切に表示されないことがあります。

動画記録カウント

動画撮影画面に表示する内容を選ぶことができます。

● **記録時間**
動画撮影時に撮影開始からの経過時間が表示されます。

● **タイムコード**
動画撮影時にタイムコードが表示されます。

動画再生カウント

動画再生画面に表示する内容を選ぶことができます。

● **記録時間**
動画再生時に撮影時間または再生時間が表示されます。

● **タイムコード**
動画再生時にタイムコードが表示されます。

［タイムコード］設定時

動画撮影時

動画再生時

● タイムコードは、**【動画記録カウント】**の設定に関わらず、動画ファイルに常時記録されます（ハイフレームレート動画＋**【フリーラン】**設定時を除く）。
● **【1：タイムコード】**の**【動画再生カウント】**と**【3：動画再生カウント】**は、設定が連動して切り換わります。
● 動画撮影時、および動画再生中は、「フレーム」は表示されません。

HDMI

● タイムコード

HDMI出力時の映像にタイムコードを付加することができます。

- **切**
  HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- **入**
  HDMI出力映像にタイムコードが付加されます。**[入]**に設定すると、**[記録コマンド]** が表示されます。

● 記録コマンド

HDMI出力した映像を外部記録機器に記録する際に、カメラの動画撮影開始／停止と、外部記録機器の記録を同期させることができます。

- **切**
  外部記録機器側で記録開始／停止を行います。
- **入**
  動画撮影開始／停止と外部記録機器の記録が同期します。

- ハイフレームレート動画撮影時に、**[タイムコード]**の**[カウントアップ]**を**[フリーラン]**に設定してHDMI出力を行ったときは、HDMI出力映像にタイムコードは付加されません。
- 使用する外部記録機器が **[タイムコード]** **[記録コマンド]** に対応しているかどうかについては、外部記録機器メーカーに確認してください。
- **[タイムコード]** を **[切]** に設定していても、外部記録機器側の仕様により、映像にタイムコードが付加されることがあります。HDMI入力時のタイムコードの仕様については、外部記録機器メーカーに確認してください。
- 静止画撮影時に動画撮影ボタンを押して動画撮影を行ったときは、外部記録機器側の対応により、**[記録コマンド]** が正しく機能しないことがあります。

ドロップフレーム

フレームレートの設定が、119.9P（119.9fps）、59.94P（59.94fps）、29.97P（29.97fps）のときに、タイムコードでフレームをカウントすると、実際の時間とタイムコードで差が生じます。**【する】**設定時はこの差が自動的に補正されます。この機能を「ドロップフレーム」といいます。動画編集などを行う上級者向けの機能です。

- **する**
  タイムコードを間引く補正が自動的に行われます（DF：ドロップフレーム）。
- **しない**
  補正は行われません（NDF：ノンドロップフレーム）。

  なお、タイムコードは次のように表示されます。
  - **する（DF）**
    00:00:00.（再生時：00:00:00.00）
  - **しない（NDF）**
    00:00:00:（再生時：00:00:00:00）

フレームレートが100.0P（100.0fps）、50.00P（50.00fps）、25.00P（25.00fps）、24.00P（24.00fps）、23.98P（23.98fps）のときは、ドロップフレームは行われません（100.0P／50.00P／25.00P／24.00P／23.98P設定時、および**【3：ビデオ方式】**が**【PAL】**に設定されているときは、**【ドロップフレーム】**の項目は表示されません）。

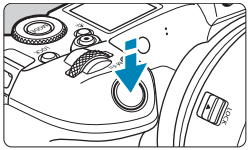
動画を撮影する

自動露出撮影

撮影モードが［］［］のときは、明るさに応じて自動露出制御が行われます。

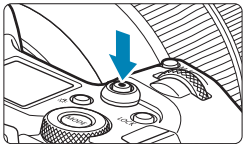
1 撮影モードを［］［］にする

- 〈MODE〉ボタンを押します。
- 〈〉を回して［］または［］を選びます。

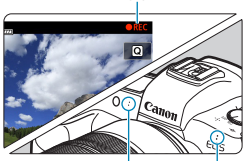


2 ピントを合わせる

- 動画撮影を始める前に、AFまたは手動でピントを合わせます（p.268～275、281）。
- 初期状態では、**［AF 1：動画サーボAF］**が**［する］**に設定されているため、常時ピント合わせが行われます（p.286）。
- シャッターボタンを半押しすると、設定されているAF方式でピント合わせが行われます。



(1)



(2)

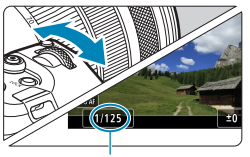
3 動画を撮影する

- 動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が始まります。
  - ➡ 動画撮影中は、画面右上に「●REC」（1）が表示されます。
  - ➡ 図の位置に示すマイク（2）で音声が記録されます。
- もう一度動画撮影ボタンを押すと、動画撮影が終了します。

シャッター優先AE撮影

撮影モードを［］に設定すると、任意にシャッタースピードを設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、絞り数値は、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。

1 撮影モードを［］にする



(1)

2 シャッタースピード（1）を設定する

- 画面を見ながら〈〉を回します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

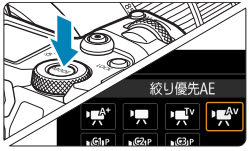
3 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順2、3と同じです（p.209）。

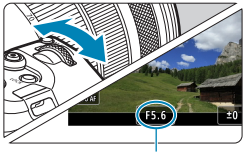
- 動画撮影中にシャッタースピードの変更を行うと、露出変化が記録されるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

絞り優先AE撮影

撮影モードを［］に設定すると、任意に絞り数値を設定して、動画撮影を行うことができます。なお、ISO感度、シャッタースピードは、標準露出になるように、明るさに応じて自動設定されます。



1 撮影モードを［］にする



(1)

2 絞り数値（1）を設定する

- 画面を見ながら〈〉を回します。

3 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順2、3と同じです（p.209）。

動画撮影中に絞り数値の変更を行うと、絞りの駆動による露出変化が記録されるため、おすすめできません。

[📷A+] [📷] [📷Tv] [📷Av] モード共通事項

- [📷A+] モードのときは、画面の左上にカメラが判別したシーンアイコンが表示されます（p.623）。
- 〈✳〉ボタンを押すと、露出を固定（AEロック）することができます（[A+]モードを除く／p.157）。動画撮影中にAEロックを行ったときは、〈⊞〉ボタンを押すと、AEロックを解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- ±3段までの範囲で露出補正を行うことができます（[A+] モードを除く）。
- [📷A+] [📷] モードのときは、動画の画像情報（Exif情報）にISO感度、シャッタースピード、絞り数値は記録されません。
- このカメラは、[📷A+] [📷] [📷Tv] [📷Av] モードで動画を撮影する際、暗い場所でLEDライトが自動的に点灯する機能に対応しています。詳しくは、LEDライトを内蔵したスピードライトの使用説明書を参照してください。

[📷A+] [📷] [📷Tv] [📷Av] モード設定時のISO感度について

[📷A+] [📷] [📷Tv] [📷Av] モードのときは、ISO感度が自動設定されます。ISO感度については、614ページを参照してください。

シーン判別アイコンについて

撮影モードが [📷A+] のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。アイコンについては、623ページを参照してください。

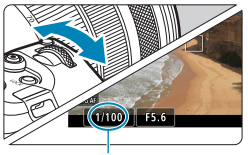
マニュアル露出撮影

任意にシャッタースピード、絞り数値、ISO感度を設定して、動画撮影を行うことができます。動画のマニュアル露出撮影は、上級者向けの機能です。

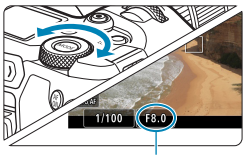
1 撮影モードを［M］にする

2 ISO感度を設定する

- 〈M-Fn〉ボタンを押します。
- 〈 〉を回して、ISO感度の項目を選びます。
- 〈 〉を回して設定します。



(1)



(2)

3 シャッタースピード（1）と絞り数値（2）を設定する

- シャッターボタンを半押しして、露出レベル表示を参考に設定します。
- シャッタースピードは〈 〉、絞り数値は〈 〉を回して設定します。
- 設定できるシャッタースピードは、フレームレートにより異なります。

4 ピントを合わせて撮影する

- 『自動露出撮影』の手順2、3と同じです（p.209）。

- 動画撮影時は、L（ISO50相当）のISO感度拡張はできません。
- 静止画撮影から動画撮影に切り換えたときは、動画撮影を行う前にカメラの設定を再確認してください。
- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されたり、高ISO感度でノイズが記録されることがあるため、おすすめできません。
- 動きのある被写体を動画撮影するときは、1/25～1/125秒程度のシャッタースピードをおすすめします。シャッタースピードを速くするほど、被写体の動きが滑らかに再現されなくなります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行っているときに、シャッタースピードを変更すると、画面のちらつきが記録されることがあります。

- ISOオート設定時に±3段までの範囲で露出補正を行うことができます。
- ISOオート設定時に〈✱〉ボタンを押すと、ISO感度を固定（ロック）することができます。動画撮影中にISO感度を固定したときは、〈⊞〉ボタンを押すと、ISO感度の固定を解除することができます（〈⊞〉ボタンを押すまで保持されます）。
- 〈✱〉ボタンを押して構図を変えると、〈✱〉ボタンを押したときとの露出差を露出レベル表示で確認することができます。
- [M]モード時に撮影準備状態で〈INFO〉ボタンを押すと、ヒストグラムを表示することができます。
- 動画撮影中に〈M-Fn〉ボタンを押すと、〈☁〉でISO感度を変更することができます。

[M] モード設定時のISO感度について

[M] モードのときは、ISO感度を任意に設定したり、[AUTO]（自動設定）を選ぶこともできます。ISO感度については、614ページを参照してください。

シャッタースピードについて

[Tv] シャッター優先AE、[M] マニュアル露出撮影時に、設定できるシャッタースピードは、設定した動画記録画質のフレームレートによって異なります。

<table>
<tr><th rowspan="2">フレームレート</th><th colspan="3">シャッタースピード（秒）</th></tr>
<tr><th>通常動画撮影</th><th>ハイフレームレート動画撮影</th><th>HDR動画撮影</th></tr>
<tr><td>119.9P</td><td rowspan="2">–</td><td>1/4000～1/125</td><td rowspan="3">–</td></tr>
<tr><td>100.0P</td><td>1/4000～1/100</td></tr>
<tr><td>59.94P</td><td rowspan="6">1/4000～1/8</td><td rowspan="6">–</td></tr>
<tr><td>50.00P</td></tr>
<tr><td>29.97P</td><td>[Tv] 1/4000～1/60
[M] 1/1000～1/60</td></tr>
<tr><td>25.00P</td><td>[Tv] 1/4000～1/50
[M] 1/1000～1/50</td></tr>
<tr><td>24.00P</td><td rowspan="2">–</td></tr>
<tr><td>23.98P</td></tr>
</table>

静止画撮影について

動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了し、**[撮影モード]**の設定を静止画撮影に切り換えてから（p.70）、静止画撮影を行ってください。

動画撮影時の情報表示について

動画撮影画面に表示されるアイコン（マーク）については、621ページを参照してください。

動画撮影時共通注意事項

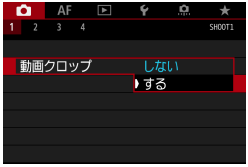
- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- 細かいパターンの被写体を撮影すると、モアレや偽色が発生することがあります。
- 〈AWB〉〈AWB W〉の設定で動画撮影中に、ISO感度や絞り数値が変わると、ホワイトバランスが変化することがあります。
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画を撮影すると、画面にちらつきが発生することがあります。
- USMレンズを使用して暗い場所で動画撮影中にAFを行うと、動画に横縞状のノイズが記録されることがあります。なお、電子式フォーカスリングを備えた一部のレンズでは、手動ピント合わせ（MF）でも同様のノイズが記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。ズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。
- 絞り数値が大きいときは、ピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。
- 動画撮影中にAFを行うと、「一時的にピントが大きくぼける」「動画の明るさが変化して記録される」「動画が一瞬停止して記録される」「レンズの作動音が記録される」などの現象が起こることがあります。
- カメラに内蔵されたマイク（p.209）を指などでふさがないようにしてください。
- **『動画撮影全般の注意事項』は、253ページにまとめて記載しています。**
- **必要に応じて142ページの『静止画撮影全般の注意事項』もお読みください。**

動画撮影時共通事項

- 1回撮影するたびに、カードに新たな動画ファイルが作成されます。
- 映像の視野率は、4K／フルHD／HD撮影時ともに約100%です。
- 〈AF ON〉ボタンでピント合わせを行うこともできます。
- **[4:ボタンの機能]**の**[全押し]**を**[動画撮影の開始/終了]**に設定すると、シャッターボタンの全押しで、動画撮影を開始／終了することができます。
- 音声はカメラに内蔵されたマイク（p.209）でステレオ録音されます。
- 外部マイク入力端子に、指向性ステレオマイクロホン DM-E1（別売）などの外部マイクを接続すると、外部マイクが優先されます（p.203）。
- ミニプラグ（φ3.5mm）を備えたマイクであれば、ほとんどの外部マイクが使用できます。
- EFレンズ使用時は、2011年下期以降に発売された、フォーカスプリセット機能を備えた（超）望遠レンズ使用時は、動画撮影時にフォーカスプリセットを行うことができます。
- カラーサンプリングは、4K動画／フルHD動画／HD動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4K動画／フルHD動画／HD動画：Rec.ITU-R BT.709で記録されます。

動画クロップ撮影 応用

RFレンズ、EFレンズ使用時に、撮影画面の中央部分をクロップした動画（望遠レンズで撮影したような動画）を撮影することができます。
なお、動画撮影時にEF-Sレンズを使用したときは、動画クロップ撮影設定時と同等の撮影になります。



1 **［📷1：動画クロップ］を選ぶ**

2 **［する］を選ぶ**

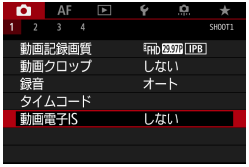
➡ 中央部分が拡大表示されます。

- 動画クロップ撮影時は、FHD 59.94P ALL-I、FHD 59.94P IPB、FHD 50.00P ALL-I、FHD 50.00P IPB、およびハイフレームレート動画は、撮影できません。
- **［📷1：動画電子IS］**を**［する］［強］**に設定したときは、撮影画面の中央部分がさらにクロップされます（撮影範囲が狭くなります）。

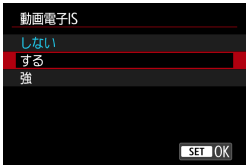
- 動画クロップ撮影時の撮影範囲は、EF-Sレンズ使用時と同等です。
- 4K動画撮影時は、常に撮影画面の中央部分をクロップした状態で撮影されるため、**［📷1：動画クロップ］**の設定を行っても、撮影画角は変化しません。
- 撮影範囲については、194ページを参照してください。

動画電子IS

動画撮影時の手ブレを、カメラの電子式手ブレ補正機能で軽減することができます。この機能を「動画電子IS」といいます。手ブレ補正機能が搭載されていないレンズでも、動画電子IS機能により、手ブレ補正効果が得られます。レンズに光学式手ブレ補正機能が内蔵されているときは、レンズの手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。



1 **［1：動画電子IS］を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

- **しない（OFF）**
  動画電子ISによる手ブレ補正は行われません。
- **する（1）**
  手ブレ補正が行われます。映像がやや拡大されます。
- **強（2）**
  ［する］設定時より、大きな手ブレを補正することができます。映像がさらに拡大されます。

コンビネーションIS機能について

「コンビネーションIS」機能に対応したレンズと、動画電子IS機能を併用して動画撮影を行うと、レンズの光学式手ブレ補正機能とカメラの電子式手ブレ補正機能が協調して、より高い補正効果が得られます。

- レンズの（光学式）手ブレ補正スイッチが〈OFF〉のときは、動画電子ISは機能しません。
- EF-Sレンズ使用時、および動画クロップ撮影時も、動画電子IS機能を使用した動画撮影ができますが、撮影範囲がさらに狭くなります。
- レンズの焦点距離が800mmを超えるときは、動画電子ISは機能しません。
- 動画記録画質の設定により、動画電子ISの手ブレ補正効果が小さくなることがあります。
- 画角が広い（広角な）ほど手ブレ補正効果は大きくなり、画角が狭い（望遠な）ほど、手ブレ補正効果は小さくなります。
- 三脚使用時は**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 被写体や撮影条件によっては、動画電子ISの効果により、被写体のブレが目立つ（被写体が一瞬ボケたように見える）ことがあります。
- TS-Eレンズや魚眼レンズ使用時、他社製レンズ使用時は、**【しない】**に設定することをおすすめします。
- 動画電子ISを使用すると、映像が拡大されるため、映像が粗くなります。また、ノイズや輝点などが目立つことがあります。

- コンビネーションIS機能に対応したレンズについては、キヤノンのホームページを参照してください。
- コンビネーションIS機能に対応したレンズを使用したときは、220ページに示した動画電子ISのマークに「+」が付加された状態で表示されます。

HDR動画を撮影する

明暗差の大きいシーンで、白とびが緩和された階調の広い（ハイダイナミックレンジな）動画を撮影することができます。
RFレンズ／EFレンズ使用時は、［📷1：**動画記録画質**］の［**動画記録サイズ**］が FHD 29.97P IPB（NTSC）、FHD 25.00P IPB（PAL）に設定されているときに、EF-Sレンズ使用時、および動画クロップ撮影時は、HD 29.97P IPB（NTSC）、HD 25.00P IPB（PAL）に設定されているときに、クイック設定画面からHDR動画の設定を行うことができます。

1 ［動画記録サイズ］を確認する

- ［📷1：**動画記録画質**］の［**動画記録サイズ**］が上記のサイズに設定されていることを確認します。

2 〈Q〉ボタンを押す（⏱10）

3 ［HDR OFF］を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して、画面の右下に表示された［HDR OFF］（HDR動画撮影）を選びます。

4 ［HDR］（する）を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して、［HDR］（する）を選びます。

5 HDR動画を撮影する

- 通常の動画撮影と同じ方法で撮影します。
- 記録できる時間とファイルサイズについては、612ページの表を参照してください。

- EF-Sレンズ使用時、および動画クロップ撮影時は、HD画質での撮影になります（フルHD画質の撮影はできません）。
- HDR動画撮影時のISO感度の自動設定／手動設定範囲は、ISO100～25600です。ISO感度拡張はできません。
- シャッタースピードについては、215ページを参照してください。
- 【M】モードのときは、最低ISO感度がISO400になります。
- 【**1：動画電子IS**】【**2：タイムラプス動画**】【**3：高輝度側・階調優先**】【Canon Log】が設定されているときは、HDR動画撮影の設定はできません。
- HDR動画撮影時にシャッタースピードが適切に設定されていても、映像にフリッカーが発生することがあります。
- HDR動画は、複数のフレームを合成して映像を生成するため、映像の一部がゆがむことがあります。手持ち撮影のときは、手ブレにより、この現象が目立つことがあるため、三脚の使用をおすすめします。なお、三脚を使用して撮影しても、コマ送りやスロー再生を行ったときは、通常の再生を行ったときに比べ、残像が目立ったり、ノイズが増えたように見えることがあります。
- HDR動画撮影の設定を切り換えたときは、映像の色あいや明るさなどが瞬時に大きく変化することがあります。また、映像が一時的に更新されなくなります（一瞬フレームストップ）。外部記録機器でHDMI出力映像を記録するときは注意してください。

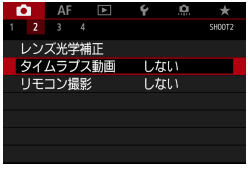
タイムラプス動画を撮影する

一定間隔で撮影した静止画を自動でつなぎ合わせて、4K動画またはフルHD動画にすることができます。この機能を使うと、撮影開始から終了までの被写体の変化を、コマ送りのようにして短時間にまとめることができます。景色の変化、植物の成長、星の動きなどの定点観測に効果的です。

タイムラプス動画は、4K撮影時：4K 29.97P ALL-I（NTSC）／4K 25.00P ALL-I（PAL）、フルHD撮影時：FHD 29.97P ALL-I（NTSC）／FHD 25.00P ALL-I（PAL）の設定で、ともにMP4形式で記録されます。

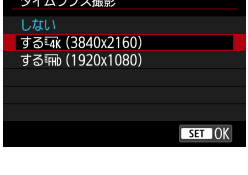
なお、フレームレートは、**[3：ビデオ方式]**の設定（p.384）により自動的に切り換わります。

1 撮影モードを選ぶ



2 [2：タイムラプス動画]を選ぶ

3 [タイムラプス撮影]を選ぶ

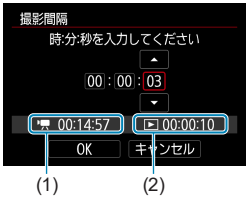


4 動画記録サイズを選ぶ

● サイズを選び〈SET〉を押します。

● **する 4K（3840×2160）**
4K画質で記録されます。画面の横縦比は16:9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。

● **する FHD（1920×1080）**
フルハイビジョン（Full HD）画質で記録されます。画面の横縦比は16：9です。なお、フレームレートはNTSC：29.97fps（29.97P）／PAL：25.00fps（25.00P）、圧縮方式はALL-I（ALL-I）、動画記録形式はMP4（MP4）で記録されます。



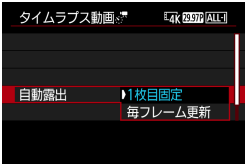
5 撮影間隔を設定する

● **[撮影間隔]** を選びます。
● **[🚗:撮影所要時間]**（1）、**[▶:再生時間]**（2）を参考にして設定します。
● 項目（時：分：秒）を選びます。
● 〈**SET**〉を押して〈☝〉の状態にします。
● 数値を設定し〈**SET**〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
● **[00：00：02]** ～ **[99：59：59]** の範囲で設定することができます（1秒間隔の撮影はできません）。
● **[OK]** を選ぶと設定されます。

6 撮影回数を設定する

- **[撮影回数]** を選びます。
- **[🎥：撮影所要時間]** **[▶：再生時間]** を参考にして設定します。
- 項目（桁）を選びます。
- 〈SET〉を押して〈⌂〉の状態にします。
- 数値を設定し〈SET〉を押します（〈□〉の状態に戻ります）。
- **[0002]** ～ **[3600]** の範囲で設定することができます。
- **[▶：再生時間]** が赤く表示されていないことを確認します。
- **[OK]** を選ぶと設定されます。

- タイムラプス動画が記録できるカード（要求カード性能）については、611ページを参照してください。
- 撮影回数を3600回に設定したときは、NTSC設定時：約2分、PAL設定時：約2分24秒のタイムラプス動画になります。



7 露出の設定方法を選ぶ

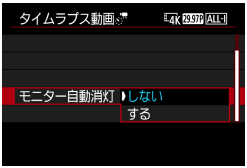
- **[自動露出]** を選びます。
- 内容を選び〈**SET**〉を押します。

● 1枚目固定

1枚目を撮影するときに測光が行われ、明るさに応じて露出が自動的に決まります。2枚目以降は1枚目と同じ露出で撮影されます。また、撮影に関する設定も、1枚目と同じ設定で撮影されます。

● 毎フレーム更新

2枚目以降も毎回測光が行われ、そのときの明るさに応じて露出が自動的に決まります。なお、ピクチャースタイル、ホワイトバランスなどの機能が、**[オート]** に設定されているときは、2枚目以降も1枚毎に自動更新されます。



8 映像の表示有無を設定する

- **[モニター自動消灯]** を選びます。
- 内容を選び〈**SET**〉を押します。

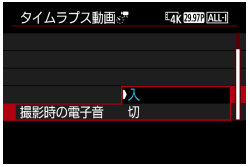
● しない

タイムラプス動画撮影中も、映像が表示されます（撮影のときだけ画面が消灯します）。撮影開始から約30分経過すると、画面が消灯します。

● する

撮影開始から約10秒経過すると、画面が消灯します。

タイムラプス動画撮影中に〈**INFO**〉ボタンを押すと、画面を点灯／消灯することができます。



9 電子音を設定する

- **[撮影時の電子音]** を選びます。
- **[切]** に設定すると、撮影が行われるときに電子音が鳴らなくなります。

10 設定内容を確認する

(1) 撮影所要時間

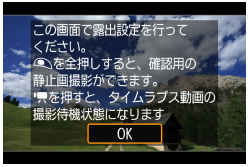
撮影間隔、撮影回数をもとに撮影に必要な時間が表示されます。なお、24時間を超えるときは、「***日」で表示されます。

(2) 再生時間

一定間隔で撮影した静止画から4K動画、またはフルHD動画を生成したときに、動画として記録される時間です（＝動画再生に必要な時間）。

11 メニューを終了する

- 〈**MENU**〉ボタンを押してメニュー画面を消します。



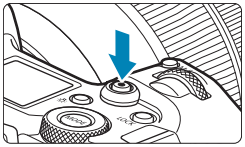
12 メッセージを確認する

- メッセージを確認して **[OK]** を選びます。

13 テスト撮影する

- 静止画撮影と同じように、露出や撮影機能の設定を行い、シャッターボタンを半押ししてピントを合わせます。
- シャッターボタンを全押しすると、テスト撮影が行われ、カードに画像（静止画）が記録されます。
- 撮影結果を確認し、問題がなければ次の手順に進みます。
- もう一度テスト撮影するときは、この手順を繰り返します。

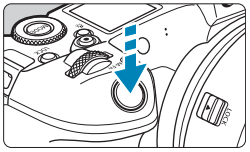
- テスト撮影画像は、JPEG **L**の画質で記録されます。
- **[M]** モードのときは、1/4000～30秒の範囲でシャッタースピードを設定することができます。
- **[ ] [ ] [ ]** モード、および **[M]** モード+ISOオート設定時に、自動設定されるISO感度の上限を、**[3: ISO感度に関する設定]** の **[ISOオート]** で設定することができます（p.246）。
- マニュアル露出撮影時に、**[3: ISO感度に関する設定]** の **[ISO感度の範囲]** または **[の範囲]** の **[上限値]** を **[H2 (102400)]** に設定すると、手動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。
- **[4: ボタンの機能]** の **[半押し]** が、**[測光・動画サーボ]** に設定されている状態で、タイムラプス動画撮影の設定を行うと、自動的に **[測光・ワンショット]** に切り換わります。



14 動画撮影ボタンを押す

➡ タイムラプス動画の撮影準備状態になります。

● 手順13に戻る時は、もう一度動画撮影ボタンを押します。



15 タイムラプス動画を撮影する

● 〈INFO〉ボタンを押して、画面に表示される「撮影所要時間(1)」「撮影間隔(2)」を再確認します。

● **シャッターボタンを全押しすると、タイムラプス動画撮影が始まります。**

● タイムラプス動画撮影中は、AFは行われません。

● タイムラプス動画撮影中は、画面の右上に赤字で「●REC」が表示されます。

● 電子シャッターによる撮影のため、タイムラプス動画撮影中は、シャッターの作動音はしません。

➡ 設定した回数の撮影が終わると、タイムラプス動画撮影が終了します。

● タイムラプス動画撮影を解除するときは、**【タイムラプス撮影】**を**【しない】**に設定します。

- 三脚の使用をおすすめします。
- 事前に手順13のテスト撮影や、タイムラプス動画自体のテスト撮影をおすすめします。
- **[1：動画記録画質]** の **[動画記録サイズ]** の設定に関わらず、4Kタイムラプス動画：4K 29.97P ALL-I（NTSC）／4K 25.00P ALL-I（PAL）、フルHDタイムラプス動画：FHD 29.97P ALL-I（NTSC）／FHD 25.00P ALL-I（PAL）で記録されます。
- 映像の視野率は、4K／フルHDタイムラプス動画撮影時ともに約100%です。
- タイムラプス動画撮影を開始したあと、途中で中止するときは、シャッターボタンを全押しするか、動画撮影ボタンを押します。そのときは、中止したときまでのタイムラプス動画がカードに記録されます。
- 撮影所要時間が24時間超～48時間以下のときは2日と表示されます。3日以上のときも同じように、24時間単位の基準で表示されます。
- タイムラプス動画の「再生時間」が1秒未満でも、動画ファイルが生成されます。そのとき **[再生時間]** は「00：00：00」と表示されます。
- 撮影時間が長くなるときは、家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。
- カラーサンプリングは、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：YCbCr 4:2:0（8bit）、色空間は、4Kタイムラプス動画／フルHDタイムラプス動画：Rec. ITU-R BT.709で記録されます。

- 設定した撮影回数でカードの容量が不足するときは、**[再生時間]** が赤く表示されます。そのまま撮影することはできますが、カードの残量がなくなった時点で撮影が終了します。
- 設定した **[撮影回数]** でファイルサイズが4GBを超えるときに、カードがexFAT形式でフォーマットされていないときは（p.374）、**[再生時間]** が赤く表示されます。そのまま撮影を行ったときは、ファイルサイズが4GBに達した時点で、タイムラプス動画撮影が終了します。

- カメラを強い光源（太陽や人工的な強い光源など）に向けないでください。撮像素子やカメラの内部が損傷する恐れがあります。
- インターフェースケーブルでパソコンと接続しているときや、HDMIケーブルを接続しているときは、**【する】**を選ぶことはできません。
- 動画サーボAFは機能しません。
- **【**Tv**】**（シャッター優先AE）モードのときは、タイムラプス動画撮影中、絞りが固定され、ISO感度で露出制御が行われます。
- シャッタースピードが1/30秒以下のときは、映像の露出が適切に表示されない（実際の撮影結果と異なる）ことがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズのズーム操作を行わないでください。ピントがぼけたり、露出が変化したり、レンズ光学補正が適切に行われないことがあります。
- フリッカー光源下でタイムラプス動画撮影を行うと、画面に強いちらつきが発生したり、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。
- タイムラプス動画撮影時に表示される映像と、実際の撮影結果は異なることがあります（フリッカーによるちらつきや、高ISO感度撮影時のノイズなど）。
- 暗い撮影条件下でタイムラプス動画撮影を行ったときは、撮影中に表示される映像と、実際の撮影結果が異なることがあります。そのときは〈Exp.SIM〉マークが点滅します。
- タイムラプス動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像が強くゆがんで写ることがあります。
- タイムラプス動画撮影中は、オートパワーオフは機能しません。また、撮影機能やメニュー機能の設定、画像再生などの操作はできません。
- タイムラプス動画に音声やタイムコードは記録されません。
- タイムラプス動画撮影時は、**【**4: **ボタンの機能】**の設定に関わらず、シャッターボタンを全押しすると、動画撮影を開始／終了することができます。
- **【撮影間隔】**が3秒以下で、**【自動露出】**が**【毎フレーム更新】**に設定されているときに、1フレーム前と明るさが大きく異なるときは、設定した間隔で撮影が行われないことがあります。

- 長秒時露光など、シャッタースピードが撮影間隔より長く設定されているときや、遅いシャッタースピードが自動設定されたときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。また、シャッタースピードが撮影間隔と近いときも、撮影が行われないことがあります。
- 次の撮影が行われるタイミングで撮影できないときは、その回の撮影がキャンセルされます。そのため、生成される動画の記録時間が短くなることがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- **[モニター自動消灯]** を **[しない]** に設定しても、露光中はモニターが消灯します。
- **[モニター自動消灯]** を **[しない]** に設定しても、次の撮影までの間隔が短いときは、映像が表示されないことがあります。
- 撮影機能の設定やカードの性能などにより、カードに記録する時間が撮影間隔よりも長いときは、設定した間隔で撮影できないことがあります。
- 撮影画像は静止画としては記録されません。1枚だけ撮影したあと、撮影を中止しても動画ファイルとして記録されます。
- カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続して、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、**[2：タイムラプス動画]** を **[しない]** に設定してください。**[する]** に設定されているときは、パソコンと通信できません。
- タイムラプス動画撮影中は、レンズの手ブレ補正機能は作動しません。
- 電源スイッチ〈OFF〉などを行ったときは、タイムラプス動画撮影が終了し、設定が **[しない]** になります。
- ストロボを使用しても発光しません。
- 次の操作を行うと、タイムラプス動画の撮影準備状態が解除され、設定が **[しない]** になります。
  - **[3:センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング]**、**[手作業でクリーニング]**、**[6:カメラ設定初期化]** を選んだとき

- 白い〈🌡〉温度上昇警告（p.253）が表示されている状態で、タイムラプス動画撮影を開始すると、タイムラプス動画の画質が低下することがあります。白い〈🌡〉が消えてから（カメラ内部の温度が下がってから）撮影開始することをおすすめします。
- **【自動露出】**を**【毎フレーム更新】**に設定して撮影したときは、撮影モードにより、タイムラプス動画の画像情報（Exif情報）に、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値が記録されないことがあります。

ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売／p.174）を使用して、タイムラプス動画の撮影の開始／終了などを行うことができます。

● ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

- あらかじめ、ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1とペアリングを行ってください（p.408）。
- **［📷2：リモコン撮影］**を**［する］**に設定してください。
- テスト撮影を行い、カメラを撮影準備状態（p.230 手順14の状態）にしたあと、BR-E1の撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを、〈●〉即レリーズ（すぐに撮影）、または〈**2**〉2秒後レリーズ（2秒後撮影）に設定してください。
- リモコンのスイッチが**［🎥］**に設定されているときは、タイムラプス動画撮影を開始することはできません。

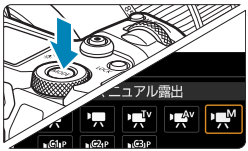
カメラの状態／リモコン設定	〈2〉2秒後撮影 〈●〉すぐに撮影	［🎥］動画撮影
テスト撮影画面	テスト撮影	撮影待機状態へ
撮影待機状態	撮影開始	テスト撮影画面へ
タイムラプス動画撮影中	撮影終了	撮影終了

タイムラプス動画撮影可能時間の目安について

タイムラプス動画撮影ができる時間（撮影開始からバッテリー切れまで）の目安については、613ページを参照してください。

Canon Logを設定した動画撮影 応用

Canon Log は、撮像素子の特性を最大限に引き出し、動画記録時に広いダイナミックレンジを確保することを目的とした、ポストプロダクション処理を前提にしたガンマ特性です。黒つぶれや白飛びが少なく、シャドウからハイライトまでの情報を映像に取り入れることができます。
なお、Canon Log で記録した映像は、ルックアップテーブル（LUT）を適用してポストプロダクション処理を行うことができます。LUTデータは、キヤノンのホームページからダウンロードしてください。



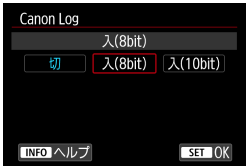
1 撮影モードを［M］にする

- 撮影モードが［M］以外のときは、手順3以降の設定はできません。

2 ［4：Canon Log設定］を選ぶ

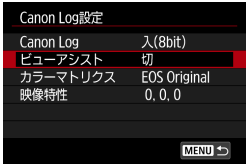
3 ［Canon Log］を選ぶ

- 〈SET〉を押します。



4 ［入(8bit)］または［入(10bit)］を選ぶ (p.238)

- Canon Logで撮影した動画をカードに記録するときは、［入(8bit)］を選びます。
- HDMI出力映像を外部記録機器で記録するときは、［入(8bit)］または［入(10bit)］を選びます。



5 各項目の内容を設定する

- **[ビューアシスト] [カラーマトリクス] [映像特性] [HDMI色空間]** の内容を設定します。詳しくは、239～241ページを参照してください。

6 撮影機能を設定する

- ISO感度を手動設定します（p.242）。
- シャッタースピード、絞り数値を設定します。

7 映像を記録する

- カードに動画を記録するときは、611ページを参照してから、動画撮影を行ってください。
- HDMI出力映像を記録するときは、カメラと外部記録機器をHDMIケーブルで接続します。
- 外部記録機器を使ったHDMI出力映像の記録方法については、外部記録機器の使用説明書を参照してください。

● Canon Log

● 入(8bit)

Canon Logで撮影した動画をカードに記録することができます。また、HDMI出力映像を外部記録機器で記録することもできます。HDMI出力映像の画質は、**[📷1: 動画記録画質]**の設定に応じて、自動的に切り換わります。

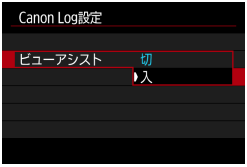
● 入(10bit)

10bitでHDMI出力した4K映像（3840×2160）を、4K・10bit記録に対応した外部記録機器で記録するときに選びます。カードに動画を記録することはできません。なお、**[📷4：HDMI接続時の表示]**が、自動的に**[📷+🖵]**に設定されます。

- **[入(10bit)]**設定時に、外部記録機器が4K・10bit記録に対応していないときは、HDMI出力は行われません。映像が出力されないときは、外部記録機器側の対応を確認してください。
- **[入(10bit)]**設定時は、フルHD/HD出力はできません。
- **[🎥]**（動画C3）モードに**[入(10bit)]**が登録されているときは、**[📷]**モード以外の静止画撮影時に、動画撮影ボタンを押しても（p.209）、動画撮影は行われません。

Canon Log映像をカードに記録するときの、カラーサンプリング（YCbCr 4:2:0（8bit））、色空間（Rec. ITU-R BT.709）は、通常の動画撮影時と同じです。

● ビューアシスト

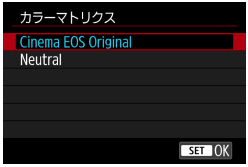


Canon Logは、広いダイナミックレンジを確保することを目的とした映像特性のため、モニターに表示される映像は、ピクチャースタイル設定時に比べ、低コントラストでやや暗い映像になります。
[ビューアシスト] を **[入]** に設定すると、モニターに表示される映像が見やすい特性で（ビューアシスト）表示され、ディテールなどを確認しやすくなります。

- **[入]** に設定しても、カードに記録される映像には影響しません（Canon Logの特性でカードに記録されます）。また、HDMI出力映像は、Canon Logの特性で出力されます（ビューアシストは行われません）。

- ビューアシスト表示のときは、情報表示画面に **[V.Assist]** が表示されます。
- **[入]** 設定時は、拡大表示を行ったときも、ビューアシスト表示が行われます。

● カラーマトリクス



カラーマトリクスは、（ポストプロダクション処理を行ったときの）色の再現性を設定する機能です。

- **Cinema EOS Original**
  業務用映像機器 CINEMA EOSの **[Cinema EOS Original]** に準じた色再現です。
- **Neutral**
  業務用映像機器 CINEMA EOSの **[Neutral]** に準じた色再現です。被写体の実際の色に近い色になります。

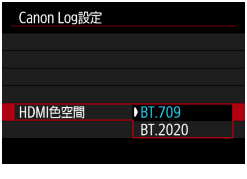
● 映像特性

必要に応じて調整します。項目（**[シャープネス：強さ]**［**彩度**］［**色相**］）を選び、効果の度合いを設定し、〈**SET**〉を押します。

シャープネス：強さ		0：輪郭強調・控えめ	7：輪郭強調・強め
彩度		−4：低い	+4：高い
色相*	**赤色**	−4：マゼンタ寄り	+4：黄色寄り
	緑色	−4：黄色寄り	+4：シアン寄り
	青色	−4：シアン寄り	+4：マゼンタ寄り

* 赤色、緑色、青色を個別に調整することはできません。

● HDMI色空間



[Canon Log] を **[入(10bit)]**、**[カラーマトリクス]** を **[Neutral]** に設定したときに、**[HDMI色空間]** の設定を行うことができます。
HDMI出力時の色空間を、**[BT.709]** **[BT.2020]** から選ぶことができます。

撮影機能の設定について

- ISOオートでの撮影はできません（ISOオートの設定でCanon Logを設定したときは、ISO400に設定されます）。ISO感度を手動設定してください。
- ISO感度をISO100～320に手動設定したときは、ダイナミックレンジが狭くなります。
- Canon Log設定時のダイナミックレンジは、ISO400以上で約800%です。
- Canon Log撮影時は、通常の動画撮影時に比べ、低輝度下の被写体や、明暗差（コントラスト）の少ない被写体に対して、AF でピントが合いにくいことがあります。

Canon Log撮影時のISO100/125/160/200/250/320は、拡張感度です。ISO感度設定時に **[L]** と表示されます。

Canon Logの画質について

- Canon Log設定時は、被写体条件や撮影条件により、映像に横縞状のノイズが発生することがあります。そのため、事前にテスト撮影を行い、映像を確認してから撮影することをおすすめします。なお、撮影した映像をグレーディング処理する際、特にコントラストを強くすると、ノイズが顕著になることがありますので、ご注意ください。
- Canon Log設定時は、空や白壁などのグラデーションが滑らかに再現されなかったり、露出ムラや色ムラ、ノイズが発生することがあります。
- 横縞状のノイズは、「やや暗く平坦な被写体」を撮影したときに発生しやすくなります。なお、このノイズは、ISO400程度の比較的低い感度でも発生することがあります。
- ノイズが目立つときは、やや明るめに撮影を行い、グレーディング処理の際に明るさ調整を行うことをおすすめします。また、（ダイナミックレンジが狭くなりますが）ISO400未満で撮影すると、ノイズを軽減できることがあります。

Canon Log撮影時全般の注意事項

- Canon Log設定時は、HDR動画の設定はできません（機能しません）。
- Canon Log設定時は、［📷2：**レンズ光学補正**］の**［周辺光量補正］**は**［しない］**に設定されます。
- 「Canon Log 2」「Canon Log 3」には対応していません。

Canon Logで撮影した動画の再生について

動画再生時にビューアシスト表示は行われません。

メニュー機能の設定

ここでは、動画撮影に関連したメニュー機能について説明しています。

[📷1]

- **動画記録画質**
  動画記録画質については、192ページを参照してください。
- **動画クロップ** 応用
  動画クロップ機能については、219ページを参照してください。
- **録音**
  録音については、202ページを参照してください。
- **タイムコード**
  タイムコードについては、205ページを参照してください。
- **動画電子IS**
  動画電子IS機能については、220ページを参照してください。

[📷2]

● レンズ光学補正 応用

動画撮影時は、周辺光量補正、歪曲収差補正、色収差補正を行うことができます。レンズ光学補正については、110ページを参照してください。

● タイムラプス動画

タイムラプス動画撮影については、224ページを参照してください。

● リモコン撮影

[する] に設定すると、ワイヤレスリモートコントローラーBR-E1（別売／p.174）を使用して、動画撮影の開始／停止を行うことができます。あらかじめ、BR-E1とペアリングを行ってください（p.408）。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1使用時

通常の動画撮影を行うときは、撮影タイミング／動画撮影切り換えスイッチを〈🎥〉の位置にして、レリーズボタンを押します。
タイムラプス動画撮影を行うときは、235ページを参照してください。

[📷3] 応用

● 露出補正 応用

1/3段ステップ±3段の範囲で露出補正を行うことができます。露出補正については、154ページを参照してください。

● 🎥ISO感度に関する設定 応用

● ISO感度

[🎥M] モードのときに、ISO感度を任意に設定することができます。ISOオートを選ぶこともできます。

● ISO感度の範囲

フルHD/HD動画撮影時、フルHDタイムラプス動画撮影時のISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。初期状態ではISO100～25600に設定されています。下限値はISO100～H1（ISO51200相当）、上限値はISO200～H2（ISO102400相当）の範囲で設定することができます。

● 4K の範囲

4K動画撮影時、4Kタイムラプス動画撮影時のISO感度の手動設定範囲（下限値／上限値）を設定することができます。初期状態ではISO100～12800に設定されています。下限値はISO100～H1（ISO51200相当）、上限値はISO200～H2（102400相当）の範囲で設定することができます。

● ISOオート

[🎥] [🎥Tv] [🎥Av] モード、または [🎥M] モード+ISOオートの設定でフルHD/HD動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。初期状態では **[上限25600]** に設定されています。**[上限6400]** ～ **[上限H2（102400）]** の範囲で上限を設定することができます。

- **4K ISOオート**
  [ ] [ ] [ ] モード、または [ ] モード+ISOオートの設定で4K動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。初期状態では **[上限12800]** に設定されています。**[上限6400]** ～ **[上限H2 (102400)]** の範囲で上限を設定することができます。

- **ISOオート**
  [ ] [ ] [ ] モード、または [ ] モード+ISOオートの設定で4Kタイムラプス/フルHDタイムラプス動画撮影を行ったときに、自動設定されるISO感度の上限を設定することができます。初期状態では **[上限12800]** に設定されています。**[上限400]** ～ **[上限25600]** の範囲で上限を設定することができます。

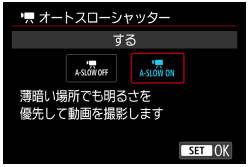
フルHD/HD動画撮影時のISO32000/40000、および4K動画撮影時のISO16000/20000/25600/32000/40000は拡張感度です（**[H]** と表示されます）。

● オートライティングオプティマイザ 応用
明るさとコントラストの自動補正を行うことができます。オートライティングオプティマイザ機能については、104ページを参照してください。

● 高輝度側・階調優先 応用
ハイライト部分の白とびが緩和された動画を撮影することができます。高輝度側・階調優先については、109ページを参照してください。

動画撮影時は、**[3：高輝度側・階調優先]** 設定時に **[強]** は選択できません（表示されません）。

● オートスローシャッター 応用



暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に遅くして、**[しない]**設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を記録するかどうかを選択することができます。
この機能は、撮影モードが**[ ][ ]**のときに設定できます（機能します）。また、動画記録画質のフレームレートが、59.94P、50.00Pのときに機能します。

● しない

[する]設定時よりも被写体のブレが少なく、自然でなめらかな動きが撮影できます。ただし、暗い場所では、**[する]**設定時よりも映像が暗くなることがあります。

● する

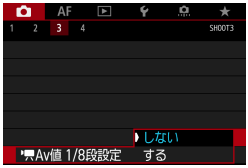
暗い場所で動画撮影を行ったときに、シャッタースピードを自動的に1/30秒（NTSC）、または1/25秒（PAL）まで遅くして、**[しない]**設定時よりも明るくノイズを抑えた映像を撮影することができます。

暗い場所で動きのある被写体を撮影するときや、尾を引いたような残像が出るときは、**[しない]**に設定することをおすすめします。

● 測光タイマー 応用

測光タイマーについては、119ページを参照してください。

● Av値1/8段設定 応用



RFレンズ使用時に、動画撮影時の絞り数値の設定ステップをさらに細かくすることができます。

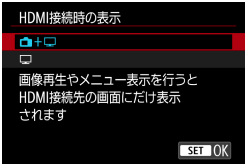
【する】を選ぶと、**【Av】【M】**モード時の絞り数値の設定が、1/3段（1/2段）ステップから1/8段ステップに変わります。

- EFレンズ／EF-Sレンズ使用時は、**【Av値1/8段設定】**は表示されません（設定できません）。
- EFレンズ／EF-Sレンズ使用時は、**【する】**に設定しても、絞り数値の設定は1/8段ステップにはなりません。
- **【する】**に設定したときは、**【1：露出設定ステップ】**で設定されている内容は機能しません（無効になります）。

[📷4] 応用

- **ホワイトバランス** 応用
  ホワイトバランスについては、97ページを参照してください。
- **MWB画像選択** 応用
  MWB画像選択については、100ページを参照してください。
- **WB補正** 応用
  WB補正については、102ページを参照してください。
- **ピクチャースタイル** 応用
  ピクチャースタイルについては、88ページを参照してください。
- **Canon Log設定** 応用
  Canon Logについては、236ページを参照してください。
- **高感度撮影時のノイズ低減** 応用
  高感度撮影時のノイズ低減については、105ページを参照してください。

● HDMI接続時の表示



外部記録機器でHDMI出力映像を記録するための機能です。映像は**[動画記録サイズ]**の設定に応じて、4K画質（3840×2160）、またはフルHD画質（1920×1080）で出力されます。
なお、初期状態では**[📷+🖵]**に設定されています。

● 📷+🖵

- 映像をカメラの画面に表示しながら、HDMI出力による映像表示を行うことができます。
- 画像再生やメニュー表示を行ったときは、HDMI出力先に画像やメニューが表示され、カメラの画面には表示されません。

● 🖵

- HDMI出力を行ったときは、カメラの画面が消灯します（何も表示されません）。
- HDMI出力した映像に撮影情報やAFフレームなどが表示されますが、外部記録機器に接続した外部モニターなどを見ながら〈INFO〉ボタンを押すと、情報なし出力を行うことができます。
- 外部記録機器に映像を記録するときは、外部モニターなどで撮影情報やAFフレームなどが表示されていない（情報なし出力が行われている）ことを確認してから記録してください。

? HDMI出力を長時間行いたい

30分以上連続してHDMI出力を行うときは、[📷+🖥]を選び、[🔧2：節電]の[オートパワーオフ]を[しない]に設定してください（p.377）。なお、[ディスプレイオフ]で設定した時間が経過すると、カメラのモニターが消灯しますが、HDMI出力は継続して行われます。

- 情報表示なしのHDMI出力を行ったときは、カード残量やバッテリー残量、内部温度上昇（p.253）などの警告は、HDMI出力先の画面に表示されません。
- HDMI出力中に、動画記録画質やフレームレートを切り換えると、次の画像が表示されるまでに時間がかかることがあります。
- HDMI出力映像に情報が表示されることがあるため、外部記録機器で映像を記録しているときは、操作を行わないことをおすすめします。
- カメラで撮影した動画と、HDMI出力を外部記録機器で記録した映像の明るさと色味は、閲覧する環境により異なって見えることがあります。

- 〈INFO〉ボタンを押すと、表示される情報を切り換えることができます。
- HDMI出力映像にタイムコードを付加することができます（p.207）。
- HDMI出力時に音声も出力されます（[録音：しない]設定時を除く）。

動画撮影全般の注意事項

カメラ内部の温度上昇に伴う、赤い〈[cam]〉表示について

- 動画撮影を長時間行ったり、高温下で動画撮影を行うと、カメラ内部の温度が上昇し、赤い〈[cam]〉が表示されます。
- 赤い〈[cam]〉は、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています。そのときは、カメラ内部の温度が下がるまで、撮影ができなくなりますので、一旦電源を切り、しばらく休止してください。
- 高温下で動画撮影を長時間行うと、赤い〈[cam]〉が表示されるタイミングが早くなります。撮影しないときは、こまめに電源を切ってください。

記録と画質について

- 手ブレ補正機能を搭載したレンズ使用時は、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にすると、シャッターボタンを半押ししなくても、常時手ブレ補正機能が作動します。そのため、バッテリーが消耗し、撮影条件により動画撮影時間が短くなることがあります。三脚使用時など、補正の必要がないときは、手ブレ補正スイッチを〈OFF〉にすることをおすすめします。
- 自動露出撮影、シャッター優先AE撮影で動画撮影中に明るさが変化すると、その場面の映像が一瞬止まって見えることがあります。このようなときは、マニュアル露出で撮影してください。
- 極端に明るい光源が画面内にあると、明るい部分が黒っぽくつぶれたように表示されることがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます。
- 暗い場所では映像にノイズや色ムラが発生することがあります。動画撮影時は、表示された映像とほぼ同じ状態で記録されます（タイムラプス動画撮影時、Canon Logビューアシスト時を除く）。
- 撮影した動画を他の機器などで再生すると、画質や音質が悪くなったり、（MP4形式に対応していても）再生できないことがあります。

動画撮影全般の注意事項

記録と画質について

(1)

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影中に画面の右側にインジケーターが表示されることがあります。インジケーターは、カードにまだ書き込まれていないデータ量（内蔵メモリーの空き容量）を表し、遅いカードほど、段階が早く上がっていきます。インジケーター（1）がフルになると、動画撮影が自動的に停止します。
- 書き込み速度が速いカードは、インジケーターが表示されないか、表示されても段階はほとんど上がりません。そのため、事前にテスト撮影を行うことで、動画撮影に適したカードかどうかを判断することができます。
- インジケーターがフルになって動画撮影が自動的に終了したときは、映像の終端付近の音声が正常に記録されないことがあります。
- カードの（記憶領域の断片化により）書き込み速度が低下してインジケーターが表示されるようになったときは、カードの初期化を行うと、書き込み速度が改善することがあります。

IPB記録時の制約について

動画記録画質の圧縮方式が IPB IPB（音声：AAC記録）のときは、以下の制約事項があります。ご了承ください。

- 最後の約2フレームには、音声は記録されません。
- Windowsで動画を再生すると、映像と音声が若干ズレることがあります。

3

AF

この章では、AFに関する内容や、メニュー機能の「AF：AFタブ」に含まれる項目などについて説明しています。

● ページタイトル右の 応用 は、[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モード限定の機能であることを示しています。

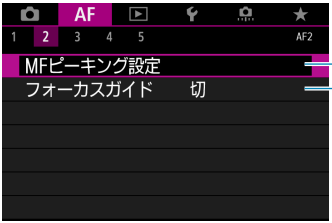
〈**AF**〉はAuto Focus（オートフォーカス）の略で自動ピント合わせのことです。〈**MF**〉はManual Focus（マニュアルフォーカス）の略で手動ピント合わせのことです。

メニュー目次：AFタブ（静止画撮影）

● AF1

p.262
p.265
p.276
p.277
p.278
p.279

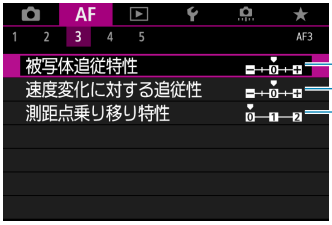
● AF2



p.283
p.284

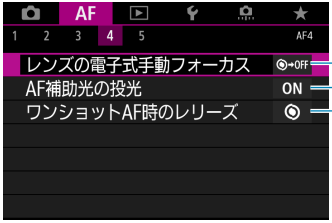
フォーカスモードスイッチがないRFレンズ使用時は、**[AF 1]**タブに**[フォーカスモード]**が表示されます。

● AF3



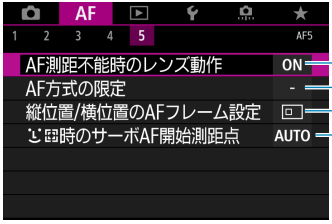
p.288
p.289
p.290

● AF4



p.293
p.295
p.296

● AF5

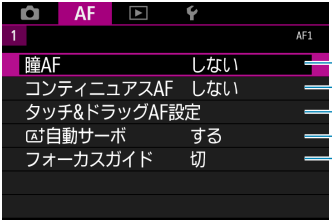


p.297
p.298
p.299
p.300

［**AF**3］［**AF**4］［**AF**5］メニューは、画面のヘルプで機能の説明を確認することができます（p.405）。

［A+］モードのときは、以下の画面が表示されます。

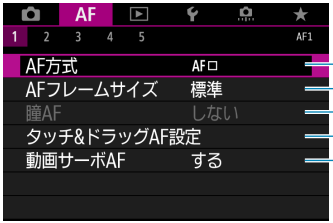
● AF1



p.277
p.278
p.279
p.263
p.284

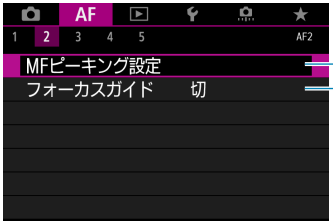
メニュー目次：AFタブ（動画撮影）

● AF1



p.265
p.276
p.277
p.279
p.286

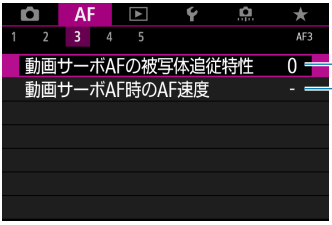
● AF2



p.283
p.284

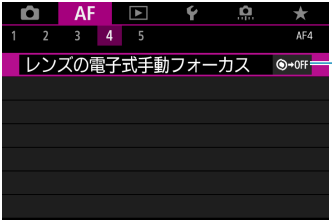
フォーカスモードスイッチがないRFレンズ使用時は、**[AF 1]**タブに**[フォーカスモード]**が表示されます。

● AF3



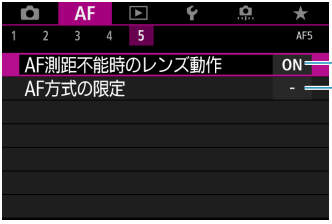
p.291
p.292

● AF4



p.293

● AF5

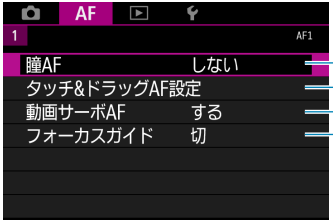


p.297
p.298

［**AF3**］［**AF4**］［**AF5**］メニューは、画面のヘルプで機能の説明を確認することができます（p.405）。

［ ］モードのときは、以下の画面が表示されます。

● AF1



AF動作の選択 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AFの作動特性を選ぶことができます。

1 [AF1：AF動作]を選ぶ

2 項目を選ぶ

ピントが合わないとAFフレームがオレンジ色になります。このときはシャッターボタンを全押ししても撮影できません。構図を変えて再度ピント合わせを行うか、『ピントが合いにくい撮影条件』（p.275）を参照してください。

止まっている被写体を撮る：ワンショットAF（ONE SHOT）

止まっている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押しすると、1回だけピント合わせを行います。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- シャッターボタンを半押ししている間、ピントが固定され、構図を変えて撮影することができます。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、144ページでご確認ください。

［3：電子音］を［切］に設定すると、ピントが合ったときに電子音が鳴らないようになります。

動いている被写体を撮る：サーボAF（SERVO）

動いている被写体の撮影に適しています。シャッターボタンを半押ししている間、被写体にピントを合わせ続けます。

- 被写体にピントが合うと、AFフレームが青色に変わります。
- 露出は撮影の瞬間に決まります。
- 連続撮影時の連続撮影速度は、144ページでご確認ください。

- 使用するレンズや被写体との距離、被写体の動く速さによっては、適切なピント合わせができないことがあります。
- 連続撮影中にズーム操作を行うと、ピントがズレることがあります。ズーム操作を行い構図を決めてから撮影してください。
- ［サーボAF］設定時に、［マルチショットノイズ低減機能］（p.105）が設定されているときは、［5：高感度撮影時のノイズ低減］の設定が、自動的に［標準］に切り換わります。

- サーボAFのときは、ピントが合っても電子音は鳴りません。
- ［A+］モードのとき、初期状態では、被写体の動きに応じて、自動的にサーボAFに切り換わります。なお、常にワンショットAFで撮影したいときは、［AF1：A+自動サーボ］を［しない］に設定してください。

AF補助光について

暗い場所などでシャッターボタンを半押しすると、AF補助光が連続的に光ることがあります。これはAFでピントを合わせやすくするためです。

- ●［**AF1：AF動作**］が［**サーボAF**］のときは、AF補助光は投光されません。
- ●タッチAFしたとき（［**5:タッチシャッター**］が［**しない**］に設定されているとき）は、AF補助光は投光されません。
- ●赤外光方式のAF補助光を搭載している外部ストロボは、間欠発光方式によるAF補助光が投光されます。ただし、スピードライト 90EX、マクロリングライト、マクロツインライト使用時、または電波通信／光通信ワイヤレスストロボ撮影時は、AF補助光は投光されません。
- ●外部ストロボのパーソナル機能で、AF補助光の投光方式を赤外光方式に設定していても、間欠発光方式によるAF補助光が投光されます。AF補助光を投光したくないときは、［**AF4：AF補助光の投光**］を［**しない**］に設定してください（p.295）。

- ●AF補助光でピントが合う範囲の目安は4m以内です。
- ●［**Fv**］［**P**］［**Tv**］［**Av**］［**M**］［**BULB**］モードのときは、［**AF4:AF補助光の投光**］の設定によっては、AF補助光は投光されません（p.295）。

AF方式の選択

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。AFフレームまたはゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピント合わせを行います。【A+】モードのときは、【顔+追尾優先AF】に自動設定されます。

AF方式の選択方法は268ページを参照してください。

AF方式

顔+追尾優先AF

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈[ ]〉が顔の部分に表示され、顔を追尾します。

顔を検知しないときは、AF領域全体で自動選択AFを行います。

サーボAFのときは、サーボAFを開始する位置を設定することができます(p.270)。撮影中はエリアAFフレームで被写体を捉えていれば、継続してピント合わせが行われます。

□ : 1点AF

1つのAFフレーム〈□〉でピント合わせを行います。

：領域拡大AF（ ）

1つのAFフレーム〈□〉と、隣接する上下左右のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

サーボAFのときは、初めにAFフレーム〈□〉で被写体を捉える必要がありますが、ゾーンAFよりも狙った被写体にピントを合わせやすい特性をもっています。

：領域拡大AF（周囲）

1つのAFフレーム〈□〉と、隣接する周囲のAFフレーム〈▫〉でピント合わせを行います。領域拡大AF（ ）より、さらに広い範囲でピント合わせを行います。1点AFでは被写体の追従が難しい、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

サーボAF時の動作は、領域拡大AF（ ）と同じです。

[ ]：ゾーンAF

領域拡大AFよりもAF範囲が広い「ゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときにも有効です。

基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、ゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピントを合わせます。

ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

：ラージゾーンAF（縦）

ゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い、縦長の「ラージゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、ゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピントを合わせます。
ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

[ ]：ラージゾーンAF（横）

ゾーンAFよりもさらにAF範囲が広い、横長の「ラージゾーンAFフレーム」で自動選択AFを行うため、1点AFや領域拡大AFよりも被写体を捉えやすく、動きのある被写体を撮影するときに有効です。

基本的に最も近距離にある被写体にピントを合わせます。なお、ゾーンAFフレーム内に、人物がいる場合は顔を優先してピントを合わせます。
ピントが合ったAFフレームは〈□〉で表示されます。

AF方式を選ぶ 応用

撮影状況や被写体にあわせて、AF方式を選ぶことができます。
なお、手動でピント合わせを行いたいときは、281ページを参照してください。

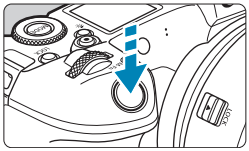
1 [AF1：AF方式]を選ぶ

2 項目を選ぶ

- 〈⊡〉ボタンを押したあとに〈M-Fn〉ボタンを押すと、AF方式設定画面が表示され、AF方式を設定することもできます。
- 269～272ページでは、**[AF1：AF動作]**が**[ワンショットAF]**（p.263）に設定されていることを前提に説明しています。**[サーボAF]**（p.263）に設定しているときは、被写体にピントが合うとAFフレームが青色に変わります。
- タッチシャッター（タッチ操作によるAFと撮影）については、130ページを参照してください。

● （顔）＋追尾優先AF：

人の顔を検知してピント合わせを行います。顔が動くとAFフレーム〈 〉も動いて顔を追尾します。



1 AFフレームを確認する

➡ 顔を検知すると、ピント合わせを行うAFフレーム〈 〉が顔の部分に表示されます。

● 〈 〉ボタンを押すと、複数の顔を検知しているときは〈 〉が表示されます。〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい顔に〈 〉を合わせます。

● 〈M-Fn〉ボタンを押したあと、〈INFO〉ボタンを押すたびに、**[瞳AF]**の**[する]** **[しない]**を切り換えることができます(p.277)。

● 画面にタッチして、顔または被写体を選ぶこともできます。画面にタッチしたときは、AFフレームが〈 〉に変わります。

2 ピントを合わせる

● シャッターボタンを半押しすると、ピント合わせが行われます。

➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。

➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色で表示されます。

3 撮影する

ピントを合わせる被写体を指定するとき

画面上のピントを合わせたい被写体（位置）にタッチします。
被写体にAFフレーム〈[ ]〉を合わせたあと、構図を変更したり、被写体が動いたりすると、AFフレーム〈[ ]〉も動いて被写体を追尾します。

- ピントが大きく外れていると顔を検知できません。顔が検知できる位置まで手動でピントを動かしてから（p.281）、AFを行ってください。
- 顔以外の被写体を顔として検知することがあります。
- 「顔が画面に対して極端に小さい／大きい」「顔が明るすぎる／暗すぎる」「顔の一部が隠れている」ときは、顔を検知できません。
- ピント合わせを行う〈[ ]〉が、顔全体ではなく、顔の一部分にだけ表示されることがあります。

- 画面の端のほうにある顔や被写体に対してはAFができません。被写体が中央または中央寄りになるように構図を変えて撮影してください。
- AFフレームは被写体により大きさが変化します。

サーボAFの開始位置を指定するとき

① **［AF5：[ ]時のサーボAF開始測距点］**を**［自動］**以外に設定します。
② エリアAFフレーム（1）とAFフレーム（2）が表示されます。

③〈[ ]〉ボタンを押したあと〈[ ]〉〈[ ]〉で、ピントを合わせたい位置にAFフレームを移動します。画面にタッチしたり、〈[ ]〉十字キーで、AFフレームを移動することもできます。〈[ ]〉ボタンを押すと、AFフレームが画面中央に戻ります。
④〈SET〉を押すと、サーボAFの開始位置が設定されます。

● **1点AF/領域拡大AF（⁘）/領域拡大AF（周囲）/ゾーンAF/ラージゾーンAF（縦）/ラージゾーンAF（横）** 応用

AFフレーム、またはゾーンAFフレームを任意設定することができます。ここでは、1点AF時の画面を例に説明します。

(1)

1 AFフレームを確認する

➡ AFフレーム（1）が表示されます。

● 領域拡大AF（⁘）、領域拡大AF（周囲）のときは、隣接するAFフレームも表示されます。

● ゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横）のときは、設定されているゾーンAFフレームが表示されます。

2 AFフレームを移動する

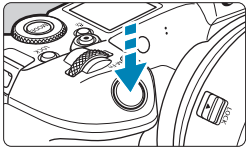
● 〈⊞〉ボタンを押します。

● ピントを合わせたい位置に、〈⚙〉で横方向、〈⚙〉で縦方向にAFフレームを動かします（使用するレンズによっては、画面の一番端まで動かないことがあります）。

● 画面にタッチしたり、〈✥〉十字キーでAFフレームを移動することもできます。

● 〈🗑〉ボタンを押すと、AFフレームまたはゾーンAFフレームが画面中央に戻ります。

● 〈INFO〉ボタンを押すと、拡大表示することができます。〈INFO〉ボタンを押すたびに、拡大倍率が切り換わります。



3 ピントを合わせる

- AFフレームを被写体に合わせ、シャッターボタンを半押しします。
- ➡ ピントが合うとAFフレームが緑色に変わり、「ピピッ」と電子音が鳴ります。
- ➡ ピントが合わないときは、AFフレームがオレンジ色に変わります。

4 撮影する

- ゾーンAF、ラージゾーンAF（縦）、ラージゾーンAF（横）で、サーボAFに設定したときは、ピント合わせを行うAFフレーム〈□〉が被写体に追従して移動しますが、被写体が小さいときなど、撮影条件によっては追従しないことがあります。
- 外側寄りのAFフレームを選択しているときは、AF補助光でピントが合いにくいことがあります。そのときは、中央のAFフレームを選択してください。

［**AF5：縦位置/横位置のAFフレーム設定**］で、AFフレームを、縦位置撮影と横位置撮影で別々に設定することができます（p.299）。

拡大表示について

映像を約5倍、約10倍に拡大してピントを確認することができます。
[＋追尾優先AF] のときは拡大表示できません。

- **[1点AF]**・**[領域拡大AF（）]**・**[領域拡大AF（周囲）]** 設定時はAFフレームの位置、**[ゾーンAF]**・**[ラージゾーンAF（縦）]**・**[ラージゾーンAF（横）]** 設定時は、ゾーンAFフレームの中央部が拡大表示されます。
- シャッターボタンを半押しすると、**[1点AF]** 設定時は拡大表示のままAFが行われます。**[1点AF]** 以外を設定しているときは、通常表示に戻って、AFが行われます。
- サーボAF時に、拡大表示を行った状態でシャッターボタンを半押しすると、通常表示に戻ってピント合わせが行われます。

- 拡大表示の状態でピントが合いにくいときは、通常表示に戻してAFを行ってください。
- 通常表示の状態でAFを行ったあと拡大表示を行うと、正確にピントが合っていないことがあります。
- AFの速度は通常表示と拡大表示の状態で異なります。
- 拡大表示中、コンティニュアスAF、動画サーボAFは行われません。
- 拡大表示のときは、手ブレによりピントが合いにくくなります。三脚の使用をおすすめします。

AFに関するおことわり

AFの動作について

- ピントが合った状態でも、シャッターボタンを半押しすると、もう一度ピント合わせが行われます。
- AFの前後で、映像の明るさが変わることがあります。
- 被写体や撮影条件により、ピント合わせに時間がかかったり、連続撮影速度が低下することがあります。
- 撮影中に光源（照明光）が変化すると、画面がちらついてピントが合いにくいことがあります。そのときは、電源を入れ直し、撮影する光源下でAFを行ってください。

- AFでピントが合わないときは、手動でピント合わせを行ってください（p.281）。
- 画面の端のほうにある被写体を撮影したときに、わずかにピントがズレているときは、被写体（またはAFフレーム／ゾーンAFフレーム）を画面の中央寄りにして、再度ピント合わせを行ってから撮影してください。
- 使用するレンズによっては、AFでピントが合うまでに時間がかかったり、適切なピント合わせができないことがあります。

ピントが合いにくい撮影条件

- 青空、単色の平面、画面上で被写体が白とびや黒つぶれしているときなど、明暗差（コントラスト）のない被写体
- 暗い場所にある被写体
- 縞模様など、水平方向のコントラストしかない被写体
- 繰り返し模様の被写体（例：ビルの窓やパソコンのキーボードなど）
- 細い線、被写体の輪郭部分
- 明るさや色、パターンが変化する光源
- 夜景など、点状の光源
- 蛍光灯やLED照明などの光源下で、映像がちらついている場合（フリッカー）
- 被写体が極端に小さい場合
- 画面の端のほうにある被写体
- 強い逆光状態、または光の反射が強い被写体（例：反射光の強い車のボディなど）
- 近くと遠くにある被写体が、AFフレームの中に入っている場合（例：おりの中の動物など）
- 手ブレや被写体ブレで、AFフレーム内の被写体が揺れ動いて、静止しない場合
- 大きくピントがぼけた状態からAFを行った場合
- ソフトフォーカスレンズで、ソフトフォーカス撮影する場合
- 特殊効果フィルターを使用している場合
- AF中に画面にノイズ（輝点、縞など）が表示されている場合

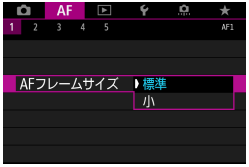
AF範囲について

使用するレンズやアスペクト比、4K動画、動画クロップ、動画電子ISなどの設定によって、AF可能な範囲は変わります。

AFフレームのサイズを設定する 応用

[AFフレームサイズ] を [小] に設定すると、より狭い部分にピントを合わせることができます。

1 [AF1：AFフレームサイズ] を選ぶ

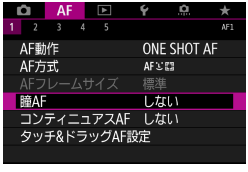


2 項目を選ぶ

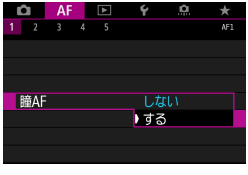
[AF1:AF方式] が [1点AF] に設定されているときのみ、設定することができます。

人物の目にピントを合わせる

AF方式が【+追尾優先AF】のとき、目にピントが合うように撮影することができます。



1 【AF1：瞳AF】を選ぶ



2 【する】を選ぶ

3 被写体にカメラを向ける

➡ 目の周囲にAFフレームが表示されます。

- 画面にタッチして、ピントを合わせたい目を選ぶことができます。
  ピントを合わせる目はカメラが自動的に選びます。
- 〈⊞〉ボタンを押して〈👤〉が表示されるときは、【瞳AF】の設定に応じて〈◀〉〈▶〉でピントを合わせたい目または顔を選ぶことができます。

4 撮影する

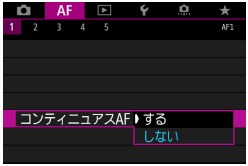
撮影シーンや被写体によっては、被写体の目が正しく検出されないことがあります。

〈⊞〉ボタン、〈M-Fn〉ボタン、〈INFO〉ボタンの順に押すと、メニューを操作しなくても【瞳AF:しない】に変更できます。もう一度〈INFO〉ボタンを押すと、【瞳AF：する】にできます。

コンティニュアスAFの設定

常に被写体に対しておおまかにピントを合わせ続ける機能です。そのため、シャッターボタンを半押ししたときに素早くピントが合います。

1 **［AF1：コンティニュアスAF］を選ぶ**



2 **［する］を選ぶ**

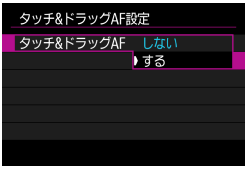
- **［する］**設定時は、常にレンズが動作してバッテリーを消耗するため、撮影可能枚数が少なくなります。
- コンティニュアスAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから操作してください。

タッチ&ドラッグAFの設定

ファインダーを見ながら画面をタッチしたりドラッグしたりして、AFフレーム（またはゾーンAFフレーム）を移動することができます。

タッチ&ドラッグAFを有効にする

1 **［AF 1：タッチ&ドラッグAF設定］を選ぶ**

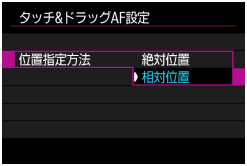


2 **［タッチ&ドラッグAF］を選ぶ**

- **［する］**を選びます。

位置指定方法

タッチやドラッグしたときの位置の指定方法を設定することができます。



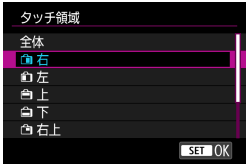
1 **位置指定方法を設定する**

- 項目を選びます。

- **［絶対位置］**
  画面をタッチやドラッグした位置にAFフレームが移動します。
- **［相対位置］**
  画面の位置に関係なく、ドラッグした方向と移動量に応じてAFフレームが移動します。

タッチ領域

タッチの反応領域を設定することができます。



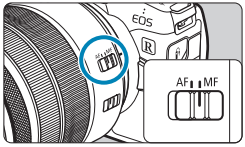
1 タッチ領域を設定する

● 項目を選びます。

[+追尾優先AF] 設定時は、画面をタッチすると、オレンジ色の丸い枠〈◇〉が表示されます。AFフレームを移動したい位置で指を離すと〈

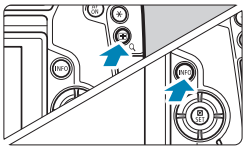
MF:手動でピントを合わせる

AFでピント合わせができないときは、映像を拡大表示して、手動でピントを合わせることができます。



1 レンズのフォーカスモードスイッチを〈MF〉にする

- レンズのフォーカスリングを回して、おおまかにピントを合わせておきます。



2 映像を拡大する

- 〈Q〉ボタンを押したあと、〈INFO〉ボタンを押します。

(1) (2) (3)

(1) AEロック
(2) 拡大表示位置
(3) 拡大率（約）

3 拡大位置を移動する

- ピントを合わせたい位置に、〈☁〉で横方向、〈☁〉で縦方向に移動します。〈✥〉十字キーで移動することもできます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、拡大位置が画面中央に戻ります。

4 倍率を変更する

● 〈INFO〉ボタンを押すたびに、次のように画面が切り換わります。

→ 1倍 → 5倍 → 10倍 ┐

5 手動でピントを合わせる

● 拡大された映像を見ながら、レンズのフォーカスリングを回してピントを合わせます。

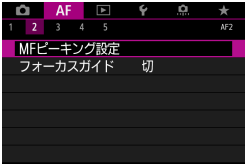
● ピント合わせが終わったら、〈SET〉を押して通常表示にします。

6 撮影する

● 拡大表示中は露出が固定されます。
● 手動ピント合わせのときも、タッチシャッターで撮影することができます。

MFピーキング設定（輪郭強調） 応用

ピントが合った被写体の輪郭を色つきの強調表示にすることでピント合わせをしやすくすることができます。また、輪郭の検出感度（レベル）や輪郭の色を変えることもできます。



1 ［AF2：MFピーキング設定］を選ぶ

2 ［ピーキング］を選ぶ

- ［入］を選びます。

3 レベル、色を設定する

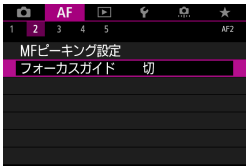
- 必要に応じて設定します。

- 拡大表示中、ピーキング表示は行われません。
- 高ISO感度設定時（特に拡張ISO感度設定時など）は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じてISO感度を下げるか、**［ピーキング］**を**［切］**に設定してください。

- モニターに表示される輪郭は、撮影画像には記録されません。
- Canon Log設定時は、MFピーキングが分かりにくい場合があります。必要に応じて**［ビューアシスト］**を**［入］**に設定してください。

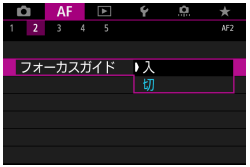
フォーカスガイド

[フォーカスガイド] を **[入]** にすると、現在のフォーカス位置から合焦位置への調整方向と調整量が、ガイド枠で視覚的に表示されます。**[AF1：AF方式]** が **[+追尾優先AF]**、**[AF1：瞳AF]** が **[する]** に設定時、被写体の目を検出したときは、ガイド枠が主被写体と判断した顔の目の付近に表示されます。



1 [AF2：フォーカスガイド] を選ぶ

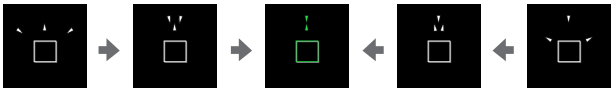
- [A+] モードのときは **[AF1]** に表示されます。



2 [入] を選ぶ

- 〈⊞〉ボタンを押したあと〈✥〉十字キーでガイド枠を移動することができます。
- 画面にタッチして、ガイド枠を移動することもできます。
- 〈🗑〉ボタンを押すと、ガイド枠が画面中央に戻ります。

ガイド枠の意味（調整方向、調整量）は以下のとおりです。



無限方向 調整量大　無限方向 調整量小　合焦　至近方向 調整量小　至近方向 調整量大

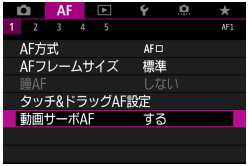
調整情報 検出不可

- AFでピントが合いにくい撮影条件（p.275）では、ガイド枠が正しく表示されないことがあります。
- ガイド枠の表示中は、AFフレームは表示されません。
- MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト使用時に、絞り数値がF8より暗いときや、MP-E65mm F2.8 1-5× マクロフォト以外のレンズ使用時に、絞り数値がF11より暗いときは、「調整情報検出不可」の表示になります。
- 以下のときは、ガイド枠は表示されません。
  - レンズのフォーカスモードスイッチが〈**AF**〉に設定されているとき
  - 拡大表示時
  - ハイフレームレート動画撮影中
- TS-Eレンズを使用してシフトやティルトを行っているときは、ガイド枠が正しく表示されません。

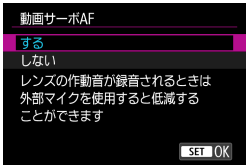
電子式フォーカスリングを備えたレンズで、ピント合わせを行っているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されます。

動画サーボAFの設定

動画撮影時に被写体に対して常にピントを合わせ続ける機能です。



1 [AF1：動画サーボAF] を選ぶ



2 [する] を選ぶ

●［する］設定時

- シャッターボタンを半押ししなくても、被写体に対して常にピントを合わせ続けます。
- 狙った位置でピントを止めたいときや、レンズの作動音などが記録されるのが気になるときは、画面左下の［SERVO AF］をタッチすると、動画サーボAFを一時的に停止することができます。
- 動画サーボAFが停止しているときに、〈MENU〉ボタンや〈▶〉ボタンを押したり、AF方式を変更するなどの操作を行ったあと、動画撮影に戻ると、動画サーボAFが再開します。

●［しない］設定時

- シャッターボタンを半押しするか、〈AF ON〉ボタンを押すと、ピント合わせが行われます。

[動画サーボAF：する] 設定時の注意事項

- **ピントが合いにくい撮影条件**
  - 速い速度で近づく、または遠ざかる被写体
  - 近距離で動いている被写体
  - 絞り数値が大きいとき
  - 275ページの『ピントが合いにくい撮影条件』も参照してください。
- 常にレンズが作動してバッテリーを消耗するため、動画撮影できる時間（p.612）が短くなります。
- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。
- ズーム操作中や拡大表示を行っているときは、動画サーボAFが一時停止します。
- 動画撮影中に被写体が近づいたり/遠ざかったり、カメラを上下/左右に動かすと（パンニング）、映像が一瞬伸縮（像倍率変化）して記録されることがあります。
- 動画サーボAF中に、レンズのフォーカスモードスイッチを〈**MF**〉にするときは、カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから操作してください。

AF機能のカスタマイズ 応用

[AF3]

● 被写体追従特性

サーボAF時の測距中に、障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときの、被写体に対する追従性を設定することができます。

- **0**
  標準的な設定です。動いている一般的な被写体に適しています。
- **粘る：−2／粘る：−1**
  障害物がAFフレームを横切ったときや、AFフレームが被写体から外れたときでも、できるだけ狙っている被写体にピントを合わせ続けようとします。−1よりも−2のほうが、狙っている被写体を長く捉え続けようとします。
  その反面、意図しない被写体にピントが合ったときは、狙っている被写体に対するピント合わせに、やや時間がかかることがあります。
- **俊敏：+2／俊敏：+1**
  AFフレームで捉えた、距離の異なる被写体に、次々にピントを合わせることができます。最も近い被写体にピントを合わせたいときにも有効です。+1よりも+2のほうが、異なる被写体にレスポンス良く反応します。
  その反面、意図しない被写体にピントが合いやすくなります。

● 速度変化に対する追従性

被写体が急に動き出したときや、急に止まったときなど、速さが瞬時に大きく変化したときの、被写体に対するサーボAFの追従性の設定です。

- **0**
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。
- **−2／−1**
  移動速度がほぼ一定の（速度変化が少ない）被写体に適しています。0の設定でも被写体のわずかな動きや手前の障害物に影響されてピントが不安定なときに効果的です。
- **+2／+1**
  急な動き出し、急加速、急減速、急停止する被写体に適しています。被写体の速さが瞬時に大きく変化しても、狙っている被写体にピントを合わせ続けます。例として、向かってくる被写体の急な動き出しに対しては「後ピン」、急な停止に対しては「前ピン」になりにくくなります。+1よりも+2のほうが、大きい速度変化に追従することができます。
  その反面、被写体のわずかな動きに影響されやすくなり、ピントが一時的に不安定になることがあります。

● 測距点乗り移り特性

被写体が上下左右に大きく移動したときの、被写体に対する測距点（AFフレーム）の乗り移り（切り換わり）による、追従性の設定です。

この機能は［**AF**1：AF方式］が［顔+追尾優先AF］［領域拡大AF（⊹）］［領域拡大AF（周囲）］［ゾーンAF］［ラージゾーンAF（縦）］［ラージゾーンAF（横）］のときに機能します。

- **0**
  測距点の乗り移りが緩やかな、標準的な設定です。
- **+2／+1**
  狙っている被写体が上下左右に大きく移動して、被写体が測距点から外れても、周囲の測距点に乗り移って、被写体にピントを合わせ続けます。被写体移動の連続性と、コントラストなどを判断し、信頼性の高い測距点を選んで乗り移りが行われます。+1よりも+2のほうが、測距点が乗り移りやすくなります。
  その反面、広角レンズなど被写界深度の深いレンズを使用したときや、遠くにある小さい被写体を撮影すると、意図しない測距点でピント合わせが行われることがあります。

● 動画サーボAFの被写体追従特性

動画サーボAF中にパンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときなど、被写体がAFフレームから外れたときの動画サーボAFの応答特性を、7段階で調整することができます。

この機能は［**AF**1：**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF**1：**AF方式**］が［**1点AF**］のときに設定することができます。

- **粘る：-3/-2/-1**
  被写体がAFフレームから外れたときに、別の被写体に対して敏感に反応しない設定です。マイナスの数値が大きいほど、より敏感に反応しなくなります。パンニングを行ったり、障害物がAFフレームを横切ったときに、意図しない別の被写体に、すぐにピントが移らないようにしたいときに有効です。
- **敏感：+1/+2/+3**
  AFフレームで捉えている被写体に機敏に反応する設定です。プラスの数値が大きいほど、より敏感に反応します。動いている（撮影距離が変化する）被写体にピントを合わせ続けたいときや、別の被写体にすぐにピントを合わせたいときに有効です。

［**AF**1：**AF方式**］が［**1点AF**］以外のときは、［**0**］に設定したときと同じ動作になります。

● 動画サーボAF時のAF速度

動画サーボAFのAF速度とその作動条件を設定することができます。

この機能は［**AF**1：**動画サーボAF**］が［**する**］、［**AF**1：**AF方式**］が［**1点AF**］のときに設定することができます。
また、この機能は「動画撮影時の低速ピント送り」に対応しているレンズ*使用時に機能します。

- **作動条件：**
  設定したAF速度を動画撮影時（撮影開始前、撮影中）に常に有効にするか（［**常時**］）、動画撮影中のみ有効にするか（［**撮影中**］）を設定することができます。
- **AF速度：**
  作画意図に合わせてAF速度（ピント送り）を、標準の速さ（0）から遅い方向に7段階（-1～-7）、速い方向に2段階（+1,+2）の調整を行うことができます。

***「動画撮影時の低速ピント送り」対応レンズについて**

2009年以降に発売されたUSMレンズ、およびSTMレンズが対応しています。詳しくはキヤノンのホームページでご確認ください。

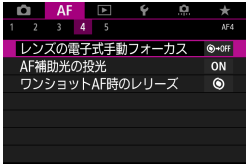
使用するレンズによっては、AF速度を調整しても、速度が変わらないことがあります。

- ［**AF**1：**AF方式**］が［**1点AF**］以外のときは、［**AF速度**］を［**標準（0）**］に設定したときと同じ動作になります。
- 設定内容が、初期状態から変更されているときは、［**AF**3：**動画サーボAF時のAF速度**］の右端に「＊」が表示されます。

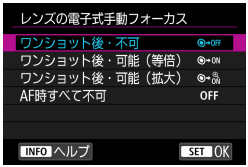
［AF4］

● レンズの電子式手動フォーカス

電子式の手動フォーカス機能を備えたUSMレンズ、STMレンズを使用して、ワンショットAFを行ったときに、電子式手動フォーカスを行うかどうかを設定することができます。



1 ［AF4：レンズの電子式手動フォーカス］を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **［⊙→OFF］ワンショット後・不可**
  AF動作を行ったあとの、手動ピント調整を禁止します。
- **［⊙→ON］ワンショット後・可能（等倍）**
  AF動作を行ったあと、シャッターボタン半押しを続けていれば、手動でピント調整ができます。
- **［⊙→拡大ON］ワンショット後・可能（拡大）**
  AF動作を行ったあと、シャッターボタンを半押ししたまま、レンズのフォーカスリングを回すと、ピント位置が拡大され、手動でピント調整ができます。

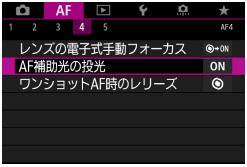
- **[OFF] AF時すべて不可**
  レンズのフォーカスモードスイッチが〈AF〉に設定されているときは、手動ピント調整を禁止します。

[ワンショット後・可能（拡大）] 設定時、撮影後、すぐにシャッターボタンを半押ししたときは、レンズのフォーカスリングを回しても拡大表示されないことがあります。そのときは、シャッターボタンから一旦指を離し、画面に〈Q〉が表示されてから、シャッターボタンを半押ししたまま、フォーカスリングを回すと拡大表示されます。

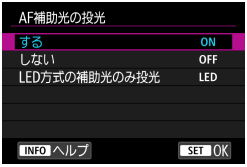
お使いのレンズが、電子式手動フォーカス機能を備えているかは、レンズの使用説明書でご確認ください。

● AF補助光の投光

カメラ、またはEOS用の外部ストロボから、AF補助光の投光を行うかどうかを設定することができます。



1 **［AF4：AF補助光の投光］を選ぶ**



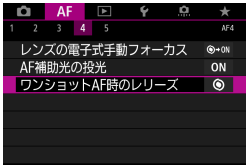
2 **項目を選ぶ**

- **［ON］する**
  必要に応じてAF補助光が投光されます。
- **［OFF］しない**
  AF補助光は投光されません。カメラ、および外部ストロボからAF補助光を投光したくないときに設定します。
- **［LED］LED方式の補助光のみ投光**
  LEDライトを搭載した外部ストロボ使用時は、LEDライトによるAF補助光が投光されます。LEDライト非搭載のストロボ使用時は、カメラのAF補助光が投光されます。

外部ストロボのカスタム機能の**［AF補助光の投光］**が**［しない］**に設定されているときは、この設定内容に関わらず、外部ストロボからAF補助光は投光されません。

● ワンショットAF時のレリーズ

ワンショットAFで撮影するときの、AFの作動特性とレリーズタイミングを設定することができます（タッチシャッター撮影時除く）。



1 **［AF4：ワンショットAF時のレリーズ］を選ぶ**

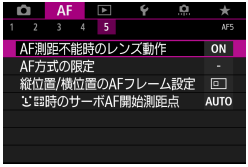
2 **項目を選ぶ**

- **［◎］ピント優先**
  ピントが合うまで撮影されません。被写体にピントを合わせてから撮影したいときに有効です。
- **［□］レリーズ優先**
  ピントよりも撮影タイミングを優先します。一瞬の撮影チャンスを優先したいときに有効です。
  ピントが合っていなくても撮影されますので、注意してください。

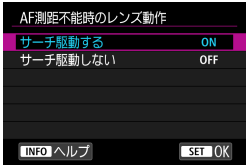
[AF5]

● AF測距不能時のレンズ動作

AFでピントが合わせられなかったときに、続けてAF動作を行うかどうかを設定することができます。



1 **[AF5：AF測距不能時のレンズ動作]を選ぶ**



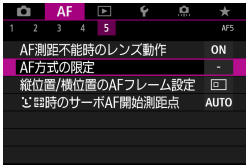
2 **項目を選ぶ**

- **[ON] サーチ駆動する**
  AFでピントが合わせられないときは、レンズを駆動させて、ピントの合う位置を探します。
- **[OFF] サーチ駆動しない**
  AFを開始するときにピントが大きくボケているときや、AFでピントが合わせられないときは、レンズの駆動を行いません。サーチ駆動により、ピントが大きくボケることを防止します。

超望遠レンズなど、ピント駆動範囲が大きいレンズを使用したときにサーチ駆動を行うと、ピントが大きくボケて次のピント合わせに時間がかかることがあるため、**[サーチ駆動しない]**に設定することをおすすめします。

● AF方式の限定

AF方式の選択項目を、使用するAF方式だけに限定することができます。
なお、AF方式については、265ページを参照してください。



1 **［AF5：AF方式の限定］を選ぶ**

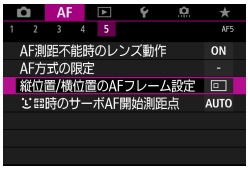
2 **限定するAF方式に［✓］を付ける**

［1点AF］の［✓］を外すことはできません。

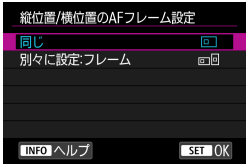
設定内容が、初期状態から変更されているときは、**［AF5：AF方式の限定］**の右端に「＊」が表示されます。

● 縦位置/横位置のAFフレーム設定

縦位置撮影と横位置撮影で、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を別々に設定することができます。



1 **［AF5：縦位置/横位置のAFフレーム設定］を選ぶ**



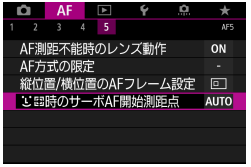
2 **項目を選ぶ**

- **［□］同じ**
  縦位置撮影、横位置撮影とも、同じ位置のAFフレームまたはゾーンAFフレームが設定されます。
- **［□/□］別々に設定：フレーム**
  カメラの姿勢（①横位置状態、②グリップを上にした縦位置状態、③グリップを下にした縦位置状態）ごとに、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を設定することができます。姿勢に応じて自動的にAFフレームまたはゾーンAFフレームの位置を切り換えたいときに有効です。
  ①②③のそれぞれの姿勢で設定した、AFフレームまたはゾーンAFフレームの位置が記憶されます。

カメラ設定初期化を行うと（p.419）、設定が**【同じ】**になります。また、①②③の姿勢で設定した内容が解除され、1点AFで中央のAFフレームが設定された状態になります。

● **時のサーボAF開始測距点**

AF方式を**【顔+追尾優先AF】**に設定したときに、どのAFフレーム（測距点）からサーボAFを開始するかを設定することができます。



1 **［AF5：時のサーボAF開始測距点］を選ぶ**

2 **項目を選ぶ**

● **【 】 時に設定した開始測距点**

AF動作が**【サーボAF】**、AF方式が**【+追尾優先AF】**に設定されているときに、任意設定したAFフレームからサーボAFが始まります。

● **【 】 時に設定した測距点**

1点AF、領域拡大AF（ ）、領域拡大AF（周囲）から、**【+追尾優先AF】**に切り換えたときに、それまで任意設定していたAFフレームからサーボAFが始まります。**【+追尾優先AF】**に切り換える前に設定していたAFフレームからサーボAFを開始したいときに有効です。

● **【AUTO】 自動**

撮影状況に応じて**【+追尾優先AF】**のサーボAFを開始するAFフレームが自動的に決まります。

4

再生

この章では、撮影した画像（静止画／動画）を再生する方法や、メニュー機能の「▶：再生タブ」に含まれる項目など、再生に関連する内容について説明しています。

他の機器で撮影・記録された画像について

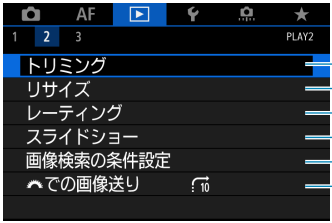
他のカメラで撮影した画像や、このカメラで撮影したあと、パソコンなどで画像を加工したり、ファイル名を変更した画像は、カメラで正常に表示／設定できないことがあります。

メニュー目次:再生タブ

● 再生1

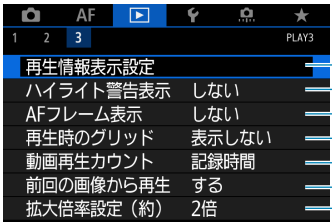
p.318
p.317
p.335
p.353
p.357
p.348
p.339

● 再生2



p.346
p.345
p.321
p.331
p.313
p.311

● 再生3



p.307
p.309
p.309
p.305
p.206
p.305
p.316

【A+】【』】モードのときは、【▶1：RAW現像】は表示されません。

機能目次:再生関連

再生

- 1枚表示 ➡ p.304
- 撮影情報表示 ➡ p.305
- グリッド表示 ➡ p.305
- タッチ再生 ➡ p.306
- 再生画像情報設定 ➡ p.307
- インデックス表示 ➡ p.310
- 画像送り（ジャンプ表示） ➡ p.311
- 画像検索の条件設定 ➡ p.313
- 拡大 ➡ p.315
- 回転 ➡ p.317
- プロテクト（保護） ➡ p.318
- レーティング ➡ p.321
- 動画再生 ➡ p.325
- 動画前後カット ➡ p.327
- フレーム切り出し(4K) ➡ p.329
- スライドショー ➡ p.331
- テレビで見る ➡ p.333
- 消去 ➡ p.335

画像加工

- RAW現像 ➡ p.339
- JPEGリサイズ ➡ p.345
- JPEGトリミング ➡ p.346

画像転送

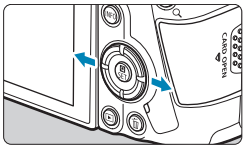
- パソコン/FTPサーバー転送 ➡ p.348
- 印刷指定（DPOF） ➡ p.353
- フォトブック指定 ➡ p.357

▶画像を再生する

1枚表示

1 画像を再生する

●〈▶〉ボタンを押します。



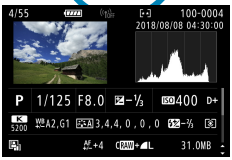
2 画像を選ぶ

●〈►〉を押すと新しい画像が、〈◄〉を押すと古い画像が表示されます。

●〈INFO〉ボタンを押すたびに、表示形式が切り換わります。

情報表示なし

簡易情報表示



撮影情報表示

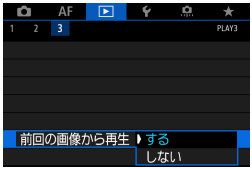
3 再生を終了する

●〈▶〉ボタンを押すと再生が終了します。

撮影情報表示について

撮影情報表示の画面が表示されている状態で〈▲〉〈▼〉を押すと、表示される情報が切り換わります。なお、表示する情報は、**[▶3:再生情報表示設定]**で任意に設定することができます（p.307）。

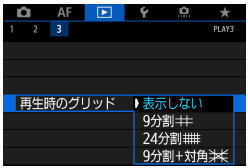
再生開始時に最初に表示する画像を設定する



画像の再生を開始したときに、画面に最初に表示する画像を設定することができます。

[▶3：前回の画像から再生]が**[する]**の設定で画像を再生すると、前回再生したときに最後に表示されていた画像が最初に表示されます（撮影を行ったときを除く）。**[しない]**に設定して電源を入れ直すと、最新の画像が最初に表示されます。

グリッド表示について



1枚表示のときに、再生画像に重ねてグリッド（格子線）を表示することができます。**[▶3：再生時のグリッド]**で表示するグリッドを選ぶことができます。
撮影画像の水平／垂直の傾きや、構図を確認するときに便利です。

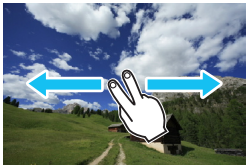
動画再生時にグリッドは表示されません。

タッチ再生について

カメラのモニターは、タッチ機能を備えています。スマートフォンなどと同じように、指で操作することができます。〈▶〉ボタンを押して画像を再生した状態で操作します。

画像送り

ジャンプ表示



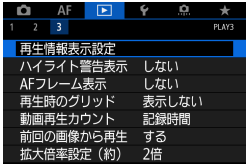
インデックス表示

拡大表示

画面を指1本で素早く2回触れても（ダブルタップ）拡大表示ができます。

再生する情報を設定する

画像の再生時に表示する画面と、表示する内容（情報）を任意に設定することができます。



1 [▶3: 再生情報表示設定] を選ぶ

2 表示する画面の番号に［✓］を付ける

- 〈▲〉〈▼〉を押して番号を選びます。
- 〈SET〉を押すと［✓］が付きます。
- この手順を繰り返して、表示する画面の番号に［✓］を付け、[OK] を選びます。

➡ 画像を再生して、〈INFO〉ボタンを押したり、撮影情報表示画面で〈▲〉〈▼〉を押したときに、設定した内容が表示されます。

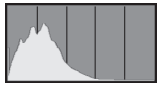
ヒストグラムについて

ヒストグラムには、露出レベルの傾向と全体の階調を確認できる輝度表示と、色の飽和と階調を確認できるRGB表示があります。[▶3：再生情報表示設定] の画面の左下に〈INFO〉が表示されているときに、〈INFO〉ボタンを押すと、表示するヒストグラムを切り換えることができます。

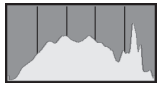
● [輝度] 表示

このヒストグラムは、横軸に明るさ（左:暗、右:明）、縦軸に明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、画像の輝度分布を表しています。画面の中の「暗い成分」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るい成分」ほどグラフの右寄りに積み上げられて表示されます。横軸の左端に積み上げられた成分は黒くつぶれ、右端に積み上げられた成分は白くとびます（ハイライト）。その他の成分は階調が再現されます。再生画像とそのヒストグラムを見ることで、露出レベルの傾向と全体の階調を確認することができます。

ヒストグラム例



暗い成分が多い



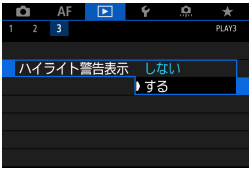
普通の明るさ

明るい成分が多い

● [RGB] 表示

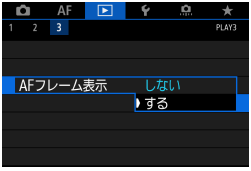
このヒストグラムは、横軸に色の明るさ（左：暗、右：明）、縦軸に色の明るさごとの画素数を積み上げたグラフで、R（赤）／G（緑）／B（青）別に色の輝度分布を表しています。画面の中の「暗く薄い色」ほどグラフの左寄りに積み上げられ、「明るく濃い色」ほどグラフの右寄りに積み上げられます。横軸の左端に積み上げられた成分は色の情報がなく、右端に積み上げられた色は飽和して階調がありません。RGBのヒストグラムを見ることで、色の飽和と階調の状態や、ホワイトバランスの傾向を確認することができます。

ハイライト警告表示について



[▶3：ハイライト警告表示] を [する] に設定すると、露出オーバーで白とびした部分が点滅表示します。階調を再現させたい部分が点滅しているときは、露出をマイナス補正して、もう一度撮影すると良い結果が得られます。

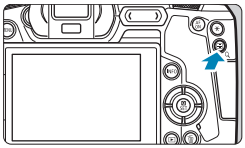
AFフレーム表示について



[▶3：AFフレーム表示] を [する] に設定すると、ピント合わせを行ったAFフレームが赤い枠で表示されます。なお、AFフレームが自動選択されたときは、AFフレームが複数表示されることがあります。

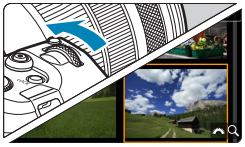
インデックス表示（複数画像表示）

見たい画像を素早く見つけることができる、「インデックス表示」といわれる再生方法で、一度に4枚／9枚／36枚／100枚の画像を表示することができます。



1 〈Q〉ボタンを押す

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 画面右下に［Q］が表示されます。



2 インデックス表示にする

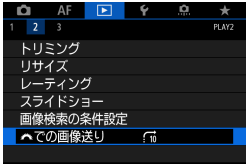
- 〈◯〉を左に回していきます。
- ➡ 4枚表示になります。選択されている画像にオレンジ色の枠が付きます。
- 〈◯〉をさらに左に回すと、9枚→36枚→100枚表示になります。右に回すと、100枚→36枚→9枚→4枚→1枚表示になります。

3 画像を選ぶ

- 〈✥〉十字キーを操作してオレンジ色の枠を移動させ、画像を選びます。
- インデックス表示の状態で〈SET〉を押すと、選んだ画像が1枚表示されます。

ジャンプ表示(画像飛ばし表示)

1枚表示のときに〈 〉を回すと、指定した方法で前後に画像を飛ばして表示（ジャンプ表示）することができます。

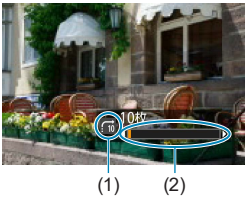


1 [▶2：での画像送り]を選ぶ

2 ジャンプ方法を選ぶ

- [ ] 1枚ずつ画像表示
- [ ] 10枚ごとに画像表示
- [ ] 指定した枚数ごとに画像を表示
- [ ] 撮影日を切り換えて画像を表示
- [ ] フォルダを切り換えて画像を表示
- [ ] 動画だけを表示
- [ ] 静止画だけを表示
- [ ] プロテクト画像だけを表示
- [ ] 指定したレーティング（p.321）の画像を表示

- **[指定した枚数ごとに画像を表示]**を選んだときは、〈 〉を回してジャンプする枚数を設定します。
- **[指定したレーティングの画像を表示]**を選んだときは、〈 〉を回してレーティングを指定します。★を選んだときは、画像送りを行うと、レーティングが設定されているすべての画像が表示されます。



3 画像送りをする

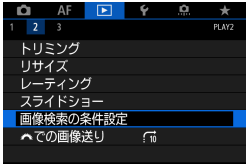
- 〈▶〉ボタンを押します。
- １枚表示の状態で〈⚙〉を回します。
- ➡ 設定した方法でジャンプ表示が行われます。

(1)　ジャンプ方法
(2)　再生位置

- **[：撮影日]** は、撮影した日付で画像を探したいときに選びます。
- **[：フォルダ]** は、フォルダを指定して画像を探したいときに選びます。
- **[：動画]** **[：静止画]** は、カードの中に動画と静止画が混在しているときに、動画、静止画のどちらかだけを表示したいときに選びます。

再生する画像を絞り込む

再生する画像を条件で絞り込むことができます。検索条件を設定して画像を再生すると、条件に該当する画像だけが表示されます。
なお、画像の絞り込みを行った状態で、プロテクト、レーティング、スライドショー、消去などを行うこともできます。この機能を活用すると、目的の画像だけを、まとめて素早く処理することができます。



1 [▶2：画像検索の条件設定]を選ぶ

(1)

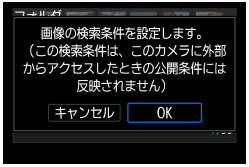
2 検索条件を設定する

- 〈▲〉〈▼〉を押して項目を選びます。
- 〈◀〉〈▶〉を押して内容を設定します。

➡ 項目の左端に[✓]（1）が付きます（検索条件として指定されます）。

- 項目を選び〈INFO〉ボタンを押すと、[✓]が消えます（指定が解除されます）。

項目	内容
★レーティング	選択した（レーティング）条件の画像を表示します。
⊙日付	選択した撮影日の画像を表示します。
フォルダ	選択したフォルダ内にある画像を表示します。
プロテクト	選択した（プロテクト）条件の画像を表示します。
ファイルの種類	選択した種類の画像ファイルを表示します。 [静止画][(RAW)][(RAW,RAW+JPEG)] [(RAW+JPEG)][(RAW+JPEG,JPEG)][(JPEG)] [動画]



3 検索条件を確定する

- 〈SET〉を押して、表示されるメッセージを確認します。
- 【OK】を選びます。

➡ 検索条件が設定されます。

(2)

4 検索した画像を表示する

- 〈▶〉ボタンを押します。

➡ 検索条件に該当する（絞り込まれた）画像だけが再生されます。

➡ 絞り込まれた状態で画像が表示されているときは、画面の外側に黄色い枠（2）が付きます。

検索条件の解除

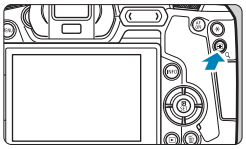
手順2の画面で〈🗑〉ボタンを押すと、すべての【✓】が消えます。〈SET〉を押すと、検索条件が解除されます。

設定した検索条件に該当する画像がないときは、手順2の画面で【OK】は選択できません。

- 電源やカード、画像編集などに関連した操作を行うと、検索条件の設定が解除されることがあります。
- 【▶2：画像検索の条件設定】の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

拡大する

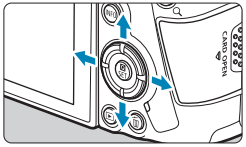
撮影した画像を拡大表示することができます。

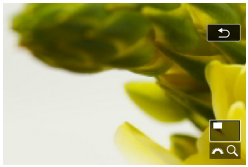


(1)

1 画像を拡大する

- 画像を再生した状態で〈Q〉ボタンを押します。
- ➡ 拡大表示になります。画面右下に拡大位置（1）と【Q】が表示されます。
- 〈◌〉を右に回すたびに拡大します。
- 〈◌〉を左に回すたびに縮小します。さらに回すと、インデックス表示（p.310）になります。

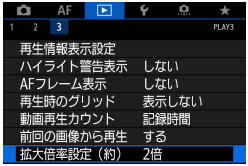


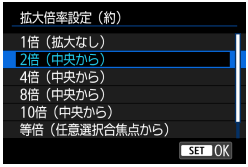


2 表示位置を移動する

- 〈✥〉十字キーを操作して表示位置を移動します。
- 〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

拡大開始倍率／拡大開始位置を設定する





[▶3：**拡大倍率設定（約）**]を選ぶと、拡大表示を開始したときの表示倍率、拡大位置を設定することができます。

● **1倍（拡大なし）**
拡大表示は行われません。1枚表示の状態で拡大表示が始まります。

● **2倍／4倍／8倍／10倍（中央から）**
選択した倍率で画面中央から拡大表示が始まります。

● **等倍（任意選択合焦点から）**
記録画像の画素を約100%で表示します。ピントが合ったAFフレームの位置から拡大表示が始まります。なお、手動ピント合わせで撮影した画像は、画面中央から拡大表示が始まります。

● **前回と同じ倍率（中央から）**
前回、〈Q〉ボタンを押して拡大表示を終了したときと同じ倍率で、画面中央から拡大表示が始まります。

[等倍（任意選択合焦点から）]に設定しても、画面中央から拡大表示が始まることがあります。

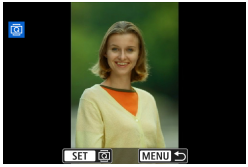
回転させる

画像が表示される向きを変えたいときは、この方法で画像を回転させることができます。

1 [▶1：画像回転] を選ぶ

2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して回転させる画像を選びます。



3 回転させる

- 〈SET〉を押すたびに、時計方向に回転（90°→270°→0°）します。
- 他に回転したい画像があるときは、手順2、3を繰り返します。

- **[1：縦位置画像回転表示]** を **[する 🖵]**（p.372）に設定して撮影すると、この機能で画像を回転させる必要がなくなります。
- 回転した画像が、再生時に回転した向きで表示されないときは、**[1：縦位置画像回転表示]** を **[する 🖵]** に設定します。

保護する(プロテクト)

大切な画像を誤って消さないように、プロテクト（保護）することができます。

画像を選択して1枚ずつプロテクト

1 [▶1：画像プロテクト] を選ぶ

2 [画像を選択] を選ぶ

3 画像を選ぶ

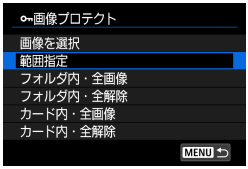
- 〈◄〉〈►〉を押してプロテクトする画像を選びます。

4 プロテクトする

- 〈SET〉を押すと画像がプロテクトされ、画面の上に〈🔑〉（1）が表示されます。
- もう一度〈SET〉を押すと、プロテクトが解除され〈🔑〉が消えます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してプロテクト

インデックス表示された画像を見ながら、プロテクトする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてプロテクトすることができます。



1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶1：**画像プロテクト**] の [**範囲指定**] を選びます。

2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 指定した範囲の画像がプロテクトされ、〈🔑〉が表示されます。
- 他にプロテクトしたい画像があるときは、手順2を繰り返します。

フォルダ内／カード内全画像プロテクト

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてプロテクトすることができます。

［▶1：**画像プロテクト**］で**［フォルダ内・全画像］**または**［カード内・全画像］**を選ぶと、その中のすべての画像がプロテクトされます。
解除するときは**［フォルダ内・全解除］**または**［カード内・全解除］**を選びます。

［▶2：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（p.313）、表示される内容が**［検索結果・全画像］［検索結果・全解除］**に変わります。

［検索結果・全画像］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がプロテクトされます。
［検索結果・全解除］を選ぶと、絞り込まれた画像のプロテクトがすべて解除されます。

カードを初期化すると（p.373）**、プロテクトされた画像も消去されます。**

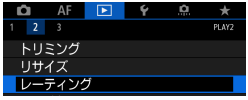
- プロテクトした画像は、カメラの消去機能で消去できません。画像を消去するときは、プロテクトを解除してください。
- 必要な画像をプロテクトしてから全画像消去（p.338）を行うと、プロテクトした画像以外はすべて消去されます。不要な画像を一度にまとめて消去するときに便利です。

[⁂]レーティングを設定する

撮影した画像に、5種類のお気に入りマーク（[•]/[••]/[•••]/[••••]/[•••••]）を付加することができます。この機能を「レーティング」といいます。

* レーティングは「評価」や「等級」などの意味です。

画像を選択して1枚ずつレーティング



1 [▶2：レーティング] を選ぶ

2 [画像を選択] を選ぶ

3 レーティングする画像を選ぶ

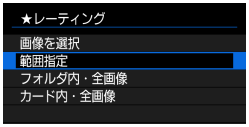
- 〈◀〉〈▶〉を押してレーティングを行う画像を選びます。

4 レーティングを設定する

- 〈SET〉を押すと、図の位置に青い枠が表示されます。
- 〈▲〉〈▼〉を押して、お気に入りマークを選び、〈SET〉を押します。
- ➡ お気に入りマークを付けると、そのマークの横にある数値がカウントされます。
- 他にレーティングを行いたい画像があるときは、手順3、4を繰り返します。

範囲を指定してレーティング

インデックス表示された画像を見ながら、レーティングする範囲（始点／終点）を指定して、まとめてレーティングすることができます。



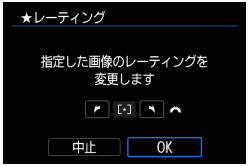
1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶2：レーティング] の [範囲指定] を選びます。

2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、〈SET〉を押します。
- 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3 〈MENU〉ボタンを押す



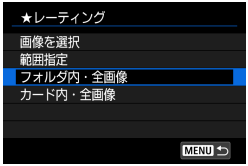
4 レーティングを設定する

- 〈☆〉を回してお気に入りマークを選び、[OK] を選びます。

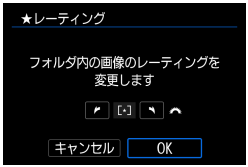
➡ 指定した範囲の画像に対して、まとめて（同一の）レーティングが行われます。

フォルダ内／カード内全画像レーティング

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてレーティングすることができます。



［▶2：**レーティング**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像がレーティングされます。



〈☆〉を回して、レーティングを選び、［**OK**］を選びます。
レーティングを行わないときや、解除するときは［**OFF**］を選びます。

［▶2：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（p.313）、表示される内容が［**検索結果・全画像**］に変わります。

［**検索結果・全画像**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、指定した内容でレーティングされます。

- お気に入りマークの横に表示される数値が1000（枚）を超えると［**###**］と表示されます。
- ［▶2：**画像検索の条件設定**］［▶2：☆**での画像送り**］で、特定のお気に入りマークを付けた画像だけを表示することができます。

撮った動画の楽しみ方

撮影した動画は、主に次の3つの方法で再生して楽しむことができます。

テレビに接続して再生する (p.333)

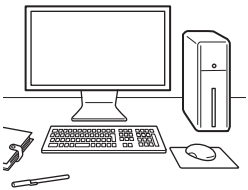
カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

インターフェースケーブルでカメラとハードディスクレコーダーを接続しても、動画や静止画を再生・保存することはできません。

カメラのモニターで再生する (p.325)

カメラのモニターで動画を再生することができます。また、動画の前後部分をカット（簡易編集）したり、カードに記録されている静止画と動画をスライドショーで自動再生することができます。

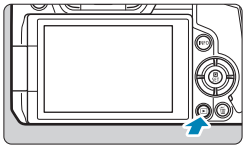
パソコンで再生・編集する



カードに記録されている動画ファイルをパソコンに取り込んで、OS標準のソフトウェアや汎用ソフトウェアで、動画の再生・編集を行うことができます。

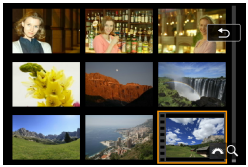
市販のソフトウェアで再生・編集するときは、撮影した動画の記録形式に対応したソフトウェアを使用してください。市販のソフトウェアについては、ソフトウェアメーカーにお問い合わせください。

動画を再生する



1 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押します。



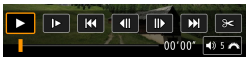
2 動画を選ぶ

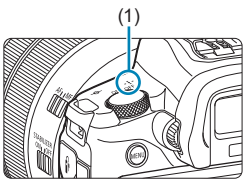
● 〈◀〉〈▶〉を押して再生する動画を選びます。

● 1枚表示のときに、画面左上に〈SET〉が表示されている画像が動画です。

● インデックス表示のときは、画面左側に縦帯の付いた画像が動画です。**インデックス表示からは再生できませんので、〈SET〉を押して1枚表示にします。**

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す





4 〈SET〉を押して動画を再生する

➡ 動画再生が始まります。

● 再生中に〈SET〉を押すと、再生が一時停止し、動画再生パネルが表示されます。もう一度押すと再開します。

● 〈⚙〉を回すと、再生中でも音量を調整することができます。

(1) スピーカー

動画再生パネル

項目	再生内容
▶ 再生	〈SET〉を押すたびに再生／一時停止を繰り返します。
▶ スロー再生	〈〉を回すとスロー再生の速さを変えることができます。画面右上に速さの度合いが表示されます。
⏮ 先頭フレーム	動画の先頭画面を表示します。
◀II フレーム戻し	〈SET〉を押すたびに1コマ戻します。〈SET〉を押し続けると早戻しします。
II▶ フレーム送り	〈SET〉を押すたびに1コマ送ります。〈SET〉を押し続けると早送りします。
⏭ 最終フレーム	動画の最終画面を表示します。
✂ 編集	編集画面を表示します（p.327）。
フレーム切り出し	4K動画／4Kタイムラプス動画再生時に選択することができます。画面に表示しているフレームを切り出して、静止画（JPEG画像）として保存することができます（p.329）。
├────────	再生位置
mm’ ss”	再生時間（mm’：分、ss”：秒）
🔊 音量	〈〉を回すと、スピーカー（p.325）の音量を調整することができます。

- 他のカメラで撮影した動画は、このカメラで再生できないことがあります。
- カメラをテレビに接続して動画を再生するときは（p.333）、テレビ側で音量の調整を行ってください（〈〉を回しても音量は変わりません）。
- カードの読み取り速度が遅いときや、動画ファイル内のフレームが壊れているときは、動画再生が終了することがあります。

✂動画の前後部分をカットする

撮影した動画の前後部分を約1秒単位で削除することができます。

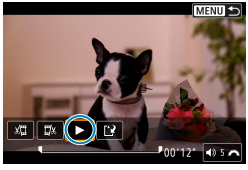
1 動画を再生して一時停止させる

➡ 動画再生パネルが表示されます。

2 動画再生パネルで［✂］を選ぶ

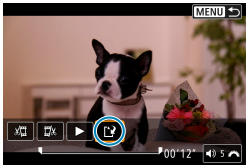
3 削除する範囲を指定する

- ［前部を削除］か、［後部を削除］を選んで〈SET〉を押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押すと、フレームが送られます。押したままにすると、早送りになります。〈⟳〉を回すと、1フレームずつ送られます。
- 削除する範囲が決まったら、〈SET〉を押します。画面下部に線で表示された範囲が残ります。



4 編集内容を確認する

- ［▶］を選んで〈SET〉を押すと、編集した動画が再生されます。
- 削除する範囲を変更するときは、手順3の操作を行います。
- 編集を中止するときは、〈MENU〉ボタンを押します。



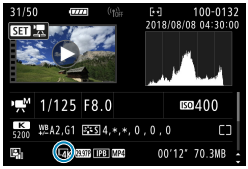
5 保存する

- 【[保存]】を選んで〈SET〉を押します。
- 保存画面が表示されます。
- 別のファイルとして保存するときは**【新規保存】**、編集前の動画を残さないときは**【上書き保存】**を選んで、〈SET〉を押します。
- 確認画面で【OK】を選ぶと、編集した動画が保存され、再生画面に戻ります。

- 約1秒単位（画面下部に【✂】が表示される位置）で削除されるため、実際にカットされる位置が指定した位置と異なることがあります。
- 他のカメラで撮影した動画はこのカメラで編集できません。
- カメラとパソコンを接続しているときは編集できません。

4K動画／4Kタイムラプス動画からフレームを切り出す

4K動画、4Kタイムラプス動画から任意のフレームを選び、約830万画素（3840×2160）の静止画（JPEG画像）として保存することができます。この機能を「フレーム切り出し（4Kフレームキャプチャー）」と言います。



1 画像を再生する

● 〈▶〉ボタンを押します。

2 4K動画を選ぶ

● 〈◀〉〈▶〉を押して、4K動画、または4Kタイムラプス動画を選びます。

● 撮影情報表示の画面で【4K】と表示されている画像が4K動画／4Kタイムラプス動画です。

● インデックス表示のときは、〈SET〉を押して1枚表示にします。

3 1枚表示の状態で〈SET〉を押す

4 動画を再生して一時停止させる

➡ 動画再生パネルが表示されます。

5 切り出すフレームを選ぶ

● 動画再生パネルを操作して、静止画として切り出したいフレームを選びます。

● 動画再生パネルの操作方法については、326ページを参照してください。

6 [フレーム切り出し] を選ぶ

● 〈◀〉〈▶〉を押して【フレーム切り出し】を選び、〈SET〉を押します。

7 保存する

- **[OK]** を選ぶと、画面に表示されているフレームが静止画（JPEG画像）として保存されます。

8 表示する画像を選ぶ

- 保存先のフォルダと画像番号を確認します。
- **[元の動画]** または **[切り出した静止画]** を選びます。

➡ 選択した画像が表示されます。

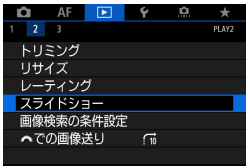
フルHD動画やフルHDタイムラプス動画、他のカメラで撮影した4K動画／4Kタイムラプス動画からは、フレーム切り出しはできません。

自動再生する(スライドショー)

カードに記録されている画像を自動で連続再生することができます。

1 再生する画像を指定する

- カード内の全画像を再生するときは、手順2に進みます。
- スライドショーで再生する画像を指定したいときは、**[▶2：画像検索の条件設定]**で絞り込みます（p.313）。



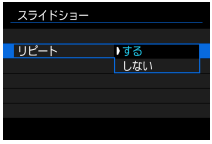
2 [▶2：スライドショー]を選ぶ

3 再生内容を設定する

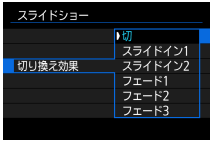
- **[設定]**を選び〈**SET**〉を押します。
- 静止画の**[再生間隔]**と**[リピート]**（繰り返し再生）、**[切り換え効果]**（画像を切り換える際の演出効果）を設定します。
- 設定が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。

再生間隔

リピート



切り換え効果



4 スライドショーを開始する

- **[スタート]** を選び〈SET〉を押します。
- ➡ **[画像読み込み中...]** が表示されたあと、スライドショーが始まります。

5 スライドショーを終了する

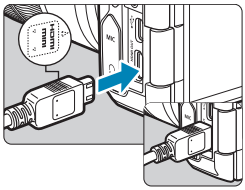
- 〈MENU〉ボタンを押すと、スライドショーが終了し、設定画面に戻ります。

- 一時停止したいときは〈SET〉を押します。一時停止中は画面左上に **[❚❚]** が表示されます。再度〈SET〉を押すと再開します。
- 静止画を自動再生しているときに〈INFO〉ボタンを押すと、表示形式を切り換えることができます（p.304）。
- 動画再生中に〈 〉を回すと、音量を調整することができます。
- 自動再生中、または一時停止中に〈◀〉〈▶〉を押すと、画像が切り換わります。
- 自動再生中にオートパワーオフは機能しません。
- 画像により表示時間が異なることがあります。

テレビで見る

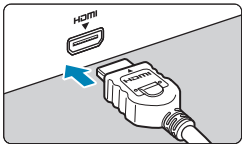
カメラとテレビをHDMIケーブルで接続して、撮影した静止画や動画をテレビで見ることができます。HDMIケーブルは、別売のHTC-100の使用をおすすめします。

なお、テレビに映像が表示されないときは、【3:ビデオ方式】の【NTSC】【PAL】の設定を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。



1 HDMIケーブルをカメラに接続する

- プラグの〈▲**HDMI MINI**〉がカメラの前面に向くようにして、〈**HDMI OUT**〉端子に差し込みます。

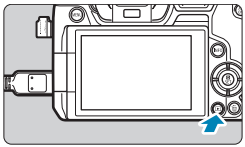


2 テレビにHDMIケーブルを接続する

- HDMIケーブルを、テレビのHDMI入力端子に接続します。

3 テレビの電源を入れ、テレビの入力切り換えで接続した端子を選ぶ

4 カメラの電源スイッチを〈ON〉にする



5 〈▶〉ボタンを押す

- ➡ 画像がテレビに表示されます（カメラのモニターには何も表示されません）。
- 接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。

- 動画再生時の音量はテレビ側で調整します。カメラ側から音量の調整はできません。
- ケーブルの取り付け／取り外しを行うときは、カメラとテレビの電源を切った状態で行ってください。
- 使用するテレビにより、表示内容の一部が欠けて表示されることがあります。
- 他の機器からの出力をカメラの〈**HDMI OUT**〉端子に入力しないでください。故障の原因になります。
- テレビとの相性により、映像が表示されないことがあります。
- 映像が再生されるまでに時間がかかることがあります。この現象が気になるときは、**[3：HDMI 出力解像度]** を **[1080p]** に設定してください(p.395)。
- カメラとテレビを接続したときは、画面にタッチして操作することはできません。

消去する

不要な画像を1枚ずつ選んで消去したり、まとめて消去することができます。なお、プロテクト（p.318）をかけた画像は消去されません。

消去した画像は復元できません。十分に確認してから消去してください。また、大切な画像は、誤って消去しないようプロテクトをかけてください。

1枚ずつ消去

1 消去する画像を選ぶ

- 〈▶〉ボタンを押します。
- 〈◀〉〈▶〉を押して消去する画像を選びます。

2 〈🗑〉ボタンを押す

3 消去する

JPEG画像／RAW画像／動画

- 【消去】を選び〈SET〉を押します。

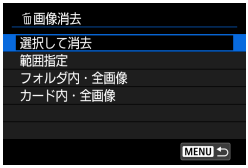
RAW＋JPEG画像

- 項目を選び〈SET〉を押します。

チェック［√］を付けてまとめて消去

消去したい画像にチェックを付けて、まとめて消去することができます。

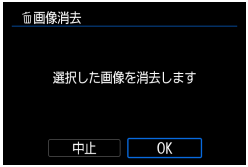
1 ［▶1：画像消去］を選ぶ



2 ［選択して消去］を選ぶ

3 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押して消去する画像を選び、〈SET〉を押します。
  - ➡ 画面の左上に［√］が表示されます。
- 他に消去したい画像があるときは、手順3を繰り返します。



4 消去する

- 〈MENU〉ボタンを押して［OK］を選びます。
  - ➡ 選択した画像がまとめて消去されます。

範囲を指定して消去

インデックス表示された画像を見ながら、消去する範囲（始点／終点）を指定して、まとめて消去することができます。

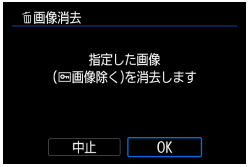
1 [範囲指定] を選ぶ

- [▶1:画像消去] の [範囲指定] を選びます。

2 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

3 〈MENU〉ボタンを押す

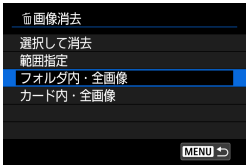


4 消去する

- [OK] を選びます。
- ➡ 指定した範囲の画像が消去されます。

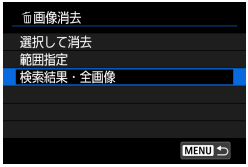
フォルダ内／カード内全画像消去

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめて消去することができます。



［▶1：**画像消去**］で［**フォルダ内・全画像**］または［**カード内・全画像**］を選ぶと、その中のすべての画像が消去されます。

［▶2：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（p.313）、表示される内容が［**検索結果・全画像**］に変わります。



［**検索結果・全画像**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が消去されます。

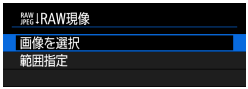
プロテクトがかけられた画像を含め、すべての画像を消去したいときは、カード初期化を行います（p.373）。

RAW画像をカメラで現像する 応用

RAWまたはCRAWで撮影した画像をカメラで現像処理を行い、JPEG画像として保存することができます。RAW画像そのものは撮影時のまま何も変わりませんので、現像条件を変えたJPEG画像を何枚でも作ることができます。

RAW画像はEOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで現像処理を行うこともできます。

1 [▶1：RAW現像] を選ぶ



2 項目を選び、画像を選択する

- RAW現像を行う画像をまとめて選択（指定）することができます。

[画像を選択]

- 〈◄〉〈►〉を押して現像する画像を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 画面の左上に【✓】が表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

[範囲指定]

- 始めの画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、〈SET〉を押します。
- ➡ 始点から終点までの範囲の画像に【✓】が表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

3 現像条件を設定する

[撮影時の設定で現像]

- 撮影を行ったときの画像設定の条件で現像が行われます。

[細かく設定して現像]

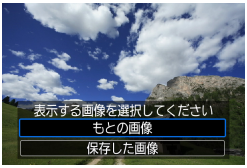
- 〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。
- 〈〉または〈〉を回すと、設定が切り換わります。
- 〈SET〉を押すと、機能の設定画面が表示されます。
- 〈〉ボタンを押すと、撮影時の設定に戻ります。

比較画面について

- 〈INFO〉ボタンを押して〈〉を回すと、**[変更後]**と**[撮影時設定]**を切り換えることができます。
- **[変更後]**のときは、撮影時の設定から変更した項目がオレンジ色で表示されます。
- 〈MENU〉ボタンを押します。

4 保存する

- **[細かく設定して現像]**のときは**[]**（保存）を選びます。
- 内容を確認し、**[OK]**を選びます。
- 他に現像処理を行いたい画像があるときは**[はい]**を選び、手順2～4を繰り返します。



5 表示する画像を選ぶ

- **[もとの画像]** または **[保存した画像]** を選びます。

➡ 選択した画像が表示されます。

拡大表示について

[細かく設定して現像] を選んだあと、表示された画面で〈Q〉ボタンを押すと、画像を拡大することができます。拡大率は、**[記録画質]** の設定により異なります。〈✥〉十字キーで拡大表示位置を変えることができます。
もう一度〈Q〉ボタンを押すと、拡大表示が終了します。

アスペクト比を設定した画像について

[📷1：静止画クロップ/アスペクト]（p.80）を **[1：1（アスペクト）]** **[4：3（アスペクト）]** **[16：9（アスペクト）]** に設定して撮影した画像のときは、撮影範囲を示す線の内側が現像されます。なお、RAW現像を行って生成したJPEG画像は、設定したアスペクト比で保存されます。

DPRAW画像について

[📷1：DPRAW設定] を **[する]** に設定して撮影したRAW画像も（p.78）、このカメラでRAW現像を行うことはできますが、デュアルピクセル情報を活用した現像処理を行うことはできません。

RAW、CRAW画質で撮影した多重露出画像を現像するときは、一部の項目の設定変更はできません。

現像処理の項目について

- **[☀±0] 明るさ補正**
  1/3段ステップ±1段の範囲で明るさを補正することができます。
- **[AWB] ホワイトバランス**（p.97）
  ホワイトバランスを選ぶことができます。**[AWB]**を選んだときは、**[オート（雰囲気優先）]**/**[オート（ホワイト優先）]**を選ぶことができます。**[K]**を選んだときは、色温度を設定することができます。
- **[Standard] ピクチャースタイル**（p.88）
  ピクチャースタイルを選ぶことができます。シャープネス、コントラストなどの調整を行うことができます。
- **[オートライティングオプティマイザ]**（p.104）
  オートライティングオプティマイザの内容を設定することができます。
- **[NR] 高感度撮影時のノイズ低減**（p.105）
  ノイズ低減処理の内容を設定することができます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.341）で確認してください。
- **[◢L] 記録画質**（p.75）
  JPEG画像を生成する際の記録画質を設定することができます。なお、クロップ撮影、およびEF-Sレンズを使用して撮影したRAW画像のときは、**◢L**/**◢L**/**S2**のみ選択できます。

- **[sRGB] 色空間**（p.117）
  sRGBとAdobe RGBが選択できます。カメラのモニターはAdobe RGBに対応していないため、どちらを選んでも画像の見えかたはほとんど変わりません。

- **[レンズ光学補正]**
  - **[OFF] 周辺光量補正**（p.111）
    レンズの特性によって画像の四隅が暗くなる現象を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.341）で画面の四隅を確認してください。なお、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで最大補正を行ったときよりも、控えめに補正されます。補正効果が確認できないときは、Digital Photo Professionalで周辺光量補正を行ってください。
  - **[OFF] 歪曲収差補正**（p.111）
    レンズの特性によって起こる画像の「ゆがみ」を補正することができます。**[する]**を選ぶと補正された画像が表示されます。なお、画像処理の都合上、画像の周辺部がカットされます。
    解像感が少し低下することがあるため、必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスで調整してください。
  - **[OFF] デジタルレンズオプティマイザ**（p.112）
    レンズの収差、回折現象、ローパスフィルターに起因した解像劣化を、光学設計値を利用して補正することができます。**[する]**設定時の効果は拡大表示（p.341）で確認してください。画像全体を表示しているときはデジタルレンズオプティマイザの効果は表示されません。なお、**[する]**を選んだときは、色収差補正、回折補正の項目は表示されませんが、ともに**[する]**で現像されます。

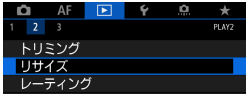
- **[色収差補正]** (p.113)
  レンズの特性によって起こる色収差（被写体の輪郭部分に現れる色ズレ）を補正することができます。**[する]** を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.341）で確認してください。
- **[回折補正]** (p.113)
  レンズの絞りの影響によって画像の鮮鋭さが低下する現象を補正することができます。**[する]** を選ぶと補正された画像が表示されます。効果が分かりにくいときは、拡大表示（p.341）で確認してください。

- カメラで行うRAW現像の結果と、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalで行うRAW現像の結果は、完全に同じにはなりません。
- **[明るさ補正]** を行ったときは、補正効果とともにノイズや縞などが強調されることがあります。
- **[デジタルレンズオプティマイザ]** 設定時は、補正効果とともにノイズが強調されることがあります。また、画像に輪郭強調が強くかかることがあります。必要に応じてピクチャースタイルのシャープネスの調整を行ったり、**[デジタルレンズオプティマイザ]** を **[しない]** に設定してください。

- レンズ光学補正に対応しているレンズの補正用データは、カメラに登録（保存）されています。
- レンズ光学補正の効果は、使用レンズや撮影条件などにより異なります。また、使用レンズや撮影条件などにより、効果が分かりにくい場合があります。
- デジタルレンズオプティマイザ用の補正データについては、112ページを参照してください。

JPEG画像をリサイズする

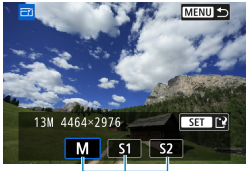
撮影したJPEG画像の画素数を少なくして、別画像として保存することができます。リサイズは、JPEGの**L**/**M**/**S1**で撮影した画像で行うことができます。**JPEGのS2とRAWで撮影した画像は、リサイズできません。**



1 [▶2：リサイズ] を選ぶ

2 画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉を押してリサイズする画像を選びます。



(1)

3 画像サイズを選ぶ

- 〈SET〉を押すと、画像サイズが表示されます。
- リサイズする画像サイズ（1）を選び、〈SET〉を押します。
- クロップ撮影、およびEF-Sレンズを使用して撮影したJPEG画像は、**S2**へのリサイズになります。

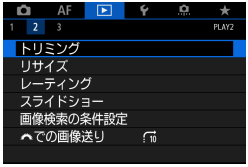
4 保存する

- [OK] を選ぶと、リサイズされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にリサイズしたい画像があるときは、手順2～4を繰り返します。

リサイズした画像の画像サイズについては、616ページを参照してください。

JPEG画像をトリミングする

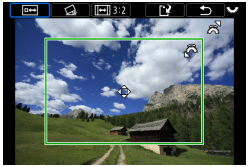
撮影したJPEG画像を部分的に切り抜いて、別画像として保存することができます。トリミングは、JPEGで撮影した画像で行うことができます。
RAWで撮影した画像は、トリミングできません。



1 [▶2：トリミング] を選ぶ

2 画像を選ぶ

● 〈◀〉〈▶〉を押してトリミングする画像を選びます。



3 トリミング枠の設定を行う

● 〈SET〉を押すと、トリミング枠が表示されます。
● 枠で囲まれた範囲が切り抜かれます。

● 枠の大きさを変える

〈 〉を回すと、枠の大きさが変わります。枠を小さくするほど拡大してトリミングされます。

● 枠のアスペクト比と縦横を変える

〈 〉を回して〈 〉を選びます。〈SET〉を押すと、枠のアスペクト比が変わります。[3：2] [16：9] [4：3] [1：1] [2：3] [9：16] [3：4] から選ぶことができます。

● 枠を移動する

〈✥〉十字キーを操作すると、枠が上下左右に移動します。好みの構図になるように枠を移動します。

● 傾きを補正する

±10°の範囲で傾きを補正することができます。〈⌛〉を回して〈⌂〉を選び、〈SET〉を押します。画面に表示されるグリッドで傾きを確認しながら、〈⌛〉を回す（0.1°単位）、または画面左上に表示された左右の矢印にタッチして（0.5°単位）、傾きを補正します。補正が終わったら〈SET〉を押します。

4 トリミング範囲を確認する

- 〈⌛〉を回して〈⊡⟷〉を選びます。
- ➡ 切り抜かれる範囲が表示されます。

5 保存する

- 〈⌛〉を回して〈⇧〉を選びます。
- [OK] を選ぶと、トリミングされた画像が保存されます。
- 保存先のフォルダと画像番号を確認して [OK] を選びます。
- 他にトリミングしたい画像があるときは、手順2～5を繰り返します。

- 傾き補正の角度によっては、トリミング枠の位置や大きさが変わることがあります。
- トリミング保存した画像を再度トリミングしたり、リサイズすることはできません。
- トリミングを行った画像には、AFフレーム表示用の情報（p.309）、ダストデリートデータ（p.121）は付加されません。

パソコン／FTPサーバーに画像を送る

カメラとパソコンをつないで、カードに記録された画像をパソコンに送ることができます。また、カメラにワイヤレスファイルトランスミッター（別売）を接続したときは、FTPサーバーに画像を転送することもできます。この機能を「ダイレクト画像転送」といいます。

画像転送の操作は、カメラのモニターに表示される画面を見ながら、カメラ側で行います。

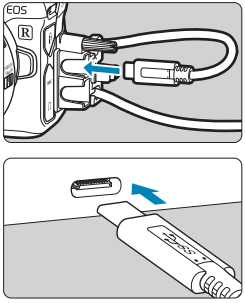
ここでは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルでつないで、画像転送を行う方法を説明します。FTPサーバーへの画像転送については、ワイヤレスファイルトランスミッターの使用説明書を参照してください。

パソコンに送られた画像は、パソコンの**【ピクチャ】**または**【マイピクチャ】**フォルダに、撮影日ごとのフォルダに分けられて保存されます。

カメラとパソコンを接続する前に、EOS用ソフトウェアのEOS Utillityをパソコンにインストールしてください（p.572）。

画像転送の準備

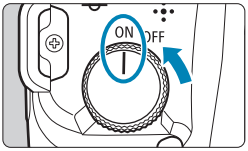
1 カメラの電源スイッチを〈OFF〉にする



2 カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.37）、プラグをデジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB 端子（Type-C）にプラグを差し込みます。

付属または純正のインターフェースケーブルを使用してください。



3 電源スイッチを〈ON〉にする

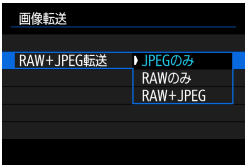
- パソコンに、プログラムを選択する画面が表示されたときは、**[EOS Utility]** を選びます。

➡ パソコンにEOS Utilityの画面が表示されます。

EOS Utility の画面が表示されたあと、EOS Utility を操作しないでください。
EOS Utilityのメイン画面以外が表示された状態では、351ページの手順6で**[ダイレクト転送]** が表示されません（パソコンへの画像転送ができません）。

- EOS Utilityの画面が表示されないときは、EOS Utility使用説明書を参照してください。
- ケーブルを取り外すときは、カメラの電源を切ってからプラグの側面を持って引いてください。

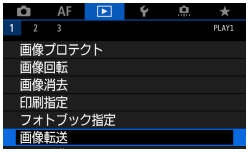
RAW+JPEGで撮影した画像を転送するとき



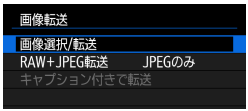
RAW+JPEGで撮影した画像は、どの画像を転送するかを設定することができます。次ページの手順2で **[RAW+JPEG転送]** を選んで設定します。

転送する画像を選択する

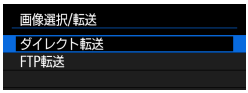
● 画像選択



1 [▶1：画像転送] を選ぶ

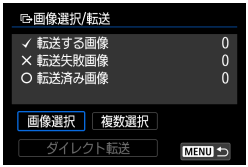


2 [画像選択/転送] を選ぶ



3 転送先を選ぶ

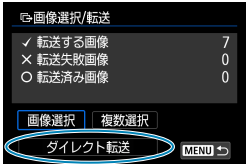
- パソコンに画像を転送するときは、[ダイレクト転送] を選びます。



4 [画像選択] を選ぶ

5 転送する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して転送する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して画面の左上に [✓] を表示させ、〈SET〉を押します。
- 他に転送したい画像があるときは、手順5を繰り返します。
- 画像の選択が終了したら〈MENU〉を押します。

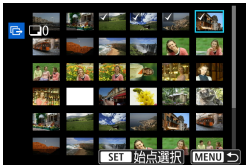


6 画像を転送する

- パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面が表示されていることを確認します。
- **[ダイレクト転送]**を選び〈**SET**〉を押します。
- 確認画面で **[OK]** を選ぶと、画像がパソコンに転送されます。
- **[複数選択]** で選択した画像も、この操作で転送します。

- **[画像選択]** を選んだときに、画面の左上に表示されるマークで転送履歴を確認することができます（マークなし：未選択画像、✓：転送する画像、×：転送失敗画像、○：転送済み画像）。
- 349ページの **[RAW+JPEG転送]**、および前ページの手順1～5の操作は、カメラとパソコンが接続されていない状態でも行うことができます。

● 複数選択



- **範囲指定**

[複数選択] の **[範囲指定]** を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に **[✓]** が表示され、1画像1枚で転送指定されます。

● **フォルダ内**

［フォルダ内の未転送画像を選択］を選ぶと、選択したフォルダに入っている、未転送画像が選択されます。

［フォルダ内の転送失敗画像を選択］を選ぶと、選択したフォルダに入っている、転送に失敗した画像が選択されます。

［フォルダ内の転送履歴をクリア］を選ぶと、選択したフォルダに入っている画像の転送履歴が消去されます。転送履歴を消去してから、**［フォルダ内の未転送画像を選択］**を選ぶと、フォルダに入っているすべての画像をもう一度転送することができます。

● **カード内**

［カード内の未転送画像を選択］［カード内の転送失敗画像を選択］［カード内の転送履歴をクリア］の内容は、「●フォルダ内」の内容を参照してください。

● パソコンの画面にEOS Utilityのメイン画面以外が表示されているときは、**［ダイレクト転送］**は表示されません。
● 画像転送中は操作できないメニュー項目があります。

● 動画を転送することもできます。
● 画像転送中も撮影を行うことができます。
● **［▶1：画像転送］**の**［キャプション付きで転送］**については、ワイヤレスファイルトランスミッターWFT-E7 (Ver.2) (別売)の使用説明書を参照してください。

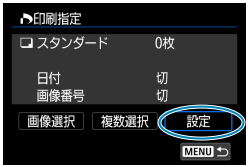
画像を印刷指定する／DPOF

カードに記録されている画像の中から、印刷したい画像と印刷枚数などを指定することができるDPOF（Digital Print Order Format）機能に対応しています。複数の画像を一度に印刷したいときや、写真店に印刷注文する際に使います。

印刷タイプや日付、画像番号の入／切といった印刷内容の設定を行います。この設定は、印刷指定したすべての画像に対して、一律に適用されます（1画像ごとに別々の設定はできません）。

印刷内容を設定する

1 **［▶1：印刷指定］を選ぶ**

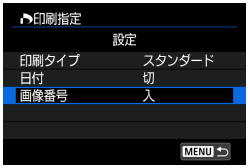


2 **［設定］を選ぶ**

3 **項目の内容を設定する**

- **［印刷タイプ］［日付］［画像番号］**の内容を設定します。

印刷タイプ		**スタンダード**	用紙1枚に1画像を印刷します。
		インデックス	用紙1枚に縮小画像を複数印刷します。
		両方	スタンダードとインデックスの両方を印刷します。
日付	**入**		**［入］**にすると、撮影画像に記録されている日付情報を入れて印刷します。
	切		
画像番号	**入**		**［入］**にすると、画像番号を付けて印刷します。
	切		



4 設定を終了する

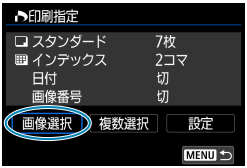
- 〈MENU〉ボタンを押します。
- 次に印刷指定画面の**[画像選択]**[**複数選択**]で、印刷する画像を指定します。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。
- 画像サイズが大きい画像を**[インデックス]**[**両方**]の設定で印刷すると（p.353）、プリンターにより、インデックス印刷が行われないことがあります。そのときは、画像をリサイズしてから（p.345）インデックス印刷を行ってください。
- **[日付]**[**画像番号**]を**[入]**にしても、印刷タイプの設定やプリンターにより、印刷されないことがあります。
- **[インデックス]**に設定したときは、**[日付]**と**[画像番号]**を同時に**[入]**にできません。
- 印刷するときは、印刷指定を行ったカードを使用してください。画像データだけをカードから抜き出して印刷すると、指定した内容で印刷できません。
- DPOFに対応したプリンターの機種や、写真店の機器により、指定内容が反映されないことがあります。プリンターの場合は、プリンターの使用説明書を参照してください。写真店の場合は、事前にお店に確認してください。
- 他のカメラで印刷指定した画像を、このカメラに入れて再度印刷指定しないでください。印刷指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。また、画像の種類により、印刷指定できないことがあります。

PictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターに、カメラからWi-Fiで画像を送信して、印刷（ダイレクトプリント）することができます（p.469）。

印刷する画像を指定する

● 画像選択



画像を1枚ずつ選んで指定します。
〈MENU〉ボタンを押すと、指定した内容がカードに保存されます。

● スタンダード／両方

〈SET〉を押すと、表示されている画像が1枚印刷指定されます。続けて〈▲〉〈▼〉を押すと、枚数を最大99枚に設定することができます。

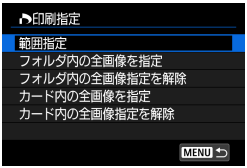
(1) 指定枚数
(2) 総指定枚数

● インデックス

〈SET〉を押して【✓】を付けた画像が、インデックス印刷用の画像として指定されます。

(3) チェックマーク
(4) インデックスマーク

● 複数選択



● 範囲指定

【複数選択】の**【範囲指定】**を選びます。始めの画像（始点）と終わりの画像（終点）を選ぶと、始点から終点までの範囲の画像に【✓】が表示され、1画像1枚で印刷指定されます。

● **フォルダ内の全画像**

［フォルダ内の全画像を指定］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内のすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

［フォルダ内の全画像指定を解除］を選び、フォルダを選択すると、フォルダ内の印刷指定がすべて解除されます。

● **カード内の全画像**

［カード内の全画像を指定］を選ぶと、カードに記録されているすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

［カード内の全画像指定を解除］を選ぶと、カード内の印刷指定がすべて解除されます。

［▶2：画像検索の条件設定］で検索条件が設定されているときは（p.313）、**［複数選択］**を選んだときに、表示される内容が**［検索結果の全画像を指定］［検索結果の全画像の指定解除］**に変わります。

● **検索結果の全画像**

［検索結果の全画像を指定］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像が、1画像1枚で印刷指定されます。

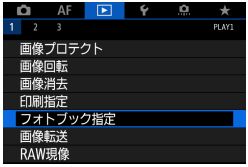
［検索結果の全画像の指定解除］を選ぶと、絞り込まれた画像の印刷指定がすべて解除されます。

- RAW画像と動画は印刷指定できません。また、**［複数選択］**でまとめて印刷指定を行っても、RAW画像と動画は指定されません。
- PictBridgeに対応したプリンターで印刷するときは、一度に印刷指定する画像の数を400画像以下にしてください。それ以上指定すると、すべての画像を印刷できないことがあります。

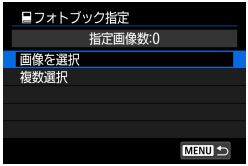
フォトブックにする画像を指定する

フォトブックにする画像を指定（最大998枚）することができます。EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってパソコンに取り込むと、フォトブック指定した画像が専用のフォルダにコピーされます。インターネットでフォトブックを注文するときに便利です。

画像を選択して1枚ずつ指定



1 ［▶1：フォトブック指定］を選ぶ



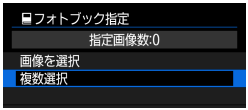
2 ［画像を選択］を選ぶ

3 指定する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して指定する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 他にフォトブック指定したい画像があるときは、手順3を繰り返します。

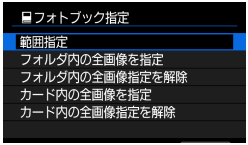
範囲を指定してフォトブック指定

インデックス表示された画像を見ながら、フォトブックにする画像の範囲（始点／終点）を指定して、まとめてフォトブック指定することができます。



1 [複数選択] を選ぶ

- [▶1：フォトブック指定] の [複数選択] を選びます。



2 [範囲指定] を選ぶ

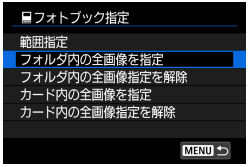
3 範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選び、〈SET〉を押します。
- 続けて終わりの画像（終点）を選び、〈SET〉を押します。

➡ 始点から終点までの範囲の画像に [✓] が表示されます。

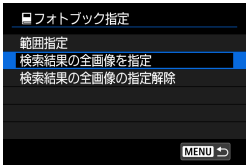
フォルダ内／カード内全画像指定

フォルダ内、またはカード内のすべての画像をまとめてフォトブック指定することができます。



［▶1:**フォトブック指定**］の［**複数選択**］で［**フォルダ内の全画像を指定**］または［**カード内の全画像を指定**］を選ぶと、その中のすべての画像がフォトブック指定されます。
解除するときは［**フォルダ内の全画像指定を解除**］または［**カード内の全画像指定を解除**］を選びます。

［▶2：**画像検索の条件設定**］で検索条件が設定されているときは（p.313）、［**複数選択**］を選んだときに、表示される内容が［**検索結果の全画像を指定**］［**検索結果の全画像の指定解除**］に変わります。



［**検索結果の全画像を指定**］を選ぶと、検索条件で絞り込まれたすべての画像がフォトブック指定されます。
［**検索結果の全画像の指定解除**］を選ぶと、絞り込まれた画像のフォトブック指定がすべて解除されます。

- RAW画像と動画はフォトブック指定できません。また、［**複数選択**］でまとめてフォトブック指定を行っても、RAW 画像と動画は指定されません。
- 他のカメラでフォトブック指定した画像を、このカメラに入れて再度フォトブック指定しないでください。フォトブック指定されている内容が、意図せずにすべて書き換えられることがあります。

5

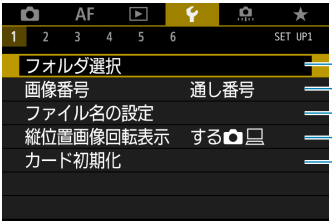
機能設定

この章では、メニュー機能の「🔧：機能設定タブ」の項目について説明しています。

● ページタイトル右の 応用 は、[Fv] [P] [Tv] [Av] [M] [BULB] モード限定の機能であることを示しています。

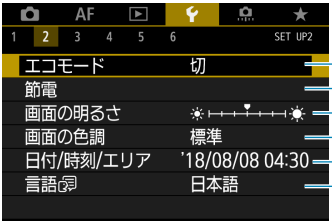
メニュー目次:機能設定タブ

● 機能設定1



p.365
p.367
p.370
p.372
p.373

● 機能設定2

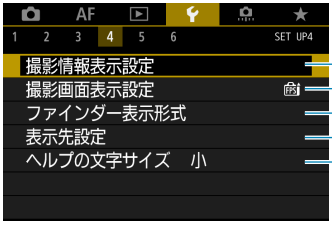


p.376
p.377
p.378
p.379
p.380
p.383

● 機能設定3

p.384
p.385
p.386
p.387
p.391
p.395
p.396

● 機能設定4



p.397
p.402
p.402
p.403
p.406

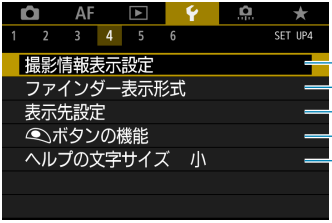
● 機能設定5

p.407
p.411

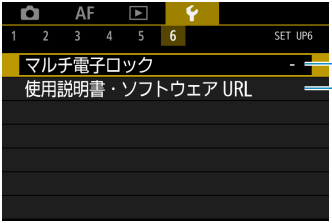
● 機能設定6

p.416
p.417
p.419
p.420
p.422
p.422
p.422（動画撮影のときは表示されません）

動画撮影のときは、[4] は以下の画面が表示されます。



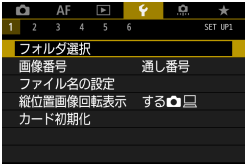
[A+] モードおよび[A+]モードのときは、[6] は以下の画面が表示されます。



フォルダの作成と選択

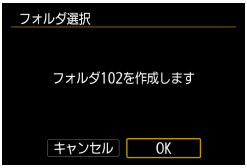
画像を保存するフォルダを任意に作成／選択することができます。

フォルダの作成



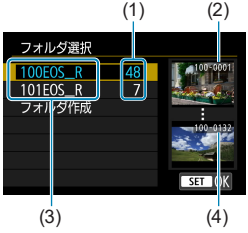
1 [1：フォルダ選択] を選ぶ

2 [フォルダ作成] を選ぶ



3 [OK] を選ぶ

フォルダの選択



- フォルダ選択画面でフォルダを選びます。
- 撮影画像は選択したフォルダに記録されます。

(1) フォルダ内画像数
(2) 最小番号画像
(3) フォルダ名
(4) 最大番号画像

フォルダについて

1つのフォルダには、画像が最大9999枚保存されます（画像番号0001～9999）。フォルダ内の画像がいっぱいになると、番号が1 つ繰り上がったフォルダが自動的に作成されます。また、強制リセット（p.369）を行ったときもフォルダが自動的に作成されます。フォルダは100～999まで作成することができます。

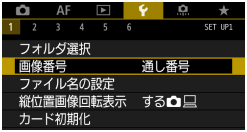
パソコンを使ったフォルダ作成

カードを開いたところに「**DCIM**」という名前のフォルダを作ります。次にDCIMフォルダを開いたところに、画像を記録するフォルダを必要な数だけ作ります。フォルダ名は、「**100ABC_D**」のように、必ず100～999までの3桁の番号に続けて、5文字の英数字を付けます。使用できる文字は、半角アルファベットA～Z（大文字、小文字混在可）、半角の「_ 」（アンダーバー）、および数字です。スペースは使用できません。また、同じフォルダ番号（例：100ABC_D、100W_XYZ）を付けたときは、カメラがフォルダを認識できません。

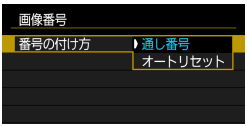
画像番号の付け方を設定する

撮影した画像には0001～9999の順で画像番号が付けられ、1つのフォルダに保存されます。画像番号は、用途に応じて付け方を変えることができます。

（例）**BE3B0001.JPG**
画像番号

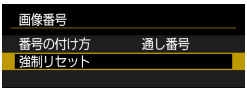


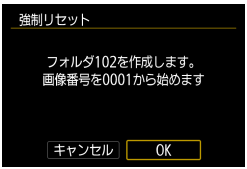
1 [1：画像番号] を選ぶ



2 項目を設定する

- **[番号の付け方]** を選びます。
- **[通し番号] [オートリセット]** のいずれかを選びます。





- 画像番号をリセットしたいときは、**[強制リセット]** を選びます（p.369）。
- **[OK]** を選ぶと、新しいフォルダが作成され、画像番号が0001から始まります。

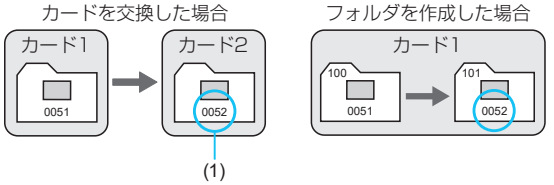
フォルダ番号999のフォルダに画像番号9999の画像が保存されると、カードに空き容量があっても撮影できなくなります。カードの交換を促すメッセージが表示されますので、新しいカードに交換してください。

通し番号

カード交換やフォルダ作成を行っても連番で保存したいとき

カード交換やフォルダ作成を行っても、画像番号9999の画像ができるまで、連続した番号が付けられ、保存されます。複数のカード、またはフォルダにまたがった0001～9999までの画像を、パソコンで1つのフォルダにまとめて保存したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。画像を通し番号で保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



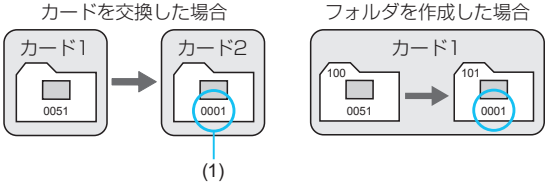
(1) 続きの画像番号

オートリセット

カード交換やフォルダ作成で、画像番号を0001にしたいとき

カード交換やフォルダ作成を行うと、画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。カード単位、またはフォルダ単位で画像を分類したいときなどに有効です。

ただし、交換したカードや、作成したフォルダにすでに画像が入っているときは、その画像に付けられた番号の続き番号になることがあります。0001から順に保存したいときは、初期化したカードを使用してください。



(1) 画像番号リセット

強制リセット

任意に画像番号を0001にしたり、新しいフォルダで画像番号0001から撮影したいとき

この操作を行うと、自動的に新しいフォルダが作られ、そのフォルダに画像番号0001から順に番号が付けられ、保存されます。

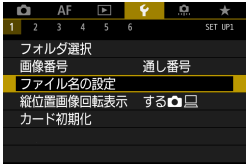
前の日に撮影した画像と、今日撮影する画像を別々のフォルダに保存したいときなどに有効です。

ファイル名を変更する

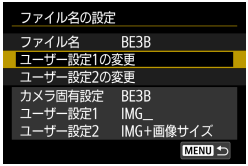
ファイル名は、先頭4文字の英数字、4桁の画像番号（p.367）、拡張子で構成されています。このうち先頭4文字を任意に変更することができます。

（例）**BE3B0001.JPG**

ファイル名の登録・変更

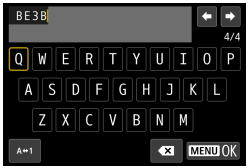


1 **［1：ファイル名の設定］を選ぶ**



2 **［ユーザー設定＊の変更］を選ぶ**

- **［ユーザー設定1］**
  任意の4文字を登録することができます。
- **［ユーザー設定2］**
  任意の3文字を登録することができます。4文字目には記録画質（p.371）が自動的に付加されます。



3 **任意の英数字を入力する**

- **［⌫］**または〈🗑〉ボタンで、不要な文字を消去します。

- 〈✥〉十字キーまたは〈☞〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 【A↔1】を選ぶと、入力モードが切り換わります。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して【OK】を選びます。

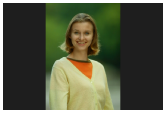
5 登録したファイル名を選ぶ

- 【ファイル名】を選びます。
- 登録したファイル名を選びます。

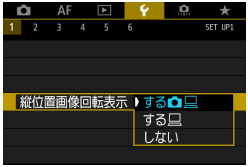
「_」（アンダーバー）を1文字目に指定することはできません。

- ユーザー設定2で登録した「***＋画像サイズ」を選択して撮影すると、そのとき設定されていた記録画質（1文字）が、ファイル名の先頭から4文字目に自動的に付加されます。
  「***L」＝ ◢L/◢L/RAW　「***M」＝ ◢M/◢M
  「***S」＝ ◢S1/◢S1　「***T」＝ S2
  「***C」＝ CRAW
  パソコンに画像を取り込んだときに、4文字目で画像サイズ（記録画質）を判別することができます。なお、RAW画像、JPEG画像は、拡張子から判別できます。
- 拡張子は、JPEG画像は「.JPG」、RAW画像は「.CR3」、動画は「.MP4」になります。

縦位置撮影画像の自動回転表示の設定



縦位置で撮影した画像を再生または表示するときの自動回転の設定を変更することができます。



1 [1：縦位置画像回転表示]を選ぶ

2 項目を選ぶ

● **する**
カメラでの再生とパソコンでの表示で自動回転表示を行います。

● **する**
パソコンでの表示で自動回転表示を行います。

● **しない**

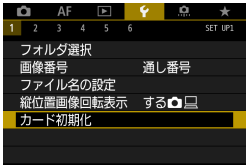
【しない】で撮影した画像は、**【する】**に設定して再生しても、自動回転表示は行われません。

- カメラを上や下に向けて撮影すると、自動回転表示が正しく行われないことがあります。
- パソコンの画面で自動回転表示しないときは、EOS用ソフトウェアの使用をおすすめします。

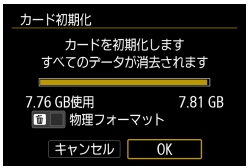
カードを初期化する

新しく買ったカードや、他のカメラ、パソコンで初期化したカードは、このカメラで初期化（フォーマット）してください。

カードを初期化すると、カードに記録されている内容は、画像だけでなくすべて消去されます。プロテクトをかけた画像も消去されますので、記録内容を十分に確認してから初期化してください。必要なデータは、初期化する前に必ずパソコンなどに保存してください。

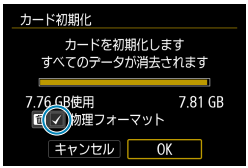


1 [1：カード初期化] を選ぶ



2 初期化する

- [OK] を選びます。



- 物理フォーマットを行うときは、〈🗑〉ボタンを押して、**[物理フォーマット]** の横に〈✓〉が付いた状態で **[OK]** を選びます。

- カード初期化画面に表示されるカードの総容量は、カードに表記されている容量よりも少なくなることがあります。
- 本機器は、Microsoftからライセンスされたexfat技術を搭載しています。

こんなときにカードを初期化します

- **新しく買ってきたカードを使うとき**
- **他のカメラやパソコンで初期化したカードを使うとき**
- **画像やデータでカードがいっぱいになったとき**
- **カードに関するエラーが表示されたとき**（p.607）

物理フォーマットについて

- 物理フォーマットは、カードへの書き込み／読み取り速度が遅くなったと感じたときや、データを完全に消去するときなどに行います。
- 物理フォーマットは、カード内の全記憶領域に渡って初期化を行うため、通常のカード初期化よりも時間がかかります。
- 物理フォーマット中に**【キャンセル】**を選ぶと、初期化を中止することができます。中止した場合でも、通常の初期化は完了しているため、カードはそのまま問題なく使用できます。

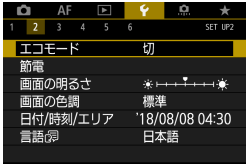
カード初期化時のファイルフォーマットについて

- SD/SDHCカードはFAT32形式、SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされます。
- exFAT形式でフォーマットされたカードを使用して動画撮影を行ったときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超える場合でも、（ファイルが分割されず）1つの動画ファイルに記録されます（4GBを超える動画ファイルが作成されます）。

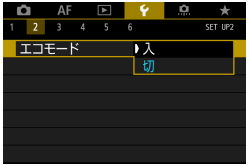
- このカメラで初期化したSDXCカードは、他のカメラでは使用できないことがあります。また、exFAT形式でフォーマットされたカードは、パソコンのOSやカードリーダーによっては、正しく認識されないことがあります。
- カード内のデータは、初期化や削除では完全には消去されません。譲渡・廃棄するときは、注意してください。カードを廃棄するときは、カードを破壊するなどして個人情報の流出を防いでください。

エコモードを設定する

撮影モードでのバッテリーの消耗をおさえる機能です。カメラを操作していないときに画面が暗くなり、消費電力が抑えられます。



1 [2：エコモード] を選ぶ

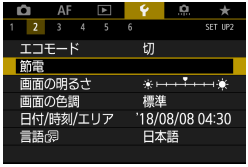


2 [入] を選ぶ

- カメラを操作しないと約2秒後に画面が暗くなります。その約10秒後に画面が消えます。
- 画面が消えている状態のときは、シャッターボタンを半押しすると画面が表示され、撮影できます。

節電機能を設定する

画面が消えるまでの時間（ディスプレイオフ）、カメラの電源が切れるまでの時間（オートパワーオフ）やファインダーの表示が消えるまでの時間（ファインダーオフ）を変えることができます。



1 [2：節電] を選ぶ

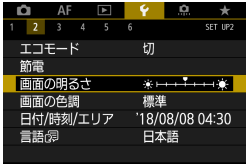
2 項目を選ぶ

- **[オートパワーオフ]** を **[しない]** に設定しても、**[ディスプレイオフ]** の設定時間後にモニターの表示が消えます。

エコモードを **[入]** にしているときは、**[ディスプレイオフ]** と **[オートパワーオフ]** の設定は無効になります。

画面の明るさを調整する

モニターとファインダーの明るさをそれぞれ調整することができます。



1 [2：画面の明るさ] を選ぶ

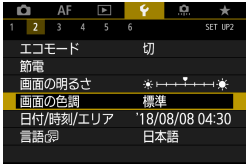
2 調整する

- グレーチャートを参考にして、〈◄〉〈►〉を押して調整し、〈SET〉を押します。
- ファインダーの明るさを調整するときは、ファインダーをのぞいて設定します。

撮影した画像の露出を確認するときは、ヒストグラム（p.307）で確認することをおすすめします。

画面の色調を調整する

モニターとファインダーの色調をそれぞれ調整することができます。



1 [2：画面の色調] を選ぶ

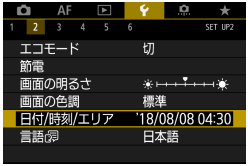
2 調整する

- 〈▲〉〈▼〉または〈☞〉で項目を選び、〈SET〉を押します。
- ファインダーの色調を調整するときは、ファインダーをのぞいて設定します。

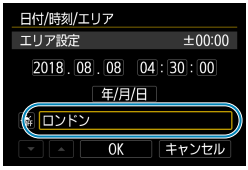
日付／時刻／エリアを設定する

初めて電源を入れたときや、日付/時刻/エリアの設定が解除されているときは、以下の操作手順に従ってエリア（地域）から設定してください。
エリアから設定しておくと、エリア設定を変更するだけで、そのエリアの日付/時刻に変更されます。

撮影画像には撮影日時の情報が付加されますので、必ず設定してください。

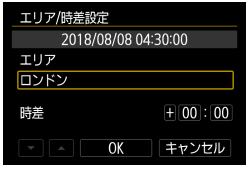


1 [2：日付/時刻/エリア] を選ぶ

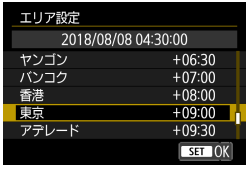


2 エリアを設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して **[エリア設定]** を選びます。

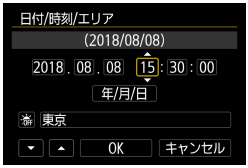


- 〈SET〉を押します。



- 〈▲〉〈▼〉を押してエリアを選び、〈SET〉を押します。
- 該当するエリアがないときは、〈MENU〉ボタンを押して **[時差]**（協定世界時との時差）で設定します。

- 〈◄〉〈►〉を押して【時差】の項目（＋－/時/分）を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します。
- エリア/時差の設定が終わったら、〈◄〉〈►〉を押して【OK】を選び、〈SET〉を押します。

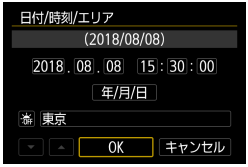


3 日付/時刻を設定する

- 〈◄〉〈►〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して設定し、〈SET〉を押します。

4 サマータイムを設定する

- 必要に応じて設定します。
- 〈◄〉〈►〉を押して【☀】を選び、〈SET〉を押します。
- 〈▲〉〈▼〉を押して【☀】を選び、〈SET〉を押します。
- サマータイムを【☀】にすると、手順3で設定した時刻が1時間進みます。【☀】にするとサマータイムが解除され、1時間戻ります。



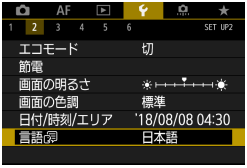
5 設定を終了する

- 〈◄〉〈►〉を押して【OK】を選びます。

- カメラからバッテリーを取り出して保管したときや、カメラのバッテリー残量がなくなったとき、カメラを氷点下に長時間放置したときは、日付/時刻/エリアの設定が解除されることがあります。そのときは再度設定してください。
- **【エリア/時差設定】**の内容を変更したときは、日付/時刻が正しく設定されているか確認してください。

【2：日付/時刻/エリア】の画面を表示しているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

表示言語を設定する



1 [2：言語] を選ぶ

2 言語を設定する

ビデオ方式を設定する

テレビの映像方式を設定します。この設定に応じて、動画撮影時に選択できるフレームレートが変わります。

1 [3：ビデオ方式]を選ぶ

2 項目を選ぶ

- **NTSC**
  テレビの映像方式が「NTSC」地域（北米、日本、韓国、メキシコなど）のときに設定します。
- **PAL**
  テレビの映像方式が「PAL」地域（ヨーロッパ、ロシア、中国、オーストラリアなど）のときに設定します。

タッチしたときの反応を設定する

1 [3：タッチ操作] を選ぶ

2 項目を選ぶ

- 通常は **[標準]** を選びます。
- **[敏感]** に設定すると、**[標準]** に比べて画面に触れたときの反応がよくなります。
- タッチ操作を禁止するときは、**[しない]** を選びます。

タッチパネル操作時の注意事項

- 感圧式ではありませんので、爪やボールペンなど、先のとがったもので操作しないでください。
- 濡れた指で操作しないでください。
- モニターに水滴がついていたり、濡れた指で操作すると、反応しなくなったり、誤動作することがあります。カメラの電源を一旦切ってから、布などでふき取ってください。
- モニターに市販の保護シートやシールを貼ると、タッチの反応が悪くなることがあります。
- **[敏感]** 設定時に素早いタッチ操作を行うと、反応しづらいことがあります。

操作時の電子音を消す

ピントが合ったときなどに電子音が鳴らないようにすることができます。

1 [3：電子音]を選ぶ

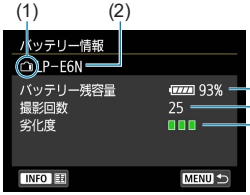
2 項目を選ぶ

- **タッチ音切**
  タッチ操作を行ったときだけ、電子音が鳴らないようになります。
- **切**
  ピントが合ったとき、セルフタイマー撮影時、タッチ操作したときに、電子音が鳴らないようになります。

バッテリー情報を確認する

使用しているバッテリーの状態を確認することができます。また、複数のバッテリーをカメラに登録しておくと、登録済みのバッテリーのおおよその残量や、使用履歴を確認することができます。

［3：バッテリー情報］を選ぶ



(1) バッテリー位置

(2) 使用しているバッテリー、または家庭用電源の型式が表示されます。

(3) バッテリー残量表示（p.49）とともに、残量が1%単位で表示されます。

(4) 使用しているバッテリーで撮影した回数が表示されます。充電を行うと回数がリセットされます。

(5) バッテリーの劣化状態が3段階で表示されます。

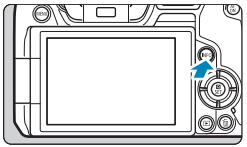
- ▮▮▮（緑）：劣化していません
- ▮▮▯（緑）：少し劣化しています
- ▮▯▯（赤）：バッテリーの買い換えをおすすめします

キヤノン純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6の使用をおすすめします。純正品以外のバッテリーを使用すると、カメラ本来の性能を発揮できない恐れや、故障の原因になることがあります。

- 撮影回数は静止画撮影を行った回数が表示されます（動画撮影は回数に含まれません）。
- バッテリーグリップ BG-E22（別売）使用時もバッテリー情報が表示されます。
- バッテリー通信エラーに関するメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。

バッテリーをカメラに登録する

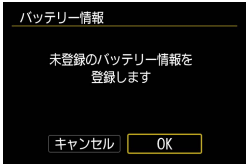
バッテリーパック LP-E6N/LP-E6を最大6個までカメラに登録することができます。複数のバッテリーを登録するときは、バッテリーごとに以下の操作を行ってください。



1 〈INFO〉ボタンを押す

- バッテリー情報の画面が表示された状態で、〈INFO〉ボタンを押します。
- ➡ 登録されていないバッテリーは灰色で表示されます。

2 [登録]を選ぶ



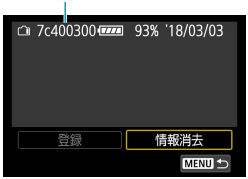
3 [OK]を選ぶ

- ➡ バッテリーの表示が白色に変わります。

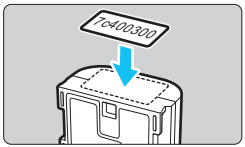
家庭用電源アクセサリー（別売／p.582）使用時は、バッテリーの登録はできません。

バッテリーのシリアル番号が一目でわかるようにする

登録したバッテリーパック LP-E6N/LP-E6のシリアル番号を、市販のシールなどに記載して、バッテリーに貼っておくと便利です。



1 シリアル番号（1）をシール（25mm×15mm程度）に記載する



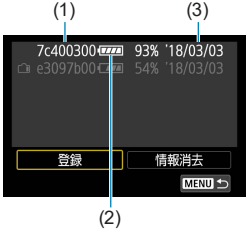
2 シールを貼る

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。
- カメラからバッテリーを取り出します。
- 図の位置（接点がない面）にシールを貼ります。

- 手順2の図以外の位置にシールを貼らないでください。バッテリーが入れにくくなったり、電源が入らなくなることがあります。
- バッテリーグリップ BG-E22（別売）使用時は、バッテリーマガジンへのバッテリーの取り付け／取り外しを繰り返すと、シールがはがれることがあります。はがれたときは、新しいシールを貼りなおしてください。

登録済みで使用していないバッテリーの残量の確認方法

現在使用していないバッテリーの残量や前回使用した日を、確認することができます。



シリアル番号を照合する

- 使用履歴画面の内容と、バッテリーに貼ってあるシールのシリアル番号（1）を照合します。
- ➡ 手元にあるバッテリーのおおよその残量（2）や、前回使用した日（3）を確認することができます。

登録したバッテリー情報を消去する

1 **[情報消去] を選ぶ**

- 387ページの手順2で **[情報消去]** を選びます。

2 **消去するバッテリーを選ぶ**

- ➡ [✓] が表示されます。

3 **〈🗑〉 ボタンを押す**

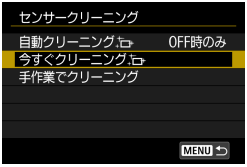
- 確認画面で **[OK]** を選びます。

撮像素子の清掃

このカメラは、電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、撮像素子前面を清掃する動作（センサークリーニング）を行います。
センサークリーニングは任意に行うこともできます。

すぐにクリーニングを行う

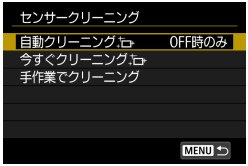
1 **［3：センサークリーニング］を選ぶ**



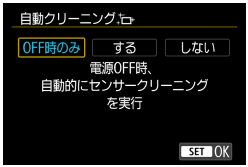
2 **［今すぐクリーニング］を選ぶ**

- 確認画面で［OK］を選びます。

自動クリーニングを設定する



1 [自動クリーニング] を選ぶ



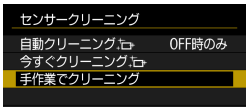
2 項目を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉を押して項目を選び、〈SET〉を押します。

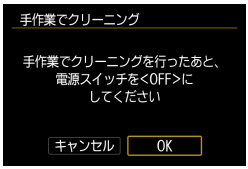
- 机の上などにカメラを置き、底面が机に付いた状態で行うと、効果的にゴミを除去できます。
- 繰り返してクリーニングしても効果は大きく変わりません。なお、清掃終了直後は、**[今すぐクリーニング]** が選べないことがあります。
- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点」が生じることがあります。**[今すぐクリーニング]** を行うと、輝点の発生が改善することがあります（p.391）。

手作業で撮像素子を清掃する 応用

自動クリーニングで取りきれないゴミやほこりがあったときに、市販品のブロアーなどを使用して、手作業で撮像素子を清掃することができます。
撮像素子は非常にデリケートな部品です。直接清掃が必要なときは、できるだけ修理受付窓口にお申し付けください。



1 [手作業でクリーニング] を選ぶ



2 [OK] を選ぶ

3 レンズを取り外して撮像素子を清掃する

4 清掃を終了する

- 電源スイッチを〈OFF〉にします。

手作業で撮像素子の清掃を行うときは、必ずフル充電したバッテリーを使用してください。

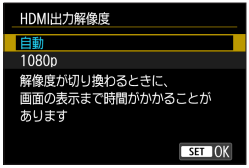
家庭用電源アクセサリー（別売）の使用をおすすめします。

- **清掃中は絶対に次のことを行わないでください。電源が切れてシャッターが閉じるため、撮像素子やシャッター幕が損傷する恐れがあります。**
  - **電源スイッチを〈OFF〉にする**
  - **バッテリーを取り出す／入れる**
- 撮像素子の表面は非常にデリケートな部分です。細心の注意を払って清掃してください。
- ブロアーはブラシの付いていないものを使用してください。ブラシが撮像素子に触れると、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーはレンズマウント面より内側に入れないでください。電源が切れるとシャッターが閉じ、シャッター幕を破損する原因になります。
- 高圧の空気やガスを吹き付けて清掃しないでください。圧力により撮像素子が破損したり、吹き付けたガスが凍結することで、撮像素子の表面に傷が付くことがあります。
- 撮像素子の清掃中にバッテリーの残量が少なくなると、警告のため電子音が鳴ります。作業を中止し、清掃を終了してください。
- ブロアーで除去できない汚れがあったときは、修理受付窓口に撮像素子の清掃をお申し付けください。

HDMI出力時の解像度を設定する

カメラとテレビや外部記録機器などを、HDMIケーブルで接続して映像を出力するときに、解像度を設定することができます。

1 [3：HDMI 出力解像度] を選ぶ



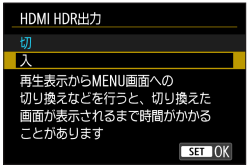
2 項目を選ぶ

- **自動**
  接続したテレビに合わせて、自動的に最適な解像度で画像が表示されます。
- **1080p**
  1080 p の解像度で出力します。解像度が切り換わるときの表示や時間が気になるときに選びます。

HDR対応テレビでRAW画像を見る

HDR対応テレビにカメラをつないで、RAW画像をHDR表示で見ることができます。

1 **［3：HDMI HDR 出力］を選ぶ**



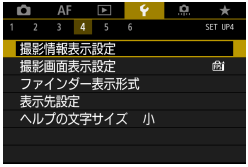
2 **［入］を選ぶ**

- HDR表示中は、RAW現像などの画像の操作を行うことはできません。
- L（ISO50相当）または多重露出で撮影されたRAW画像の場合は、JPEG画像をHDR表示します。

- HDR対応テレビの設定が、HDR入力になっていることを確認してください。お使いになるテレビの入力の切り換え方法は、テレビの使用説明書を参照してください。
- お使いのテレビによっては、思いどおりの効果で表示されないことがあります。
- HDRテレビに表示しているときは、画像の効果や一部の情報が表示されないことがあります。

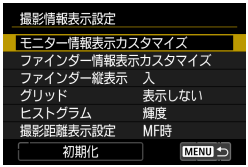
撮影時に表示される情報を設定する

撮影時にモニターまたはファインダーに表示する画面や情報などをカスタマイズすることができます。



［4：撮影情報表示設定］を選ぶ

モニター情報表示のカスタマイズ



1 ［モニター情報表示カスタマイズ］を選ぶ

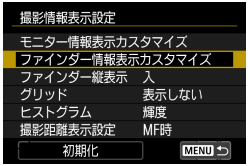
2 画面を選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押してモニターに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈SET〉を押して［✓］を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

3 画面を編集する

- 〈▲〉〈▼〉を押してモニターに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈SET〉を押して［✓］を外します。
- ［OK］を選ぶと設定されます。

ファインダー情報表示のカスタマイズ



1 [ファインダー情報表示カスタマイズ] を選ぶ

2 画面を選ぶ

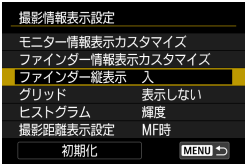
- 〈▲〉〈▼〉を押してファインダーに表示する画面を選びます。
- 非表示にする画面は、〈SET〉を押して [✓] を外します。
- 〈INFO〉ボタンを押すと画面の編集ができます。

3 画面を編集する

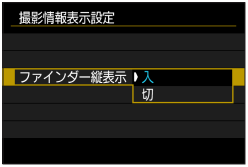
- 〈▲〉〈▼〉を押してファインダーに表示する項目を選びます。
- 非表示にする項目は、〈SET〉を押して [✓] を外します。
- [OK] を選ぶと設定されます。

ファインダーの縦位置表示

静止画を縦位置で撮影するときの、ファインダーの情報表示の状態を選ぶことができます。



1 **［ファインダー縦表示］を選ぶ**

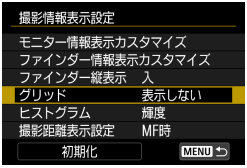


2 **項目を選ぶ**

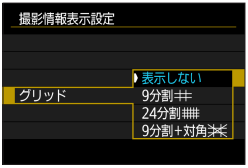
- **入**
  情報表示を自動回転して見やすく表示することができます。
- **切**
  情報表示の自動回転は行われません。

グリッドの表示

モニターおよびファインダーにグリッドを表示することができます。



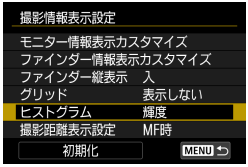
1 **［グリッド］を選ぶ**



2 **項目を選ぶ**

ヒストグラムの設定

ヒストグラムの表示内容と表示サイズを選ぶことができます。



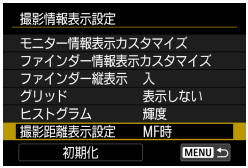
1 [ヒストグラム] を選ぶ

2 項目を選ぶ

- 表示内容（**[輝度]** または **[RGB]**）と表示サイズ（**[大きい]** または **[小さい]**）を選びます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと設定されます。

撮影距離の表示設定

RFレンズを使用しているときに、撮影距離を表示することができます。撮影距離の表示は、タイミングと単位を選ぶことができます。



1 [撮影距離表示設定] を選ぶ

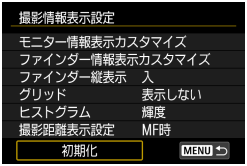
2 表示のタイミングを選ぶ

3 単位を選ぶ

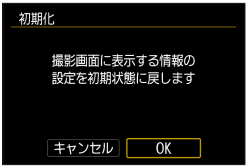
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと設定されます。

設定の初期化

[撮影情報表示設定] の内容を初期状態に戻すことができます。



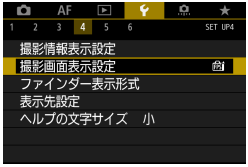
1 **[初期化] を選ぶ**



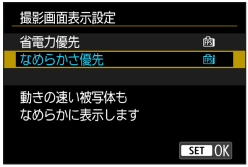
2 **[OK] を選ぶ**

撮影画面表示の優先項目を設定する

静止画撮影時の撮影画面表示で、優先する項目を選ぶことができます。



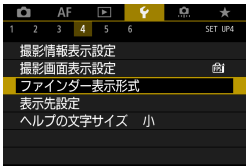
1 [4：撮影画面表示設定] を選ぶ



2 項目を選ぶ

ファインダーの表示形式を設定する

ファインダーの表示形式を選ぶことができます。



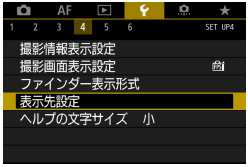
1 [4：ファインダー表示形式] を選ぶ

2 項目を選ぶ

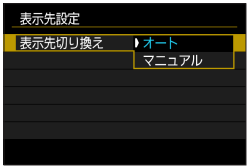
- 〈▲〉〈▼〉を押して選びます。
- 〈SET〉を押すと設定されます。

画面の表示先を設定する

撮影画面の表示先を選ぶことができます。

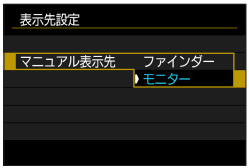


1 [4：表示先設定]を選ぶ



2 項目を選ぶ

- **オート**
  通常はモニター表示を行ない、ファインダーをのぞくとファインダー表示に切り換ります。
- **マニュアル**
  モニター表示のみ、またはファインダー表示のみを選ぶことができます。

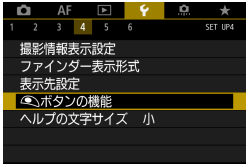


3 表示先を選ぶ

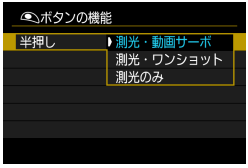
- 〈SET〉を押すと設定されます。

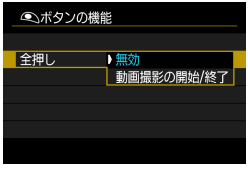
シャッターボタンの機能を設定する

動画撮影時にシャッターボタンを半押し／全押ししたときの動作を設定することができます。



1 [4：ボタンの機能] を選ぶ





2 項目を選ぶ

- **半押し**
  シャッターボタンを半押しした際に、測光だけでなく、動画サーボAF、またはワンショットAFを行うかどうかを設定することができます。
- **全押し**
  シャッターボタンの全押しを無効にするか、動画撮影の開始/終了を行うかを設定することができます。

なお、**[全押し]** を **[動画撮影の開始/終了]** に設定すると、動画撮影ボタンでだけでなく、シャッターボタンの全押し、またはリモートスイッチ RS-60E3（別売／p.176）で、動画撮影を開始／終了することができます。

[全押し] を **[無効]** に設定しても、タイムラプス動画撮影時にシャッターボタンを全押ししたときは、タイムラプス動画撮影が開始／終了します。

❓ヘルプ機能について

メニュー画面の下に［INFOヘルプ］が表示されているときに〈INFO〉ボタンを押すと、機能の説明（ヘルプ）が表示されます。もう一度押すと表示が終了します。画面の右側にスクロールバー（1）が表示されたときは、〈▲〉〈▼〉を押すか〈 〉を回します。

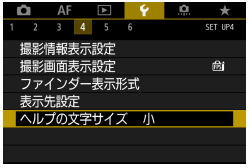
●［📷5：高感度撮影時のノイズ低減］の例

●［🔧6：マルチ電子ロック］の例

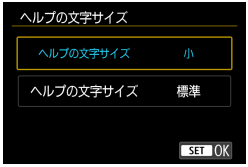
●［AF3：被写体追従特性］の例

ヘルプ表示の文字サイズ

ヘルプを表示したときの文字サイズを変更することができます。

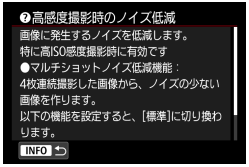


1 [4：ヘルプの文字サイズ] を選ぶ

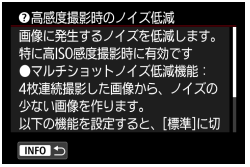


2 項目を選ぶ

● [5：高感度撮影時のノイズ低減] の例



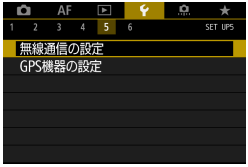
文字サイズ：小



文字サイズ：標準

無線通信の機能を設定する

スマートフォンやパソコンとカメラを無線通信機能で接続して、撮影した画像の送付やカメラのリモート操作などを行うことができます。



1 [5：無線通信の設定] を選ぶ

2 設定する

- 詳しくは第6章『Wi-Fi（無線通信）機能』を参照してください。

リモコンを使って撮影する

Bluetooth low energy technology対応の「ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1」（別売）と、Bluetooth機能を使って接続すると、カメラから最大約5m離れてリモコン撮影することができます。

ペアリング

BR-E1を使用するときは、まず、カメラとリモコンのペアリング（機器同士の接続・登録）が必要です。

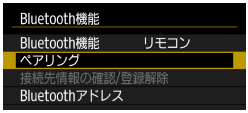
1 **［5：無線通信の設定］を選ぶ**

2 **［Bluetooth機能］を選ぶ**

3 **［Bluetooth機能］を選ぶ**

4 **［リモコン］を選ぶ**

- 『このカメラにニックネーム（識別用の名称）を登録してください。』のメッセージが表示されたときは、430ページを参照してニックネームを登録してください。



5 [ペアリング] を選ぶ

- **[ペアリング]** を選びます。
- BR-E1の〈**W**〉ボタンと〈**T**〉ボタンを同時に3秒以上押します。

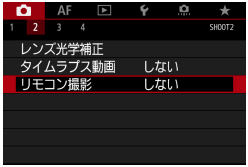
➡ ペアリングが開始されます。ペアリング完了後に、カメラにBR-E1が登録されます。

静止画撮影時

6 リモコン撮影できるように設定する

- ドライブモード で **[(( ))]** または **[(( ))$_2$]** を選びます（p.144）。

動画撮影時



- **[📷2：リモコン撮影] で [する]** を選びます。
- このあとの操作は、BR-E1の使用説明書を参照してください。

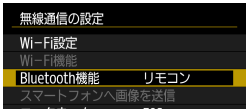
カメラがオートパワーオフのときも、Bluetooth接続中はカメラのバッテリーが消耗します。

- Bluetooth機能を使わないときは、手順4で **[使わない]** に設定することをおすすめします。再度リモコンを使用するときは、もう一度**[リモコン]**を選択します。
- リモコン撮影ができる状態に設定されているときは、オートパワーオフまでの時間が延長されることがあります。

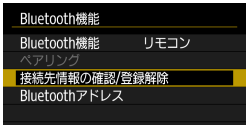
ペアリング解除

他のBR-E1とペアリングするときは、接続中のリモコンの登録を解除します。

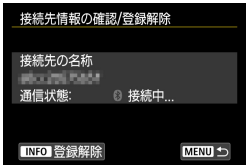
1 [5：無線通信の設定] を選ぶ



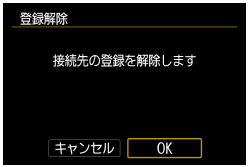
2 [Bluetooth機能] を選ぶ



3 [接続先情報の確認/登録解除] を選ぶ



4 〈INFO〉 ボタンを押す



5 登録を解除する

- [OK] を選びます。

位置情報を画像に付加する

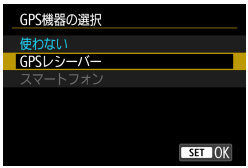
GPSレシーバーGP-E2（別売）やBluetooth対応スマートフォンを使用して、位置情報を画像に付加することができます。

GP-E2を使う場合

1 GP-E2をカメラに取り付ける

- GP-E2をカメラのアクセサリーシューに取り付けて電源を入れます。詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

2 [5：GPS機器の設定]を選ぶ



3 [GPSレシーバー]を選ぶ

4 撮影する

- [設定]について、詳しくはGP-E2の使用説明書を参照してください。

GP-E2を使用するときのご注意

- 使用可能な国や地域を確認の上、法令等の規制にしたがってください。
- GP-E2のファームウェアをVer.2.0.0以上にアップデートしてください。ファームウェアをアップデートする際は、インターフェースケーブルが必要です。アップデートの方法については、キヤノンのホームページを参照してください。
- このカメラとGP-E2を、ケーブルで接続して使用することはできません。
- このカメラでは電子コンパスは使えません（撮影方位は記録されません）。

スマートフォンを使う場合

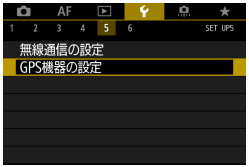
スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールする必要があります。Camera Connectのインストールについて、詳しくは427ページを参照してください。

GPS機器にスマートフォンを設定する

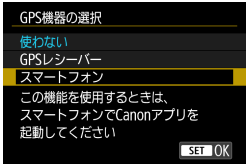
1 スマートフォンの位置情報機能をオンにする

2 Bluetooth接続する

- カメラとスマートフォンをBluetooth接続します。詳しくは429ページを参照してください。



3 [5：GPS機器の設定]を選ぶ



4 [スマートフォン] を選ぶ

- **[GPS機器の選択]** で **[スマートフォン]** を選びます。
- ➡ スマートフォンからの位置情報の取得が可能になります。
- **[GPS機器の設定]** の画面で **[GPS情報の表示]** を選ぶと、取得した位置情報（緯度、経度、標高、UTC：協定世界時）の確認ができます。

5 撮影する

- スマートフォンが取得した位置情報が画像に付加されます。

GPS接続表示について

静止画撮影画面（p.619）または動画撮影画面（p.621）のGPS接続表示で、スマートフォンからの位置情報の取得の状態を確認することができます。

- グレー：位置情報機能がオフの状態
- 点滅：位置情報が取得できない状態
- 点灯：位置情報を取得済

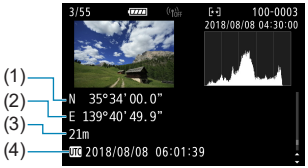
なお、GP-E2使用時のGPS接続表示については、GP-E2の使用説明書を参照してください。

撮影時に位置情報を画像に付加する

GPSアイコンが点灯中に撮影すると、位置情報が画像に付加されます。

画像に付加される位置情報について

撮影情報表示の画面（p.304、307）で、撮影した画像に付加された位置情報を確認することができます。



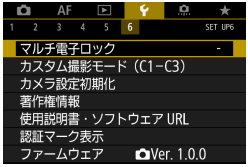
(1) 緯度
(2) 経度
(3) 標高
(4) 協定世界時

- スマートフォンによる位置情報の取得は、カメラとスマートフォンがBluetooth接続しているときのみに行われます。
- 方位情報は取得されません。
- 移動条件やスマートフォンの状態によって、取得される位置情報が正確でない場合があります。
- 電源スイッチを入れてから、スマートフォンの位置情報を取得するまでに、時間がかかることがあります。
- 以下の操作を行うと、位置情報が取得できなくなります。
  - **[Bluetooth機能]** を **[スマートフォン]** 以外に設定する
  - カメラの電源を切る
  - Camera Connectを終了する
  - スマートフォンの位置情報機能をオフにする
- 以下の状態になると、位置情報が取得できなくなります。
  - カメラの電源が切れる
  - Bluetooth接続が終了する
  - スマートフォンのバッテリーの残量が少なくなる

- 協定世界時（UTC: Coordinated Universal Time）は、グリニッジ標準時とほぼ同じ時刻です。
- 動画撮影のときは、撮影開始時の情報が付加されます。

LOCK マルチ電子ロック機能を設定する

マルチ電子ロック機能をオンにしたときに操作を禁止する操作部材を設定します。不用意な操作による設定変更を防止することができます。



1 [6：マルチ電子ロック] を選ぶ

2 操作を禁止する操作部材を選ぶ

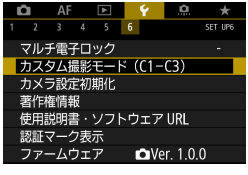
- 〈SET〉を押すと、[✓] が表示されます。
- [OK] を選びます。

➡ 〈LOCK〉ボタンを押すと、[✓] を付けた操作部材がロックされます。

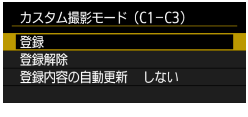
- **[A+]** モードのときは、**[タッチ操作]** のみ設定できます。
- 初期状態から設定が変更されているときは、**[6:マルチ電子ロック]** の右端に「＊」が表示されます。

C1：カスタム撮影モードの登録 応用

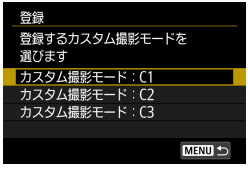
撮影機能やメニュー機能、カスタム機能など、現在カメラに設定されている内容を、〈C1〉～〈C3〉モードにカスタム撮影モードとして登録することができます。静止画撮影時、動画撮影時のそれぞれに登録することができます。



1 **［6：カスタム撮影モード（C1-C3）］を選ぶ**



2 **［登録］を選ぶ**



3 **登録する**

- 登録するカスタム撮影モードを選び、**［登録］**の画面で**［OK］**を選びます。

➡ カメラの設定内容がカスタム撮影モードのC＊に登録されます。

登録内容の自動更新

カスタム撮影モードで撮影しているときに、設定変更した内容を登録内容に自動反映することができます（自動更新）。自動更新するときは、手順2で**［登録内容の自動更新］**を**［する］**に設定します。

カスタム撮影モードの登録解除

手順2で**［登録解除］**を選ぶと、各モードの設定内容を、登録を行う前の初期状態に戻すことができます。

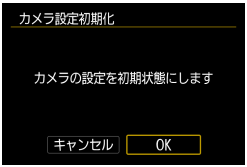
マイメニューの設定内容は、カスタム撮影モードには登録されません。

カスタム撮影モードのときも、撮影機能やメニュー機能などの設定を変更することができます。

カメラの設定を初期状態に戻す 応用

撮影機能やメニュー機能の設定を初期状態に戻すことができます。

1 [6：カメラ設定初期化] を選ぶ



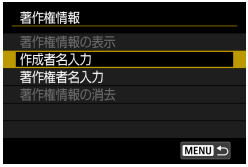
2 [OK] を選ぶ

カスタム機能の一括解除については、554ページを参照してください。

著作権情報を設定する 応用

著作権情報の設定を行うと、その内容がExif（イグジフ）情報として画像に記録されます。

1 [6：著作権情報]を選ぶ



2 項目を選ぶ

3 文字を入力する

- 〈✥〉十字キーまたは〈☜〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押すと入力されます。
- 【⏏】を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 最大63文字入力できます。
- 【⌫】を選ぶか、〈🗑〉ボタンを押すと、1文字消去されます。

4 設定を終了する

- 〈MENU〉ボタンを押して【OK】を選びます。

著作権情報の確認

手順2で**[著作権情報の表示]**を選ぶと、入力した**[作成者]**[**著作権者**]の情報を確認することができます。

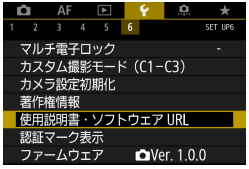
著作権情報の消去

手順2で**[著作権情報の消去]**を選ぶと、**[作成者]**[**著作権者**]の情報が消去されます。

入力した作成者名または著作権者名が長いときは、**[著作権情報の表示]**を選んだ際に、入力した文字の一部が表示されないことがあります。

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityで、著作権情報を設定・確認することもできます。

その他の情報を確認する



● **使用説明書のダウンロード**

[6：使用説明書・ソフトウェアURL] を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、使用説明書をダウンロードすることができます。なお、QRコードの読み取りには、アプリケーションが必要です。

● **認証マークの表示** 応用

[6：認証マーク表示] を選ぶと、このカメラが対応している認証マークの一部を確認できます。また、その他の認証マークは、本書やカメラ本体、カメラが入っていた箱にも表記されています。

● **ファームウェアのバージョン** 応用

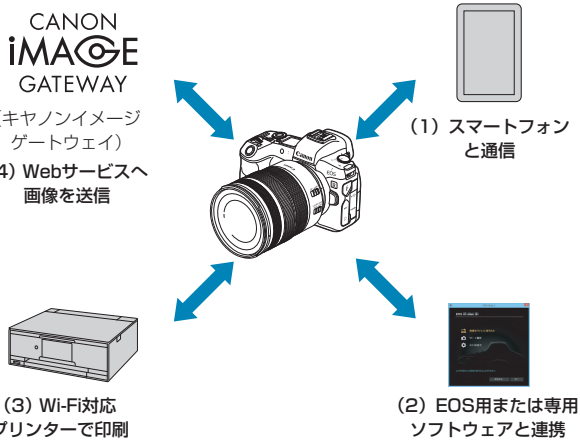
[6:ファームウェア] を選ぶと、このカメラまたは使用中のレンズのファームウェアをアップデートすることができます。

6

Wi-Fi（無線通信）機能

この章では、Wi-Fi®機能を使用して、カメラで撮影した画像を無線でいろいろな無線対応機器へ送ったり、Web サービスを利用する方法の説明を行っています。

Wi-Fi(無線通信)機能でできること



必ずお読みください

このカメラを使用するために、誤った無線通信の設定を行った結果生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。また、このカメラを使用した結果生じた損害に対しても、弊社では補償できませんので、併せてご了承ください。

無線通信機能を使用する際には、お客様の責任と判断で必要なセキュリティーを設定してご使用ください。不正侵入等によって生じた損害に対して、弊社では補償できませんので、あらかじめご了承ください。

(1) スマートフォンと通信（p.427）
スマートフォンやタブレット（以降は「スマートフォン」と記載）にWi-Fi接続して、専用アプリケーション「Camera Connect（カメラコネクト）」を使ってカメラをリモート操作したり、カメラ内の画像を見ることができます。

(2) EOS用または専用ソフトウェアと連携（p.461）
パソコンにWi-Fi 接続して、EOS 用ソフトウェアのEOS Utilityを使ってカメラをリモート操作することができます。また、専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2 を使って、カメラの画像をパソコンに自動送信することができます。

(3) Wi-Fi対応プリンターで印刷（p.469）
Wi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターにWi-Fi接続して、画像を印刷することができます。

(4) Webサービスへ画像を送信（p.481）
キヤノンユーザーのためのオンラインフォトサービス CANON iMAGE GATEWAY（登録無料）を通じて、家族や友人との画像共有や、さまざまなWebサービスを利用した画像共有を行うことができます。

Bluetooth®機能について

Bluetooth low energy technology（以降は「Bluetooth」と記載）に対応しているスマートフォンとBluetooth接続することで、以下の機能が使用できます。

- カメラまたはスマートフォンだけの操作によるWi-Fi接続（p.448、511）
- 電源オフ中のカメラとのWi-Fi接続（p.437）
- スマートフォンで取得した位置情報の画像への付加（p.412）

また、別売のワイヤレスリモートコントローラー BR-E1とBluetooth接続してリモコン撮影することができます（p.174）。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続について

スマートフォンやパソコンをアクセスポイントにWi-Fi接続したまま、カメラにWi-Fi接続するときは『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』(p.496) を参照してください。

インターフェースケーブル接続時の注意事項

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。
- インターフェースケーブルでカメラとパソコンなどを接続しているときは、**【5：無線通信の設定】**を選択できません。インターフェースケーブルを取り外してから設定してください。

カードについて

- カメラにカードが入っていないときは、Wi-Fi接続できません（**【**□**】**は除く）。また、**【**凸**】**およびWebサービスでは、カードに画像が記録されていないときも、Wi-Fi接続できません。

Wi-Fi接続中の操作について

- Wi-Fi接続を優先するときは、電源スイッチやカードスロットカバー、バッテリー収納部ふたなどを操作しないでください。Wi-Fi接続が終了します。

スマートフォンとWi-Fi接続する

ここではカメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続する方法を説明します。

- スマートフォンとWi-Fi接続して、以下のことができます。
  - スマートフォンでカメラ内の画像を閲覧したり、閲覧した画像をスマートフォンに保存する
  - スマートフォンでカメラを操作して撮影したり、カメラの設定を変更する
  - カメラからスマートフォンに画像を送信する
- アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（p.496）を参照してください。

Wi-Fi接続の方法を選ぶ

Bluetooth対応スマートフォンとWi-Fi接続する（p.429）

Bluetooth対応スマートフォンとBluetooth接続しておくことで、カメラやスマートフォンの操作だけでWi-Fi接続ができます。

［Wi-Fi機能］メニューからスマートフォンとWi-Fi接続する（p.440）

Bluetooth機能に対応していない、またはBluetooth機能が使用できないスマートフォンとWi-Fi接続ができます。

スマートフォンにCamera Connectをインストールする

スマートフォンと接続するためには、AndroidまたはiOSがインストールされたスマートフォンが必要です。また、スマートフォンに専用アプリケーションのCamera Connect（無料）をインストールする必要があります。

- スマートフォンのOSは、最新のバージョンをお使いください。
- Camera Connectは、Google PlayまたはApp Storeからインストールすることができます。Google PlayまたはApp Storeは、スマートフォンとのペアリング時やWi-Fi接続時に表示されるQRコードからもアクセスできます。

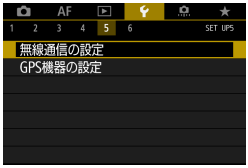
Android

iOS

- Camera Connectが対応しているOSのバージョンについては、Camera Connectのダウンロードサイトでご確認ください。
- カメラやCamera Connectの画面表示と機能は、カメラのファームウェアアップデートやCamera Connect、Android、iOSなどのバージョンアップにより変更される可能性があります。そのため、本書に記載している画面例や操作説明と異なることがあります。
- QRコードの読み取りには、アプリケーションが必要です。

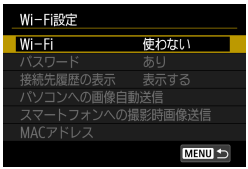
Bluetooth 対応スマートフォンとWi-Fi接続する

カメラ側の操作-1



1 [5：無線通信の設定] を選ぶ

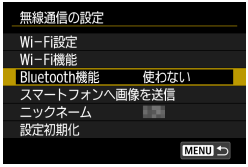
2 [Wi-Fi設定] を選ぶ



3 [Wi-Fi] を選ぶ

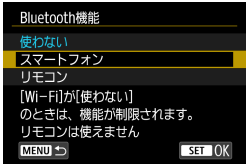
4 [使う] を選ぶ

- [Wi-Fi設定] の画面が表示されたら〈MENU〉ボタンを押して [無線通信の設定] 画面に戻ります。



5 [Bluetooth機能] を選ぶ

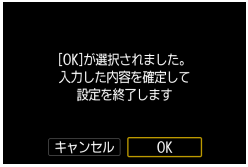
6 [Bluetooth機能] を選ぶ



7 [スマートフォン] を選ぶ

8 [ニックネーム] を登録する

- 表示されているニックネームを使用するときは〈**MENU**〉ボタンを押します。
- ニックネームは任意に変更することができます（p.514）。



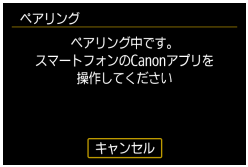
9 [OK]を選ぶ

10 [ペアリング] を選ぶ

11 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは **[表示しない]** を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、**[Android]** または **[iOS]** を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスして Camera Connectをインストールします。

➡ ペアリングが開始されます。



スマートフォン側の操作-1

12 Bluetooth機能をONにする

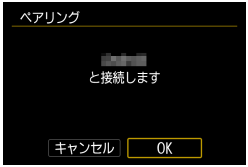
13 Camera Connectを起動する

14 ペアリングするカメラを選ぶ

➡ Androidの場合は手順16に進みます。

15 [ペアリング] をタッチする（iOSのみ）

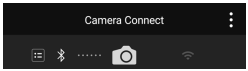
カメラ側の操作-2



16 [OK] を選ぶ

17 〈SET〉を押す

- ペアリングが完了して、スマートフォンとBluetooth接続されます。
- ➡ Camera Connectのトップ画面にBluetooth接続中の図が表示されます。



- カメラとパソコンなどをインターフェースケーブルで接続しているときは、ペアリングおよびBluetooth接続はできません。
- 2台以上の機器と同時にBluetooth接続することはできません。
- Bluetooth接続中は、カメラのオートパワーオフ中もバッテリーを消耗するため、カメラを使用するときにバッテリーの残量が少なくなっていることがあります。

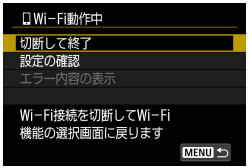
Bluetooth接続中に、カメラを操作してスマートフォンへ画像を送信できます。詳しくは448ページを参照してください。

スマートフォン側の操作-2

18 Camera Connectの機能を選ぶ

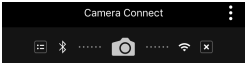
- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら**[接続]**を選びます。
- Camera Connectの機能については444ページを参照してください。

➡ Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。



➡ カメラのモニターに**[Wi-Fi動作中]**の画面が表示されます。

➡ Camera Connectのトップ画面にBluetoothおよびWi-Fi接続中の図が表示されます。



これでBluetooth対応スマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続を終了する』（p.457）を参照してください。
- Wi-Fi接続を終了するとBluetooth接続に切り換わります。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』（p.509）を参照してください。

[Wi-Fi動作中] の画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

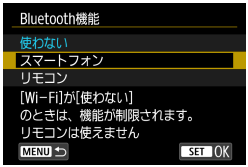
- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

[Bluetooth機能] の画面について

[Bluetooth機能] の画面では、Bluetooth機能の設定の変更や確認ができます。

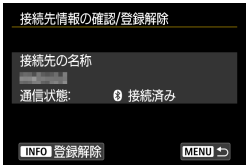


Bluetooth機能

- カメラとペアリングする機器を選びます。
- Bluetooth機能を使わないときは **[使わない]** を選びます。

ペアリング

- **[Bluetooth機能]** で選んだ機器とのペアリングを実行します。

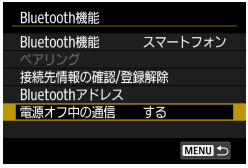


接続先情報の確認/登録解除

- ペアリングした機器の名前や通信状態を確認できます。
- ペアリングした機器の登録を解除するときは、〈INFO〉ボタンを押します。詳しくは『ペアリングしている機器の登録を解除する』（p.439）を参照してください。

Bluetoothアドレス

- カメラのBluetoothアドレスを確認できます。



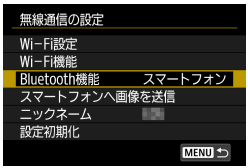
電源オフ中の通信

● **[する]** を選ぶと、スマートフォンと電源オフ中のカメラをWi-Fi接続して、カメラ内の画像の閲覧などができます。詳しくは『電源オフ中のカメラとWi-Fi接続する』を参照してください。

電源オフ中のカメラとWi-Fi接続する

カメラとスマートフォンのペアリング後は、カメラの電源がオフ中でもスマートフォンとWi-Fi接続して、スマートフォンへの画像の転送などができます。

[電源オフ中の通信] を設定する



1 **[Bluetooth機能] を選ぶ**

● **[無線通信の設定]** の画面で **[Bluetooth機能]** を選びます。

2 **[電源オフ中の通信] で [する] を選ぶ**

● **[Bluetooth機能]** の画面の **[電源オフ中の通信]** で **[する]** を選びます。
カメラの電源をオフにしても、スマートフォンとのBluetooth接続は継続されます。

電源オフ中のカメラとWi-Fi接続する

1 Camera Connectを起動する

- カメラとBluetooth接続中のスマートフォンで、Camera Connectを起動します。

2 [カメラ内の画像一覧] を選ぶ

- Camera Connectのメニューから**[カメラ内の画像一覧]**をタッチします。
  iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら**[接続]**を選びます。
  Wi-Fi接続が完了すると、カメラ内の画像の一覧が表示されます。

Camera Connectを操作する

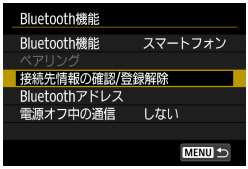
- Camera Connectを操作して、スマートフォンへの画像の転送、カメラからの画像の削除、画像のレーティングができます。
- Wi-Fi接続を終了するときは、Camera Connectのトップ画面で[×]をタッチします（p.457）。

- **カメラとスマートフォンがBluetooth 接続されていないときは、本機能の使用はできません。**
- 無線通信の設定を初期化したり、スマートフォンの接続情報を消去すると、本機能は使用できなくなります。

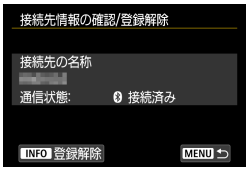
ペアリングしている機器の登録を解除する

他のスマートフォンとペアリングするときは、【Bluetooth機能】の画面（p.436）でペアリングしている機器の登録を解除します。

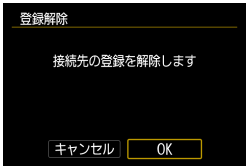
カメラ側の操作



1 **［接続先情報の確認/登録解除］を選ぶ**



2 **〈INFO〉ボタンを押す**



3 **登録を解除する**

- ［OK］を選びます。

スマートフォン側の操作

4 **カメラの登録を解除する**

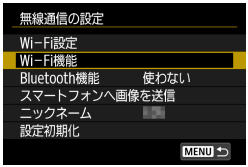
- スマートフォンのBluetooth設定から、登録を解除するカメラのニックネームを選んで、登録を解除します。

［Wi-Fi機能］メニューからスマートフォンとWi-Fi接続する

カメラ側の操作-1

1 Wi-Fi設定を［使う］にする

● 429ページの手順1 ～ 4を参照してください。



2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

● 【無線通信の設定】の画面の【Wi-Fi機能】を選びます。

3 ニックネームを登録する

● 【ニックネーム】の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します（p.430）。

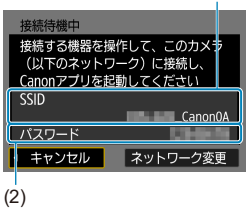
4 ［📱］（スマートフォンと通信）を選ぶ

● 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。

5 ［接続先の機器の登録］を選ぶ

6 項目を選ぶ

- Camera Connectをインストール済みのときは**【表示しない】**を選びます。
- Camera Connectがインストールされていないときは、左の画面で**【Android】**または**【iOS】**を選んで表示されるQRコードをスマートフォンで読み取り、Google PlayまたはApp Storeにアクセスしてカメラ Connectをインストールします。



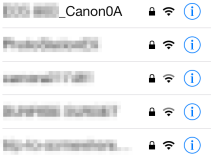
7 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されるSSID（1）とパスワード（2）を確認します。SSIDの末尾には「_Canon0A」と表示されます。
- **【Wi-Fi設定】**で**【パスワード】**を**【なし】**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、533ページを参照してください。

手順7で**【ネットワーク変更】**を選ぶと、アクセスポイント経由でWi-Fi接続することができます（p.496）。

スマートフォン側の操作

スマートフォンの画面例

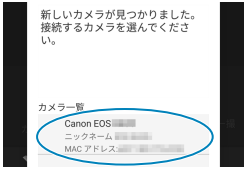


8 スマートフォンを操作してWi-Fi接続する

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、手順7で確認したSSID（ネットワーク名）を選びます。
- パスワード欄には、手順7で確認したパスワードを入力します。

9 Camera Connectを起動する

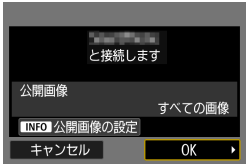
- カメラのモニターに**［接続待機中］**の画面が表示されたら、スマートフォンのCamera Connectを起動します。



10 Wi-Fi接続するカメラを選ぶ

- Camera Connectの**［カメラー覧］**から、Wi-Fi接続するカメラを選んでタッチします。

カメラ側の操作-2



11 Wi-Fi接続を確立する

- **［OK］**を選びます。
- 公開する画像を設定するときは、〈INFO〉ボタンを押します。459ページの手順5を参照して設定してください。

➡ スマートフォンに、Camera Connectのメイン画面が表示されます。

これでスマートフォンとのWi-Fi接続は完了です。

- Camera Connectを使用してカメラを操作します。444ページを参照してください。

- Wi-Fi接続を終了する方法は、『Wi-Fi接続を終了する』（p.457）を参照してください。
- 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』（p.509）を参照してください。

[Wi-Fi動作中] の画面について

切断して終了

- Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

- 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

- Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

Wi-Fi接続中に、カメラのメニュー（**[スマートフォンへ画像を送信]**）、または再生時のクイック設定画面からスマートフォンに画像を送信できます。詳しくは448ページを参照してください。

スマートフォンでカメラを操作する

Camera Connectでは、主に下記の操作ができます。

カメラ内の画像一覧

- カメラ内の画像を閲覧することができます。
- スマートフォンにカメラ内の画像を保存することができます。
- カメラ内の画像に対し、削除などの操作を行うことができます。

リモートライブビュー撮影

- カメラのライブビュー映像を、スマートフォンで見ることができます。
- リモート操作で撮影することができます。

撮影自動転送

- 撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信するときに（p.446）、カメラやアプリケーションの設定を変更することができます。

位置情報

- このカメラでは使用できません。

カメラ設定

- カメラの設定を変更することができます。

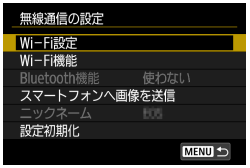
- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
  - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、Camera Connectの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作して撮影することはできません。
- スマートフォンとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- スマートフォンへの画像保存中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。また、カメラのモニターが消灯することがあります。
- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときや、カードスロットカバーやバッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します。
- RAW画像はスマートフォンに保存できません。RAW画像を選択したときはJPEG画像が保存されます。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。

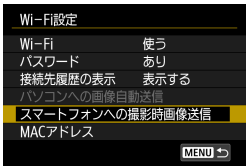
撮影しながらスマートフォンに画像を自動送信する

撮影した画像を自動送信することができます。あらかじめ、カメラとスマートフォンをWi-Fi接続しておきます。

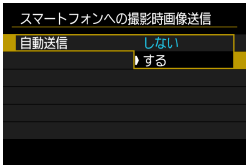
1 [5：無線通信の設定] を選ぶ



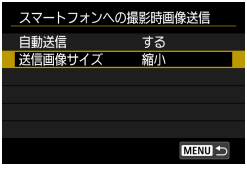
2 [Wi-Fi設定] を選ぶ



3 [スマートフォンへの撮影時画像送信] を選ぶ

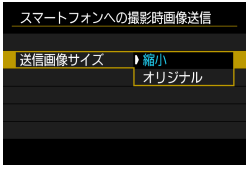


4 [自動送信] を [する] に設定する



5 [送信画像サイズ]を設定する

● 画像サイズを選んで〈SET〉を押します。



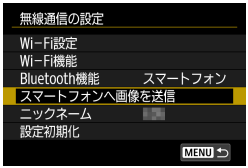
6 撮影する

カメラからスマートフォンに画像を送信する

カメラとスマートフォンがBluetooth接続（Androidのみ）またはWi-Fi接続された状態で、カメラを操作してスマートフォンに画像を送信することができます。

(1)［スマートフォンへ画像を送信］を選んで送信する

1 ［5：無線通信の設定］を選ぶ



2 ［スマートフォンへ画像を送信］を選ぶ

➡ Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換ります。

3 送信方法を選んで送信する

(2) 再生時のクイック設定画面から送信する

1 画像を再生する

2 〈Q〉ボタンを押す

3 [📱]を選ぶ

➡ Bluetooth接続中にこの操作を行ったときは、メッセージが表示され、Wi-Fi接続に切り換わります。

4 送信方法を選んで送信する

(3) 送信方法を選んで送信する

1枚ずつ送信する場合

1 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉または〈〉を回して送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈 〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

2 [この画像を送信]を選ぶ

- **[送信画像サイズ]**で送信する画像サイズを選ぶことができます。

複数の画像を選んで送信する場合

1 〈SET〉を押す

2 [選んで送信]を選ぶ

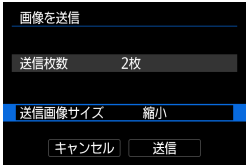
3 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈 〉を回して送信する画像を選び、〈SET〉を押します。

- 〈Q〉ボタンを押して〈 〉を左に回すと、3画像表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときも〈Q〉ボタンを押して〈 〉を操作します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈MENU〉ボタンを押します。

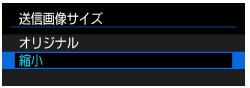
4 画像指定を完了する

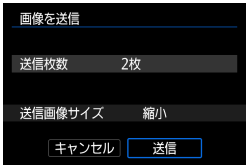
- [OK] を選びます。



5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





6 [送信] を選ぶ

範囲を指定して送信する場合

1 〈SET〉を押す

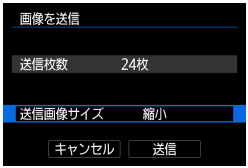
2 [範囲指定で送信] を選ぶ

3 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選んで〈SET〉を押します。
- 最後の画像（終点）を選んで〈SET〉を押します。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈☁〉を操作すると、インデックス表示の枚数を変えることができます。

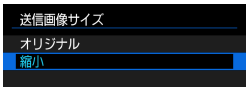
4 範囲を確定する

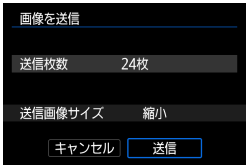
- 〈MENU〉ボタンを押します。



5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。



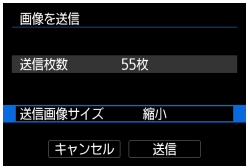


6 [送信] を選ぶ

カード内の画像をすべて送信する場合

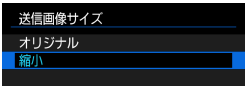
1 〈SET〉を押す

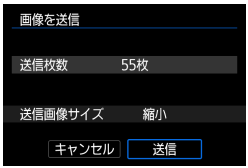
2 [カード内全送信]を選ぶ



3 [送信画像サイズ]を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。





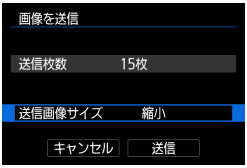
4 [送信]を選ぶ

検索条件が設定された画像を送信する場合

[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。**[画像検索の条件設定]** については、『再生する画像を絞り込む』（p.313）を参照してください。

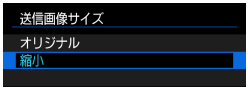
1 〈SET〉を押す

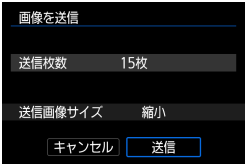
2 [検索結果全送信] を選ぶ



3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



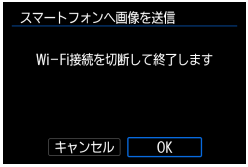


4 [送信] を選ぶ

画像の送信を終了する

Bluetooth接続中にカメラを操作して画像を送信した場合（Androidのみ）

● 画像の送信画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。



● 左の画面で【OK】を選ぶと、画像の送信とWi-Fi接続を終了します。

Wi-Fi接続中にカメラを操作して画像を送信した場合

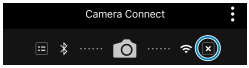
● 画像の送信画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。
● Wi-Fi接続を終了するときは『Wi-Fi接続を終了する』（p.457）を参照してください。

- 画像送信の操作中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- 他の機器とWi-Fi接続中、一度に複数のスマートフォンとWi-Fi接続することはできません。

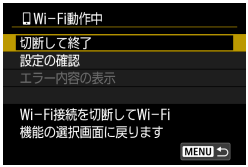
- 画像の送信中に【キャンセル】を選ぶと、送信をキャンセルすることができます。
- 一度に999ファイルまで選択できます。
- Wi-Fi接続中は、スマートフォンの節電機能をオフにしておくことをおすすめします。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画やS2サイズの静止画は縮小されません。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。
- Wi-Fi接続中は、カメラのオートパワーオフ機能は働きません。

Wi-Fi接続を終了する

Wi-Fi接続を終了するときは、下記のいずれかの操作を行ってください。



Camera Connectの画面で［×］をタッチする

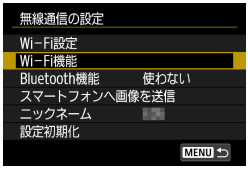


［Wi-Fi動作中］の画面で［切断して終了］を選ぶ

- ［Wi-Fi動作中］の画面が表示されていないときは、［5：無線通信の設定］の画面で［Wi-Fi機能］を選びます。
- ［切断して終了］を選び、確認画面で［OK］を選びます。

公開する画像を設定する

カメラ側の操作で、スマートフォンに公開する画像を設定することができます。**Wi-Fi接続を終了してから設定します。**

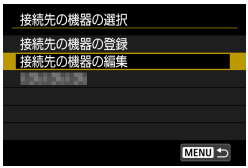


1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

● **[無線通信の設定]** の画面の **[Wi-Fi機能]** を選びます。

2 [▯] を選ぶ

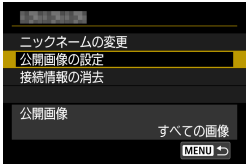
● 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



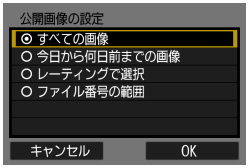
3 [接続先の機器の編集] を選ぶ

4 スマートフォンを選ぶ

● 画像を公開するスマートフォンの名称を選びます。



5 [公開画像の設定] を選ぶ



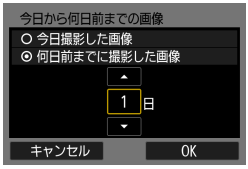
6 項目を選ぶ

- [OK] を選ぶと、設定画面が表示されます。

[すべての画像]

カード内のすべての画像を公開します。

[今日から何日前までの画像]

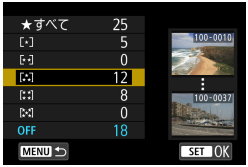


撮影日で公開する画像を指定します。最大で9日前までの画像を指定できます。

- 項目を選びます。
- **[何日前までに撮影した画像]** のときは、今日から何日前までに撮影した画像を公開するかを指定します。〈▲〉〈▼〉を押して日数を指定し、〈SET〉を押して確定します。
- [OK] を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[公開画像の設定] で **[すべての画像]** 以外を設定しているときは、リモート撮影はできません。

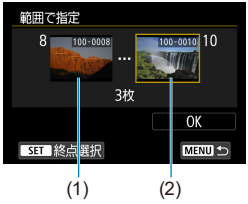
[レーティングで選択]



レーティングを付加した画像（または付加していない画像）やレーティングの種類で公開する画像を指定します。

- レーティングの種類を選ぶと、公開する画像が設定されます。

[ファイル番号の範囲]（範囲で指定）



ファイル番号順に並んだ画像の開始と終了の画像を選んで、公開する画像を指定します。

1. 〈SET〉を押して、画像の選択画面を表示します。
   〈◀〉〈▶〉または〈☞〉で画像を選びます。
   〈Q〉ボタンを押して〈☜〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。
2. 始点（1）の画像を選んで、〈SET〉を押します。
3. 〈▶〉で終点（2）の画像を選んで、〈SET〉を押します。
4. [OK]を選びます。

パソコンとWi-Fi接続する

ここでは、カメラとパソコンをWi-Fi接続してEOS用または専用ソフトウェアと連携する方法について説明しています。パソコンに最新のEOS用または専用ソフトウェアをインストールしてからWi-Fi接続の設定を行ってください。
パソコンの操作方法については、パソコンの使用説明書を参照してください。

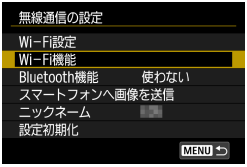
EOS Utilityでカメラを操作する

EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って、さまざまなカメラ操作をすることができます。

カメラ側の操作-1

1 Wi-Fi設定を［使う］にする

- 429ページの手順1 ～ 4を参照してください。

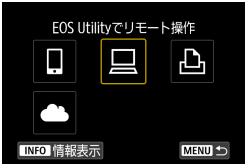


2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

- **［無線通信の設定］**の画面の**［Wi-Fi機能］**を選びます。

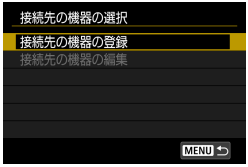
3 ニックネームを登録する

- **［ニックネーム］**の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します（p.430）。

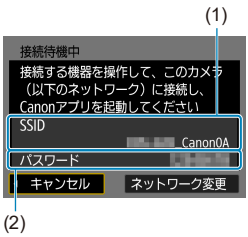


4 ［⊔］（EOS Utilityでリモート操作）を選ぶ

- 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。



5 [接続先の機器の登録] を選ぶ



6 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

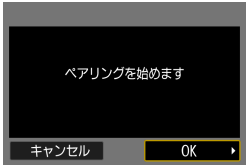
- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]** で **[パスワード]** を **[なし]** に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、533ページを参照してください。

パソコン側の操作-1
パソコンの画面例

7 SSIDを選んでパスワードを入力する

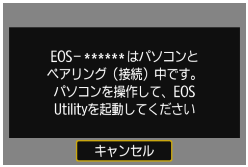
- パソコンのネットワークの設定画面から、手順6で確認したSSIDを選びます。SSIDの末尾には「_Canon0A」と表示されます。
- パスワード欄には、手順6で確認したパスワードを入力します。

カメラ側の操作-2



8 [OK] を選ぶ

➡ 下記のメッセージ画面が表示されます。なお、「******」は、接続しようとしているカメラのMACアドレス下6桁です。

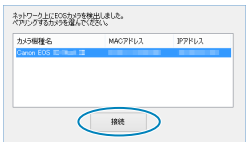


パソコン側の操作-2

9 EOS Utilityを起動する

10 EOS Utilityの［Wi-Fi/LAN接続ペアリング］をクリックする

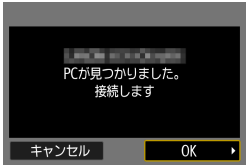
● ファイアウォールに関するメッセージが表示されたときは、**[はい]** を選びます。



11 [接続] をクリックする

● 接続するカメラを選んで、**[接続]** をクリックします。

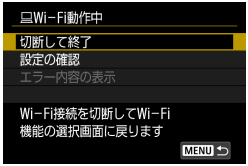
カメラ側の操作-2



12 Wi-Fi接続を確立する

● [OK] を選びます。

[Wi-Fi動作中] の画面について



切断して終了

● Wi-Fi接続を終了します。

設定の確認

● 設定の内容が確認できます。

エラー内容の表示

● Wi-Fi接続でエラーが発生したときに、エラー内容を確認できます。

これでパソコンとのWi-Fi接続は完了です。

● パソコンのEOS Utilityでカメラを操作します。

● 2回目以降のWi-Fi接続については、『2回目以降のWi-Fi接続』を参照してください（p.509）。

- リモート撮影で動画を記録中に、Wi-Fi接続が切断されたときの動作は、以下のようになります。
  - カメラが動画撮影モードのときは、動画撮影が継続します。
  - カメラが静止画撮影モードのときは、動画撮影が終了します。
- カメラが静止画撮影モードのときに、EOS Utilityの操作で動画モードにしたときは、カメラを操作することはできません。
- EOS UtilityとWi-Fi接続中は、操作できない機能があります。
- リモート撮影では、AF速度が遅くなることがあります。
- 通信状態によっては、映像の表示が遅れたり、レリーズのタイミングが遅れることがあります。
- リモートライブビュー撮影では、インターフェースケーブルでの接続時よりも通信速度が遅くなるため、動きのある被写体を滑らかに表示することはできません。
- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときや、カードスロットカバーやバッテリー収納部ふたを開けたときは、Wi-Fi接続を終了します。

パソコンに画像を自動送信する

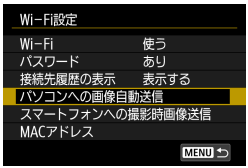
専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます。

パソコン側の操作-1

1 パソコンとアクセスポイントを接続してImage Transfer Utility 2を起動する

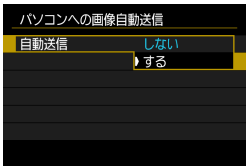
- Image Transfer Utility 2 のペアリングを設定する画面を開きます。
- はじめてImage Transfer Utility 2 を起動したときは、画面の手順にしたがって操作を行うとペアリングを設定する画面が表示されます。

カメラ側の操作



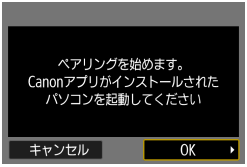
2 [パソコンへの画像自動送信] を選ぶ

- **[無線通信の設定]** の画面で **[Wi-Fi設定]** を選びます。
- **[Wi-Fi設定]** の画面で **[パソコンへの画像自動送信]** を選びます。

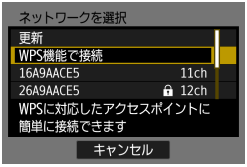


3 [自動送信] で [する] を選ぶ

- **[ニックネーム]** の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します(p.430)。

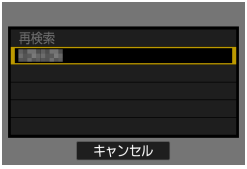


4 [OK] を選ぶ



5 アクセスポイントとWi-Fi接続する

- パソコンと接続しているアクセスポイントとカメラをWi-Fi接続します。接続方法は『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（p.496）を参照してください。



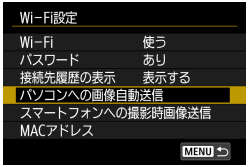
6 カメラとペアリングするパソコンを選ぶ

パソコン側の操作-2

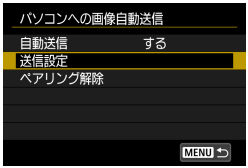
7 カメラとパソコンをペアリングする

- カメラを選んで、【ペアリング】をクリックします。

カメラ内の画像をパソコンに自動送信する



1 [Wi-Fi設定]の画面で[パソコンへの画像自動送信]を選ぶ



2 [送信設定]を選ぶ

3 送信する対象を選ぶ

- **[送信対象範囲]**で**[選択画像のみ]**を選んだときは**[送信画像選択]**の画面で送信する画像を設定します。

4 パソコンとアクセスポイントをWi-Fi接続してImage Transfer Utility 2を起動する

- アクセスポイントの通信範囲内でカメラの電源を入れると、画像がパソコンに自動送信されます。

- オートパワーオフ機能は働きません。
- 自動送信後に撮影した画像は、カメラの電源を入れなおしたときに自動送信されます。
- 自動送信が始まらないときは、カメラの電源を入れなおしてください。

自動送信中に撮影された画像は、自動送信されます。

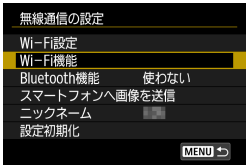
プリンターとWi-Fi接続する

ここでは、カメラとプリンターを直接Wi-Fi接続して画像を印刷する方法について説明しています。プリンターの操作方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

Wi-Fi接続する

1 Wi-Fi設定を［使う］にする

● 429ページの手順1 ～ 4を参照してください。



2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

● ［無線通信の設定］の画面の［Wi-Fi機能］を選びます。

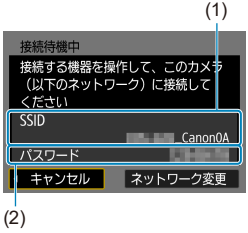
3 ニックネームを登録する

● ［ニックネーム］の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します（p.430）。

4 ［🖶］（Wi-Fi対応プリンターで印刷）を選ぶ

● 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。

5 ［接続先の機器の登録］を選ぶ



6 SSID（ネットワーク名）とパスワードを確認する

- カメラのモニターに表示されているSSID（1）とパスワード（2）を確認します。
- **[Wi-Fi設定]**で**[パスワード]**を**[なし]**に設定すると、パスワードは表示されず、入力も不要になります。詳しくは、533ページを参照してください。

7 プリンターを操作する

- お使いのプリンターのWi-Fiに関する設定メニューから、確認したSSIDを選びます。
  SSIDの末尾には「_Canon0A」と表示されます。
- パスワード欄には、手順6で確認したパスワードを入力します。

8 プリンターを選ぶ

- 検出されたプリンターの一覧から、Wi-Fi接続するプリンターを選びます。
- プリンターが16台以上検出されたときや、3分以上検索を続けたときは、**[再検索]**が選択できます。

9 印刷する （p.472）

Wi-Fi接続できるのは、Wi-Fiで使えるPictBridge（Wireless LAN）に対応したプリンターです。

アクセスポイントを使用してWi-Fi接続するときは、『アクセスポイントを使用したWi-Fi接続』（p.496）を参照してください。

印刷する

1枚ずつ印刷する場合

1 印刷する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈〉を回して印刷する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

2 [この画像を印刷]を選ぶ

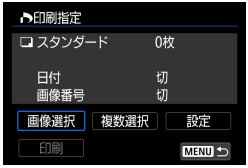
3 印刷する

- 印刷の設定方法は、475ページを参照してください。
- [印刷]を選び、[OK]を選ぶと印刷が始まります。

指定して印刷する場合

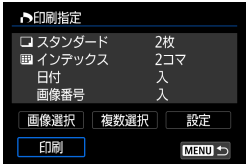
1 〈SET〉を押す

2 [印刷指定]を選ぶ



3 印刷内容を設定する

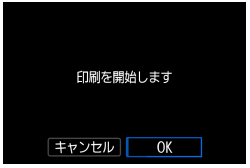
- 設定方法は、『画像を印刷指定する／DPOF』（p.353）を参照してください。
- Wi-Fi接続前に印刷指定をしているときは、手順4に進んでください。



4 [印刷]を選ぶ

- **[印刷]**は、画像が選択され、印刷できる状態になっていないと選択できません。

5 [用紙設定]の内容を設定する（p.475）



6 印刷する

● 【OK】を選ぶと印刷が始まります。

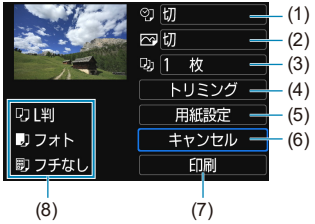
● プリンターとWi-Fi接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
● 動画は印刷できません。
● 印刷するときは、必ず用紙サイズの設定を行ってください。
● プリンターの機種により、画像番号が印刷できないことがあります。
● **【フチあり】**にすると、プリンターの機種により、日付がフチにかかることがあります。
● 日付の背景が明るいときや、日付がフチにかかるときは、プリンターの機種により、日付が薄く印刷されることがあります。
● RAW画像は **【印刷指定】**を選んで印刷することはできません。印刷するときは、**【この画像を印刷】**を選んで印刷してください。

● カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。
● 印刷する画像のファイルサイズや記録画質により、**【印刷】**を選んでから実際に印刷が始まるまで、しばらく時間がかかることがあります。
● 印刷を途中で中止するときは、**【中止】**が表示されている間に〈SET〉を押して【OK】を選びます。
● **【印刷指定】**で印刷するときに、途中で印刷を中止してから残りの画像を印刷するときは、**【再開】**を選びます。ただし、次のときは印刷の再開はできません。
  • 再開する前に印刷指定の内容を変更したり、指定した画像を削除したとき
  • インデックス設定時、再開する前に用紙設定を変更したとき
  • 印刷を中断したときに、カードの空き容量が少なかったとき
● 印刷中に問題が発生したときは、480ページを参照してください。

印刷の設定

使用するプリンターによって表示される内容や、設定できる内容が異なります。また、設定そのものができないことがあります。詳しくは、プリンターの使用説明書を参照してください。

印刷設定画面



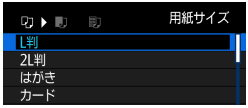
(1) 日付や画像番号を入れて印刷するかどうかを設定します（p.477）
(2) 印刷効果を設定します（p.477）
(3) 何枚印刷するかを設定します（p.478）
(4) 印刷範囲を設定します（p.479）
(5) 用紙のサイズ、タイプとレイアウトを設定します（p.476）
(6) 画像の選択画面に戻ります
(7) 印刷を開始します
(8) 設定されている用紙のサイズ、タイプ、レイアウトの情報が表示されます

* **プリンターの機種により、日付／画像番号印刷やトリミングなど、一部の設定項目が選択できないことがあります。**

用紙設定

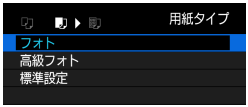
● **[用紙設定]** を選びます。

[用紙サイズ]の設定



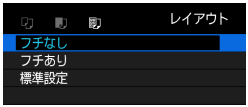
● プリンターにセットされている用紙のサイズを選びます。

[用紙タイプ]の設定



● プリンターにセットされている用紙のタイプを選びます。

[レイアウト]の設定

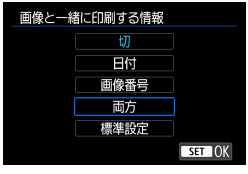


● 印刷レイアウトを選びます。

フチなし	余白なしで用紙いっぱいに印刷します。「フチなし」印刷できないプリンターでは、「フチあり」で印刷されます。
フチあり	用紙の周りに余白を付けて印刷します。
xx面配置	用紙1枚に画像を小さく、2/4/8/9/16/20/35画面印刷します。
標準設定	プリンターの機種や設定により、印刷レイアウトが異なります。

用紙の縦横比と、画像のアスペクト比が異なる条件でフチなし印刷を行うと、大きくトリミングされることがあります。また、トリミングされる分、印刷に使用する画素数が少なくなるため、解像度が低い写真になることがあります。

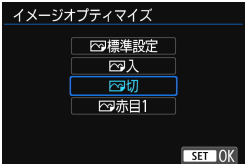
日付／画像番号印刷の設定



- [ ] を選びます。
- 印刷内容を選びます。

印刷効果（イメージオプティマイズ）の設定

表示される内容は、プリンターの機種により異なります。

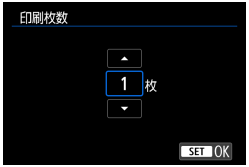


- [ ] を選びます。
- 印刷効果を選びます。

項目	印刷内容
[ ] **標準設定**	プリンターの機種により、印刷内容が異なります。プリンターの使用説明書を参照してください。
[ ] **入**	プリンターの標準色で印刷されます。画像のExif情報を活用して、自動的に補正が行われます。
[ ] **切**	自動補正は行われません。
[ ] **赤目1**	ストロボ撮影で被写体の目が赤くなった画像で効果的です。目の赤みが緩和されて印刷されます。

ISO感度「**H**」で撮影した画像の撮影情報を印刷すると、ISO感度が適切な値で印刷されないことがあります。

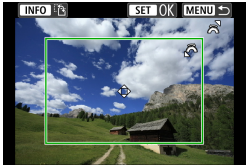
印刷枚数を設定する



- 【🖨】を選びます。
- 印刷枚数を選びます。

印刷効果などの選択肢にある**【標準設定】**は、プリンターメーカーが独自に設定する印刷内容のことです。**【標準設定】**の内容は、プリンターの使用説明書を参照してください。

トリミング（印刷範囲）の設定について



トリミングの設定は、印刷する直前に行ってください。トリミングを行ったあとで印刷設定の内容を変更すると、再設定が必要になることがあります。

1 印刷設定画面で［トリミング］を選ぶ

2 トリミング枠の大きさ、位置、縦横を設定する

● 枠で囲まれた範囲が印刷されます。枠の形状（縦横比）は、**[用紙設定]**の設定で変わります。

枠の大きさを変える

〈 〉を回すと、枠の大きさが変わります。

枠を移動する

〈▲〉〈▼〉または〈◀〉〈▶〉を押すと、枠が上下左右に移動します。

枠の縦/横を切り換える

〈INFO〉ボタンを押すと、枠が縦長、横長に変わります。

3 〈SET〉を押してトリミングを終了する

● 印刷設定画面の左上で印刷範囲を確認できます。

- プリンターの機種により、枠のとおりに印刷されないことがあります。
- 枠を小さくするほど印刷の画質が粗くなります。

プリンターエラー発生時の操作について

プリンターに関するエラー（インク切れ、用紙切れなど）を解決したあと、**[続行]**を選んでも印刷が再開されないときは、プリンター側を操作してください。印刷の再開方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

エラーメッセージについて

印刷中に問題が発生したときは、カメラのモニターにエラーメッセージが表示されます。問題を解決してから再度印刷してください。プリンターの問題解決方法については、プリンターの使用説明書を参照してください。

用紙エラー

用紙が正しくセットされているかどうか確認してください。

インクエラー

インク残量や、インク吸収体の状態を確認してください。

ハードウェアエラー

用紙、インク以外の問題が発生していないか確認してください。

ファイルエラー

選択した画像は印刷できません。別のカメラで撮影した画像や、パソコンに取り込んで加工した画像は、印刷できないことがあります。

Webサービスへ画像を送信する

ここでは、Webサービスを利用して画像を送信する方法について説明しています。

利用するWebサービスの情報を登録する

パソコンまたはスマートフォンを使って、利用するWebサービスの情報をカメラに登録します。

- CANON iMAGE GATEWAYをはじめとする各種Webサービスの設定には、インターネットに接続できるパソコンまたはスマートフォンおよびブラウザーが必要です。
- CANON iMAGE GATEWAYに接続する際にお使いいただくブラウザー（Microsoft Internet Explorerなど）のバージョンや設定条件については、CANON iMAGE GATEWAYのサイトで確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAYのサービスに対応している国／地域の情報は、弊社Webサイト（http://www.canon.com/cig/）で確認してください。
- CANON iMAGE GATEWAYでの操作や設定については、CANON iMAGE GATEWAYのヘルプをご確認ください。
- CANON iMAGE GATEWAY以外のWebサービスも利用するときは、そのWebサービスのアカウントが必要です。詳しくは、各WebサービスのWebサイトを確認してください。
- プロバイダーとの接続料金、およびプロバイダーのアクセスポイントへの通信料金は、別途かかります。

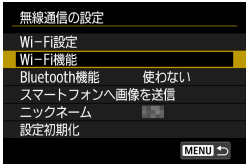
CANON iMAGE GATEWAYを登録する

CANON iMAGE GATEWAYとカメラを連携できるように、CANON iMAGE GATEWAYをカメラに登録します。
パソコンまたはスマートフォンのメールアドレスが必要です。

カメラ側の操作-1

1 Wi-Fi設定を［使う］にする

- 429ページの手順1 ～ 4を参照してください。



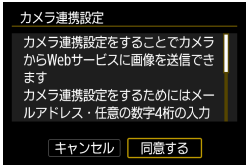
2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

- **［無線通信の設定］**の画面の**［Wi-Fi機能］**を選びます。

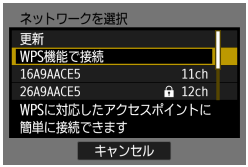
3 ニックネームを登録する

- **［ニックネーム］**の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します(p.430)。

4 ［☁］を選ぶ

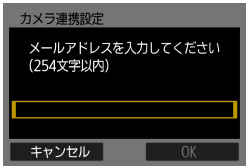


5 ［同意する］を選ぶ



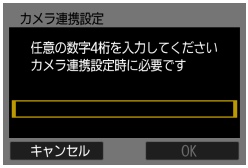
6 Wi-Fi接続する

- アクセスポイントとWi-Fi 接続します。498ページの手順7（PBC方式）、502ページの手順7（PIN方式）または505ページの手順7（手動方式）に進みます。



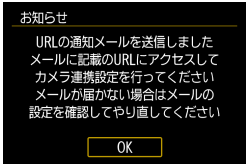
7 メールアドレスを入力する

- メールアドレスを入力して【OK】を選びます



8 4桁の数字を入力する

- 任意の4桁の数字を入力し【OK】を選びます。



9 【OK】を選ぶ

➡【☁】が【☁】になります。

パソコンまたはスマートフォン側の操作

10 カメラ連携を設定する

- 受信した通知メールのURLにアクセスします。
- カメラ連携設定ページの案内にしたがって設定します。

カメラ側の操作-2

11 CANON iMAGE GATEWAYを送信先に追加する

- 【☁】を選びます。

➡ CANON iMAGE GATEWAYが追加されます。

他のWebサービスを登録する

パソコンまたはスマートフォン側の操作

1 利用するWebサービスの設定をする

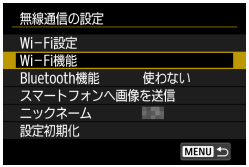
- CANON iMAGE GATEWAYのWebサイトにアクセスして、カメラ連携設定のページを表示します。
- 画面の指示にしたがって、利用するWebサービスの設定をします。

カメラ側の操作

2 設定したWebサービスを送信先に追加する

- [Wi-Fi機能]の画面で[ ]を選びます。

Wi-Fi接続する



1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- **[無線通信の設定]** の画面の **[Wi-Fi機能]** を選びます。

2 Webサービスを選ぶ

- 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- Webサービスの種類や設定によって、送信先の選択画面が表示されることがあります（p.508）。

Webサービスへ画像を送信する

撮影した画像を家族や友人と共有できるよう、登録したWebサービスへカメラ内の画像を送信したり、オンラインアルバムのリンク先を送信できます。

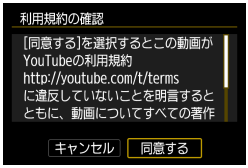
1枚ずつ送信する場合

1 送信する画像を選ぶ

- 〈◀〉〈▶〉または〈〉を回して送信する画像を選び、〈SET〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈〉を左に回すと、インデックス表示にして選ぶことができます。

2 [この画像を送信]を選ぶ

- **[送信画像サイズ]**で送信する画像サイズを選ぶことができます。
- 送信の完了画面で**[OK]**を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

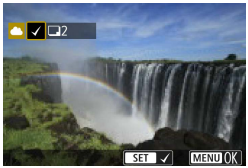


- **[利用規約の確認]**の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]**を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

複数の画像を選んで送信する場合

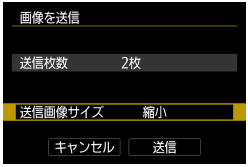
1 〈SET〉を押す

2 [選んで送信]を選ぶ



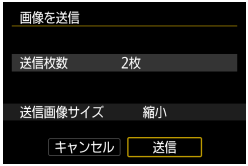
3 送信する画像を選ぶ

- 〈◄〉〈►〉または〈 〉を回して送信する画像を選び、〈**SET**〉を押します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈 〉を左に回すと、3画像表示にして選ぶことができます。1枚表示に戻すときも〈Q〉ボタンを押して〈 〉を操作します。
- 送信する画像の選択が終わったら、〈**MENU**〉ボタンを押します。



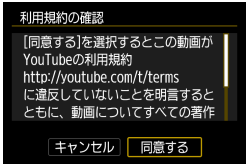
4 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 送信先がYouTubeのときは、**[送信画像サイズ]** は表示されません。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。



5 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

範囲を指定して送信する場合

画像の範囲を指定して、まとめて送信します。

1 〈SET〉を押す

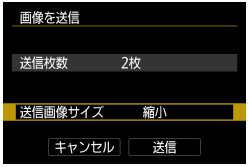
2 [範囲指定で送信]を選ぶ

3 画像の範囲を指定する

- 始めの画像（始点）を選びます。
- 最後の画像（終点）を選びます。
- ➡ 画像が選択され、[✓]が表示されます。
- 指定を解除するときは、この操作を繰り返します。
- 〈Q〉ボタンを押して〈 〉を操作すると、インデックス表示の枚数を変えることができます。

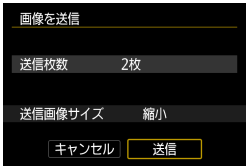
4 範囲を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押します。



5 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 表示される画面で画像サイズを選びます。



6 [送信] を選ぶ

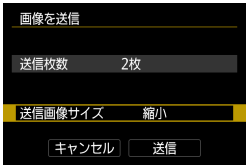
- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

カード内の画像をすべて送信する場合

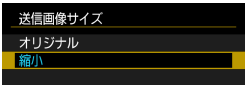
1 〈SET〉を押す

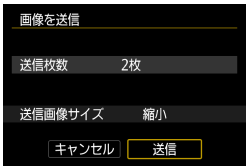
2 [カード内全送信] を選ぶ



3 [送信画像サイズ] を選ぶ

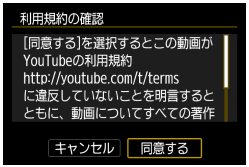
- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。





4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。

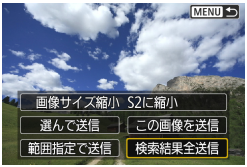


- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

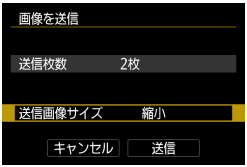
検索条件が設定された画像を送信する場合

[画像検索の条件設定] で検索条件が設定された画像をまとめて送信します。**[画像検索の条件設定]** については、『再生する画像を絞り込む』(p.313) を参照してください。

1 〈SET〉を押す

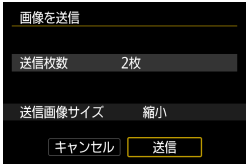


2 [検索結果全送信] を選ぶ



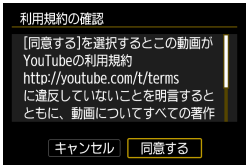
3 [送信画像サイズ] を選ぶ

- 必要に応じて設定します。
- 表示される画面で画像サイズを選びます。



4 [送信] を選ぶ

- 送信の完了画面で **[OK]** を選ぶと、Wi-Fi接続を終了します。



- **[利用規約の確認]** の画面が表示されたときは、内容をよくお読みのうえ、**[同意する]** を選びます。
- 〈▲〉〈▼〉で画面をスクロールできます。

- WebサービスにWi-Fi接続中は、カメラのシャッターボタンを押しても撮影できません。
- CANON iMAGE GATEWAY以外のWebサービスへ画像を送信した場合、そのWebサービスへ送信できていないのに、送信エラーが表示されないことがあります。このような場合の送信エラーは、CANON iMAGE GATEWAYのサイトで確認できますので、エラーの内容をご確認の上、再度送信してください。

- Webサービスによっては送信できる画像の種類や数、動画の時間が制限されます。
- **[範囲指定で送信]**、**[カード内全送信]**または**[検索結果全送信]**で、一部の画像が送信できないことがあります。
- 画像を縮小するときは、同時に送信する画像がすべて縮小されます。なお、動画や**S2**サイズの静止画は縮小されません。
- **[縮小]**が有効になるのは、このカメラと同じ機種のカメラで撮影された静止画だけです。それ以外のカメラで撮影された静止画は、サイズを縮小せずに送信します。
- パソコンなどからCANON iMAGE GATEWAYにアクセスすると、画像を送信したWebサービスの送信履歴が確認できます。
- 画像を送信しないでWi-Fi接続を終了するときは、手順1の画面で〈**MENU**〉ボタンを押します。
- カメラの電源にバッテリーを使用するときは、フル充電してから使用してください。

アクセスポイントを使用したWi-Fi接続

ここでは、アクセスポイントを利用したWi-Fi接続の方法について説明しています。

アクセスポイントの種類を確認する

カメラとWi-Fi接続するアクセスポイントのWPS（ワイファイ プロテクテッド セットアップ）への対応について、アクセスポイントの使用説明書などで確認してください。

- **WPSに対応している場合**

  下記の2種類のWi-Fi接続方法が選択できます。WPS（PBC方式）の方が簡単に接続できます。

  - **WPS（PBC方式）**

    p.497からの操作を行ってください。

  - **WPS（PIN方式）**

    p.501からの操作を行ってください。

- **WPSに対応していない場合**

  p.504からの操作を行ってください。その際に、アクセスポイントの暗号化が下記のいずれかの設定になっている必要があります。

  - **[認証方式]**

    オープン、共有キー、WPA/WPA2-PSK

  - **[暗号化の設定]**

    WEP、TKIP、AES

- **アクセスポイントのステルス機能を有効にしていると、Wi-Fi接続できない場合があります。ステルス機能を無効にしてください。**
- ネットワーク管理者がいるネットワークに接続するときは、ネットワーク管理者に設定の詳細をお問い合わせください。

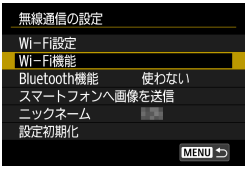
お使いのネットワークでMACアドレスのフィルタリングをしているときは、アクセスポイントにカメラのMACアドレスを登録してください。MACアドレスは**[情報表示]**の画面（p.516）で確認できます。

WPS（PBC方式）でWi-Fi接続する場合

あらかじめ、WPS用ボタンの場所と押す時間を確認しておいてください。
Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。
なお、周囲に複数のアクセスポイントが稼動していてWi-Fi接続できない場合は、**［WPS（PIN方式）］**でWi-Fi接続してください。

1 Wi-Fi設定を［使う］にする

- 429ページの手順1 ～ 4を参照してください。



2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

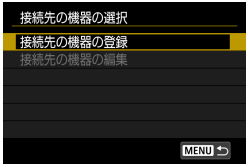
- **［無線通信の設定］**の画面の**［Wi-Fi機能］**を選びます。

3 ニックネームを登録する

- **［ニックネーム］**の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します（p.430）。

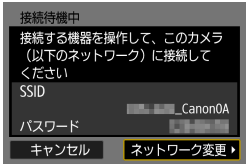
4 項目を選ぶ

- 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉で項目を選びます。



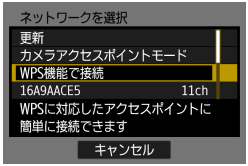
5 [接続先の機器の登録] を選ぶ

- [📱]（スマートフォンと通信）を選んだときは左の画面が表示されます。Camera Connectをインストール済みのときは **[表示しない]** を選びます。



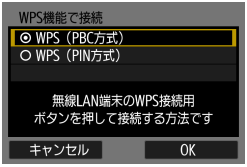
6 [ネットワーク変更] を選ぶ

- [📱] [💻] [🖨] を選んだときに表示されます。



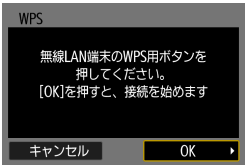
7 [WPS機能で接続] を選ぶ

手順7の画面で表示される **[カメラアクセスポイントモード]** については、508ページを参照してください。



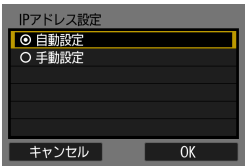
8 [WPS（PBC方式）]を選ぶ

- [OK]を選びます。



9 アクセスポイントにWi-Fi接続する

- アクセスポイントのWPS用ボタンを押します。
- [OK]を選びます。

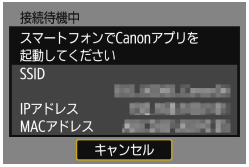


10 [自動設定]を選ぶ

- [OK]を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- **[自動設定]**でエラーが表示されたときや手動で設定するときは、535ページを参照してください。

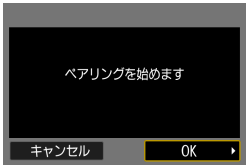
11 Wi-Fi機能に応じた設定を行う

IPアドレスを自動設定するには、DHCPサーバーや、DHCPサーバー機能を持つアクセスポイントやルーターを使用している環境で、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっている必要があります。



[スマートフォンと通信]

442ページの手順9に進みます。



[EOS Utilityでリモート操作]

463ページの手順8に進みます。

[Wi-Fi対応プリンターで印刷]

470ページの手順8に進みます。

CANON iMAGE GATEWAYを登録する

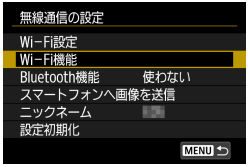
483ページの手順7に進みます。

WPS（PIN方式）でWi-Fi接続する場合

あらかじめ、PINコードをアクセスポイントに設定する方法を確認しておいてください。
Wi-Fi接続の開始から完了まで1分程度かかる場合があります。

1 Wi-Fi設定を［使う］にする

- 429ページの手順1 ～ 4を参照してください。



2 ［Wi-Fi機能］を選ぶ

- ［無線通信の設定］の画面の［Wi-Fi機能］を選びます。

3 ニックネームを登録する

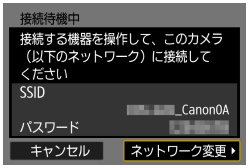
- ［ニックネーム］の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します（p.430）。

4 項目を選ぶ

- 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。

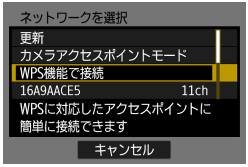
5 ［接続先の機器の登録］を選ぶ

- [📱]（スマートフォンと通信）を選んだときは左の画面が表示されます。Camera Connectをインストール済みのときは**[表示しない]**を選びます。

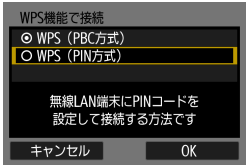


6 [ネットワーク変更]を選ぶ

- [📱][💻][🖨]を選んだときに表示されます。

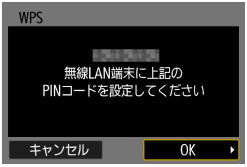


7 [WPS機能で接続]を選ぶ



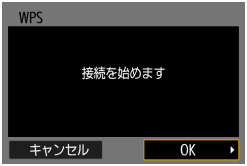
8 [WPS（PIN方式）]を選ぶ

- [OK]を選びます。



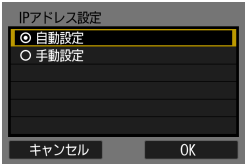
9 アクセスポイントにPINコードを設定する

- カメラのモニターに表示されるPINコードを、アクセスポイントに設定します。
- PINコードを設定したら［OK］を選びます。



10 アクセスポイントにWi-Fi接続する

- ［OK］を選びます。



11 ［自動設定］を選ぶ

- ［OK］を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- **［自動設定］**でエラーが表示されたときや手動で設定するときは、535ページを参照してください。

12 Wi-Fi機能に応じた設定を行う

（p.500）

手順7で表示される**［カメラアクセスポイントモード］**については、508ページを参照してください。

IPアドレスを自動設定するには、DHCPサーバーや、DHCPサーバー機能を持つアクセスポイントやルーターを使用している環境で、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっている必要があります。

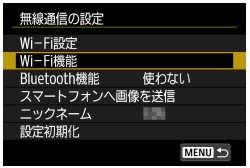
手動でWi-Fi接続する場合

近くで稼動中のアクセスポイントの一覧から、Wi-Fi接続するアクセスポイントのSSID（またはESS-ID）を選んでWi-Fi接続します。

アクセスポイントを選ぶ

1 **Wi-Fi設定を［使う］にする**

- 429ページの手順1 ～ 4を参照してください。



2 **［Wi-Fi機能］を選ぶ**

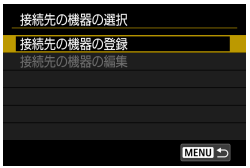
- **［無線通信の設定］**の画面の**［Wi-Fi機能］**を選びます。

3 **ニックネームを登録する**

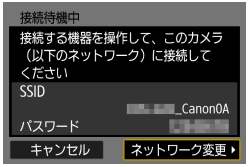
- **［ニックネーム］**の画面が表示されたときは、ニックネームを登録します（p.430）。

4 **項目を選ぶ**

- 履歴（p.509）が表示されたときは、〈◄〉〈►〉で画面を切り換えます。
- 〈▲〉〈▼〉または〈◄〉〈►〉を押して項目を選びます。

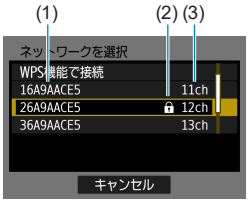


5 **［接続先の機器の登録］を選ぶ**



6 [ネットワーク変更] を選ぶ

- [📱] [💻] [🖨] を選んだときに表示されます。



7 アクセスポイントを選ぶ

- 〈▲〉〈▼〉を押して、アクセスポイントの一覧から、Wi-Fi接続するアクセスポイントを選びます。

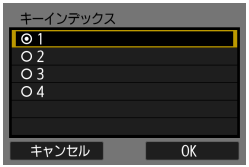
（1）SSIDを表示
（2）アクセスポイントが暗号化されているときはアイコンを表示
（3）使用しているチャンネルを表示

更新と手動設定について

- **[手動設定]** は、手順7の画面をスクロールすると表示されます。
- **[更新]** を選ぶと、アクセスポイントを再検索します。
- **[手動設定]** を選ぶと、手動でアクセスポイントに関する設定ができます。仮想キーボードでSSIDを入力してから、表示される内容に従って設定します。

アクセスポイントのパスワードを入力する

- アクセスポイントに設定されているパスワードを入力します。設定されているパスワードについては、アクセスポイントの使用説明書を参照してください。
- 下記の手順8 ～ 9で表示される画面は、アクセスポイントに設定されている認証方式と暗号方式によって異なります。
- 手順8 ～ 9が表示されずに、**[IPアドレス設定]** の画面が表示されたときは、手順10に進みます。



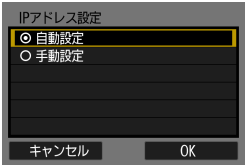
8 キーインデックスを選ぶ

- **[キーインデックス]** の画面は、アクセスポイントの暗号方式がWEPのときに表示されます。
- アクセスポイントに設定されているキーインデックスの番号を選びます。
- **[OK]** を選びます。

9 パスワードを入力する

- 仮想キーボード（p.534）でパスワードを入力します。

IPアドレスを設定する



10 [自動設定] を選ぶ

- [OK] を選ぶと、Wi-Fi機能に応じた設定画面が表示されます。
- **[自動設定]** でエラーが表示されたときや手動で設定するときは、535ページを参照してください。

11 Wi-Fi機能に応じた設定を行う

(p.500)

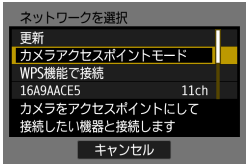
IPアドレスを自動設定するには、DHCPサーバーや、DHCPサーバー機能を持つアクセスポイントやルーターを使用している環境で、IPアドレスなどが自動的に割り当てられる設定になっている必要があります。

送信先画面について

Webサービスによっては、送信先の選択画面が表示されることがあります。送信先の登録や送信時の設定は、パソコンで行います。設定方法については、EOS Utilityの使用説明書を参照してください。

- **[Webサービスへ画像を送信]**の画面で**[✉]**（メール）などを選んだときは、**[送信先]**の画面が表示されることがあります。
- 登録した送信先の一覧から、送信先を選びます。
- 接続設定や画像の送信方法は、他のWebサービスと同じです。

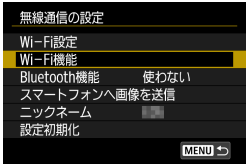
カメラアクセスポイントモードについて



カメラアクセスポイントモードは、カメラと各機器を直接Wi-Fi接続する方法です。**[Wi-Fi機能]**で、**[📱]** **[💻]** **[🖨]**を選んだときに表示されます。

2回目以降のWi-Fi接続

一度Wi-Fi接続して接続設定が登録された機器やWebサービスに、再度Wi-Fi接続する方法です。



1 [Wi-Fi機能]を選ぶ

- **[無線通信の設定]**の画面の**[Wi-Fi機能]**を選びます。

2 項目を選ぶ

- 表示された履歴から、Wi-Fi接続する項目を選びます。表示されていないときは〈◄〉〈►〉を押して画面を切り換えます。
- **[接続先履歴の表示]**を**[表示しない]**に設定しているときは履歴は表示されません(p.533)。

3 接続先の機器を操作する

[📱] スマートフォンの場合

- スマートフォンのWi-Fi機能をONにして、Camera Connectを起動します。
- スマートフォンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとスマートフォンを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

[🖵] パソコンの場合

- パソコンでEOS用ソフトウェアを起動します。
- パソコンの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとパソコンを直接 Wi-Fi 接続するときは、SSID の末尾に「_CanonOA」と表示されます。

[🖷] プリンターの場合

- プリンターの接続先が変更されているときは、カメラ、またはカメラと同じアクセスポイントにWi-Fi接続するように設定し直します。
  カメラとプリンターを直接Wi-Fi接続するときは、SSIDの末尾に「_CanonOA」と表示されます。

接続先履歴は、登録された順に3項目まで表示されます。接続設定が追加されると、古い履歴から削除されます。

Bluetooth接続中のスマートフォンとのWi-Fi接続

1 Camera Connectを起動する

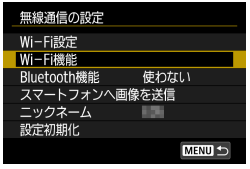
- スマートフォンのCamera Connectのアイコンをタッチして起動します。

2 Camera Connectの機能を選ぶ

- 使用したいCamera Connectの機能を選びます。
- 自動的にWi-Fi接続されます。
- iOSの場合は、カメラへの接続を確認する画面が表示されたら**[接続]**を選びます。Wi-Fi接続が完了すると、選んだ機能の画面が表示されます。
- Camera Connectの機能については444ページを参照してください。

複数の接続設定を登録する

Wi-Fi機能全体で、接続設定を20個まで登録することができます。

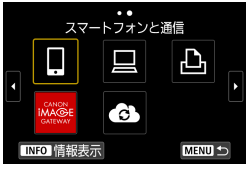


1 [Wi-Fi機能]を選ぶ

- **[無線通信の設定]**の画面の**[Wi-Fi機能]**を選びます。

2 項目を選ぶ

- 左の画面が表示されたら〈◄〉〈►〉を押して画面を切り換えます。

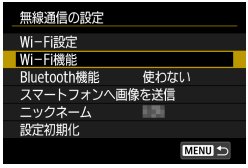


- 左の画面から、新たにWi-Fi接続する項目を選びます。
- **[📱]**（スマートフォンと通信）は『**[Wi-Fi 機能]**メニューからスマートフォンとWi-Fi接続する』（p.427）を参照してください。
- **[💻]**（EOS Utilityでリモート撮影）は『パソコンとWi-Fi接続する』（p.461）を参照してください。
- **[🖨]**（Wi-Fi対応プリンターで印刷）は『プリンターとWi-Fi接続する』（p.469）を参照してください。
- Webサービスへ画像を送信するときは『Webサービスへ画像を送信する』（p.481）を参照してください。

接続設定を削除するときは、513ページを参照してください。

接続設定を変更／削除する

カメラに保存されている接続設定の変更や削除を行います。接続設定の変更や削除は、Wi-Fi接続を終了してから操作します。



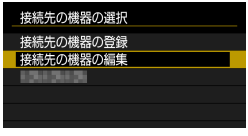
1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- **[無線通信の設定]** の画面の **[Wi-Fi機能]** を選びます。

2 項目を選ぶ

- 左の画面が表示されたら〈◄〉〈►〉を押して画面を切り換えます。

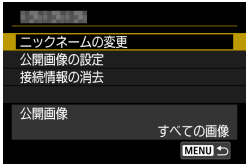
- 左の画面から、接続設定の変更や削除を行う項目を選びます。



3 [接続先の機器の編集] を選ぶ

4 機器を選ぶ

- 接続設定の変更や削除を行う機器を選びます。



5 接続設定の確認や変更を行う

● 項目を選んで、表示される画面で接続設定の変更や削除を行います。

● **ニックネームの変更**

ニックネームを仮想キーボード（p.534）で変更できます。

● **公開画像の設定**（p.458）

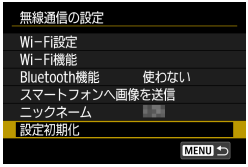
[📱]（スマートフォンと通信）を選んだときに表示されます。設定した内容が画面の下側に表示されます。

● **接続情報の消去**

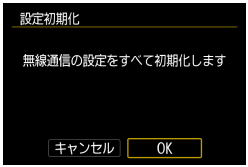
カメラに保存されている接続設定を削除することができます。
なお、Webサービスの接続設定は、CANON iMAGE GATEWAYのWebサイトで削除します。

無線通信の設定を初期化する

無線通信の設定をすべて削除します。カメラを貸与したり譲渡したときに、無線通信の設定情報が流出することを防ぐことができます。



1 **［設定初期化］を選ぶ**



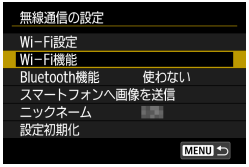
2 **［OK］を選ぶ**

➡ 無線通信の設定が初期化され、**［無線通信の設定］**の画面に戻ります。

［6：カメラ設定初期化］を行っても、無線通信の設定情報は削除されません。

情報表示画面について

[情報表示] の画面では、エラーの内容とカメラのMACアドレスを確認することができます。



1 [Wi-Fi機能] を選ぶ

- **[無線通信の設定]** の画面の **[Wi-Fi機能]** を選びます。

2 項目を選んで〈INFO〉ボタンを押す

➡ **[情報表示]** の画面が表示されます。

- エラーが発生しているときに〈**SET**〉を押すと、エラーの内容が表示されます。

エラー表示の対応

エラーが発生したときは、下記のいずれかの方法でエラー内容を表示してください。その後、この章の対応例を参考にしてエラーの原因を取り除いてください。

- **[情報表示]** の画面で〈SET〉を押す（p.516）。
- **[Wi-Fi動作中]** の画面で **[エラー内容の表示]** を選ぶ。

下記のエラー番号のページをクリックすると該当ページにジャンプします。

11 (p.518)	12 (p.518)			
21 (p.519)	22 (p.520)	23 (p.521)		
61 (p.522)	63 (p.523)	64 (p.523)	65 (p.524)	66 (p.524)
67 (p.524)	68 (p.525)	69 (p.525)		
91 (p.525)	121(p.525)			
125 (p.526)				
126 (p.526)	127 (p.526)			
141 (p.526)	142 (p.526)			
151 (p.527)	152 (p.527)			

エラーが発生したときは、**[Wi-Fi機能]** の画面の右上に **[Err**]** と表示されます。カメラの電源を〈OFF〉にすると表示されなくなります。

11：接続先が見つかりません

- **［📱］の場合、Camera Connectは起動していますか？**

➡ Camera Connectから接続操作を行ってください（p.442）。

- **［🖨］の場合、プリンターの電源は入っていますか？**

➡ プリンターの電源を入れてください。

- **［💻］の場合、EOS用ソフトウェアは起動していますか？**

➡ EOS用ソフトウェアを起動して、再度接続操作を行ってください（p.463）。

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**

➡ 暗号化の認証方式が**［オープン］**の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。
大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（p.506）。

12：接続先が見つかりません

- **接続先の機器とアクセスポイントの電源は入っていますか？**

➡ 接続先の機器とアクセスポイントの電源を入れて、しばらくお待ちください。それでも接続できないときは、再度接続操作を行ってください。

21：DHCPサーバーからアドレスが割り当てられていません

カメラの確認内容

- **カメラの設定がIPアドレス［自動設定］になっています。この設定で間違いありませんか?**

➡ DHCPサーバーを使用していない場合は、カメラをIPアドレス**【手動設定】**にして設定を行ってください（p.535）。

DHCPサーバーの確認内容

- **DHCPサーバーの電源は入っていますか？**

➡ DHCPサーバーの電源を入れてください。

- **DHCPサーバーから割り当てられるアドレスに余裕はありますか？**

➡ DHCPサーバーが割り振るアドレスを増やしてください。

➡ DHCPサーバーからアドレスが割り振られている端末を、ネットワークから外して減らしてください。

- **DHCPサーバーは正常に機能していますか？**

➡ DHCPサーバーの設定を確認して、DHCPサーバーとして正常に機能しているか確認してください。

➡ ネットワーク管理者がいるときは、DHCPサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

22：DNSサーバーから応答がありません

カメラの確認内容

- **カメラに設定しているDNSサーバーのIPアドレスは合っていますか？**

➡ IPアドレス【手動設定】にして、使用するDNSサーバーと同じIPアドレスをカメラに設定してください（p.531、535）。

DNSサーバーの確認内容

- **DNSサーバーの電源は入っていますか？**

➡ DNSサーバーの電源を入れてください。

- **DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定していますか?**

➡ DNSサーバーにIPアドレスと、そのアドレスに対応する名前を正しく設定してください。

- **DNSサーバーは正常に機能していますか？**

➡ DNSサーバーの設定を確認して、DNSサーバーとして正常に機能しているか確認してください。

➡ ネットワーク管理者がいるときは、DNSサーバーを使用できる状態にするよう依頼してください。

ネットワーク全体の確認内容

- **Wi-Fi接続しようとしているネットワークに、ゲートウェイ機能を持つルーターなどが使用されていませんか？**

➡ ネットワーク管理者がいるときは、ネットワークのゲートウェイアドレスを聞いて、その内容をカメラに設定してください（p.531、535）。

➡ カメラを含むネットワーク機器すべてに、ゲートウェイアドレスを正しく設定してください。

23：ネットワーク上に同じIPアドレスの機器が存在します

カメラの確認内容

- **カメラと同じネットワークにWi-Fi接続している機器が、カメラと同じIPアドレスを使用していませんか？**

➡ カメラのIPアドレスを変更して、同じネットワークに接続している機器とIPアドレスが重複しないようにしてください。または、IPアドレスが重複している他の機器のIPアドレスを変更してください。

➡ DHCPサーバーを使用するネットワーク環境で、カメラがIPアドレス**【手動設定】**の設定になっているときは、IPアドレス**【自動設定】**の設定にしてください（p.507）。

エラー 20番台の対応について

エラー 21 ～ 23が表示された場合は、下記の確認も行ってください。

カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？

➡ 暗号化の認証方式が**【オープン】**の設定で、パスワードを間違えるとこのエラーになります。大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（p.506）。

61：同じSSIDの無線LANネットワークがみつかりません

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**

➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動してください（p.528）。

カメラの確認内容

- **カメラにアクセスポイントと同じSSIDを設定していますか？**

➡ アクセスポイントのSSIDを確認して、同じSSIDをカメラに設定してください（p.505）。

アクセスポイントの確認内容

- **アクセスポイントの電源は入っていますか？**

➡ アクセスポイントの電源を入れてください。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**

➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは**【情報表示】**の画面（p.516）で確認できます。

63：無線LANの認証に失敗しました

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証方式を設定していますか？**

➡ カメラで設定できる認証方式は、**[オープン]**、**[共有キー]**、**[WPA/WPA2-PSK]** です（p.496）。

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**

➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（p.506）。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**

➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは**【情報表示】**の画面（p.516）で確認できます。

64：無線LAN端末に接続できません

- **カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？**

➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです（p.496）。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**

➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは**【情報表示】**の画面（p.516）で確認できます。

65：無線LANの接続が切れました

- **アクセスポイントのアンテナとカメラの間に、見通しをさえぎる障害物はありませんか？**

➡ アクセスポイントのアンテナを、カメラからよく見える場所に移動させてください（p.528）。

- **何らかの理由で、Wi-Fi接続が切れ、再接続できない状態になっています。**

➡ アクセスポイントにほかの機器からのアクセスが集中している場合や、電子レンジなどが近くで使用されている場合（IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯））、雨天や高湿度などの影響が考えられます（p.528）。

66：無線LANのパスワードが違います

- **カメラとアクセスポイントで、同じ認証用のパスワードを設定していますか？**

➡ 大文字、小文字の使い分けも確認して、正しい認証用のパスワードをカメラに設定してください（p.506）。

67：無線LANの暗号方式が違います

- **カメラとアクセスポイントで、同じ暗号化方式を設定していますか？**

➡ カメラで設定できる暗号化方式は、WEP、TKIP、AESです（p.496）。

- **MACアドレスでフィルタリングしている場合、使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録していますか？**

➡ 使用しているカメラのMACアドレスをアクセスポイントに登録してください。MACアドレスは**【情報表示】**の画面（p.516）で確認できます。

68：無線LAN端末に接続できませんでした。始めからやり直してください。

● **アクセスポイントのWPS（Wi-Fi Protected Setup）ボタンは、アクセスポイントで指示されている時間押し続けましたか？**

➡ WPSボタンをアクセスポイントの使用説明書で指示されている時間押し続けてください。

● **アクセスポイントのすぐ近くで接続操作をしていますか？**

➡ 両方の機器にすぐ手が届く距離で接続操作を行ってください。

69：複数の無線LAN端末を検出したため、接続できませんでした。始めからやり直してください。

● **ほかのアクセスポイントがWPS（Wi-Fi Protected Setup）のPBC方式（プッシュボタン接続方式）で接続操作を行っています。**

➡ しばらく待ってから接続操作を行うか、PIN方式（ピンコード接続方式）で接続操作を行ってください（p.501）。

91：その他のエラー

● **エラー 11 ～ 69以外の異常が発生しました。**

➡ カメラの電源スイッチを入れ直してください。

121：サーバーの空き容量が不足しています

● **送信先Webサーバーの空き容量が不足しています。**

➡ Webサーバー内の不要な画像を削除し、Webサーバーの空き容量を確認してから再度送信してください。

125：ネットワークの設定を確認してください

● **ネットワークが接続されていますか？**

➡ ネットワークの接続状態を確認してください。

126：サーバーと接続できませんでした

● **CANON iMAGE GATEWAYがメンテナンス中か、一時的に負荷が集中しています。**

➡ しばらくしてからWebサービスの接続をやり直してください。

127：エラーが発生しました

● **Webサービスの接続中に、エラー 121 ～ 126以外の異常が発生しました。**

➡ WebサービスのWi-Fi接続をやり直してください。

141：プリンターは処理中です。もう一度接続してください

● **プリンターが印刷中ではありませんか？**

➡ 印刷が終わってからWi-Fi接続をやり直してください。

● **プリンターにほかのカメラがWi-Fi接続していませんか？**

➡ ほかのカメラのWi-Fi接続を終了してから、Wi-Fi接続をやり直してください。

142：プリンター情報の取得に失敗しました。もう一度接続してください

● **プリンターの電源は入っていますか？**

➡ プリンターの電源を入れてから、Wi-Fi接続をやり直してください。

151：送信を中止しました

● **何らかの理由で、パソコンへの画像の自動送信が中断されました。**

➡ カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしてから再度〈ON〉にすると、自動送信が再開されます。

152：カードのスイッチが書き込み禁止位置になっています

● **カードの書き込み禁止スイッチが、書き込み禁止位置になっていませんか？**

➡ カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み可能位置にしてください。

無線通信機能での注意事項

無線通信機能使用時に「通信速度が遅くなる」、「接続が途切れる」などの現象が起きたときは、下記の例を参考にして対応してみてください。

カメラとスマートフォンとの距離について

カメラとスマートフォンが離れすぎていると、Bluetooth接続は可能でもWi-Fi接続ができないことがあります。その場合は、カメラとスマートフォンを近づけてWi-Fi接続を行ってください。

アクセスポイントのアンテナの設置場所について

- 室内で使用する場合、カメラを使用している部屋に設置してください。
- カメラとの間に、人や遮蔽物が入らない場所に設置してください。

近くにある電子機器について

下記の電子機器の影響でWi-Fiの通信速度が遅くなるときは、電子機器の使用をやめるか、機器から離れた場所で通信を行ってください。

- カメラのIEEE 802.11b/g/nは、2.4GHz帯の電波を使用してWi-Fiの通信を行っています。そのため、同じ周波数帯を使用するBluetooth機器や電子レンジ、コードレス電話機、マイク、スマートフォン、他のカメラなどを使うとWi-Fiの通信速度が遅くなります。

カメラを複数使うときの注意

- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続するときは、カメラのIPアドレスが重複しないよう注意してください。
- 1つのアクセスポイントに複数のカメラをWi-Fi接続すると、通信速度が遅くなります。
- IEEE 802.11b/g/n（2.4GHz帯）のアクセスポイントが複数あるときは、電波干渉を少なくするために、Wi-Fiのチャンネルを、「1/6/11」、「2/7」、「3/8」というように5チャンネル分、間を開けてください。

ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1の使用について

- **[Bluetooth機能]** を **[リモコン]** に設定してワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用しているときは、スマートフォンとBluetooth 接続することはできません。

セキュリティーについて

セキュリティーに関する設定が適切に行われていないときは、次のような問題が発生する恐れがありますので注意してください。

- **通信の傍受**
  悪意ある第三者によってWi-Fiの電波を傍受され、通信内容を盗み見られる恐れがあります。
- **ネットワークへの不正アクセス**
  悪意ある第三者によって、お使いのネットワークに不正に侵入され、情報の盗難・改ざん・破壊をされるといった被害に遭う恐れがあります。また、別の人物を装ってネットワークに不正な情報を流す「なりすまし」通信がされたり、「踏み台」と呼ばれる別の不正アクセスへの中継地点にされたりする恐れもあります。

こうした問題が発生する可能性を少なくするため、ネットワークのセキュリティーを確保するための仕組みや機能を使用することをおすすめします。

ネットワークの設定を確認する

● **Windowsの場合**

Windowsの**[コマンドプロンプト]**を開き、ipconfig/allと入力して〈**Enter**〉キーを押します。
パソコンに割り当てられているIPアドレスのほかに、サブネットマスク、ゲートウェイ、DNSサーバーの情報が表示されます。

● **Mac OSの場合**

Mac OS Xの**[ターミナル]**を開き、ifconfig -aと入力して〈**Return**〉キーを押します。**[en0]**項目**[inet]**の ***.***.***.*** がパソコンに割り当てられているIPアドレスです。

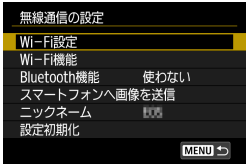
＊**[ターミナル]**については、Mac OS Xのヘルプを参照してください。

なお、535ページでカメラに割り当てるIPアドレスを設定するときは、パソコンやほかのネットワーク接続機器とIPアドレスが重複しないよう、一番右側の数字を変えて設定します。

例）192.168.1.10

[無線通信の設定]の画面について

[無線通信の設定]の画面では、無線通信機能の設定を変更できます。
[5：無線通信の設定]を選びます。



Wi-Fi設定

● 次ページを参照してください。

Wi-Fi機能

以下のWi-Fi機能が選択できます。
● スマートフォンと通信
● EOS Utilityでリモート操作
● Wi-Fi対応プリンターで印刷
● Webサービスへ画像を送信

Bluetooth機能（p.436）

[Bluetooth機能]の画面を表示して、Bluetooth機能の設定や確認ができます。

スマートフォンへ画像を送信（p.448）

スマートフォンと接続中に、カメラ内の画像をスマートフォンへ送信するときに使用します。

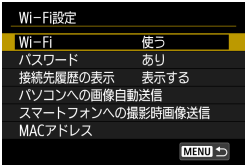
ニックネーム

ニックネームを仮想キーボード（p.534）で変更できます。

設定初期化（p.515）

無線通信の設定をすべて削除して初期化を行います。

[Wi-Fi設定]の画面について



Wi-Fi

- 無線通信機能の**[使う]**／**[使わない]**が設定できます。
- 飛行機内や病院内などで、電子機器や無線機器の使用が禁止されているときは、**[使わない]**に設定してください。

パスワード

[なし]に設定すると、Wi-Fi接続時のパスワードの入力を省略することができます（アクセスポイントとのWi-Fi接続時を除く）。

接続先履歴の表示

Wi-Fi接続した機器の履歴を**[表示する]**／**[表示しない]**が設定できます。

パソコンへの画像自動転送

専用ソフトウェアのImage Transfer Utility 2を使って、カメラ内の画像を自動的にパソコンへ送ることができます(p.466)。

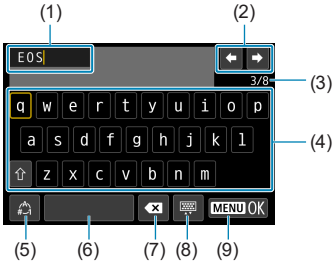
スマートフォンへの撮影時画像送信

撮影した画像をスマートフォンに自動送信することができます（p.446）。

MACアドレス

カメラのMACアドレスの確認ができます。

仮想キーボードの操作方法について

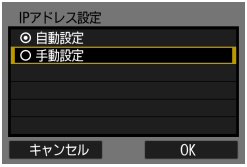


(1)	文字を入力するエリア（入力エリア）
(2)	入力エリアでのカーソルの移動
(3)	入力した文字数/ 入力できる文字数
(4)	キーボード
(5)	入力モードの切り換え
(6)	スペース
(7)	入力エリアでの文字の削除
(8)	キーボードの種類の変更
(9)	入力の終了

- (2)、(4) ～ (8) は〈▲〉〈▼〉〈◄〉〈►〉を押して移動します。
- 入力する文字の決定や、入力モードの切り換えなどを行うときは〈SET〉を押します。

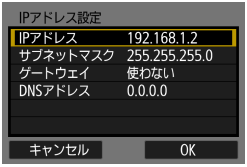
IPアドレスを手動で設定する場合

IPアドレス設定を手動で行います。なお、表示される項目はWi-Fi機能によって異なります。



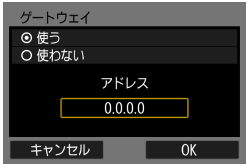
1 [手動設定]を選ぶ

- [OK]を選びます。



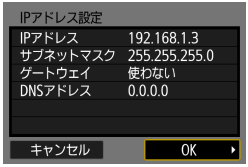
2 項目を選ぶ

- 項目を選ぶと、数値の入力画面が表示されます。
- ゲートウェイを使う場合は、**[使う]**を選んでから**[アドレス]**を選びます。



3 数値を入力する

- 〈〉を回して上側の入力場所を選び、〈〉を回して入力する数値を選びます。〈**SET**〉を押すと選んだ数値が入力されます。
- 〈**MENU**〉ボタンを押すと、入力を確定して手順2の画面に戻ります。

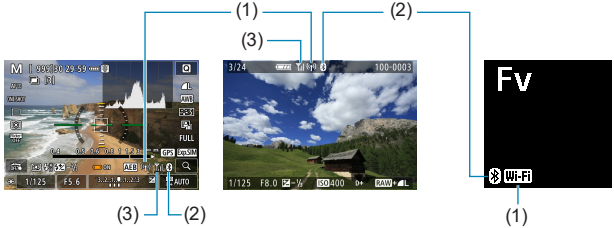


4 [OK] を選ぶ

- 必要な項目の設定が完了したら [OK] を選びます。
- 設定する内容が分からない場合は、『ネットワークの設定を確認する』(p.531) を参照するか、ネットワーク管理者、またはネットワークに詳しい方に問い合わせてください。

Wi-Fi／Bluetoothの状態表示について

カメラのモニターと表示パネルで、無線通信機能の接続状態を確認することができます。



(1) Wi-Fi機能
(2) Bluetooth機能
(3) 電波強度

通信状態		Wi-Fi機能	電波強度	表示パネル Wi-Fi機能
未接続	Wi-Fi：使わない		消灯	非表示
	Wi-Fi：使う			Wi-Fi
接続開始		（点滅）		
接続中				
送信中		（←→）		
接続エラー		（点滅）		

Bluetooth機能の表示

Bluetooth機能	接続状態	モニター	表示パネル
[使わない] 以外	Bluetooth接続中		
	Bluetooth未接続		
[使わない]	Bluetooth未接続	非表示	非表示

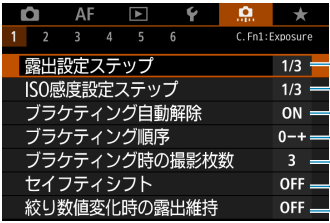
7

カスタム機能／マイメニュー

撮影スタイルに応じて、カメラの機能を細かく変更したり、カメラのボタンやダイヤルの機能を変更することができます。この機能を「カスタム機能」「操作カスタマイズ」といいます。
また、設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

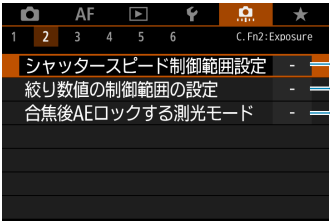
メニュー目次:カスタム機能タブ

● C.Fn1



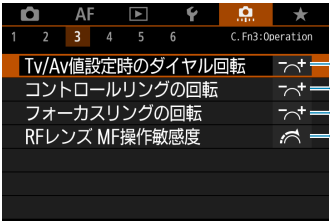
露出設定ステップ p.542
ISO感度設定ステップ p.542
ブラケティング自動解除 p.543
ブラケティング順序 p.543
ブラケティング時の撮影枚数 p.544
セイフティシフト p.545
絞り数値変化時の露出維持 p.546

● C.Fn2



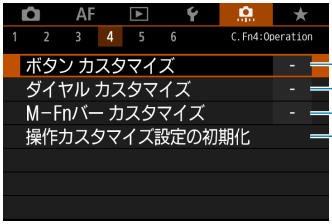
シャッタースピード制御範囲設定 p.547
絞り数値の制御範囲の設定 p.547
合焦後AEロックする測光モード p.548

● C.Fn3



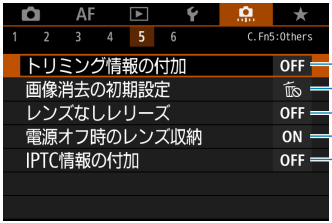
Tv/Av値設定時のダイヤル回転 p.548
コントロールリングの回転 p.548
フォーカスリングの回転 p.549
RFレンズ MF操作敏感度 p.549

● C.Fn4



p.555
p.555
p.561
p.555

● C.Fn5



p.550
p.551
p.551
p.552
p.553

● C.Fn6

p.554

カスタム機能で変更できる内容 応用

撮影スタイルに応じて、[📷] タブでカメラの機能を細かく設定することができます。 初期設定から変更した内容は、設定値が青色で表示されます。

C.Fn1

露出設定ステップ

シャッタースピードと絞り数値、および露出補正、AEB、ストロボ調光補正などの設定ステップを1/2段ステップにすることができます。

[1/3] 1/3段

[1/2] 1/2段

[1/2段] 設定時は、図のように表示されます。

ISO感度設定ステップ

ISO感度の手動設定ステップを1段ステップに変更することができます。

[1/3] 1/3段

[1/1] 1段

- **[1段]** に設定しても、ISOオート設定時は1/3段ステップで自動設定されます。
- **[1段]** 設定時もISO40000に設定することができます（静止画撮影時）。

ブラケティング自動解除

電源スイッチを〈OFF〉にしたときや動画撮影に切り換えたときに、AEBとWBブラケティングの設定を解除するかどうかを設定することができます。

[ON] する

[OFF] しない

ブラケティング順序

AEBの撮影順序と、WBブラケティング撮影時の画像の記録順序を変更することができます。

[0−+] 0→−→+

[−0+] −→0→+

[+0−] +→0→−

AEB	WBブラケティング	
	B/A方向設定時	M/G方向設定時
0 ：標準露出	0 ：基準ホワイトバランス	0 ：基準ホワイトバランス
− ：マイナス補正	− ：ブルー寄りに補正	− ：マゼンタ寄りに補正
+ ：プラス補正	+ ：アンバー寄りに補正	+ ：グリーン寄りに補正

ブラケティング時の撮影枚数

AEB撮影、WBブラケティング撮影時の撮影枚数を、初期設定の3枚から、2枚/5枚/7枚に変更することができます。
なお、[📷1：**ブラケティング順序**] を [**0→−→+**] に設定したときは、下表のように撮影されます。

[3] 3枚

[2] 2枚

[5] 5枚

[7] 7枚

（1段ステップ設定時）

	1枚目	2枚目	3枚目	4枚目	5枚目	6枚目	7枚目
3：3枚	標準 (0)	−1	+1				
2：2枚	標準 (0)	±1					
5：5枚	標準 (0)	−2	−1	+1	+2		
7：7枚	標準 (0)	−3	−2	−1	+1	+2	+3

[2枚] 設定時は、AEBレベルを設定するときに補正方向（+または−）を選ぶことができます。WBブラケティング設定時は、B/A方向、またはM/G方向の補正になります。

セイフティシフト

被写体の明るさが変化して、自動露出で標準露出が得られる範囲を超えたとき、手動設定値をカメラが自動的に変更して、標準露出で撮影することができます。**[Tv値/Av値]** は **[Tv]**、**[Av]** モードで機能します。**[ISO感度]** は **[P]**、**[Tv]**、**[Av]** モードで機能します。

[OFF] しない

[Tv/Av] Tv値/Av値

[ISO] ISO感度

- **[📷3：📷ISO感度に関する設定]** の **[ISO感度の範囲] [オートの低速限界]** が初期状態から変更されていても、標準露出が得られないときは、セイフティシフトが優先されます。
- ISO感度でセイフティシフトが行われたときの下限感度、上限感度は、**[オートの範囲]** の設定によります（p.86）。ただし、手動設定されているISO感度が **[オートの範囲]** を超えているときは、手動設定した感度までの範囲でセイフティシフトが行われます。
- ストロボ撮影時も状況に応じてセイフティシフトが行われます。

絞り数値変化時の露出維持

[**M**] モード（マニュアル露出撮影）+ISO感度任意設定時に（ISOオート設定時を除く）、①レンズを交換したとき、②エクステンダーを装着したとき、③開放絞り数値が変化するズームレンズを使用したときは、開放絞り数値が大きい数値（小絞り側）に変化することがあります。絞り開放の設定のまま撮影を行うと、開放絞り数値が暗くなった段数分、露出アンダー（露出不足）になりますが、ISO感度、またはシャッタースピード（Tv値）を自動的に変更して、①②③を行う前と同じ露出で撮影することができます。

[OFF] しない

[ISO] ISO感度

[ISO/Tv] ISO感度/Tv値

[Tv] Tv値

- マクロレンズ使用時の（撮影倍率の変更による）実効絞り数値の変化には対応していません。
- **[ISO感度]** 設定時に、**[ISO感度の範囲]** で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- **[Tv値]** 設定時に、**[2：シャッタースピード制御範囲設定]** で設定した範囲内で露出が維持できないときは、①②③を行う前と同じ露出になりません。
- ①②③を行い、露出維持が行われている状態で（電源スイッチを〈OFF〉にするなど）カメラの電源が切れたときは、基準となる露出が電源が切れた時の値に更新されます。

- この機能は最大絞り数値（最小絞り）の変化にも対応しています。
- **[ISO感度]** **[Tv値]** の設定で①②③を行ったあと、ISO感度、シャッタースピード、絞り数値を任意に変更せずに①②③を行う前の状態に戻すと、露出設定が元の状態に戻ります。
- **[ISO感度]** 設定時に、拡張ISO感度に達したときは、露出維持のためシャッタースピードが変化することがあります。

C.Fn2

シャッタースピード制御範囲設定

シャッタースピードの制御範囲を設定することができます。**[Fv]**/**[Tv]**/**[M]**モードのときは、設定した範囲でシャッタースピードを手動設定することができます。**[P]**/**[Av]**モードのときや、**[Fv]**モードでシャッタースピードを**[AUTO]**にしたときは、設定した範囲でシャッタースピードが自動設定されます（動画撮影時を除く）。**[OK]**を選ぶと設定されます。

[低速側]

30秒～1/4000秒の範囲で設定することができます。

[高速側]

1/8000～15秒の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲の設定

絞り数値の制御範囲を設定することができます。**[Fv]**/**[Av]**/**[M]**/**[BULB]**モードのときは、設定した範囲で絞り数値を手動設定することができます。**[P]**/**[Tv]**モードのときや、**[Fv]**モードで絞り数値を**[AUTO]**にしたときは、設定した範囲で絞り数値が自動設定されます。**[OK]**を選ぶと設定されます。

[開放側]

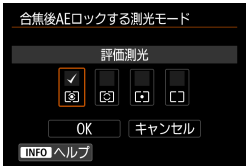
F1.0～F64の範囲で設定することができます。

[小絞り側]

F91～F1.4の範囲で設定することができます。

絞り数値の制御範囲は、使用するレンズの最小絞り数値と開放絞り数値により異なります。

合焦後AEロックする測光モード



シャッターボタンを半押しして、ワンショットAFでピントが合ったときに、露出を固定（AEロック）するかどうかを、測光モードごとに設定することができます。シャッターボタンを半押ししている間、露出が固定されます。
AEロックする測光モードに［✓］を付けます。測光モード［◉/⊡/•/[ ]］を選び、〈SET〉を押して［✓］を付けます。［OK］を選ぶと設定されます。

C.Fn3

Tv/Av値設定時のダイヤル回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のダイヤルによる設定方向を反転させることができます。
撮影モードが［**M**］のときは〈⚙〉〈⚙〉、それ以外の撮影モードでは〈⚙〉の設定方向が反転します。［**M**］モード時に〈⚙〉を操作したときの設定方向と、［**P**］［**Tv**］［**Av**］モード時に〈⚙〉を操作して露出補正を行ったときの設定方向が同じになります。

［⚙+］通常

［+⚙−］設定方向を反転

コントロールリングの回転

シャッタースピード、絞り数値設定時のRFレンズやマウントアダプターのコントロールリングによる設定方向を反転させることができます。

［⚙+］通常

［+⚙−］設定方向を反転

フォーカスリングの回転

RFレンズのフォーカスリングの設定方向を反転させることができます。

[ ] 通常

[ ] 設定方向を反転

RFレンズMF操作敏感度

RFレンズのフォーカスリングを操作するときの感度を設定することができます。

[ ] リングの回転速度に応じて変動

[ ] リングの回転量に連動

C.Fn4

[4] タブについては、『操作カスタマイズ』（p.555）を参照してください。

C.Fn5

トリミング情報の付加

トリミング情報の設定を行うと、設定した比率に応じた縦線が画面に表示され、6×6cm、4×5inchなど、中判／大判カメラと同じ構図で撮影することができます。
撮影を行うと、EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalでトリミングを行うための縦横比の情報が、画像に付加されます（トリミングされた画像が、カードに記録されるわけではありません）。
パソコンに画像を取り込み、Digital Photo Professionalを使用すると、撮影時に設定した縦横比で簡単にトリミングすることができます。

[OFF] しない
[6:6] 比率6：6
[3:4] 比率3：4
[4:5] 比率4：5（六切）
[6:7] 比率6：7
[5:6] 比率5：6（四切）
[5:7] 比率5：7

- **[📷1：静止画クロップ/アスペクト]** が **[フルサイズ]** 以外に設定されているときは、トリミング情報は設定できません。
- トリミング情報が付加されたRAW画像をカメラで現像処理しても（p.346）、JPEG画像はトリミングされた状態では保存されません。RAW現像を行ったときは、トリミング情報が付加されたJPEG画像が保存されます。

画像消去の初期設定

画像再生時や撮影直後の画像表示中に〈🗑〉ボタンを押すと、消去メニューが表示されますが（p.335）、そのときに選択されている項目を設定することができます。

〈SET〉を押すだけで画像を素早く消去することができます。

[🗑]［キャンセル］を選択

[RAW JPEG]［消去］/［RAW+JPEG消去］を選択

[RAW]［RAWのみ消去］を選択

[JPEG]［JPEGのみ消去］を選択

［キャンセル］以外に設定したときは、画像を誤って消去しないように注意してください。

レンズなしレリーズ

レンズを取り付けていないときに、静止画撮影や動画撮影を許可するかどうかを設定することができます。

[OFF] しない

[ON] する

電源オフ時のレンズ収納

ギアタイプのSTMレンズ（例：EF40mm F2.8 STM）をカメラに取り付けているときの、レンズ収納に関する設定です。カメラの電源スイッチを〈OFF〉にしたときに、前方に繰り出しているレンズを自動的に収納するかどうかを設定することができます。

[ON] する

[OFF] しない

- オートパワーオフのときは、設定に関わらずレンズは収納されません。
- レンズが収納されたことを確認してからレンズを取り外してください。

[する] 設定時は、レンズのフォーカスモードスイッチの設定（AF/MF）に関わらず機能します。

IPTC情報の付加

EOS用ソフトウェアのEOS UtilityからカメラにIPTC（International Press Telecommunications Council）情報を登録すると、静止画（JPEG/RAW画像）撮影時に、IPTC情報を画像に記録（付加）することができます。**IPTC情報を活用してファイル管理を行うときなどに有効です。**

なお、**IPTC情報のカメラへの登録方法や、登録できる内容については、EOS Utility使用説明書を参照してください。**

[OFF] しない

[ON] する

動画撮影時にIPTC情報は付加されません。

- 再生時にIPTC情報の有無を確認することができます。
- EOS用ソフトウェアのDigital Photo Professionalを使用すると、画像に記録されたIPTC情報の内容を確認することができます。
- **[6：カスタム機能（C.Fn）一括解除]** を選んでも（p.554）、カメラに登録されているIPTC情報は消去されませんが、設定は **[しない]** になります。

C.Fn6

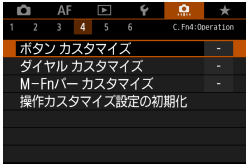
カスタム機能（C.Fn）一括解除

[📷6：カスタム機能（C.Fn）一括解除] を選ぶと、設定されているカスタム機能がすべて解除されます。

[📷6：カスタム機能（C.Fn）一括解除] を行っても、**[📷4]** の操作カスタマイズで設定した内容は解除されません。また、**[📷5：IPTC情報の付加]** の登録内容も消去されませんが、設定は **[しない]** になります。

操作カスタマイズ 応用

よく使う機能を、自分が操作しやすいボタンやダイヤルに割り当てることができます。



1 [4] タブで項目を選ぶ

- **[ボタン カスタマイズ]**：〈 〉や〈AF ON〉などのボタンに機能を割り当てます。
- **[ダイヤル カスタマイズ]**：〈 〉〈 〉ダイヤル、および〈 〉コントロールリングに機能を割り当てます。
- **[M-Fnバー カスタマイズ]**（p.561）：〈 〉に機能を割り当てます。

2 操作部材を選ぶ

- **[ボタンカスタマイズ]**では、静止画撮影時と動画撮影時で、同じ操作部材に別の機能を割り当てることができます。

3 割り当てる機能を設定する

- 〈SET〉を押して設定すると、手順2の画面に戻ります。
- 〈MENU〉ボタンを押して設定を終了します。

操作カスタマイズ設定は、**[4：カスタム機能（C.Fn）一括解除]**を選んでも解除されません。設定した内容を解除するときは、**[4：操作カスタマイズ設定の初期化]**を選んでください。

各ボタンに割り当てできる機能の一覧

		機能			M-Fn	
AF	AF	測光・AF開始	○	○	○	○
	AF-OFF	AF停止		○	○	○
	✳AF-OFF	AEロック・AF停止		○	○	○
		AFフレーム選択		○	○	○
		AFフレームダイレクト選択				
		AFフレーム中央戻し		○	○	○
		AF方式ダイレクト選択*1		○	○	○
	ONE SHOT ↔ SERVO	ワンショットAF⇄サーボAF*1		○	○	○
		タッチ&ドラッグAF		○	○	○
		瞳AF*1		○	○	○
		フォーカスガイド		○	○	○
露出		測光開始	○			
	✳	AEロック		○	○	○
	✳H	AEロック（ホールド）		○	○	○
	✳	AEロック（押している間）	○			
	AEL FEL	AEロック/FEロック*1		○	○	○
		露出補正（押しながら）				
	ISO	ISO感度設定（押しながら）				
		ストロボ機能設定*1		○	○	○
	FEL	FEロック*1		○	○	○
動画		動画		○	○	○
	SERVO AF	動画サーボAF一時停止*2			○	○

MODE	AF-ON	✳	▦	LENS	▲	◀	▶	▼	SET
○	○	○		○					
○	○	○		○					
○	○	○		○					
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
					○	○	○	○	
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○		○					
○	○	○		○					
○	○	○		○					
	○	○		○					○
	○	○		○					○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○		○					
○	○	○		○					
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

		機能				
ボタンダイレクト	DIAL FUNC	ダイヤルファンクション設定		○	○	○
	/ⓘ	短押し：表示パネル照明 長押し：表示パネル情報切り換え				○
	ⓘ/	短押し：表示パネル情報切り換え 長押し：表示パネル照明				○
		表示パネル照明		○	○	○
	ⓘ	表示パネル情報切り換え		○	○	○
	MODE	撮影モード設定		○	○	○
	C	カスタム撮影モードに切り換え			○	
		絞り込み*1		○	○	○
	AUTO	Fvモード時、選択項目をリセット*1		○	○	○
	ALL AUTO	Fvモード時、Tv、Av、、ISOをリセット*1		○	○	○
	Q	クイック設定画面		○	○	○
		拡大/縮小		○	○	○
メニュー	MENU	メニュー表示		○	○	○
		記録画質選択*1		○	○	○
	RAW JPEG	ワンタッチ記録画質切換*1		○	○	○
	RAW JPEG H	ワンタッチ記録画質切換（ホールド）*1		○	○	○
		ピクチャースタイル選択		○	○	○
		プロテクト		○	○	○
	★	レーティング		○	○	○
		フォルダ選択		○	○	○
		モニターを一時的に明るくする		○	○	○
		ディスプレイオフ		○	○	○
		画面の表示先切り換え		○	○	○
	ECO	エコモード		○	○	○
		Wi-Fi機能		○	○	○
	OFF	無効		○	○	○

*1: 動画撮影の設定では割り当てできません。
*2: 静止画撮影の設定では割り当てできません。

MODE	AF-ON	✳	▦	LENS	▲	◀	▶	▼	SET
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○		○					
○	○	○		○					
○	○	○		○					
○	○	○		○					○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○		○					
○	○	○		○					
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

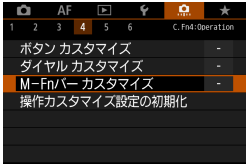
〈LENS〉は、手ブレ補正機能付きの超望遠レンズに装備されている「AFストップボタン」を表しています。

各ダイヤルに割り当てできる機能の一覧

	機能			
Tv	Mモード時、シャッタースピード変更	○	○	
Av	Mモード時、絞り数値変更	○	○	
ISO	ISO感度設定（測光中）		○	
Av	Av値変更（測光するボタン押しながら）			○
Tv	Tv値変更（測光するボタン押しながら）			○
ISO	ISO感度設定（測光するボタン押しながら）			○
±	露出補正（測光するボタン押しながら）			○
Av	Av値変更			○
Tv	Tv値変更			○
ISO	ISO感度設定			○
±	露出補正			○
OFF	無効	○	○	○

〈0〉は、RFレンズとマウントアダプターに装備されている「コントロールリング」を表しています。

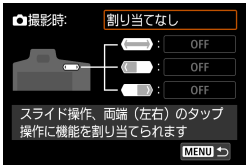
M-Fn（マルチファンクション）バーカスタマイズ

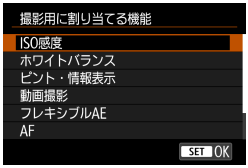


1 [4：M-Fnバーカスタマイズ] を選ぶ

2 [📷]（撮影時）または [▶]（再生時）を選ぶ

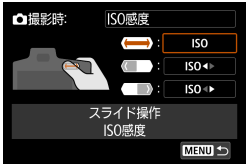
- それぞれ別々に機能を割り当てることができます。





3 割り当てる機能を選ぶ

- [📷撮影時] または [▶再生時] を選ぶと、割り当てる機能の画面が表示されます。一覧から割り当てる機能を選びます。
- 選んだ機能に応じて、〈▬〉のスライド操作と両端のタップ操作に割り当てられる機能が異なります。



4 〈▬〉のスライド操作と両端のタップ操作に機能を割り当てる

- 【▬】（スライド操作）、【◧】（左端をタップ）、【◨】（右端をタップ）を選ぶと、割り当ての画面が表示されます。
- 項目を選んで、各操作に機能を割り当てます。

● M-Fn バー誤操作防止機能について

撮影時に〈▬〉を誤って操作しないように、初期設定では誤操作防止機能が設定されています。なお、再生時は常に使用可能です。

- 撮影時に〈▬〉を使用するときは、画面に【ON】が白く表示されるまで〈▬〉の左端を長押しして使用可能にします。
- 〈▬〉が使用可能な状態から使用できない状態にするときは、画面に【OFF】が白く表示されるまで〈▬〉の左端を長押しします。
- 使用可能にしたあとに約10秒間使用しないと、〈▬〉が使用できなくなります。

誤操作防止機能を無効にする

撮影時も〈▬〉を常に使用可能にしたいときは、誤操作防止機能を無効に設定します。

- 設定を変更するには、**[無効（常に使用可能）]**を選び、〈SET〉を押してチェックをつけます。

● 全面押しについて

[全面押し設定] を **[ON]** にすると、〈▬〉の全面を触れたときに、M-Fnバーカスタマイズの画面を表示させることができます。

- 設定するときは、手順2の画面で〈INFO〉ボタンを押します。

- 〈▬〉を常に使用しないときは、手順3で **[割り当てなし]** を選びます。
- 〈▬〉を操作すると、操作中の状態が画面に表示されます。
- 割り当てる機能で **[ユーザーカスタマイズ]** を選ぶと、各操作に任意の機能を割り当てることができます。また、**[ユーザーカスタマイズ]** 選択時に、手順4の画面で〈INFO〉ボタンを押すと、ユーザーカスタマイズのベース機能を選ぶこともできます。

M-Fnバーに割り当てできる機能の一覧

割り当てる機能		⟺	《■ ■》
📷	ISO感度	ISO感度	設定を1つ変える ISO感度オート 任意ISO感度（***）
	ホワイトバランス	ホワイトバランス選択 色温度設定	設定を1つ変える オート(雰囲気⇔ホワイト) 任意のWB（***） WB補正/BKT設定
	ピント・情報表示	スライドで縮小/拡大	設定を1つ変える 拡大/縮小 フォーカスガイド表示 MFピーキング表示 水準器表示 ヒストグラム表示
	動画撮影	録音レベル 音量 絞り数値	設定を1つ変える MFピーキング表示 フォーカスガイド表示 動画サーボAF 一時停止 水準器表示 ヒストグラム
	フレキシブルAE	スライドで項目を選択［**Fv**］	設定を1つ変える すべての項目をリセット［**Fv**］ 選択項目をリセット［**Fv**］ ***の項目を選択［**Fv**］
	AF	AF方式を設定	設定を1つ変える 瞳AF AFフレームサイズ タッチ＆ドラッグ AF設定 フォーカスガイド表示
	ユーザーカスタマイズ	任意選択	任意選択
▶	機能ショートカット	スライドでの画像送り	レーティング プロテクト
	画像送り	スライドでの画像送り	一枚ずつ画像戻し 一枚ずつ画像送り

* 割り当てる機能では［**割り当てなし**］も選べます。また、［⟺］［《■］［■》］では［**無効**］も選べます。

メニュー目次:マイメニュータブ

p.566
p.569
p.569
p.570

マイメニューを登録する 応用

設定変更の頻度が高いメニュー機能とカスタム機能を選んで、マイメニュータブに登録することができます。

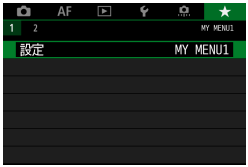
マイメニュータブを追加（作成）する

1 [マイメニュータブの追加] を選ぶ

2 [OK] を選ぶ

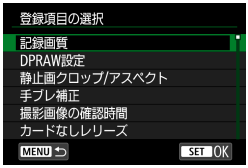
- 手順1、2を繰り返すと、[MY MENU5] まで作成することができます。

マイメニュータブに項目を登録する



1 [MY MENU∗：設定] を選ぶ

2 [登録項目の選択] を選ぶ



3 項目を登録する

- 項目を選び〈SET〉を押します。
- 確認画面で [OK] を選ぶと登録されます。
- 6項目まで登録できます。
- 〈MENU〉ボタンを押すと、手順2の画面に戻ります。

マイメニュータブの設定

タブに登録した項目の並べ替え、項目またはタブの削除、タブの名称の変更を行うことができます。

- **登録項目の並べ替え**

  登録した項目の並び順を変えることができます。**【登録項目の並べ替え】**を選び、並び順を変える項目を選んで〈SET〉を押します。**【⇕】**が表示された状態で〈▲〉〈▼〉を押して並び順を変え、〈SET〉を押します。

- **選択して削除／タブ内の全項目削除**

  登録した項目を削除することができます。**【選択して削除】**を選ぶと1項目ずつ削除、**【タブ内の全項目削除】**を選ぶと、タブ内に登録されている項目がすべて削除されます。

● タブの削除

現在設定しているタブを削除することができます。**[タブの削除]**を選ぶと、[MY MENU＊] のタブが削除されます。

● タブ名の変更

タブの名称を [MY MENU＊] から任意の名称に変更することができます。

1 [タブ名の変更] を選ぶ

2 文字を入力する

- 〈🗑〉ボタンを押して、不要な文字を消去します。
- 〈✥〉十字キーまたは〈⚙〉を操作して文字を選び、〈SET〉を押します。
- [⌂] を選ぶと、入力モードが切り換わります。
- 最大16文字入力できます。

3 入力を確定する

- 〈MENU〉ボタンを押して [OK] を選びます。

マイメニュータブの全削除／全項目削除

作成したすべてのタブの削除、作成したすべてのタブに登録されている全項目の削除を行うことができます。

● マイメニュータブの全削除

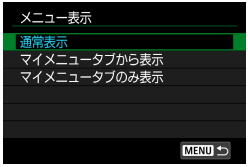
作成したタブをすべて削除することができます。**[マイメニュータブの全削除]**を選ぶと、[MY MENU1] ～ [MY MENU5] のタブがすべて削除され、**[★]**タブが初期状態に戻ります。

● 全項目削除

[MY MENU1] ～ [MY MENU5] タブに登録されている項目だけを、すべて削除することができます。タブ自体は削除されません。**[全項目削除]**を選ぶと、作成したすべてのタブに登録されている全項目が削除されます。

[タブの削除] **[マイメニュータブの全削除]**を行うと、**[タブ名の変更]**で設定した名前も削除されます。

メニュー表示の設定



[**メニュー表示**] を選ぶと、〈**MENU**〉ボタンを押したときに表示する画面を設定することができます。

● **通常表示**
前回操作を行ったときに、最後に表示していたメニュー画面が表示されます。

● **マイメニュータブから表示**
[★] タブの画面から表示されます。

● **マイメニュータブのみ表示**
[★] タブの画面だけが表示されます（[**📷**] [**AF**] [**▶**] [**🔧**] [**📷**] タブは表示されません）。

8

資料

この章では、撮影の参考になるカメラの機能情報などの説明を行っています。

ソフトウェアについて

EOS用または専用ソフトウェアは、キヤノンのホームページから最新版をダウンロードすることができます。

ソフトウェアのダウンロード／インストール

EOS用または専用ソフトウェアを使うときは、最新版のソフトウェアをご使用ください。なお、EOS用または専用ソフトウェアをダウンロードする際に、カメラ底面に記載のシリアル番号入力が必要になります。

- **ソフトウェアをインストールする前に、カメラとパソコンを絶対に接続しないでください。ソフトウェアを正しくインストールできません。**
- **インターネットに接続していない状態では、パソコンにEOS用ソフトウェアをインストールすることはできません。**
- 旧バージョンのソフトウェアがインストールされている場合も、下記の手順に従ってインストールしてください（上書きインストールされます）。

1 ソフトウェアをダウンロードする

- パソコンからインターネットに接続し、キヤノンの下記のWebサイトにアクセスしてください。

  ➡ canon.jp/eos-sw

- ソフトウェアをダウンロードします。
- パソコン上で解凍します。
  - **Windows**

    表示されたインストーラーファイルをクリックすると、インストーラーが起動します。
  - **Macintosh**

    dmgファイルが生成/表示されるので、次の手順でインストーラーを起動してください。

(1) dmgファイルをダブルクリックする
➡ デスクトップにドライブアイコンと、インストーラーファイルが表示されます。
インストーラーファイルが表示されないときは、ドライブアイコンをダブルクリックすると、インストーラーファイルが表示されます。
(2) インストーラーファイルをダブルクリックする
➡ インストーラーが起動します。

2 画面の指示に従ってインストールする

ソフトウェア使用説明書のダウンロードについて

ソフトウェア使用説明書（PDF ファイル）は、キヤノンのホームページからパソコンなどにダウンロードすることができます。

● **ソフトウェア使用説明書のダウンロードサイト**

➡canon.jp/eos-sw-manual

- **使用説明書（PDFファイル）を見るためには、Adobe Acrobat Reader DCなどのAdobe社製PDF閲覧用ソフトウェア（最新版推奨）が必要です。**
- Adobe Acrobat Reader DCはインターネット上から無料でダウンロードできます。
- ダウンロードした使用説明書（PDFファイル）をダブルクリックすると、ファイルが開きます。
- PDF 閲覧用ソフトウェアの使い方については、そのソフトウェアのヘルプなどを参照してください。

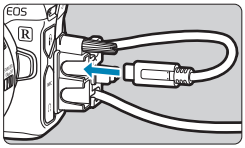
パソコンに画像を取り込む

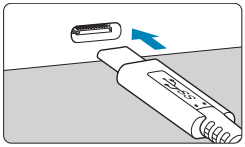
EOS用のソフトウェアを使って、カメラで撮影した画像をパソコンに取り込むことができます。パソコンに取り込む方法は、2通りあります。

カメラとパソコンを接続して画像を取り込む

1 ソフトウェアをインストールする

(p.572)





2 カメラとパソコンを接続する

- カメラに付属のインターフェースケーブルを使用します。
- カメラ側を接続するときは、ケーブルプロテクターを使用し（p.37）、プラグをデジタル端子に差し込みます。
- パソコンのUSB端子（Type-C）にプラグを差し込みます。

3 EOS Utility を使って画像を取り込む

- EOS Utility使用説明書を参照してください。

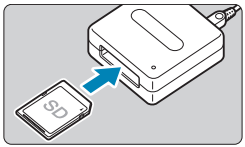
Wi-Fi接続中に、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続しても、パソコンと通信できません。

カードリーダーで画像を取り込む

カードリーダーを使って画像をパソコンに取り込むことができます。

1 ソフトウェアをインストールする

(p.572)



2 カードリーダーにカードを差し込む

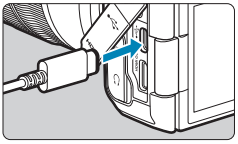
3 Digital Photo Professionalを使って画像を取り込む

- Digital Photo Professional使用説明書を参照してください。

EOS用ソフトウェアを使わずに、カードリーダーを使って画像を取り込むときは、カード内の「DCIM」フォルダをパソコンにコピーしてください。

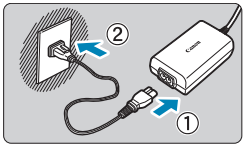
カメラ内で充電する

USB電源アダプター PD-E1（別売）を使用して、カメラ内のバッテリーパック LP-E6N を充電することができます。**バッテリーパック LP-E6は充電できません。また、充電中にカメラを操作すると、充電が中断されます。**



1 USB電源アダプターを接続する

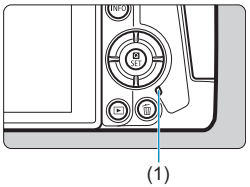
● カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした状態で、USB電源アダプターのプラグを、デジタル端子にしっかりと差し込みます。



2 電源コードを接続する

● 電源コードをUSB電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

➡ 充電が始まり、アクセスランプ（1）が緑色に点灯します。また、表示パネルにも充電中の表示が行われます。



● 充電が完了すると、アクセスランプが消灯し、表示パネルに「**FULL**」が表示されます。電源プラグをコンセントから抜き、カメラからUSB電源アダプターのプラグを外します。

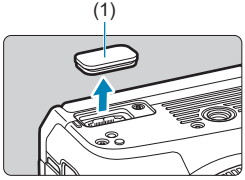
● バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24時間以上連続して充電しないでください。

● 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅し、表示パネルに「**Err**」が表示されます。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

- アクセスランプが点灯しないときは、USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- バッテリー残量（p.387）が約90%以上のときは、充電は行われません。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～ +10℃）では、充電時間が長くなります。
- Wi-Fi接続中およびカードスロットカバーが開いた状態では、充電が行われません。

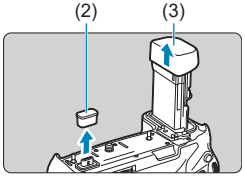
バッテリーグリップを使う

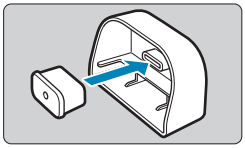
バッテリーグリップ BG-E22（別売）は、縦位置撮影用のボタンやダイヤル、バッテリー2個による電力供給機能、USB電源アダプター（別売）によるLP-E6Nへの充電機能などを備えた、EOS R専用アクセサリーです。



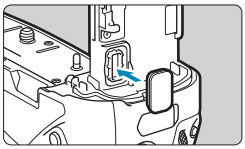
1 接点カバーを外す

- カメラ底面の接点カバー（1）と、バッテリーグリップの接点カバー（2）、（3）を取り外します。

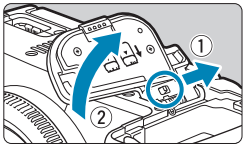




- バッテリーグリップの接点カバー（2）を（3）に取り付けて保管します。

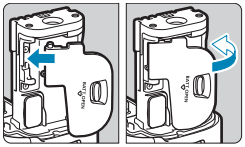


- カメラの接点カバー（1）は、左の図のようにバッテリーグリップに取り付けます。

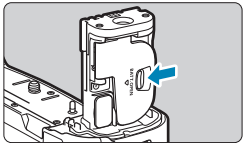


2 バッテリー収納部ふたを外す

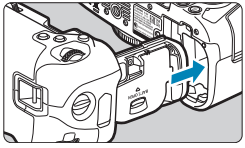
- カメラの電源を切ってからふたを外します。
- ふたを外したらバッテリーを取り出します（p.43）。



- 取り外したふたはバッテリーグリップに取り付けます。

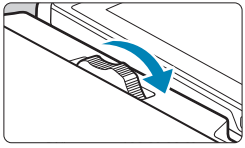


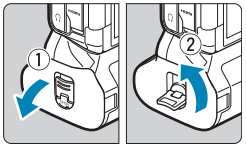
- ふたを取り外すときは、レバーをスライドさせて固定を解除して、取り付けと逆の手順で行います。



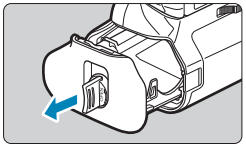
3 バッテリーグリップを固定する

- 接点をカメラに挿入し、着脱ダイヤルを回して固定します。



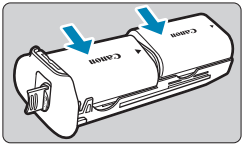


4 バッテリーマガジンを取り出す



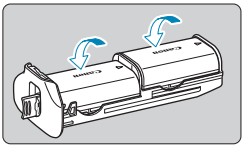
- バッテリー収納部ふたをカメラに取り付け直すときは、ふたを90°以上開いた状態で取り付けてください。
- カメラやバッテリーグリップの接点に触れないでください。

バッテリーの取り付け

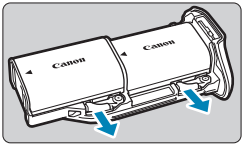


1 バッテリーを取り付ける

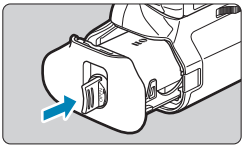
- バッテリーを図のように挿入します。
- バッテリー1個のときは、どちらに取り付けても使用できます。



- 矢印の部分をカチッと音がするまで押し、バッテリーを固定します。

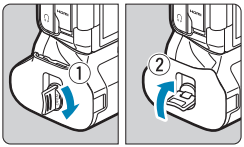


- バッテリーを外すときは、バッテリーマガジンの取り外しレバーを矢印の方向に操作します。



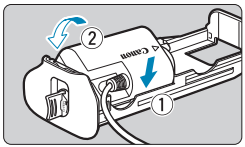
2 バッテリーマガジンを取り付ける

- バッテリーマガジンを奥まで入れて固定します。



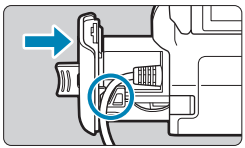
- バッテリーを取り付けるときは、バッテリーの接点が汚れていないかどうか確認してください。接点が汚れているときは、柔らかい布などで拭いてください。
- バッテリーの取り付けは、バッテリーグリップをカメラに取り付けてから行ってください。バッテリーが取り付けられた状態でバッテリーグリップをカメラに取り付けると、バッテリーチェックの結果が正しく表示されないことがあります。
- バッテリーグリップの取り外しは、カメラの電源を切り、バッテリーを取り外してから行ってください。
- バッテリーグリップを取り外したときは、カメラとバッテリーグリップの接点に保護カバーを取り付けてください。また、長期間バッテリーグリップを使用しないときは、バッテリーを取り外してください。
- バッテリーグリップをカメラに取り付けたときに、バッテリー通信エラーのメッセージが表示されたときは、メッセージに従って操作してください。また、カメラの電源が切れたら、バッテリーマガジンの出し入れを行って、電源を入れなおしてください。

家庭用電源を使用する

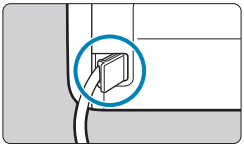


1 DCカプラーを取り付ける

- DCカプラー DR-E6（別売）を、バッテリーと同じ手順でバッテリーマガジンに取り付けます。

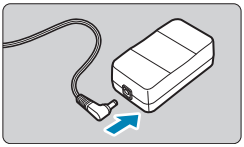


- DCカプラーのコードをバッテリーマガジンの通し溝に通します。
- バッテリーマガジンを奥まで入れて固定します。



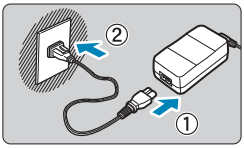
2 バッテリーマガジンを取り付ける

- コードは通し部から出します。



3 DCカプラーとACアダプターを接続する

- DCカプラーのプラグをACアダプターAC-E6（別売）のコネクターにしっかりと接続します。

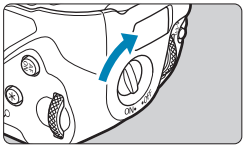


4 電源コードを接続する

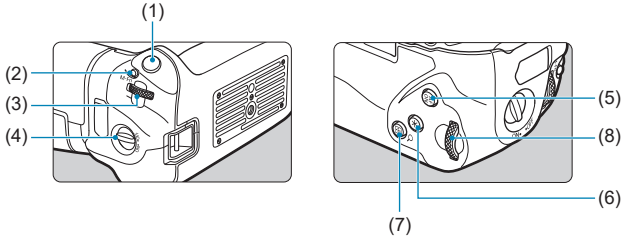
- 電源コードをACアダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

- カメラの電源が入った状態で、電源コードやコネクターの抜き差し、バッテリーマガジンの取り外しを行わないでください。
- DCカプラーのコードを、バッテリーグリップとバッテリーマガジンの間にはさまないようにしてください。

ボタンやダイヤルの操作

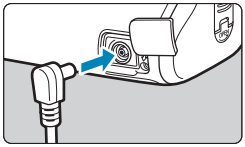


- 縦位置操作スイッチ（4）をON にすると、ボタンやダイヤルが操作できます。
- 各ボタンやダイヤルの操作方法は、カメラ本体と同じです。



(1)	シャッターボタン
(2)	〈M-Fn〉マルチファンクションボタン
(3)	〈 〉メイン電子ダイヤル
(4)	縦位置操作スイッチ
(5)	〈AF ON〉AF スタートボタン
(6)	〈✱〉AEロック／FEロックボタン
(7)	〈⊡／Q〉AFフレーム／インデックス／拡大／縮小ボタン
(8)	〈 〉サブ電子ダイヤル

シンクロコード付きのストロボの使用



- シンクロ端子を利用して、シンクロコード付きのストロボを使用することができます。
- シンクロコードの極性に関わらず、そのまま使用できます。
- 同調シャッタースピードは1/60 ～ 1/30 秒程度を目安に設定してください。また、あらかじめストロボが正しく同調することを確認してから撮影してください。

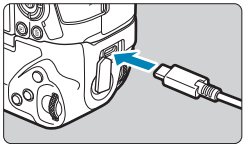
シンクロ端子に250V 以上の電圧がかかるストロボを使用しないでください。

アクセサリーシューとシンクロ端子にそれぞれストロボを接続して、同時に使用することもできます。

バッテリーグリップ内で充電する

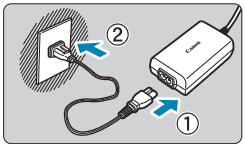
USB電源アダプター PD-E1を使用して、バッテリーグリップ内のLP-E6Nを充電します。

- LP-E6Nは1個でも充電できます。また、バッテリーグリップ単体でも充電できます。
- LP-E6は充電できません。また、LP-E6NとLP-E6が取り付けられているときは、どちらも充電できません。
- 充電中にカメラを操作すると、充電が中断されます。



1 USB電源アダプターを接続する

- カメラの電源スイッチを〈OFF〉にした状態で、USB電源アダプターのプラグを、バッテリーグリップの端子にしっかりと差し込みます。

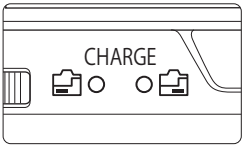


2 充電する

- 電源コードをUSB電源アダプターに接続し、電源プラグをコンセントに差し込みます。

➡ 充電が始まり、充電ランプが点灯します。

- 充電が完了すると、充電ランプは消灯します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーグリップからUSB電源アダプターのプラグを外します。



- バッテリーを保護し、性能の劣化を防ぐため、24 時間以上連続して充電しないでください。
- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、充電ランプが点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

- 充電ランプが点灯しないときは、USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。
- 充電時間や充電される量は周囲の温度や残量によって異なります。
- バッテリー残量（p.387）が約90%以上のときは、充電は行われません。
- 安全に充電を行うため、低温下（+5℃～ +10℃）では、充電時間が長くなります。
- バッテリーを2個取り付けたときは、1個の充電が完了してから、もう1個の充電が行われます。

故障かな？と思ったら

「カメラが故障したのかな？」と思ったら、下記の例を参考にしてカメラをチェックしてください。なお、チェックしても状態が改善しないときは、修理受付窓口にご相談ください。

電源関連

充電器で充電できない

- バッテリー残量（p.387）が94%以上のときは、充電は行われません。
- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。

充電器のランプが高速点滅する

- (1) 充電器またはバッテリーに異常が発生した場合や、(2) バッテリーと通信できない場合（純正以外のバッテリー使用時）は、保護回路が働き充電が中止され、オレンジ色のランプが等間隔で高速点滅します。(1) の場合は、充電器のプラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

充電器のランプが点滅しない

- 充電器に取り付けたバッテリーの内部温度が高い場合は、安全のため充電を行いません（消灯）。また、充電中何らかの原因により、バッテリーが高温になった場合は、自動的に充電を停止します（点滅継続）。なお、バッテリーの温度が下がると自動的に充電が始まります。

USB電源アダプター（別売）で充電できない

- カメラの電源スイッチが〈ON〉のときは充電は行われません。
- バッテリーパック LP-E6は充電できません。
- バッテリー残量が約90%以上のときは、充電は行われません。
- 充電中にカメラを操作すると、充電は中断されます。
- バッテリーグリップを使用しているときは、USB電源アダプターのプラグをバッテリーグリップの端子に差し込んで充電を行ってください。

USB電源アダプターでの充電中にアクセスランプが点滅する

- 充電中に異常が発生した場合は、保護回路が働き充電が中止され、アクセスランプが緑色に点滅します。電源プラグをコンセントから抜き、バッテリーの取り外し／取り付けを行ってから、2～3分後にもう一度コンセントに差し込んでください。改善しない場合は、修理受付窓口にご相談ください。

USB電源アダプターでの充電でアクセスランプが点灯しない

- USB電源アダプターのプラグを一度抜いてから差し直してください。

電源スイッチを〈ON〉にしてもカメラが作動しない

- バッテリー収納部ふたが閉まっているか確認してください（p.43）。
- バッテリーがカメラにきちんと入っているか確認してください（p.43）。
- バッテリーを充電してください（p.40）。
- カードスロットカバーが閉じているか確認してください（p.44）。

電源スイッチを〈OFF〉にしてもアクセスランプが点灯／点滅する

- カードへの画像記録中に電源を切ると、アクセスランプが数秒間点灯／点滅します。画像記録が終了すると、自動的に電源が切れます。

［ご使用のバッテリーにCanonのロゴはありますか？］と表示される

- 純正のバッテリーパック LP-E6N/LP-E6を使用してください。
- バッテリーの出し入れを行ってください（p.43）。
- バッテリーの接点が汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。

バッテリーの消耗が早い

- フル充電したバッテリーを使用してください（p.40）。
- バッテリーの性能が劣化している可能性があります。**［3：バッテリー情報］**でバッテリーの劣化状態を確認してください（p.387）。劣化している場合は、新しいバッテリーをお買い求めください。
- 以下の操作を行うと、撮影可能枚数が少なくなります。
  - シャッターボタン半押しの状態を長く続ける
  - AFのみを行って撮影しない操作を頻繁に行う
  - レンズの手ブレ補正機能を使う
  - Wi-Fi/Bluetooth（無線通信）機能を使用する

電源が勝手に切れる

- オートパワーオフ機能が働いています。自動的に電源が切れないようにしたいときは、**［2：節電］**の**［オートパワーオフ］**を**［しない］**にしてください（p.377）。
- **［オートパワーオフ］**を**［しない］**に設定していても、**［ディスプレイオフ］**や**［ファインダーオフ］**で設定した時間放置すると、モニターやファインダーの表示が消えます（カメラの電源は切れません）。
- **［2：エコモード］**を**［切］**に設定してください。

撮影関連

レンズが装着できない

- EFレンズ、EF-Sレンズを装着するにはマウントアダプターが必要です。なお、EF-Mレンズは使用できません。

撮影・記録ができない

- カードが正しくセットされているか確認してください（p.44）。
- カードの書き込み禁止スイッチを、書き込み・消去可能な位置にしてください（p.44）。
- カードの空き容量がない場合は、空き容量のあるカードに交換するか、不要な画像を消去してください（p.44、335）。
- ピントを合わせたときに、AFフレームがオレンジ色のときは撮影できません。もう一度シャッターボタンを半押ししてピントを合わせなおすか、手動でピントを合わせてください（p.56、281）。

カードが使えない

- カードのトラブルに関するメッセージが表示されたときは、46、607ページを参照してください。

カードを他のカメラに入れるとエラーになる

- SDXCカードはexFAT形式でフォーマットされるため、このカメラで初期化したカードを他のカメラに入れると、エラーが表示され使用できないことがあります。

画像がボケている／ブレている

- レンズのフォーカスモードスイッチを〈**AF**〉にしてください（p.50、53）。
- 手ブレを起こさないように、シャッターボタンを静かに押してください（p.56）。
- 手ブレ補正機能を搭載したレンズのときは、手ブレ補正スイッチを〈ON〉にしてください。
- 暗い場所では、シャッタースピードが遅くなることがあります。シャッタースピードを速くする（p.134）、ISO感度を上げる（p.83）、ストロボを使用する（p.177）、三脚を使用するなどの方法で撮影してください。
- 124ページの『ブレの少ない画像を撮影するには』を参照してください。

ピントを固定したまま構図を変えて撮影できない

- AF動作をワンショットAFにしてください。サーボAFのときはフォーカスロック撮影はできません（p.126、262）。

連続撮影速度が遅い

- 高速連続撮影時の連続撮影速度は、バッテリー残量、温度、フリッカー低減処理、DPRAW撮影、LVソフト撮影、シャッタースピード、絞り数値、被写体条件、明るさ、AF動作、レンズの種類、ストロボ使用、撮影機能の設定などの条件により低下することがあります（p.144）。

連続撮影可能枚数が少なくなる

- 芝生など細かいパターンの被写体を撮影すると、1枚あたりのファイルサイズが大きくなり、実際に連続撮影できる枚数が、609ページに目安として示した連続撮影可能枚数より少なくなることがあります。

カードを変えても連続撮影可能枚数の表示が変わらない

- 別のカードに変えても（例：高速タイプのカードを使用しても）、表示される連続撮影可能枚数は変わりません。また、609ページの表に記載している連続撮影可能枚数は、その試験条件のカードで実際に連続撮影できる枚数を示しています（書き込み速度が高速なカードなほど、実際に連続撮影できる枚数が多くなります）。そのため、表示される連続撮影可能枚数と、実際に連続撮影できる枚数は異なることがあります。

高速連続撮影時に高速表示が行われない

- 149ページを参照して、高速表示が行われる条件を確認してください。

クロップ撮影時に一部の記録画質が選択できない

- **[1.6倍（クロップ）]**設定時、およびEF-Sレンズ使用時は、記録画質**◢M/◢M/◢S1/◢S1**は選択できません。

アスペクト比が設定できない

- EF-Sレンズ使用時は、アスペクト比の設定はできません（**[1.6倍（クロップ）]**に自動設定されます）。
- **[📷5：トリミング情報の付加]**が**[しない]**以外に設定されているときは、アスペクト比の設定はできません。

ISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- **[📷3：📷ISO感度に関する設定]**で**[ISO感度の範囲]**の設定を確認してください。
- **[📷3：高輝度側・階調優先]**が**[する][強]**に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～40000になります（静止画撮影時）。**[📷ISO感度に関する設定]**の**[ISO感度の範囲]**で設定範囲を拡張しても、L（ISO50相当）、H1（ISO51200相当）、H2（ISO102400相当）は選択できません。**[📷3：高輝度側・階調優先]**を**[しない]**に設定すると（p.109）、ISO100/125/160、およびL、H1/H2が設定できるようになります。

露出を暗めに補正したのに明るく撮影される

- **[📷3：オートライティングオプティマイザ]**を**[しない]**に設定してください（p.104）。**[弱め][標準][強め]**に設定されているときは、露出補正、ストロボ調光補正で露出を暗めに補正しても、明るく撮影されることがあります。

マニュアル露出＋ISOオート時に露出補正ができない

- 139ページを参照して露出補正を行ってください。

レンズ光学補正設定時に一部の項目が表示されない

- **[デジタルレンズオプティマイザ]**が**[する]**に設定されているときは、**[色収差補正][回折補正]**は表示されませんが、ともに**[する]**の設定で撮影されます。
- 動画撮影時に**[デジタルレンズオプティマイザ][回折補正]**の項目は表示されません。

［Av］［P］モードでストロボ撮影するとシャッタースピードが遅くなる

- ［📷2：外部ストロボ制御］の［スローシンクロ］を、［1/200-1/60秒自動］または［1/200秒固定］に設定してください（p.181）。

ストロボが発光しない

- カメラにストロボがしっかり取り付けられているかどうか確認してください。

ストロボがいつもフル発光する

- EL／EXスピードライト以外のストロボを使用して、自動調光モードで撮影すると、常時フル発光します（p.178）。
- ストロボカスタム機能の［調光方式］が［TTL］（自動調光）に設定されていると、常時フル発光します（p.187）。

ストロボ調光補正ができない

- ストロボ側で調光補正量が設定されているときは、カメラで補正量の設定はできません。ストロボ側の設定を解除（ゼロに設定）すると、カメラで設定できるようになります。

［Av］［P］モードでハイスピードシンクロができない

- ［📷2：外部ストロボ制御］の［スローシンクロ］を［1/200-30秒自動］または［1/200-1/60秒自動］に設定してください（p.181）。

リモコン撮影ができない

- 静止画撮影を行うときは、ドライブモードを〈📶〉または〈📶$_2$〉に設定してください（p.147）。動画撮影を行うときは、［📷2：リモコン撮影］を［する］に設定してください（p.245）。
- リモコンの撮影タイミング切り換えスイッチの位置を確認してください。
- ワイヤレスリモートコントローラー BR-E1を使用するときは、174、408ページを参照してください。
- リモコンを使用してタイムラプス動画撮影を行うときは、235ページを参照してください。

撮影時に白い🌡と赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。白い〈🌡〉が表示されたときは、静止画の画質が低下することがあります。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐ撮影が自動的に終了することを示しています（p.253）。

動画撮影時に赤い🌡が表示される

- カメラ内部の温度が上昇していることを示しています。赤い〈🌡〉が表示されたときは、もうすぐ動画撮影が自動的に終了することを示しています（p.253）。

動画撮影が勝手に終了する

- 書き込み速度が遅いカードを使用すると、動画撮影が自動的に終了することがあります。動画が記録できるカードについては、611ページを参照してください。なお、書き込み速度については、カードメーカーのホームページなどで確認してください。
- 動画撮影を開始してから29分59秒（ハイフレームレート動画撮影時は7分29秒）経過すると、動画撮影が自動的に終了します。

動画撮影時にISO感度が設定できない

- 撮影モードが［M］以外のときは、ISO感度が自動設定されます。［M］モードのときは、ISO感度を任意に設定することができます（p.615）。

動画撮影時にISO100に設定できない／拡張ISO感度が選択できない

- ［3：高輝度側・階調優先］が［する］に設定されているときは、ISO感度の設定範囲がISO200～になります。［3：ISO感度に関する設定］の［ISO感度の範囲］［4K の範囲］で設定範囲を拡張しても、拡張ISO感度は選択できません。［3：高輝度側・階調優先］を［しない］に設定すると（p.109）、ISO100/125/160、および拡張ISO感度が設定できるようになります。
- ［3：ISO感度に関する設定］で［ISO感度の範囲］［4K の範囲］の設定を確認してください。

動画撮影時に露出が変化する

- 動画撮影中にシャッタースピードや絞り数値の変更を行うと、露出変化が記録されることがあります。
- 動画撮影中にズーム操作を行うときは、テスト撮影をおすすめします。動画撮影中にズーム操作を行うと、露出変化やレンズの作動音が記録されたり、録音される音量が不安定になったり、ピントがズレることがあります。

動画撮影時に画面がちらつく／横縞が写る

- 蛍光灯やLED照明などの光源下で動画撮影を行うと、画面のちらつきや、横縞（ノイズ）や露出ムラが記録されることがあります。また、露出(明るさ)や色あいの変化が記録されることがあります。[M]モードのときは、シャッタースピードを遅くすると、現象が緩和されることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に被写体がゆがむ

- 動画撮影中にカメラを左右に動かしたり（パンニング）、動きのある被写体を撮影すると、像がゆがんで写ることがあります。なお、タイムラプス動画を撮影したときは、現象がより強く発生することがあります。

動画撮影時に静止画が撮影できない

- 動画撮影時に静止画は撮影できません。静止画を撮影するときは、動画撮影を終了して、静止画の撮影モードを選んでから撮影してください。

Canon Log設定時に10bitのHDMI出力ができない

- [入(10bit)] 設定時に、外部記録機器が4K・10bit記録に対応していないときは、HDMI出力は行われません。

無線通信機能関連

Wi-Fi機能の設定ができない

- カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続しているときは、Wi-Fi機能の設定はできません。インターフェースケーブルを取り外してから、設定を行ってください（p.426）。

インターフェースケーブルで接続した機器が使えない

- Wi-Fi接続中は、カメラとパソコンなどを、インターフェースケーブルで接続して使用することはできません。Wi-Fi接続を終了してからインターフェースケーブルで接続してください。

撮影や再生などの操作ができない

- Wi-Fi接続中は、撮影や再生などの操作ができないことがあります。Wi-Fi接続を終了してから操作を行ってください。

スマートフォンに再接続できない

- 同じカメラとスマートフォンの組み合わせでも、設定を変更したり、異なる設定を選んでいるときは、同じSSIDを選んでも再接続できなくなることがあります。そのときは、スマートフォンのWi-Fi設定で、カメラとの接続設定を削除してから、接続設定をやり直してください。
- 接続設定をやり直すときに、Camera Connectを起動したままにしていると、接続できないことがあります。そのときは、Camera Connectを再起動してください。

スマートフォンとペアリングできない

- 一度ペアリングしたスマートフォンと再びペアリングするときに、スマートフォン側に前回ペアリングしたときのカメラの登録が残っていると、ペアリングすることができません。そのときは、スマートフォンのBluetooth設定で残っているカメラの登録を解除してから、ペアリングをやり直してください（p.439）。

操作関連

〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉〈 〉で設定を変更できない

- 〈LOCK〉ボタンを押して、電子ロックを解除してください（p.60）。
- **[6：マルチ電子ロック]**の設定内容を確認してください（p.416）。

タッチ操作ができない

- **[3：タッチ操作]**が**[標準]**または**[敏感]**に設定されているか確認してください（p.385）。

ボタンやスイッチなどが思ったとおりに動かない

- 動画撮影時は**[4：ボタンの機能]**の設定を確認してください（p.404）。
- **[C.Fn4]**タブの設定内容を確認してください（p.555）。

表示関連

メニュー画面に表示されるタブや項目が少ない

- 撮影モードが［A+］のときは、一部のタブや項目は表示されません。また、メニュー画面に表示されるタブや項目は、静止画撮影時、動画撮影時で異なります。

［★］マイメニュータブから表示される／［★］タブしか表示されない

- ［★Set up：メニュー表示］が［マイメニュータブから表示］または［マイメニュータブのみ表示］に設定されています。［通常表示］に設定してください（p.570）。

ファイル名の先頭文字がアンダーバー（「_」）になる

- ［📷4：色空間］を［sRGB］に設定してください。［Adobe RGB］に設定されているときは、先頭文字がアンダーバーになります（p.117）。

ファイル名の4文字目が変化する

- ［🔧1：ファイル名の設定］が［***+画像サイズ］に設定されています。カメラ固有のファイル名、またはユーザー設定1に登録したファイル名を選択してください（p.370）。

画像番号が0001から始まらない

- 画像が記録されているカードを使用すると、撮影した画像の番号が0001から始まらないことがあります（p.367）。

撮影年月日／時刻が正しく表示されない

- 日付/時刻が正しく設定されているか確認してください（p.380）。
- エリア、サマータイムの設定を確認してください（p.380）。

画像に日付／時刻が写し込まれない

- 撮影した画像に日付/時刻は写し込まれません。画像データに撮影情報として記録されます。写真を印刷するときに、その情報を利用して用紙に日付/時刻を入れることができます（p.353）。

［###］が表示される

- カードに記録されている画像数が、カメラで表示できる桁数を超えると［###］と表示されます。

モニターの表示が不鮮明になる

- モニターが汚れているときは、やわらかい布などでふいてください。
- 液晶の特性で低温下での表示反応がやや遅くなったり、高温下で表示が黒くなったりすることがありますが、常温に戻れば正常に表示されます。

再生関連

画像の一部が黒く点滅する

- 【▶3：ハイライト警告表示】が【する】に設定されています（p.309）。

画像に赤い枠が表示される

- 【▶3：AFフレーム表示】が【する】に設定されています（p.309）。

画像再生時にAFフレームが表示されない

- 以下の画像を再生したときは、AFフレームは表示されません。
  - マルチショットノイズ低減機能を使って撮影した画像
  - トリミングを行った画像
  - HDR撮影で【画像位置自動調整：する】に設定して撮影した画像

画像が消去できない

- プロテクトされている画像は消去できません（p.318）。

画像（静止画／動画）が再生できない

- 他のカメラで撮影した画像は再生できないことがあります。
- パソコンで編集した動画はカメラで再生できません。

再生できる画像が少ない

- 【▶2：画像検索の条件設定】で再生する画像の絞り込みが行われています（p.313）。検索条件を解除してください。

動画を再生すると作動音や操作音がする

- 動画撮影中にAF動作を行ったり、カメラ/レンズの操作を行うと、カメラに内蔵されたマイクにより、レンズの作動音やカメラ/レンズの操作音が一緒に録音されることがあります。そのときは、外部マイクを使用すると、これらの音を低減できることがあります。なお、外部マイクを使用してもこれらの音が気になるときは、外部マイクをカメラから取り外し、カメラやレンズから遠ざけると、低減効果を高められることがあります。

動画が一瞬止まって見える

- 自動露出撮影時に、大きな露出変化が生じると、明るさが安定するまでの一瞬の間、記録を止める仕様になっています。このようなときは、[M]モードで撮影してください（p.213）。

テレビに映像が表示されない

- **[3：ビデオ方式]**の**[NTSC]** **[PAL]**の設定（p.384）を確認してください（テレビが対応している方式に合わせてください）。
- HDMIケーブルのプラグが根元までしっかりと差し込まれているか確認してください（p.333）。

動画ファイルが複数作成される

- 1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えるときは、動画ファイルが複数作成されます（p.200）。ただし、SDXCカードをこのカメラで初期化してから撮影したときは、1回の撮影でファイルサイズが4GBを超えても1つのファイルに記録されます。

カードリーダーでカードを認識できない

- SDXCカードは、お使いのカードリーダーやパソコンのOS により、カードリーダーに差しても正しく認識されないことがあります。そのときは、カメラとパソコンをインターフェースケーブルで接続し、EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使って画像を取り込んでください。

画像をリサイズできない

- JPEGの**S2**とRAW画像は、カメラでリサイズできません（p.345）。

画像をトリミングできない

- RAW画像は、カメラでトリミングできません（p.346）。

画像に輝点が発生する

- 撮像素子が宇宙線などの影響を受けると、撮影画像や撮影画面に「輝点（白、赤、青など）」が生じることがあります。**[3：センサークリーニング]**の**[今すぐクリーニング]**を行うと（p.391）、輝点の発生が改善することがあります。

センサークリーニング関連

センサークリーニング中にシャッター音がする

- **[3：センサークリーニング]** の **[今すぐクリーニング]** を選んだときは、清掃中にシャッターの作動音がしますが、画像はカードに記録されません（p.391）。

撮像素子の自動清掃が行われない

- 電源スイッチの〈ON〉〈OFF〉を短い時間で繰り返すと、〈 〉が表示されないことがあります（p.48）。

パソコン接続関連

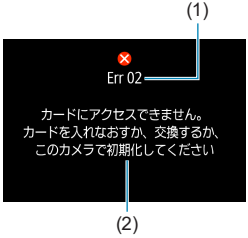
パソコンに画像が取り込めない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityをパソコンにインストールしてください（p.572）。
- Wi-Fi接続中は、インターフェースケーブルを使用してパソコンと通信を行うことはできません。

カメラとパソコンを接続しても通信できない

- EOS用ソフトウェアのEOS Utilityを使用するときは、**[2：タイムラプス動画]** を **[しない]** に設定してください（p.224）。

エラー表示



カメラに異常が発生すると、エラー画面が表示されます。表示される内容に従って対応してください。問題が解決しないときは、エラー番号（Errxx）を控えて、修理受付窓口へご相談ください。

(1) エラー番号
(2) 原因・対処方法

データシート

静止画撮影

● 撮影可能枚数の目安

（約・枚）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能枚数	370	350

- モニター、フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用、**[4：撮影画面表示設定]**：**[なめらかさ優先]** 設定、CIPA（カメラ映像機器工業会）の試験基準による
- バッテリーグリップ BG-E22（別売）使用時に、バッテリーパック LP-E6Nを2個使用したときは、撮影可能枚数が約2倍となる
- **[4：撮影画面表示設定]**：**[省電力優先]** 設定時は、常温：約450枚、低温：約430枚の撮影が可能

● ISOオートの範囲

撮影モード	ISO感度設定	
	ストロボなし	ストロボあり
📷	ISO100～12800	ISO100～1600
Fv/P/Tv/Av/M	ISO100～40000*	ISO100～1600*
BULB	ISO400*	ISO400*

* **[オートの範囲]** の **[下限値]** **[上限値]** による

● 記録画質を選ぶときの目安

（約）

記録画質	記録画素数	ファイルサイズ（MB）	撮影可能枚数	連続撮影可能枚数	
				標準	高速
JPEG					
◢L	30M	8.4	3570	100	100
◢L		4.4	6770	100	100
◢M	13M	4.7	6460	100	100
◢M		2.6	11510	100	100
◢S1	7.5M	3.1	9700	100	110
◢S1		1.8	16040	100	110
S2	3.8M	1.6	18830	100	110
RAW					
RAW	30M	31.3	970	34	47
RAW ： DPR	30M	55.2	520	17	Full
CRAW	30M	17.3	1770	61	78
CRAW ： DPR	30M	27.8	1000	150	Full
RAW+JPEG					
RAW ◢L	30M 30M	31.3 8.4	760	34	39
CRAW ◢L	30M 30M	17.3 8.4	1180	55	56

- 撮影可能枚数は、当社試験基準32GBカード使用時の枚数
- 連続撮影可能枚数（バースト枚数）は、当社試験基準SDカード（標準：32GB／高速：UHS-II対応 32GB）を使用し、当社試験基準（〈H〉高速連続撮影、静止画クロップ/アスペクト：フルサイズ、ISO100、DPRAW撮影：しない、ピクチャースタイル：スタンダード）で測定
- **ファイルサイズ、撮影可能枚数、連続撮影可能枚数は、被写体やカードの銘柄、静止画クロップ/アスペクト、ISO感度、ピクチャースタイル、カスタム機能などの設定により変動する**
- DPRAW撮影時は、自動的に〈〉低速連続撮影となる
- 「Full」と記載された条件のときは、カードの空き容量がなくなる（カードフル）まで撮影可能

高速タイプのSDカードを使用しても、連続撮影可能枚数の表示は変わりませんが、表に示した枚数の連続撮影ができます。

● 静止画クロップ/アスペクト設定時の記録画素数

（約・画素）

記録画質	フルサイズ（3：2）	1.6倍（クロップ）
L/RAW/CRAW	6720×4480（3010万）	4176×2784（1160万）
M	4464×2976（1330万）	—
S1	3360×2240（750万）	—
S2	2400×1600（380万）	2400×1600（380万）

記録画質	1：1（アスペクト）	4：3（アスペクト）	16:9（アスペクト）
L/RAW/CRAW	4480×4480（2010万）	5952×4480（2670万）*	6720×3776（2540万）*
M	2976×2976（890万）	3968×2976（1180万）	4464×2512（1120万）*
S1	2240×2240（500万）	2976×2240（670万）*	3360×1888（630万）*
S2	1600×1600（260万）	2112×1600（340万）*	2400×1344（320万）*

- 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
- JPEG画像のファイルサイズについては、609ページに記載しているフルサイズ撮影時の値を参考にしてください。【📷1：静止画クロップ/アスペクト】を設定して同一条件で撮影したときは、【フルサイズ】の設定で撮影したときよりもファイルサイズが小さくなります。

動画撮影

● 動画が記録できるカード

動画記録画質			SDカード
4K	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	UHS-II、ビデオスピードクラス60以上
		IPB	UHS-I、UHSスピードクラス3以上
FHD	59.94P 50.00P	ALL-I	UHS-I、UHSスピードクラス3以上
		IPB	SDスピードクラス10以上
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	UHS-I、UHSスピードクラス3以上
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	IPB	SDスピードクラス4以上
	HDR動画		
	29.97P 25.00P	IPB	SDスピードクラス4以上
HD	59.94P 50.00P	ALL-I	SDスピードクラス10以上
		IPB	SDスピードクラス4以上
	29.97P 25.00P	IPB	SDスピードクラス4以上
	HDR動画		
	119.9P 100.0P	ALL-I	UHS-I、UHSスピードクラス3以上

- 動画クロップ撮影：【しない】、動画電子IS：【しない】設定時
- 表の内容は、動画をカードに記録するときに必要なカードの「書き込み／読み取り速度」（要求カード性能）。ただし、4K/フルHDタイムラプス動画撮影時の要求カード性能は「読み取り速度」

● 動画の総記録時間と1分間あたりのファイルサイズの目安 （約）

動画記録画質			カードごとの総記録可能時間 8GB	32GB	128GB	ファイルサイズ
4K	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	2分	8分	35分	3444MB/分
		IPB	8分	35分	2時間21分	860MB/分
FHD	59.94P 50.00P	ALL-I	5分	23分	1時間34分	1298MB/分
		IPB	17分	1時間10分	4時間43分	431MB/分
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	ALL-I	11分	46分	3時間06分	654MB/分
	29.97P 25.00P 24.00P 23.98P	IPB	35分	2時間20分	9時間23分	216MB/分
	HDR動画					
	29.97P 25.00P	IPB	1時間26分	5時間47分	23時間11分	87MB/分
HD	59.94P 50.00P	ALL-I	13分	52分	3時間29分	583MB/分
		IPB	40分	2時間42分	10時間49分	187MB/分
	29.97P 25.00P	IPB	1時間20分	5時間21分	21時間26分	94MB/分
	HDR動画					
	119.9P 100.0P	ALL-I	6分	26分	1時間46分	1144MB/分

• 動画クロップ撮影：【しない】、動画電子IS：【しない】設定時

カメラ内部の温度上昇により、表に示した時間よりも早く動画撮影が終了することがあります（p.253）。

● 動画撮影可能時間の目安 （合計・約）

温度	常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影可能時間	2時間20分	2時間10分

• フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用時
• 【1：動画記録画質】の【動画記録サイズ】：4K FHD、【AF 1：動画サーボAF】：【する】設定時

● タイムラプス動画撮影可能時間の目安

（約）

タイムラプス動画撮影		常温（+23℃）	低温（0℃）
撮影間隔	モニター自動消灯		
2秒	しない	4時間30分	4時間
	する	7時間10分	6時間30分
10秒	しない	4時間20分	3時間50分
	する	7時間30分	6時間50分

- フル充電のバッテリーパック LP-E6N使用時
- 撮影条件により、撮影可能時間が変動する

動画撮影時のISO感度について

[🎥A+] モード時

- フルHD/HD動画撮影時／ハイフレームレート動画撮影時は、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- 4K動画撮影時は、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。

[🎥] [🎥Tv] [🎥Av] モード時

- フルHD/HD動画撮影時／ハイフレームレート動画撮影時は、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- 4K動画撮影時は、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- **[📷3：🎥ISO感度に関する設定]** の **[ISOオート]** または **[4K ISOオート]** を **[上限H2 (102400)]** に設定すると（p.246）、自動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。上限値を低く設定して、自動設定範囲を狭めることもできます。
- **[📷3：高輝度側・階調優先]** を **[する]** に設定したときは（p.109）、ISO感度の自動設定範囲が、フルHD/HD動画撮影時／ハイフレームレート動画撮影時：ISO200～25600、4K動画撮影時：ISO200～12800になります。

[M] モード時

- フルHD/HD動画撮影時／ハイフレームレート動画撮影時に、ISO感度を【AUTO】に設定したときは、ISO100～25600の範囲で自動設定されます。
- 4K動画撮影時にISO感度を【AUTO】に設定したときは、ISO100～12800の範囲で自動設定されます。
- ISOオート設定時に、【3：ISO感度に関する設定】の【ISOオート】または【4K ISOオート】を【上限H2 (102400)】に設定すると（p.246）、自動設定範囲の上限がH2（ISO102400相当）まで拡張されます。上限値を低く設定して、自動設定範囲を狭めることもできます。
- 手動設定のときは、フルHD/HD動画撮影時／ハイフレームレート動画撮影時：ISO100～25600、4K動画撮影時：ISO100～12800の範囲で設定することができます。なお、【3：ISO感度に関する設定】の【ISO感度の範囲】または【4K の範囲】の【上限値】を【H2 (102400)】に設定すると（p.246）、手動設定範囲の上限がH2（ISO102400 相当）まで拡張されます。また、【上限値】【下限値】による範囲を初期状態から狭めることもできます。
- 【3：高輝度側・階調優先】を【する】に設定したときは（p.109）、ISO感度の自動/手動設定時の下限がISO200になります。また、ISO感度を拡張する設定を行っても、上限の拡張は行われません。

画像の再生

● 撮影時の記録画質とリサイズできるサイズ

撮影時の記録画質	リサイズできるサイズ		
	M	S1	S2
L*	○	○	○
M		○	○
S1			○

* [📷1：静止画クロップ/アスペクト] で [1.6倍（クロップ）] の設定で撮影した画像は、S2のみ選択可能

● リサイズした画像の画像サイズ

（約・画素）

記録画質	フルサイズ（3：2）	1.6倍（クロップ）
M	4464×2976（1330万）	—
S1	3360×2240（750万）	—
S2	2400×1600（380万）	2400×1600（380万）

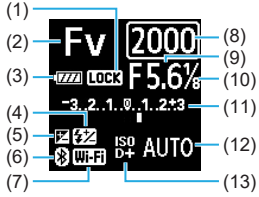
記録画質	1：1（アスペクト）	4：3（アスペクト）	16:9（アスペクト）
M	2976×2976（890万）	3968×2976（1180万）	4464×2512（1120万）*
S1	2240×2240（500万）	2976×2240（670万）*	3360×1888（630万）*
S2	1600×1600（260万）	2112×1600（340万）*	2400×1344（320万）*

● 「*」印の付いた画像は、正確なアスペクト（縦横）比になりません。
● リサイズ条件により、画像がわずかにトリミングされることがあります。

情報表示

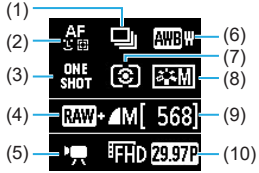
表示パネル

静止画／動画待機画面1



(1) マルチ電子ロック
(2) 撮影モード
(3) バッテリー残量
(4) ストロボ調光補正
(5) 露出補正
(6) Bluetooth機能
(7) Wi-Fi 機能
(8) シャッタースピード
(9) 絞り数値
(10) 動画Av値1/8 段表記
(11) 露出レベル表示／露出補正量／AEB レベル
(12) ISO 感度
(13) 高輝度側・階調優先／拡張ISO感度表示

静止画待機画面2



(1) ドライブモード
(2) AF方式
(3) AF動作
(4) 静止画記録画質
(5) 動画撮影モード
(6) ホワイトバランス
(7) 測光モード
(8) ピクチャースタイル
(9) 撮影可能枚数
(10) 動画記録画質

動画待機画面2

(1) AF方式
(2) 動画電子IS
(3) 画像サイズ
(4) ホワイトバランス
(5) Canon Log
(6) 動画撮影可能時間
(7) フレームレート

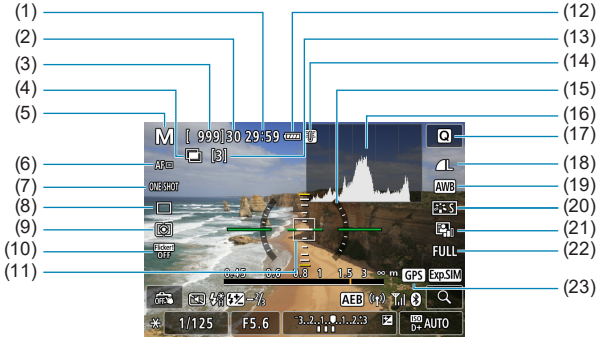
動画撮影中

(1) 撮影経過時間
(2) 動画撮影中／
HDMI 10bit出力外部記録中

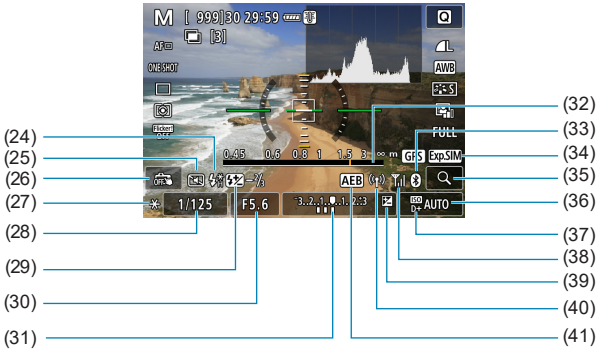
静止画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- ファインダー表示では表示位置が異なる項目もあります。
- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1) 動画撮影可能時間
(2) 連続撮影可能枚数
(3) 撮影可能枚数／セルフタイマー撮影秒数
(4) HDR撮影／多重露出撮影／DPRAW撮影／マルチショットノイズ低減
(5) 撮影モード／シーン判別アイコン
(6) AF方式
(7) AF動作
(8) ドライブモード
(9) 測光モード
(10) フリッカーレス撮影
(11) AFフレーム(1点AF)
(12) バッテリー残量
(13) 多重露出残り枚数
(14) 温度上昇警告
(15) 水準器
(16) ヒストグラム
(17) クイック設定ボタン
(18) 記録画質
(19) ホワイトバランス／ホワイトバランス補正
(20) ピクチャースタイル
(21) オートライティングオプティマイザ
(22) 静止画クロップ/アスペクト
(23) GPS受信状態



(24) ストロボ充電完了／
ストロボ発光禁止／FEロック／
ハイスピードシンクロ
(25) サイレントシャッター
(26) タッチシャッター
(27) AEロック
(28) シャッタースピード／
マルチ電子ロック警告
(29) ストロボ調光補正
(30) 絞り数値
(31) 露出レベル表示

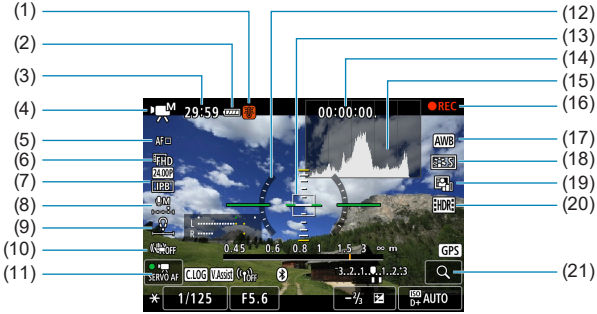
(32) 撮影距離表示
(33) Bluetooth機能
(34) 露出シミュレーション
(35) 拡大ボタン
(36) ISO感度
(37) 高輝度側・階調優先
(38) Wi-Fi電波強度
(39) 露出補正
(40) Wi-Fi機能
(41) AEB撮影／FEB撮影

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます (p.397)。
- AF方式が【+追尾優先AF】のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

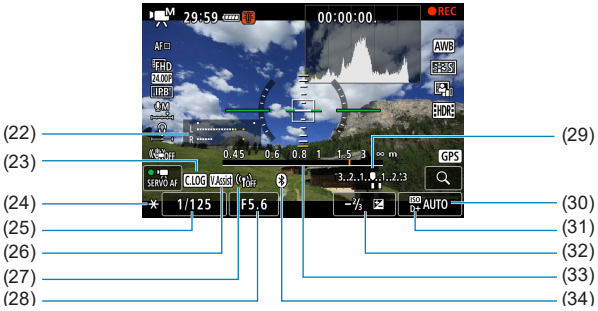
動画撮影画面

〈INFO〉ボタンを押すと、押すたびに情報表示内容が切り換わります。

- ファインダー表示では表示位置が異なる項目もあります。
- 設定に応じた部分のみ表示されます。



(1)	温度上昇警告
(2)	バッテリー残量
(3)	動画撮影可能時間／撮影経過時間
(4)	動画撮影モード／タイムラプス動画／シーン判別アイコン
(5)	AF方式
(6)	動画記録サイズ／フレームレート
(7)	圧縮方式
(8)	録音レベル（マニュアル）
(9)	ヘッドフォン音量
(10)	動画電子IS
(11)	動画サーボAF
(12)	水準器
(13)	AFフレーム（1点AF）
(14)	タイムコード
(15)	ヒストグラム（Mモード時）
(16)	動画撮影中／HDMI 10bit出力外部記録中
(17)	ホワイトバランス／WB補正
(18)	ピクチャースタイル
(19)	オートライティングオプティマイザ
(20)	HDR動画
(21)	拡大ボタン



(22) 録音レベルメーター（マニュアル）	(29) 露出レベル表示
(23) Canon Log	(30) ISO感度
(24) AEロック	(31) 高輝度側・階調優先
(25) シャッタースピード	(32) 露出補正
(26) ビューアシスト	(33) 撮影距離表示
(27) Wi-Fi機能	(34) Bluetooth機能
(28) 絞り数値	

- 〈INFO〉ボタンを押したときに表示する内容を設定することができます（p.397）。
- AF方式が【顔+追尾優先AF】のときや、カメラとテレビをHDMIケーブルで接続したときは、水準器は表示されません。
- 動画撮影中に水準器、グリッド、ヒストグラムを表示することはできません（表示した状態で動画撮影を開始すると、表示が消えます）。
- 「動画撮影可能時間」は、撮影が始まると「撮影経過時間」に変わります。

この他に、設定を変更したときに一時的に表示されるアイコンもあります。

シーン判別アイコン一覧

撮影モードが［A+］や［SCN］のときは、カメラがシーンを判別して、シーンに合った全自動撮影が行われます。判別したシーンは、画面の左上に表示されます。

被写体 / 背景	人物*1		人物以外の被写体			背景色
		動いているとき*2	自然や屋外シーン	動いているとき*2	近いとき*3	
明るい						灰色
逆光						
青空を含む						水色
逆光						
夕景	*4				*4	オレンジ色
スポットライト						紺色
暗い						
三脚使用時*2	*5*6	*4	*5*6	*4		

*1: タイムラプス動画撮影時は、人物を検知しても「人物以外の被写体」のアイコンが表示されます。
*2: 動画撮影時は表示されません。
*3: 距離情報を持っているレンズを使用しているときに表示されます。なお、エクステンションチューブやクローズアップレンズ併用時は、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

シーンや撮影状態によっては、実際のシーンと異なるアイコンが表示されることがあります。

*4: 判別可能なシーンから選ばれたアイコンが、適宜表示されます。
*5: 下記の条件が揃ったときに表示されます。
「撮影シーンが暗いとき」「夜景撮影時」「三脚などでカメラを固定しているとき」
*6: 下記のレンズを使用したときに表示されます。
・EF300mm F2.8L IS II USM ・EF400mm F2.8L IS II USM
・EF500mm F4L IS II USM ・EF600mm F4L IS II USM
・2012年以降に発売された手ブレ補正機能内蔵レンズ
*5+*6：*5と*6の条件がすべて揃ったときは、シャッタースピードが遅くなります。

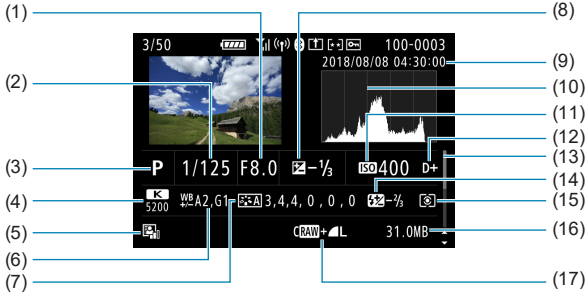
再生画面

● 静止画の簡易情報表示

(1)	Wi-Fi機能
(2)	Wi-Fi電波強度
(3)	バッテリー残量
(4)	再生番号／総記録画像数／検索結果画像数
(5)	シャッタースピード
(6)	絞り数値
(7)	露出補正量
(8)	Bluetooth機能
(9)	パソコン／スマートフォンに送付済み
(10)	レーティング
(11)	画像プロテクト
(12)	フォルダ番号−画像番号
(13)	記録画質／画像加工済み／トリミング
(14)	高輝度側・階調優先
(15)	ISO感度

- 他のカメラで撮影した画像は、一部の撮影情報が表示されないことがあります。
- このカメラで撮影した画像は、他のカメラで再生できないことがあります。

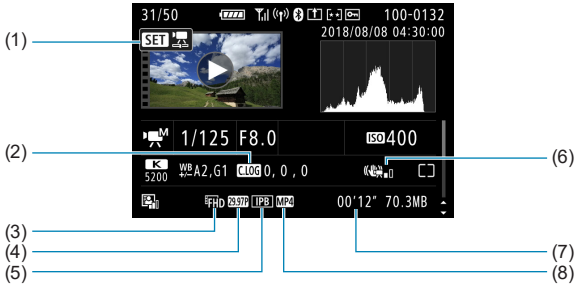
● 静止画の詳細情報表示



(1)	絞り数値
(2)	シャッタースピード
(3)	撮影モード／多重露出／タイムラプス動画
(4)	ホワイトバランス
(5)	オートライティングオプティマイザ
(6)	ホワイトバランス補正量
(7)	ピクチャースタイル／設定内容
(8)	露出補正量
(9)	撮影日時
(10)	ヒストグラム（輝度/RGB）
(11)	ISO感度
(12)	高輝度側・階調優先
(13)	スクロールバー
(14)	ストロボ調光補正量／バウンス／HDR撮影／マルチショットノイズ低減
(15)	測光モード
(16)	ファイルサイズ
(17)	記録画質／画像加工済み／トリミング

* RAW+JPEGで撮影した画像は、RAW画像のファイルサイズが表示されます。
* RAW、RAW+JPEGの設定で、アスペクト比を設定して撮影した画像は（p.80）、撮影範囲が線で表示されます。
* 調光補正なしでストロボ撮影を行ったときは、〈ϟ〉が表示されます。
* バウンス撮影を行った画像は、〈〉が表示されます。
* HDR撮影を行った画像は、仕上がり効果のマーク（p.162）とダイナミックレンジの調整幅が表示されます。
* 多重露出撮影を行った画像は、〈▣〉が表示されます。
* マルチショットノイズ低減処理が行われた画像は、〈NR〉が表示されます。
* タイムラプス動画で、テスト撮影した静止画は、〈〉が表示されます。
* RAW現像、リサイズ処理、トリミングを行って保存した画像は、〈〉が表示されます。
* トリミングを行って保存した画像は、〈〉が表示されます。

● 動画の詳細情報表示



(1)	動画再生
(2)	ピクチャースタイル：設定内容／Canon Log：映像特性
(3)	動画記録サイズ
(4)	フレームレート
(5)	圧縮方式
(6)	HDR動画／動画電子IS
(7)	記録時間
(8)	動画記録形式

動画再生時、**【ピクチャースタイル】**の**【シャープネス】**の**【細かさ】【しきい値】**は、「*, *」と表示されます。

商標について

- Adobeは、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。
- Microsoft、Windowsは、Microsoft Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。
- Macintosh、Mac OSは、米国およびその他の国で登録されているApple Inc.の商標です。
- SDXCロゴは、SD-3C, LLC.の商標です。
- HDMI、HDMIロゴ、およびHigh-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。
- DCF*は、（社）電子情報技術産業協会の団体商標で、日本国内における登録商標です。DCFロゴマークは、（社）電子情報技術産業協会の「Design rule for Camera File System」の規格を表す団体商標です。
- Wi-Fi CERTIFIEDロゴおよびWi-Fi Protected SetupマークはWi-Fi Allianceの商標です。
- カメラの設定画面と本書内で使用されている「WPS」は、Wi-Fi Protected Setupを意味しています。
- Bluetooth® のワードマークおよびロゴは、Bluetooth SIG, Inc. が所有する登録商標であり、キヤノン株式会社はこれらのマークをライセンスに基づいて使用しています。その他の商標およびトレードネームは、それぞれの所有者に帰属します。
- その他の社名、商品名などは、各社の商標または登録商標です。

* DCFは、主としてデジタルカメラの画像を関連機器間で簡便に利用しあうことを目的として制定された（社）電子情報技術産業協会（JEITA）の規格の「Design rule for Camera File System」の略称です。

MPEG-4使用許諾について

"This product is licensed under AT&T patents for the MPEG-4 standard and may be used for encoding MPEG-4 compliant video and/or decoding MPEG-4 compliant video that was encoded only (1) for a personal and non-commercial purpose or (2) by a video provider licensed under the AT&T patents to provide MPEG-4 compliant video. No license is granted or implied for any other use for MPEG-4 standard."

THIS PRODUCT IS LICENSED UNDER THE AVC PATENT PORTFOLIO LICENSE FOR THE PERSONAL USE OF A CONSUMER OR OTHER USES IN WHICH IT DOES NOT RECEIVE REMUNERATION TO (i) ENCODE VIDEO IN COMPLIANCE WITH THE AVC STANDARD ("AVC VIDEO") AND/OR (ii) DECODE AVC VIDEO THAT WAS ENCODED BY A CONSUMER ENGAGED IN A PERSONAL ACTIVITY AND/OR WAS OBTAINED FROM A VIDEO PROVIDER LICENSED TO PROVIDE AVC VIDEO. NO LICENSE IS GRANTED OR SHALL BE IMPLIED FOR ANY OTHER USE.
ADDITIONAL INFORMATION MAY BE OBTAINED FROM MPEG LA, L.L.C.
SEE HTTP://WWW.MPEGLA.COM
* 規定により英語で表記しています。

第三者のソフトウェアについて

本製品には、以下に示す第三者のソフトウェアが含まれています。

●AES-128 Library

Copyright (c) 1998-2008, Brian Gladman, Worcester, UK. All rights reserved.

LICENSE TERMS

The redistribution and use of this software (with or without changes) is allowed without the payment of fees or royalties provided that:

1. source code distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer;
2. binary distributions include the above copyright notice, this list of conditions and the following disclaimer in their documentation;
3. the name of the copyright holder is not used to endorse products built using this software without specific written permission.

DISCLAIMER

This software is provided 'as is' with no explicit or implied warranties in respect of its properties, including, but not limited to, correctness and/or fitness for purpose.

アクセサリーはキヤノン純正品のご使用をおすすめします

本製品は、キヤノン純正の専用アクセサリーと組み合わせて使用した場合に最適な性能を発揮するように設計されておりますので、キヤノン純正アクセサリーのご使用をおすすめいたします。
なお、純正品以外のアクセサリーの不具合（例えばバッテリーの液漏れ、破裂など）に起因することが明らかな、故障や発火などの事故による損害については、弊社では一切責任を負いかねます。また、この場合のキヤノン製品の修理につきましては、保証の対象外となり、有償とさせていただきます。あらかじめご了承ください。

バッテリーパック LP-E6N/LP-E6は、キヤノン製品専用です。指定外の充電器、および製品と組み合わせて使用した場合の故障、事故に関しては一切保証できません。

修理対応について

1. 保証期間経過後の修理は原則として有料となります。なお、運賃諸掛かりは、お客様にてご負担願います。
2. 本製品の修理対応期間は、製品製造打切り後7年間です。なお、弊社の判断により、修理対応として同一機種または同程度の仕様製品への本体交換を実施させていただく場合があります。同程度の機種との交換の場合、ご使用の消耗品や付属品をご使用いただけないことや、対応OSが変更になることがあります。
3. 修理品をご送付の場合は、見本の撮影データやプリントを添付するなど、修理箇所を明確にご指示の上、十分な梱包でお送りください。

索　引

英数字

1点AF 265
1枚撮影 144
1枚表示 304
[4K] 3840×2160
(タイムラプス動画) 225
[4K] 3840×2160（動画） 192
4Kフレームキャプチャー 329
4枚/9枚/36枚/100枚 310
8bit（Canon Log） 238
10bit（Canon Log） 238
10秒後/2秒後撮影 147
ACアダプター 583
Adobe RGB 117
AEB 155
AEロック 157
AF 255
　AF機能カスタマイズ 288
　AF測距不能時のレンズ動作 297
　AF速度 292
　AF動作 262, 274
　AFフレームサイズ 276
　AFフレーム選択 271
　AF方式 265
　AF方式の限定 298
　AF補助光 264, 295
　エリアAFフレーム 265, 270
　構図変更 126
　コンティニュアスAF 278
　手動ピント合わせ 281
　タッチ＆ドラッグAF 279
　縦位置/横位置AFフレーム 299
　電子音 386
　瞳AF 277
　ピンボケ 54
　レンズの電子式手動フォーカス ... 293
　ワンショットAF時のレリーズ 296
AFスタートボタン 57
ALL-I（編集用／I-only） 195
Av（絞り優先AE） 136
[A+]
(シーンインテリジェントオート) 123
Bluetooth機能 408, 426
　アドレス 436
　接続 429
BULB（バルブ） 158
BUSY 77
B/W 90, 94
[C1]/[C2]（カスタム撮影） 417
Canon Log 236
D+ 109
DCカプラー 582
DIGITAL端子 32, 348, 574
DPOF 353
DPRAW 78
Err 607
exFAT 200, 374
FAT32 ..... 200, 374
FEB 186
FEロック 177

[FHD] 1920×1080
(HDR動画) 222
[FHD] 1920×1080
(タイムラプス動画) 225
[FHD] 1920×1080（動画) 192
Full HD (タイムラプス動画) 224
Full HD（動画) 192, 225
Fv（フレキシブルAE) 140
GPS 411
H1/H2（拡張感度) 85
[HD]1280×720（HDR動画) 222
[HD]1280×720（動画) 192
HDMI 207, 251, 333, 395
記録コマンド 207
出力 252
接続時の表示 252
タイムコード 207
HDMI HDR 396
HDR撮影 161
HDR動画撮影 222
HD（ハイフレームレート動画) 199
ICCプロファイル 117
INFOボタン 62
IPB 195
IPTC情報 553
ISO感度 83, 246
ISOオート（動画) 246
ISOオートの範囲 86, 246, 608
ISO感度の範囲 85, 246
オートの低速限界（静止画) 87
オートの範囲（静止画) 86
感度拡張 85
手動設定範囲 85
設定ステップ 542
タイムラプスISOオート 247
JPEG（ジェイペグ) 75, 609
LOCK 60, 416
LVソフト撮影 150
M-Fnバー 61, 561
M-Fnボタン 57
MF（手動ピント合わせ) 281
MFピーキング 283
MP4 196
MWB 100
M（マニュアル露出) 138
NTSC 195, 384
ONE SHOT（ワンショットAF) 263
PAL 195, 384
P（プログラムAE) 132
[Q]（クイック設定) 68
RAW+JPEG 75, 609
RAW現像 339
RAW（ロウ) 75, 76
SD、SDHC、SDXCカード →カード
SERVO（サーボAF) 263
sRGB 117
Tv（シャッター優先AE) 134
UHS 10
USB（デジタル）
端子 32, 348, 574
UTC 415
WB（ホワイトバランス) 97

Wi-Fi機能 423
Android 427
Camera Connect 427, 444
CANON iMAGE GATEWAY 481
EOS用ソフトウェアと連携 461
EOS Utility 461
Image Transfer Utility 2 466
自動送信 466
iOS 427
IPアドレス 499, 503, 507
手動設定 535
MACアドレス 496, 516
PictBridge 471
SSID 441, 462, 470
Webサービスへ画像を送信 481
Wi-Fi設定 429, 533
Wi-Fi対応プリンターで印刷 469
WPS
(Wi-Fi Protected Setup) 496
PBC方式 497
PIN方式 501
アクセスポイント 496
暗号化 496
印刷 472
印刷指定 475
印刷の設定
イメージオプティマイズ 477
印刷枚数 478
トリミング 479
日付／画像番号 477
用紙設定 475
インターフェースケーブル 426
選んで送信 451, 488
カード内全画像送信 454, 491
画像閲覧 444
仮想キーボード 534
画像検索の条件設定 455, 493
カメラアクセスポイントモード ... 508
キヤノンイメージゲートウェイ ... 481
クイック設定 449
公開画像の設定 458
この画像を印刷 472
この画像を送信 450, 487
再接続 509
情報表示画面 516
スマートフォンと通信 427
スマートフォンへ画像を送信 448
接続先の機器の編集 458, 513
接続先履歴 509, 533
接続情報の消去 514
設定初期化 515
送信画像サイズ 447, 453, 489
注意事項 528
ニックネーム 514
認証方式 496
ネットワークの設定 531
ネットワーク変更 ... 498, 502, 505
ネットワーク名 441, 462, 470
パスワード 506, 533
ピクトブリッジ 471
プリンター 469
ペアリング 431

リモート操作 444
ワイファイ プロテクテッド セットアップ 496

あ

アイコン（絵文字） 8
アクセサリーシュー 31
アクセスランプ 45
アスペクト比 →静止画クロップ/アスペクト
アッテネーター 203
後幕シンクロ 185
安全上のご注意 25
アンダーバー「_」 117
位置決め穴 33
位置情報 411
色あい 93
色温度 101
色空間 117, 343
色収差補正 113, 344
色の濃さ 93
印刷
印刷指定（DPOF） 353
フォトブック指定 357
インデックス表示 310
ウィンドカット 202
エコモード 376
絵文字 8
エラー表示 607
エリアAFフレーム 265, 270
エリア（地域） 380
応用 マーク 8
オート 89
オートパワーオフ 377
オートフォーカス →AF
オートライティング
オプティマイザ 104
オートリセット 369
お気に入りマーク 321
温度警告 142, 253
音量（動画再生） 326

か

カード 10, 30, 44, 373, 611
入れ忘れ防止 118
書き込み禁止 44
初期化（フォーマット） 373
トラブル 46, 591
物理フォーマット 373
カードなしレリーズ 118
開始測距点 300
回折補正 113, 344
階調優先 109
回転（画像） 317, 372
外部ストロボ →ストロボ
外部マイク 203
顔+追尾優先 265, 269
拡大開始倍率／開始位置 316
拡大表示 273, 281, 315
拡張ISO感度 83, 85, 246, 614
拡張子 371
各部名称 31

カスタム機能 539
カスタム撮影モード..... 417
画像
AFフレーム表示..... 309
インデックス表示 310
オートリセット 369
拡大表示..... 315
画像番号..... 367
強制リセット..... 369
記録画質..... 75, 609
検索条件..... 313
再生 301
撮影情報..... 305, 307, 625
自動回転..... 372
ジャンプ表示（画像送り）..... 311
手動回転..... 317
消去 335
スライドショー..... 331
テレビで見る..... 324, 333
転送 348
通し番号..... 368
取り込み（パソコン)..... 574
ハイライト警告..... 309
ヒストグラム..... 307
プロテクト（保護）..... 318
レーティング..... 321
画像送り（ジャンプ表示）..... 311
画像検索..... 313
画素数..... 75, 609
傾き補正..... 347
家庭用電源 582
カメラ
構え方..... 55
カメラブレ..... 125
設定初期化..... 419
簡易情報表示 625
感度 →ISO感度
強制リセット 369
切り換え効果（スライドショー)..... 331
記録画質 75, 609
クイック設定 68
クリーニング 391
グリッド..... 305, 399
軽量（IPB) 195
ケーブルプロテクター..... 37
言語..... 383
高感度撮影時のノイズ低減 105
高輝度側・階調優先..... 109
高速表示..... 149
高速連続撮影 144
故障..... 588
細かさ（シャープネス)..... 93
コントラスト 93, 104
コントロールリング..... 60
コンビネーションIS..... 221

さ

サーボAF
SERVO..... 263
動画サーボAF.....286, 291, 292
再生..... 301
サイレント撮影..... 151

先幕シンクロ 185
撮影画像の確認時間 118
撮影可能時間（動画） 612
撮影可能枚数 608
撮影距離 400
撮影情報表示 397, 619
撮影モード 70, 188
Av（絞り優先AE） 136
[A+]（シーンインテリジェントオート） 123
BULB（バルブ） 158
[C1]/[C2]（カスタム撮影） 417
Fv（フレキシブルAE） 140
M（マニュアル露出） 138
P（プログラムAE） 132
Tv（シャッター優先AE） 134
撮像素子の清掃 391
サブ電子ダイヤル 59
サマータイム 381
三脚ねじ穴 33
シーンインテリジェントオート 123
シーン判別アイコン 127, 623
しきい値（シャープネス） 93
視度調整 54
絞り込み 137
絞り優先AE 136
シャープネス 93
シャッターボタン 56
シャッターボタンの機能 404
シャッター優先AE 134
ジャンプ表示 311
充電 40, 576
周辺光量補正 111, 343
縮小表示 310
手動ピント合わせ 281
消去（画像） 335
照明（表示パネル） 60
初期化（フォーマット） 373
シリアル番号 33, 389
白黒写真 90, 94
白とび 309
シンクロ設定 185
シンクロ接点 31
シンクロ端子 585
水準器 397
スタンダード 89
ストラップ 36
ストロボ（スピードライト） 177
FEB 186
FEロック 177
カスタム機能 187
シンクロ（先幕／後幕） 185
ストロボ制御（機能設定） 179
スローシンクロ 181
セイフティFE 182
調光補正 177, 186
同調速度 178
マニュアル発光 183
ワイヤレス 184
スピーカー 31, 325
スポット測光 152
スモール（記録画質） 75

スライドショー..... 331
静止画クロップ/アスペクト 80, 610
清掃..... 391
セイフティシフト..... 545
設定初期化..... 419
　カスタム機能..... 554
　カスタム撮影モード..... 417
　カメラ設定..... 419
　ストロボ機能設定..... 187
　操作カスタマイズ..... 555
　マイメニュー..... 569
節電..... 377
セルフタイマー..... 147
全押し..... 56, 404
センサークリーニング..... 391
全自動モード..... 123
操作カスタマイズ..... 555
ゾーンAF..... 266, 271
測距点乗り移り特性..... 290
速度変化に対する追従性..... 289
測光タイマー..... 119
測光モード..... 152
ソフトウェア..... 572
　使用説明書..... 573

た

タイムコード..... 205
タイムラプス動画..... 224
多重露出..... 166
ダストデリートデータ..... 121
タッチ音..... 386
タッチシャッター..... 130
タッチ操作..... 67, 306, 385
縦位置画像回転表示..... 372
縦位置/横位置AFフレーム..... 299
ダブルタップ..... 306
チャージャー..... 35, 40
中央部重点平均測光..... 152
忠実設定..... 90
調光補正..... 177, 186
長時間露光..... 158
調色（モノクロ）..... 94
長秒時露光のノイズ低減..... 107
著作権情報..... 420
強さ（シャープネス）..... 93
ディスプレイオフ..... 377
低速連続撮影..... 145
ディテール重視..... 89
デジタル端子..... 32, 348, 574
デジタルレンズ
オプティマイザ..... 112, 343
手ブレ..... 125
テレビで見る..... 324, 333
電源..... 48
　オートパワーオフ..... 377
　家庭用電源..... 582
　撮影可能枚数..... 608
　充電..... 40, 576
　バッテリー残量..... 49, 387
　バッテリー情報..... 387
　劣化度..... 387
電子音..... 386

電子ダイヤル
サブ電子ダイヤル 59
メイン電子ダイヤル 58
電池 →電源
動画..... 188
24.00p..... 198
AEロック 212
Av値1/8段設定..... 249
Canon Log..... 236
HDMI出力..... 251, 395
HDR動画撮影..... 222
圧縮方式..... 195
アッテネーター 203
ウィンドカット 202
オートスローシャッター..... 248
外部マイク 203
記録カウント 206
記録時間..... 201, 612
クロップ撮影..... 219
サーボAF時のAF速度 292
サーボAFの被写体追従特性 291
再生 324, 325
再生カウント 206
撮影範囲..... 194
自動露出撮影..... 209
絞り優先AE撮影 211
シャッタースピード 215
シャッター優先AE撮影..... 210
情報表示..... 621
前後カット..... 327
測光タイマー..... 249
タイムコード..... 205
タイムラプス動画 224, 613
楽しみ方..... 324
テレビで見る 324, 333
動画記録画質（サイズ）..... 192
動画記録できるカード..... 611
動画サーボAF..... 286, 291, 292
動画撮影ボタン 209
動画電子IS..... 220
ドロップフレーム 208
ハイフレームレート 199
ファイルサイズ..... 200, 612
フリーラン..... 205
フレーム切り出し 329
フレームレート..... 195
ヘッドフォン 203
編集 327
マイク..... 203
マニュアル露出撮影 213
レックラン..... 205
録音／録音レベル 202
通し番号..... 368
ドライブモード..... 144
ドラッグ..... 67
トラブル..... 588
トリミング（画像）..... 346
トリミング情報..... 550

な

ニュートラル 89
認証マーク 422

ノイズ低減
高感度撮影時 105
長秒時露光 107
ノーマル（記録画質） 75

は

バースト枚数 77, 609
ハイダイナミックレンジ →HDR
ハイビジョン 192
ハイフレームレート 199
ハイライト警告 309
パソコンへの画像取り込み 574
発光モード 183
バッテリーグリップ 578
バッテリー（電池） →電源
バリアングルモニター 47, 55
バルブ撮影 158
バルブタイマー 159
半押し 56, 404
汎用ストロボ 178
ピクチャースタイル 88, 92, 95
被写界深度確認 137
被写体追従特性 288
ヒストグラム 307, 400
日付／時刻 380
ビデオ方式 384
評価測光 152
表示先設定 403
表示パネル 617
照明 60
標準（IPB） 195
ピント合わせ →AF
ファームウェア 422
ファイルサイズ 200, 609, 612
ファイル名 370
アンダーバー「_」 117
ファイン（記録画質） 75
ファインダー
グリッド 399
視度調整 54
情報表示 398
縦位置表示 399
表示形式 402
ファインダーオフ 377
フィルター効果（モノクロ） 94
風景 89
フォーカスガイド 284
フォーカスモードスイッチ 50, 53
フォーカスロック 126
フォーマット（カード初期化） 373
フォトブック指定 357
フォルダ作成／選択 365
付属品 3
部分測光 152
ブラケティング
AEB 155
FEB 186
WB-BKT 103
フリーラン 205
フリッカーレス 115
フルハイビジョン（Full HD） 192
フレーム切り出し 329

フレームレート..... 195, 384
フレキシブルAE..... 140
プログラムAE..... 132
　プログラムシフト..... 133
プロテクト（保護）..... 318
雰囲気優先（AWB）..... 99
ヘッドフォン..... 203
ヘルプ..... 405
　文字サイズ..... 406
編集用（ALL-I）..... 195
ポートレート..... 89
ホワイトバランス..... 97
　色温度指定..... 101
　オート..... 99
　ブラケティング..... 103
　補正..... 102
　マニュアル..... 100
ホワイト優先（AWB）..... 99

ま

マイク..... 203
マイメニュー..... 566
マニュアルフォーカス..... 281
マニュアル露出..... 138
マルチショットノイズ低減..... 105
マルチ電子ロック..... 60, 416
マルチファンクション..... 57
マルチファンクションバー..... 61
　カスタマイズ..... 561
ミドル（記録画質）..... 75
無線通信..... 407, 423
メイン電子ダイヤル..... 58
メニュー..... 63
　設定操作..... 64
　灰色（グレー）表示..... 66
　マイメニュー..... 566
メモリーカード　→カード
モードボタン..... 57
モニター..... 30, 47
　明るさ..... 378
　色調..... 379
　角度調整..... 47, 55
　画像の再生..... 304
　クイック設定..... 68
　水準器..... 397
　メニュー機能..... 63
モノクロ..... 90, 94

や

ユーザー設定..... 90
要求カード性能..... 197, 611

ら

ラージ（記録画質）..... 75
ラージゾーンAF..... 267, 271
リサイズ..... 345
リピート（スライドショー）..... 331
リモートコントローラー..... 174
リモートスイッチ..... 176
リモコン端子..... 32, 176
領域拡大AF..... 266, 271
レーティング..... 321

レックラン 205
レンズ 50, 52
色収差補正 113, 344
回折補正 113, 344
光学補正 110, 343
周辺光量補正 111, 343
デジタルレンズ
オプティマイザ 112, 343
フォーカスモードスイッチ 50, 53
ロック解除 51, 53
歪曲収差補正 111, 343
レンズの電子式手動フォーカス 293
連続撮影可能枚数 77, 609
連続撮影（連写） 144
ロウ 75, 76
ロウ現像 339
録音／録音レベル 202
露出維持 546
露出シミュレーション 120
露出設定ステップ 542
露出補正 155
露出補正（M+ISOオート） 139
露出レベル表示 138, 617, 620

わ

歪曲収差補正 111, 343
ワンショットAF 263

Canon

本書の記載内容は2019年7月現在のものです。それ以降に発売された製品との組み合わせにつきましては、お客様相談センターにお問い合わせください。なお、最新の使用説明書については、キヤノンのホームページをご覧ください。

CPH-J508-006
© CANON INC. 2019